千葉県文化財センター調査報告第411集

東関東自動車道(千葉・富津線)
埋蔵文化財調査報告書 9

―袖ケ浦市山谷遺跡―

平成13年3月

日本道路公団

財団法人　千葉県文化財センター

東関東自動車道(千葉・富津線)
埋蔵文化財調査報告書 9

―袖ケ浦市山谷遺跡―

遺跡全景（東上空から）

出土中世陶磁器

序　　文

財団法人千葉県文化財センターは，埋蔵文化財の調査研究，文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され，以来，数多くの遺跡の発掘調査を実施し，その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび，千葉県文化財センター調査報告第411集として，日本道路公団の東関東自動車道（千葉・富津線）建設事業に伴って実施した袖ケ浦市山谷遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では，特に中世の街道沿いの集落や墓域が発見され，大量の中世陶磁器が出土するなど，この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり，この報告書が学術資料として，また地域の歴史資料として広く活用されることを願っております。

終わりに，調査に際し御指導，御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係の皆様や関係機関，また，発掘から整理まで御苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成13年３月31日

財団法人千葉県文化財センター
理事長　中村好成

凡　　例

1　本書は，日本道路公団による東関東自動車道（千葉・富津線）建設事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。

2　本書は，下記の遺跡を収録したものである。

山谷遺跡　　千葉県袖ケ浦市野田字鎌倉街道22番地ほか　　（遺跡コード481-012）

3　発掘調査から報告書作成に至る業務は，日本道路公団の委託を受け，財団法人千葉県文化財センターが実施した。

4　発掘調査及び整理作業の担当者，実施期間は本文中に記載した。

5　本書の執筆は，上席研究員井上哲朗が担当した。

6　火葬土坑出土の炭化材の樹種同定については，株式会社パレオ・ラボ藤根久・植田弥生氏の協力を得た。

7　発掘調査から報告書の刊行に至るまで，千葉県教育庁生涯学習部文化課，袖ケ浦市教育部生涯学習課，袖ケ浦市郷土博物館井口崇氏，財団法人君津郡市文化財センター大谷弘幸氏，国立歴史民俗博物館小野正敏氏，財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター藤澤良祐氏，常滑市民俗資料館中野晴久氏，財団法人郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団の御指導，御協力を得た。

8　本書で使用した地図は，下記のとおりである。

第１図　国土地理院発行　1/50,000地形図「木更津」(ＮＩ-54-25-4)・「姉崎」(ＮＩ-54-19-16)

第２・３図　袖ケ浦市発行　1/2,500都市計画図（14-1）・(14-3)　（昭和63年承認）

第７図　参謀本部陸軍部測量局作成　1/20,000迅速測図

「奈良輪村」・「真里村」　　（明治15年測量・明治20年発行）

第８図　国土地理院発行　1/25,000地形図「奈良輪」(ＮＩ-54-25-4-1)・「木更津」(ＮＩ-54-25-4-2)

9　周辺地形航空写真は，京葉測量株式会社による昭和42年撮影のものを使用した。

10　本書で使用した図面の方位は，すべて座標北である。

11　本書で使用した遺構番号は，基本的には調査時の番号を踏襲した。

12　遺物の色調については，農林水産省・(財) 日本色彩研究所監修，日本色研事業株式会社発行　『新版標準土色帖』1988年　掲載の用語を使用した。

13　挿図に使用したスクリーントーン及び記号の用例は，次のとおりである。

土層，面

- 宝永テフラ
- 焼土
- 硬化層，面

中近世遺物（個別遺構内）

- ▲ 貿易陶磁
- ● 瀬戸・美濃，志戸呂
- ▫ 常滑コネ鉢
- ■ 渥美，常滑壺・甕
- ○ 土器
- ● 石製品
- ● 金属製品
- ● 銭貨（中世）
- ● 銭貨（近世）
- ▲ 近世陶磁器
- ● 骨，貝

本 文 目 次

第１章　はじめに……1
　第１節　調査の概要……1
　第２節　遺跡の位置と環境……18
第２章　旧石器時代……28
　第１節　概要……28
　第２節　石器集中地点……28
　第３節　ブロック外資料……31
第３章　縄文時代……48
　第１節　概要……48
　第２節　陥穴……48
　第３節　遺物……51
第４章　古墳時代……52
　第１節　概要……52
　第２節　竪穴住居跡……52
第５章　奈良・平安時代……61
　第１節　概要……61
　第２節　方形周溝遺構……61
　第３節　遺物……61
第６章　中・近世……63
　第１節　概要……63
　第２節　区画遺構……64
　第３節　生活関連遺構……95
　第４節　葬送関連遺構……122
　第５節　遺物……164
第７章　おわりに……208
　第１節　原始・古代……208
　第２節　中・近世……208

報告書抄録……巻末

挿　図　目　次

第１図　遺跡の位置と周辺の主な中世遺跡……２
第２図　遺跡周辺地形図……３
第３図　グリッド配置と隣接調査遺跡……５
第４図　年度別調査範囲……６
第５図　グリッド設定模式図……６
第６図　上層遺構全体図……７
第７図　明治時代前半の遺跡周辺地形図……19
第８図　周辺の遺跡……21
第９図　周辺地籍図……21
第10図　下層調査全体図……29
第11図　３Ｉ-67ブロック石器分布……32
第12図　３Ｉ-67ブロック出土石器（１）……33
第13図　３Ｉ-67ブロック出土石器（２）……34
第14図　３Ｉ-67ブロック出土石器接合関係……35
第15図　3M-00ブロック石器分布……36
第16図　3M-00ブロック出土石器（１）……37
第17図　3M-00ブロック出土石器（２）……38
第18図　3Q-10ブロック石器分布……39
第19図　3Q-10ブロック出土石器……39
第20図　4O-17ブロック石器分布……40
第21図　4O-17ブロック出土石器……40
第22図　5Ｆ-67ブロック石器分布……41
第23図　5Ｆ-67ブロック出土石器……41
第24図　7Ｆ-31ブロック石器分布……42
第25図　7Ｆ-31ブロック出土石器……43
第26図　グリッド・上層遺構出土石器（１）……44
第27図　グリッド・上層遺構出土石器（２）……45
第28図　原始・古代遺構配置図……49
第29図　縄文時代遺構（１）……50
第30図　縄文時代遺構（２）……51
第31図　縄文土器……51
第32図　SI001（１）……53
第33図　SI001（２）……54
第34図　SI002（１）……55
第35図　SI002（２）……56
第36図　SI003……57
第37図　SX001……62
第38図　奈良・平安時代遺物……62
第39図　区画遺構分布……65
第40図　鎌倉街道（１）……66
第41図　鎌倉街道（２）……67
第42図　鎌倉街道（３）……68
第43図　鎌倉街道遺物平面分布……69
第44図　鎌倉街道遺物垂直分布……70
第45図　溝・道（１）……73
第46図　溝・道（２）……74
第47図　溝・道（３）……76
第48図　溝・道（４）……77
第49図　溝・道（５）……78
第50図　溝・道（６）……81
第51図　溝・道（７）……82
第52図　溝・道（８）……83
第53図　溝・道（９）……85
第54図　溝・道（10）……86
第55図　溝・道（11）……87
第56図　ピット群（１）……90
第57図　ピット群（２）……91
第58図　ピット深さ（１）……92
第59図　ピット深さ（２）……93
第60図　1/250平面図区画割……96
第61図　掘立柱建物跡他想定図（１区）……97
第62図　ピット群エレベーション（１区）……98
第63図　掘立柱建物跡他想定図（２区）……99
第64図　ピット群エレベーション（２区）……100
第65図　SX005……101
第66図　掘立柱建物跡他想定図（３区）……102
第67図　ピット群エレベーション（３区）……103
第68図　掘立柱建物跡他想定図（４区）……104
第69図　掘立柱建物跡他想定図（５区）……105
第70図　ピット群エレベーション（４・５区）　106

第71図　掘立柱建物跡他想定図（6区）……107
第72図　ピット群エレベーション（6区）……108
第73図　方形竪穴・井戸分布……110
第74図　方形竪穴（1）……112
第75図　方形竪穴（2）……113
第76図　方形竪穴（3）……115
第77図　大型不整形竪穴（1）……117
第78図　大型不整形竪穴（2）……118
第79図　大型不整形竪穴（3）……119
第80図　井戸……121
第81図　葬送関連遺構分布……123
第82図　地下式坑（1）……124
第83図　地下式坑（2）……125
第84図　地下式坑（3）……127
第85図　地下式坑（4）……128
第86図　地下式坑（5）……129
第87図　地下式坑（6）……131
第88図　火葬土坑……133
第89図　土坑他分布（1区）……136
第90図　土坑（1区）……136
第91図　土坑他分布（2区）……137
第92図　土坑（2区－1）……138
第93図　土坑（2区－2）……139
第94図　土坑（2区－3）……140
第95図　土坑（2区－4）……141
第96図　土坑他分布（3区）……142
第97図　土坑（3区－1）……143
第98図　土坑（3区－2）……144
第99図　土坑（3区－3）……145
第100図　土坑（3区－4）……146
第101図　土坑（3区－5）……147
第102図　土坑（3区－6）……148
第103図　土坑（3区－7）……149
第104図　土坑（3区－8）……150
第105図　土坑（3区－9）……151
第106図　土坑他分布（4区）……152
第107図　土坑（4区－1）……153
第108図　土坑（4区－2）……154
第109図　土坑他分布（5区）……155
第110図　土坑（5区）……155
第111図　土坑他分布（6区）……156
第112図　土坑他分布（7区）……157
第113図　土坑（7区）……157
第114図　土坑他分布（8区）……158
第115図　土坑（8区）……158
第116図　貿易陶磁器……166
第117図　瀬戸・美濃小皿，碗……167
第118図　瀬戸・美濃各種，志戸呂……168
第119図　渥美，常滑コネ鉢（1）……169
第120図　常滑コネ鉢（2）……170
第121図　常滑コネ鉢（3）……171
第122図　常滑コネ鉢（4）……172
第123図　常滑壺・甕（1）……173
第124図　常滑壺・甕（2）……174
第125図　常滑壺・甕（3）……175
第126図　土器……176
第127図　石製品（茶臼・板碑）……185
第128図　石製品（砥石1）……186
第129図　石製品（砥石2）……187
第130図　石製品（砥石3）……188
第131図　金属（鉄製品）……191
第132図　金属（鉄滓・銅製品）……192
第133図　銭貨（1）……193
第134図　銭貨（2）……194
第135図　銭貨（3）……195
第136図　遺跡全体遺物分布（瀬戸他）（1）…202
第137図　遺跡全体遺物分布（瀬戸他）（2）…203
第138図　遺跡全体遺物分布（常滑他）（1）…204
第139図　遺跡全体遺物分布（常滑他）（2）…205
第140図　遺跡全体遺物分布（石製品他）（1）…206
第141図　遺跡全体遺物分布（石製品他）（2）…207
第142図　機能別中世遺構分布……209
第143図　中世陶磁器組成……212
第144図　小櫃川流域中世遺跡陶磁器組成比較…213

第145図　西側隣接区調査成果……215
第146図　市原市天羽田稲荷山遺跡遺構……216
第147図　栃木県下古館遺跡全体図……217

表　目　次

第１表　山谷遺跡遺構一覧表……9
第２表　周辺遺跡一覧表……22
第３表　石器属性表……46
第４表　古墳時代土器観察表……58
第５表　古墳時代石器観察表……60
第６表　土坑形態表……159
第７表　中・近世陶磁器，土器観察表……177
第８表　中・近世石製品観察表……189
第９表　銭貨計測表……196
第10表　中・近世陶磁器遺構別組成表……198
第11表　中世陶磁器時期判明破片組成表……212

図　版　目　次

巻首図版　遺跡全景（東上空から）
出土中世陶磁器
図版１　山谷遺跡周辺航空写真
図版２　現道下調査前航空写真（西から）
現道下調査後航空写真（西から）
図版３　現道下調査前航空写真（南から）
現道下調査後航空写真（真上から）
現道下調査後航空写真（東から）
図版４　旧石器ブロック（３Ｉ-67ブロック）
旧石器ブロック（3Q-10ブロック）
旧石器ブロック（4O-17ブロック）
図版５　縄文時代陥穴SK004・005
古墳時代竪穴住居跡SI001
古墳時代竪穴住居跡SI002
図版６　SI002遺物出土状況
古墳時代竪穴住居跡SI003
奈良・平安時代方形周溝遺構SX001
図版７　鎌倉街道東端部
鎌倉街道全景（西から）
鎌倉街道調査風景
図版８　鎌倉街道全景（東から）
鎌倉街道西端部現道下
鎌倉街道西端部北側
図版９　溝SD001・002
溝SD003
溝SD005・006
図版10　溝SD012・007
溝SD009
溝SD023
図版11　溝SD025
道SX003
道SX021
図版12　屋敷跡SX005
SX022波板状凸凹
中央部整形区画南半部
図版13　SD027周辺航空写真
東部整形区画航空写真
地下式坑SK171周辺航空写真
図版14　陥穴SK003
陥穴SX004
SI003遺物出土状況１
SI003遺物出土状況２
鎌倉街道ＳＰＡ－Ａ′
鎌倉街道東端部轍痕
鎌倉街道東部轍痕
鎌倉街道東端部板碑出土状況

図版15　鎌倉街道調査風景
鎌倉街道ＳＰＣ－Ｃ′
鎌倉街道現道下土層
SX207D
遺跡付近道標（野田側）
遺跡付近道標（大曽根側）
溝SD004
溝SD008
図版16　溝SD010
溝SD011
溝SD016
道SX019
方形竪穴SX005H
方形竪穴SK093
方形竪穴SK120
土坑SK107，108　方形竪穴SK109
図版17　SB001
SB002
井戸SX006
中央部整形区画調査風景
地下式坑SX012竪坑
SX012全景
地下式坑SX009遺物出土状況
SX009全景
図版18　地下式坑SX011竪坑
SX011全景
SX011底面工具痕
地下式坑SX008
地下式坑SX014半裁状況
SX014全景
火葬土坑SX010
火葬土坑SX013
図版19　火葬土坑SX025
火葬土坑SX026
土坑SK001
土坑SK002
土坑SK006
火葬土坑SX013，土坑SK043
土坑墓SK117
土坑墓SK060，方形竪穴SK061
図版20　旧石器時代石器（1）
図版21　旧石器時代石器（2）
図版22　縄文土器，古墳時代土師器（1）
図版23　古墳時代土師器（2）
図版24　古墳時代土師器（3）
図版25　古墳時代土師器・石器
奈良・平安時代土師器，須恵器
図版26　貿易陶磁器
瀬戸美濃皿・碗
図版27　瀬戸美濃各種，志戸呂
渥美，常滑コネ鉢（1）
図版28　常滑コネ鉢（2）
常滑コネ鉢（3）
図版29　常滑コネ鉢（4）
常滑壺・甕（1）
図版30　常滑甕（2）
常滑甕（3）
図版31　常滑甕（4）
中世土器
図版32　中世陶磁器・土器
近世陶磁器
図版33　茶臼
板碑
図版34　砥石
鉄製品
図版35　鉄滓，銅製品
銭貨

第1章　はじめに

第1節　調査の概要

1　調査の経緯と経過（第2図）

日本道路公団は，東関東自動車道（千葉・富津線）建設事業に当たり，事業予定地内に所在する埋蔵文化財の取扱いについて，千葉県教育庁文化課との間で協議の結果，遺跡の現状保存が困難な部分について発掘調査による記録保存の措置を講ずることとなった。調査は財団法人千葉県文化財センターに委託され，山谷遺跡について，平成3年度・平成5年度・平成6年度に発掘調査を行った。なお，調査対象部分の確認調査が実施されても本調査は次年度に実施された地区もある。整理作業については，平成11年度・平成12年度に実施した。発掘調査，整理作業の実施期間，担当は次の通りである。

平成3年度　発掘調査

調査期間　平成4年1月7日～平成4年3月27日

調査面積　9,200㎡

調査内容　（上層）確認調査920㎡/9,200㎡，一部本調査3,700㎡

（下層）確認調査231㎡/4,880㎡，本調査200㎡

担当職員　研究員　村木正記，技師　大石理子

（組織）　調査部長　西山太郎，班長　郷田良一

平成5年度　発掘調査

調査期間　平成5年4月7日～平成6年3月29日

調査面積　11,800㎡

調査内容　（上層）確認調査750㎡/7,500㎡，一部本調査6,800㎡

（下層）確認調査472㎡/11,800㎡，本調査588㎡

担当職員　主任技師　柴田龍司

（組織）　調査研究部長　高木博彦，市原調査事務所長　石田広美

平成6年度　発掘調査

調査期間　平成6年4月1日～平成6年6月30日

調査面積　3,400㎡

調査内容（上層）確認調査3,400㎡/3,400㎡，本調査1,500㎡

（下層）確認調査210㎡，本調査なし

担当職員　主任技師　森本和男

（組織）　調査研究部長　西山太郎，市原調査事務所長　石田広美

平成11年度　整理作業

整理内容　記録整理，分類，復元，実測

担当職員　市原調査室長　麻生正信，研究員　高橋　覚，井上哲朗，主任技師　豊田秀治

（組織）　調査部長　沼澤　豊，南部調査事務所長　高田　博

第1図　遺跡の位置と周辺の主な中世遺跡

(1/50,000)

山谷遺跡調査対象範囲
東関東自動車道（千葉・富津線）事業範囲
X＝－64.0km
X＝－64.5km
野田
野田堰
大曽根
道祖堰
道橋
1/10,000
250m

第２図　遺跡周辺地形図

平成12年度　整理作業

整理内容　挿図・図版作成，原稿執筆，編集，報告書刊行

担当職員　上席研究員　井上哲朗

（組織）　調査部長　沼澤　豊，南部調査事務所長　高田　博

2　調査方法（第3・4図）

調査対象範囲を包含するように，国土地理院の国家座標を基準としたグリッド設定を行った。20m×20mの方眼を大グリッドとして，北から1，2，3，～9，西からA，B，C，～Sを設定し，更に大グリッドを2m×2mの小グリッドによって00～99に100分割した。これにより，例えば小グリッドの位置は3Q-25，5H-72等と呼称される。

調査に際しては，調査対象範囲に対し，確認調査は上層10%，下層4%の割合でトレンチ・グリッドを設定して行い，その成果から本調査範囲が決定された。なお，上層本調査範囲は重機（バックホウ）で表土を除去し，遺構確認面を検出後，遺構の精査を行った。下層の調査では，確認調査段階で一部重機（クラムシェル）による調査を行い，本調査範囲の表土除去はバックホウを使用した。

遺構番号は，原則として発掘調査段階の番号を踏襲したが，密集した土坑やピットが検出されており，全ての遺構に遺構番号が付けられてはいない。よって，整理作業の過程で，必要な遺構には新規番号を付した。

3　調査成果の概要（第6図，第1表）

各年度毎に年報等に成果が公表されているが，整理作業の中で遺構・遺物の性格を検討した結果，先に出されていたものとは異なり，次の様な成果となった。

旧石器時代は，6か所の石器集中地点の他，上層遺構の密度が濃く，集中地点の後世の破壊によるものか，各所で単独出土が見られた。

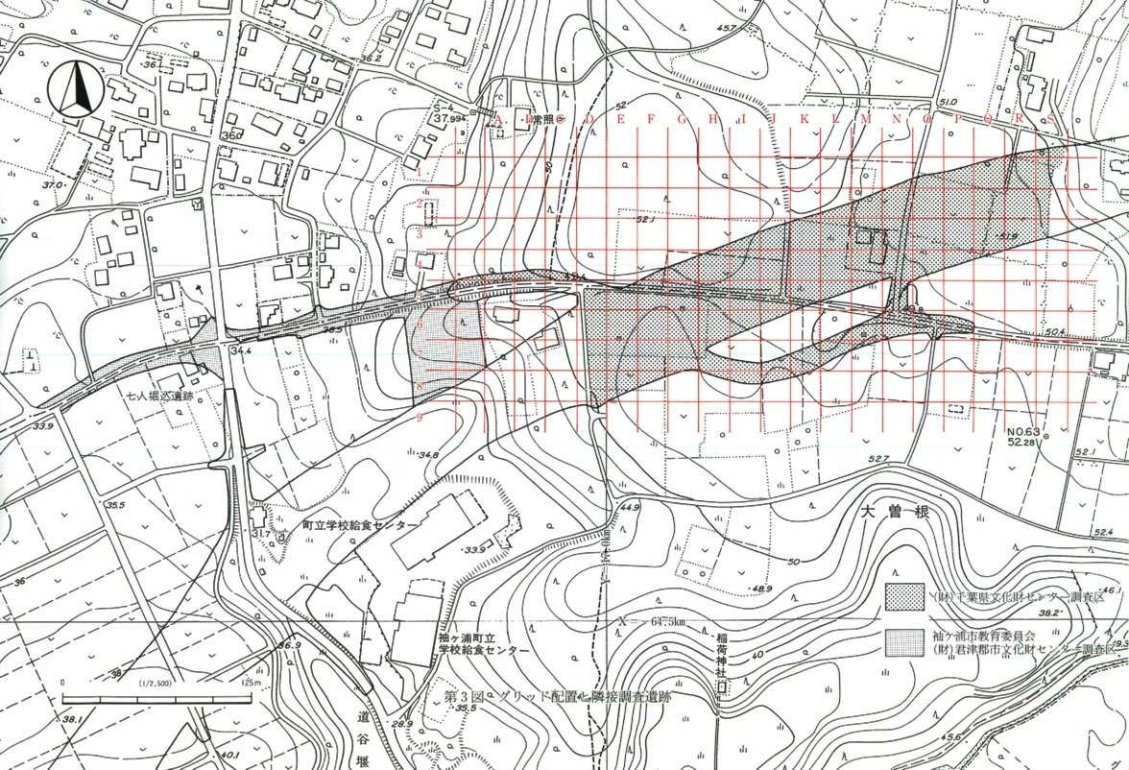
縄文時代の遺構は，早期と推測される陥穴6基が検出されたが，遺構に伴う該期の遺物はなく，遺跡全体で少量の縄文土器（早期～後期）が出土した。

古墳時代は，調査区東側の南境で前期の竪穴住居跡が3軒検出された。集落の中心はこれより南側に展開することが予想される。

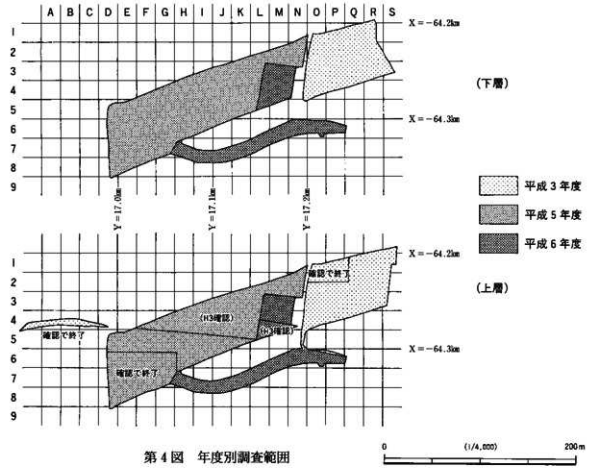
奈良・平安時代の遺構は，調査区東側の方形周溝遺構1基のみであり，遺構に伴う概期の遺物はないが，遺跡全体から少量の土師器，須恵器が出土している。この時期は，墓域の一角を形成していたものと考えられる。

当遺跡の遺構・遺物の中心となるのが中世である。調査区を東西に走る主要道を中心として，それに平行または直交する形の道や溝或いは台地整形区画によってブロックに分けられる。その中で，建物等の生活関連遺構と墓等の葬送関連遺構が密集するが，全体傾向として，整形区画の縁に地下式坑，反対側に竪穴建物跡や掘立柱建物跡，その中間に土坑墓，やや離れて井戸が形成される状況がある。つまり，生活関連遺構と葬送関連遺構は併存しており，日常的空間と宗教的空間とが有機的に混在する形と見られる。なお，土坑覆土中に宝永テフラが混入しているものもあり，若干の近世遺構も存在する。

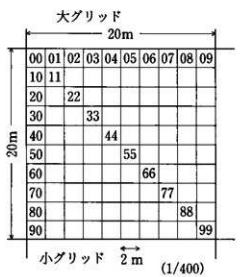
区画遺構としては，道5条(内，中世街道1条)，溝32条，整形区画8か所，棚列14条，植栽列14条，生活関連遺構については，井戸6基，方形竪穴建物跡20棟，掘立柱建物跡43棟，葬送関連遺構は，北側からの小支谷の埋没谷に形成された台地整形区画部分を中心として，地下式坑14基，火葬土坑10基，土坑約300



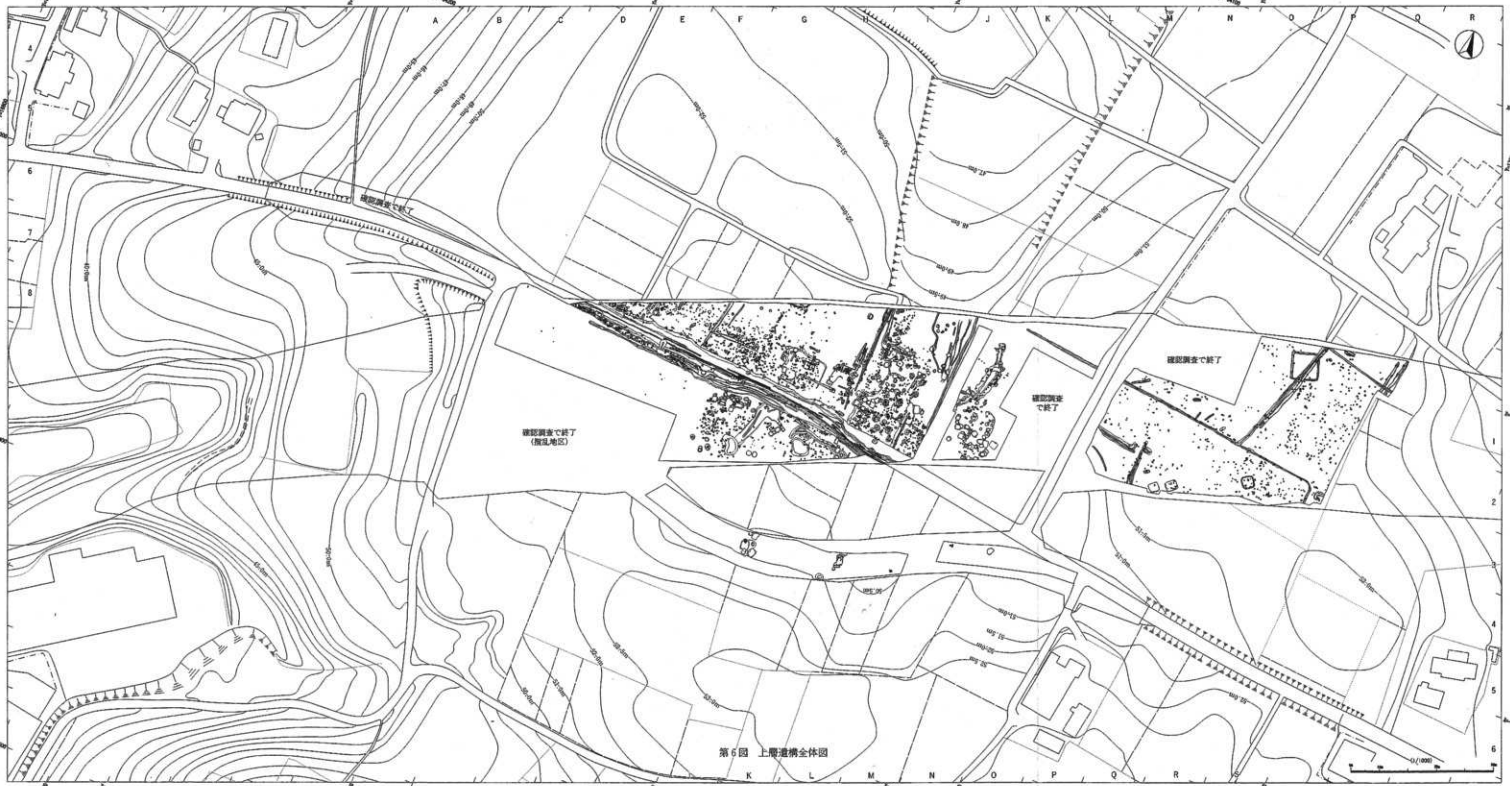
第3図 グリッド配置と隣接調査遺跡



第４図　年度別調査範囲



第５図　グリッド設定模式図



第6図　上層遺構全体図

第1表　山谷遺跡遺構一覧表（並び順　①時代，②遺構種類，③遺構番号）

遺構番号	地区	グリッド	1/250区画	調査年度	種　類	時　期	出　土　遺　物	特　記　事　項
SK003	東	2P	5	3	陥穴	縄文		
SK004	東	2P	5	3	陥穴	縄文		
SK005	東	2P,3P	5	3	陥穴	縄文		
SX004	北	3J	3	5	陥穴	縄文		
SX015	北	4G	1	5	陥穴	縄文		
SX024	北	4I	2	5	陥穴	縄文	常滑捏鉢1(還元焼成)	

SI001	東	3Q	6	3	竪穴住居跡	古墳前期	土師器，敲石1，砥石1，刀子1	
SI002	東	4P	6	3	竪穴住居跡	古墳前期	土師器，敲石1，常滑壺1	
SI003	東	4P	6	3	竪穴住居跡	古墳前期	土師器，鹿角ピボット1	

SX001	東	1Q,1R	6	3	方形周溝遺構	奈良~平安	縄文10	

KR	鎌	5E,5F,5G,5H,5I,5J,5K	1,2,3	5	鎌倉街道	中近世	弥生7，須恵器12，青磁鍋5・碗2，瀬戸鍋5(古前III~中IV，古後III,IV)・鉢(II)・大皿15・平鍋3・天目1・瓶子3，志戸呂皿 鉢2(大窯2)，常滑捏鉢83(6a,9,10型式)・壺244(5~6a,6b,9,10型式)・捏鉢砥石3，壺砥石18，擂鉢壺3，瓦質壺3，カワラケ1，茶臼1，板碑1，砥石5，肥前磁器，大保通宝1，馬骨	側溝はSX007とSX207
SX007	鎌	4F,4G,5G,5H,5I,5J,5K	1,2,3	5	鎌倉街道北側溝	中近世	弥生8，須恵器1，褐釉茶入1，瀬戸皿2・鉢(II)・小鉢1・大皿2・平鍋1・擂鉢3，常滑捏鉢1(3,5,8,8,10型式)・壺25(5~6b,8~10型式)・捏鉢砥石2・壺砥石3，擂鉢壺1，東海系須恵1，カワラケ11，泡鉢1，砥石2，鉄滓1，肥前磁器，キセル1，馬骨，貝	KR北側側溝
SX207	鎌	5E,5F,5G,5H,5I,5J,5K	1,2,3	5	鎌倉街道南側溝	中近世	縄文1，弥生12，土師器3，須恵器7，青磁鍋1・盤1・褐釉壺1，瀬戸大皿1(古後III)・平鍋3(古後II，III)・瓶子2，擂鉢壺1，常滑捏鉢49(3,7,9,10型式)・壺83(3,5,6a,9,10型式)・捏鉢砥石1・壺砥石13，瓦質壺1，カワラケ3，北宋銭1，肥前磁器，寛永通宝12(鉄銭2)，大保通宝2，2銭銅貨1	KR南側側溝
SX207B	鎌	5F	1	5	側溝内土坑	中近世	縄文1	SX207側溝内
SX207C	鎌	5F	1	5	側溝内土坑	中近世		SX208側溝内
SX207D	鎌	5G	1	5	側溝内土坑	中近世		SX209側溝内
SX003	北	4H	2	5	道	中近世	弥生3，常滑捏鉢6・壺1(6a形式)，カワラケ3，北宋銭2，貝	
SX019	北	4F	1	5	道	中近世		
SX021	北	4J	3	5	道	中近世		
SX022	北	4J	3	5	道	中近世	常滑捏鉢1・壺1・捏鉢砥石1，瓦質壺3，カワラケ5，鉄釘6	波板状凹凸，遺物多い。

SD001	東	0S,1S	6	3	溝	中近世	常滑捏鉢1	
SD002	東	0S,1S	6	3	溝	中近世		
SD003	東	1R,1S	6	3	溝	中近世	常滑捏鉢1	
SD004	東	1R	6	3	溝	中近世		
SD005	東	1R,2Q,3Q	6	3	溝	中近世	弥生3，常滑捏鉢1(9型式)・壺4(5型式)	
SD006	東	1R,1Q,2Q,3Q	6	3	溝	中近世		
SD007	東	2O,3P,3Q,3R	6	3	溝	中近世	縄文4	SD023の東側
SD008	東	3S,3R	6	3	溝	中近世		
SD009	東	3O,4O	5	3	溝	中近世	弥生5，瀬戸天目1，カワラケ1	
SD010	東	4O	5	3	溝	中近世	鉄釘1	
SD011	東	3O	5	3	溝	中近世	常滑捏鉢1(還元)，カワラケ1	
SD012	東	2O	5	3	溝	中近世		
SD013	北	4I,4J	2	5	溝	中近世	北宋銭2	
SD014	北	4II	2	5	溝	中近世		
SD015	北	4H	2	5	溝	中近世		
SD016	北	2K,3K,3L	3	5	溝	中近世	縄文1，土師器1，白磁皿1，鉄釘2，銅銭（中国）1	
SD017	北	4K,5K	3	5	溝	中近世	瀬戸皿1(古後IV)，常滑壺砥石1	
SD018	北	4G	1	5	溝	中近世		
SD019	北	3L	4	5	溝	中近世	弥生3	
SD020	北	3L	4	5	溝	中近世	弥生9，常滑壺1，カワラケ1，北宋銭1	
SD021	北	2L,3L	4	5	溝	中近世	常滑捏鉢3(還元)，	

遺構番号	地区	グリッド	1/250区画	調査年度	種　類	時　期	出　土　遺　物	特　記　事　項
SD022	北	2L,3L,4L	4	5	溝	中近世	弥生21，瀬戸皿1，常滑壺1・擂鉢砥石1，板碑1	
SD023	北	2M,2N	4	5	溝	中近世		SD007の西側
SD024	北	3J,3K	3	5	溝	中近世	弥生1，常滑壺1	
SD025	北	3J,4J	3	5	溝	中近世		
SD026	北	3J,4J	3	5	溝	中近世	弥生1，瀬戸平鍋1，常滑壺1，鉄製品1	小規模溝
SD027	中	3L,3M,4L	4	6	溝	中近世	土師器1，土鈴1，瀬戸皿2(古後II)，大皿1(古後III)，常滑擂鉢6(4~5,7,10型式)・甕4(4~5型式)・擂鉢砥石2・壁砥石1，カワラケ1，板碑1，砥石1	
SD201	南	5J	3	5	溝	中近世	青磁碗1・盤1，瀬戸皿5・天目1・擂鉢3・花瓶1(古後IV)，常滑擂鉢1(10型式)・壁8(9,10型式)，壁砥石1，カワラケ2	
SD202	南	5I,6I	2	5	溝	中近世	弥生1，青磁碗1，瀬戸碗形鉢1(古後IV)・大皿1，常滑擂鉢(10型式)1・壁4	
SD203	南	5F,5G,5H	1	5	溝	中近世	瀬戸小鉢1(古後III)，常滑擂鉢3(7型式)・壁砥石1，貝	
SD204	南	5J	3	5	溝	中近世		
SD205	南	5J	3	5	溝	中近世		
SX020	北	3K	3	5	溝	中近世	常滑壺1	SD024の続き。

SX005	北	4I,4J	2	5	整形区画A	中世	弥生10，土師器5，須恵器1，青磁碗1，瀬戸皿1(古後IV)・擂鉢3，常滑擂鉢8(6a,10型式)・壁8・擂鉢砥石2・壁砥石1，瓦質香1，東海系須恵1，カワラケ13，鉄釘1，鉄鏃1，北宋銭1	掘立柱建物跡・坦根・方形竪穴・土坑墓等。核墓等あり。
	南	5H	2	5	整形区画B	中世		新規番号，地下式坑・方形竪穴・土坑墓等
	北	3K,4K	3	5	整形区画C	中世		新規番号。方形竪穴・土坑墓等
	北	4K,5K	3	5	整形区画D	中世		新規番号。地下式坑・方形竪穴・土坑墓等
	北	4K,4L,5K,5L	3	5	整形区画E	中世		新規番号。地下式坑・掘立柱建物跡・土坑等
	中	4L,4M,5L,5M	4	6	整形区画F	中世		新規番号。地下式坑・方形竪穴・土坑墓等
	迂回	7I,7J,8I,8J	7	6	整形区画G	中世		新規番号。方形竪穴・地下式坑・土坑墓・火葬土坑
	迂回	7J,8K	7	8	整形区画H	中世		新規番号。地下式坑・方形竪穴・土坑

SB001	東	1R	6	3	掘立柱建物跡か	中近世		
SB002	東	1R,1S	6	3	掘立柱建物跡か	中近世		
SB003	北	4F	1	5	掘立柱建物跡か	中近世		新規番号
SB004	北	4G	1	5	掘立柱建物跡か	中近世		新規番号
SB005	北	4G	1	5	掘立柱建物跡か	中近世		新規番号
SB006	北	4G	1	5	掘立柱建物跡か	中近世		新規番号
SB007	北	4G	1	5	掘立柱建物跡か	中近世		新規番号
SB008	北	4G	1	5	掘立柱建物跡か	中近世		新規番号
SB009	北	4H	2	5	掘立柱建物跡か	中近世		新規番号
SB010	北	4H	2	5	掘立柱建物跡か	中近世		新規番号
SB011	北	4H	2	5	掘立柱建物跡か	中近世		新規番号
SB012	北	4H	2	5	掘立柱建物跡か	中近世		新規番号
SB013	北	4H	2	5	掘立柱建物跡か	中近世		新規番号
SB014	北	4H	2	5	掘立柱建物跡か	中近世		新規番号
SB015	北	4H	2	5	掘立柱建物跡か	中近世		新規番号
SB016	北	4I	2	5	掘立柱建物跡か	中近世		新規番号
SB017	北	4I	2	5	掘立柱建物跡か	中近世		新規番号
SB018	北	4I	2	5	掘立柱建物跡	中世		新規番号，SX005内，唯一確実な掘立柱建物跡
SB019	北	4H	2	5	掘立柱建物跡か	中近世		新規番号
SB020	北	4H	2	5	掘立柱建物跡か	中近世		新規番号
SB021	南	6H	2	5	掘立柱建物跡か	中近世		新規番号
SB022	南	5I	2	5	掘立柱建物跡か	中近世		新規番号
SB023	南	6J	2	5	掘立柱建物跡か	中近世		新規番号
SB024	北	3K	3	5	掘立柱建物跡か	中近世		新規番号
SB025	北	3K	3	5	掘立柱建物跡か	中近世		新規番号
SB026	北	4K	3	5	掘立柱建物跡か	中近世		新規番号
SB027	北	5K	3	5	掘立柱建物跡か	中近世		新規番号

遺構番号	地区	グリッド	1/250 区画	調査年度	種　類	時　期	出　土　遺　物	特　記　事　項
SB028	北	4L,5L	3	5	掘立柱建物跡か	中近世		新規番号
SB029	北	5L	3	5	掘立柱建物跡か	中近世		新規番号
SB030	南	6J	3	5	掘立柱建物跡か	中近世		新規番号
SB031	南	6J	3	5	掘立柱建物跡か	中近世		新規番号
SB032	東	1O	5	3	掘立柱建物跡か	中近世		新規番号
SB033	東	2Q	5	3	掘立柱建物跡か	中近世		新規番号
SB034	東	2O	5	3	掘立柱建物跡か	中近世		新規番号
SB035	東	2P,3P	5	3	掘立柱建物跡か	中近世		新規番号

SA001	北	4H	2	5	柵列E	中近世		新規番号
SA002	北	4H	2	5	柵列F	中近世		新規番号
SA003	北	4I	2	5	植栽列C内	中近世		新規番号
SA004	北	4I	2	5	植栽列C内	中近世		新規番号
SA005	北	4I,4J	2	5	柵列G（垣根）	中世		新規番号，SX005内
SA006	南	6H	2	5	植栽列G内	中近世		新規番号
SA007	南	6H	2	5	植栽列G内	中近世		新規番号
SA008	南	6I	2	5	柵列H	中近世		新規番号
SA009	北	4K	3	5	植栽列E内	中近世		新規番号
SA010	北	3K	3	5	植栽列E内	中近世		新規番号
SA011	北	3K	3	5	植栽列E内	中近世		新規番号
SA012	北	4K	3	5	植栽列F内	中近世		新規番号
SA013	北	5K	3	5	柵列か	中近世		新規番号
SA014	北	5K	3	5	柵列か	中近世		新規番号
SA015	中	4L	4	6	植栽列J内	中近世		新規番号
SA016	中	4L	4	6	植栽列J内	中近世		新規番号
SA017	中	4M	4	6	柵列か	中近世		新規番号
SA018	中	5M	4	6	柵列J	中近世		新規番号
SA019	中	4M	4	6	柵列K	中近世		新規番号
SA020	中	5M	4	6	柵列L	中近世		新規番号
SA021	東	1P,1Q	5	3	柵列か	中近世か		新規番号
SA022	東	2P,2Q	5	3	植栽列L内	中近世か		新規番号
SA023	東	1R	6	3	柵列か	中近世か		新規番号
SA024	東	1R,1S	6	3	柵列N	中近世か		新規番号
SA025	東	2R	6	3	柵列か	中近世か		新規番号
SA026	東	2R	6	3	柵列か	中近世か		新規番号
SA027	東	3R	6	3	植栽列N内	中近世か		新規番号
SA028	東	3R	6	3	柵列か	中近世か		新規番号

SP001	北	5H	2	5	ピット	中世		
SP003	北	4H	2	5	ピット	中世	カワラケ2	
SP004	北	4G	1	5	ピット	中世	縄文1	
SP005	北	4L	4	5	ピット	中世	東海系須恵2	
SP006	北	4K	3	5	ピット	中世	北宋銭1	
SP007	北	4H	2	5	ピット	中世	常滑壺底石1	
SP059	東	1R	6	3	ピット	中世	瀬戸皿2	
SP060	東	1R	6	3	ピット	中世	常滑壺1	
SP201	南	5J	3	5	ピット	中世	北宋銭1	
SP202	南	5I	2	5	ピット	中世	明銭1	
SP203	南	5I	2	5	ピット	中世	青磁碗1	
SP204	南	6H	2	5	ピット	中世	瀬戸天目(古後期)1，北宋銭1	
SP205	南		5	5	ピット	中世	常滑壺1・壺底石1	位置不明
SP320	迂回			3	ピット	中世	弥生1	位置不明
5G-P001	南	5G	1	5	ピット	中世	青磁碗1	

SK043B	北	5J,5K	3	5	方形壁穴	中世		
SK061	北	4K	3	5	方形壁穴	中世	北宋2・明銭1	方形土坑墓に切られる。
SK093	北	4K	3	5	方形壁穴	中世		
SK098	北	4K	3	5	方形壁穴	中世		土坑墓２基の可能性。
SK100	北	4K	3	5	方形壁穴	中世		方形土坑墓の可能性。

遺構番号	地区	グリッド	1/250区画	創表年度	種類	時期	出土遺物	特記事項
SK109	北	4K	3	5	方形整穴	中世		土坑墓に切られる。
SK120	北	3K	3	5	方形整穴	中世	青磁碗1，カワラケ1	ピット有り。
SK172	中	4L	4	6	方形整穴	中世		
SK173	中	4L	4	6	方形整穴	中世	常滑捏鉢1，カワラケ1，砥石1	
SK178	中	4L	4	6	方形整穴	中世	常滑捏鉢1(屋元)・甕2	
SK181	中	4M	4	6	方形整穴	中世		
SK192	中	4M	4	6	方形整穴	中世		新規番号
SK204	南	5H,5I	2	5	方形整穴	中世	カワラケ2，小刀1，北宋銭1	隣九方形土坑墓2基の可能性。
SK205	南	5II	2	5	方形整穴	中世		
SK301	迂回	7K	7	6	方形整穴	中世	常滑甕1・甕砥石1，鉄製金具1，鉄釘1	
SK306	迂回	7I,7J	7	6	方形整穴	中世		
SX005P	北	4I	2	5	方形整穴	中世		整形区画A内
SX005G	北	4I,5I	2	5	方形整穴	中世	カワラケ1	整形区画A内
SX005H	北	4I	2	5	方形整穴	中世		整形区画A内

SK005K	北	4I	2	5	大型不整形痕穴	中世		新規番号。整形区画A内
SX206	南	6H,6I	2	5	大型不整形整穴	中世	瀬戸皿2(古後IV古)，常滑捏鉢1(10型式)・甕1，中国銅銭1	
SX213	南	5I	2	5	大型不整形整穴	中世	瀬戸大皿1(古後III)，常滑甕砥石1	
SX201	南	5J,6J	3	5	大型不整形整穴	中世	瀬戸皿1，常滑捏鉢1(8型式)・甕1(9型式)，骨片	
SX300	迂回	7J	7	6	棚状整穴	中世		新規番号

SK177	北	4L	4	6	井戸	中世	常滑捏鉢1(9型式)・甕1，北宋銭1	遺物は上層から。
SX006	北	4F,4G	1	5	井戸	中世	土師皿1，青磁碗1，瀬戸平碗1，常滑甕1	
SX026	北	5K	3	5	井戸	中世		新規番号
SX198	中	5M	4	6	井戸	中世		
SX214	南	6I	2	5	井戸	中世	土師皿1，瀬戸皿1(古後IV古)，常滑甕2・甕砥石1，東海系羽釜2，貝(キサゴ)	
SX219	南	5H	2	5	井戸	中世		新規番号

SK171	北	4M	4	6	地下式坑	中世	カワラケ1	
SK307	迂回	7K	7	6	地下式坑	中世	白磁皿1(B群)，青磁碗1・梅瓶1，志戸呂皿3，常滑捏鉢1・甕2(10型式)	SK306の東南
SK308	迂回	7K,8K	8	6	地下式坑墓坑部	中世	褐釉茶入1，瀬戸皿1・平碗1(古後III～IV)・大目2(古後III)・香炉(古後III)1，常滑捏鉢2(9,10型式)・甕10(3,6 a,10型式)・瓦質壺1，東海系羽釜1，カワラケ2	北半部は調査区外なので未掘。
SK309	迂回	7K	7	6	地下式坑	中世	瓦質壺1	
SK310	迂回	7K	7	6	地下式坑	中世		北半分は調査区外
SK311	迂回	7J	7	6	地下式坑	中世	瀬戸皿1・平碗1(古後III)，常滑捏鉢2・甕4(8a型式)，貝(キサゴ・ハマグリ)	北側は未掘
SK312	迂回	8I	7	6	地下式坑	中世		大規模。南半は調査区域外。新規番号
SX008	北	4K	3	5	地下式坑	中世		
SX009	北	4J	3	5	地下式坑墓坑部	中世	常滑捏鉢1(5～6a,9型式)，瓦質壺1	
SX011	北	4K	3	5	地下式坑	中世		
SX012	北	4J	3	5	地下式坑	中世	大形丸石・子供の歯	墓坑部
SX014	北	4K	3	5	地下式坑	中世	土師皿1，須恵器4，瀬戸皿1(古後IV古)，常滑甕2，渥美甕1，砥石1，鉄鎌取手1	天井部崩落
SX210	南	5H	2	5	地下式坑墓坑部か	中世		墓坑部のみ，造りかけ？
SX211	南	5H	2	5	地下式坑	中世	瀬戸平碗1・常滑甕砥石1，茶臼1	

SK302	迂回	7L	8	6	火葬土坑	中世	人骨片，(周辺) 瀬戸皿1，常滑甕2，板碑1	
SK303	迂回	6M	8	6	火葬土坑	中世		
SK305	迂回	7I	7	6	火葬土坑	中世		
SX010	北	4K	3	5	火葬土坑	中世	人骨片，炭化材（ウコギ属径3cm～5cm・ヤマグワ径3～7cm）	
SX013	北	5K	3	5	火葬土坑	中世	炭化材（サクラ属径5cm・ヤマグワ径1cm～1.5cm）	SK049と同一(SK049は欠番)
SX023	北	3K	3	5	火葬土坑	中世	人骨片，炭化物	
SX025	北	4J	3	5	火葬土坑	中世	人骨片，炭化材（マツ属複維管束束属径3cm～10cm）	
SX209	南	5H	2	5	火葬土坑	中世		SX217と隣接
SX216	南	6H	2	5	火葬土坑	中世	人骨粉	
SX217	南	5H	2	5	火葬土坑	中世		SX209と隣接
SK215	南	6H	2	5	火葬土坑か	中世		

遺構番号	地区	グリッド	1/250 区画	調査年度	種　類	時　期	出　土　遺　物	特　記　事　項
SK001	東	4P	5	3	不整形土坑	中近世		
SK002	東	3O,3P	6	3	不整形土坑	中近世		
SK006	東	3Q	6	3	不整形土坑	中近世		
SK007	北	4H	2	5	長方・楕円形土坑墓	中近世	土師器1，須恵器3	
SK008	北	3H,4H	2	5	円形土坑墓	中近世		
SK009	北	3H,4H	2	5	円形土坑墓	中近世		
SK010	北	4H	2	5	円形土坑墓	中近世		
SK011	北	4G	1	5	円形土坑墓	中近世		
SK012	北	4G	1	5	円形土坑墓	中世	常滑擂鉢1	
SK013	北	4H	2	5	不整形土坑	中近世		
SK014	北	4H	2	5	円形土坑墓	中世	板碑1	
SK015	北	4H	2	5	円形土坑墓	中近世	織文2	
SK016	北	4H	2	5	不整形土坑墓	中近世		
SK017	北	4H	2	5	隅丸方形土坑墓	中世	北宋銭2	
SK018	北	4G	1	5	円形土坑	中世	常滑甕1	
SK019	北	4G	1	5	不整形土坑	中近世		
SK022	北	4H	2	5	円形土坑墓	中近世		
SK023	北	4H	2	5	円形土坑墓	中近世		
SK024	北	3K,3L	3	5	不整形土坑	中世	弥生1，青磁碗1，常滑擂鉢1	
SK025	北	3K	3	5	不整形土坑	中近世		
SK026	北	3K	3	5	不整形土坑	中近世		
SK027	北	3K	3	5	不整形土坑	中近世		
SK028	北	3K	3	5	不整形土坑	中近世		
SK029	北	3K	3	5	円形土坑	中近世		
SK030	北	4K	3	5	不整形土坑	中世	常滑擂鉢1・甕1	
SK031	北	4K	3	5	方形土坑墓	中世		
SK032	北	4K	3	5	不整形土坑	中近世		
SK033	北	4K	3	5	不整形土坑墓	中近世	鉄製品1	
SK034	北	4K	3	5	隅丸方形土坑墓	中世		
SK035	北	4H	2	5	円形土坑墓	中近世		SK006が113，115とだぶるので，115年度の方。
SK037a	北	5K	3	5	不整形土坑	中近世		
SK037b	北	5K	3	5	不整形土坑	中近世		
SK038	北	5K	3	5	不整形土坑	中近世		
SK039	北	5K	3	5	不整形土坑	中近世		
SK040	北	5K	3	5	円形土坑墓	中近世		
SK041	北	5K	3	5	不整形土坑	中近世		
SK042	北	5K	3	5	不整形土坑	中近世		
SK043A	北	5J,5K	3	5	方形土坑墓	中世		
SK044	北	4J,5J	3	5	不整形土坑墓	中近世		
SK045	北	4K,5K	3	5	不整形土坑	中近世		
SK046	北	4J,4K,5J,5K	3	5	方形土坑墓	中世		
SK047	北	5J	3	5	長方・楕円形土坑墓	中近世		
SK048	北	5J	3	5	方形土坑墓	中世		
SK050A	北	5K	3	5	不整形土坑	中近世		
SK050B	北	5K	3	5	不整形土坑	中近世		
SK051	北	5K	3	5	不整形土坑墓	中近世		
SK052	北	5K	3	5	不整形土坑墓	中世	常滑甕1	
SK053	北	5K	3	5	不整形土坑	中近世		
SK054A	北	5K	3	5	不整形土坑	中近世		
SK054B	北	5K	3	5	不整形土坑	中近世		
SK055	北	5K	3	5	長方・楕円形土坑墓	中近世		
SK056	北	5K	3	5	不整形土坑墓	中近世		
SK057	北	5K	3	5	円形土坑墓	中近世	土師1	
SK058	北	5K	3	5	不整形土坑	中近世		
SK059	北	4J,4K	3	5	円形土坑墓	中近世		
SK060	北	4K	3	5	方形土坑墓	中世		SK061と切り合い
SK064	北	4J	3	5	隅丸方形土坑	中近世		

遺構番号	地区	グリッド	1/250 区画	調査年度	種　類	時　期	出　土　遺　物	特　記　事　項
SK065	北	4J,4K	3	5	長方・楕円形土坑	中近世		
SK066	北	4K	3	5	長方・楕円形土坑墓	中近世		
SK071	北	4K	3	5	不整形土坑	中近世		
SK074	北	4H	2	5	隅丸方形土坑墓	中世	磨銭1	磨銭はSK075と共に一括。SK075と切り合い
SK075	北	4H	2	5	長方・楕円形土坑	中世	(磨銭1)	SK074と切り合い
SK076	北	4H	2	5	不整形土坑	中世	常滑壺1	
SK077	北	4K	3	5	円形土坑墓	中近世		
SK078	北	4J,4K	3	5	不整形土坑	中近世		
SK079	北	4K	3	5	円形土坑墓	中近世		
SK080	北	4K	3	5	円形土坑墓	中近世		
SK081	北	4K	3	5	隅丸方形土坑墓	中世		
SK082	北	3K	3	5	不整形土坑	中近世		
SK083	北	3K	3	5	不整形土坑	近世		宝永テフラ混入
SK084	北	3K	3	5	不整形土坑	中近世		
SK085	北	3K	3	5	不整形土坑	中近世		
SK087	北	4J,5J	3	5	不整形土坑	近世		
SK088	北	5J	3	5	長方・楕円形土坑墓	中近世		
SK089	北	4K	3	5	不整形土坑	中近世		
SK090	北	4K	3	5	不整形土坑	中近世		
SK091	北	4K	3	5	長方・楕円形土坑墓	中近世		
SK092	北	4I	2	5	円形土坑墓	中近世		
SK094	北	4K	3	5	長方・楕円形土坑墓	中近世		
SK095	北	4K	3	5	不整形土坑	中近世		
SK096	北	4K	3	5	不整形土坑	中近世		
SK097	北	4K	3	5	不整形土坑墓	中近世		
SK099	北	4K	3	5	不整形土坑	中近世		
SK101	北	4K	3	5	不整形土坑	中近世		
SK102	北	4K	3	5	不整形土坑	中世	常滑擂鉢1	
SK103	北	4K	3	5	不整形土坑	中近世		
SK104	北	4K	3	5	不整形土坑	中近世		
SK105	北	4K	3	5	円形土坑墓	中世	常滑擂鉢1・頁岩石1	
SK106A	北	4K	3	5	不整形土坑	中近世		
SK106B	北	4K	3	5	不整形土坑	中近世		
SK107	北	4K	3	5	不整形土坑墓	中世	元銭1，鉄製鉄環1	SK094,108より新
SK108	北	4K	3	5	長方・楕円形土坑墓	中世	北宋銭1	SK107,109と切り合い
SK110	北	5K	3	5	不整形土坑	中近世		
SK111	北	5K	3	5	不整形土坑	中近世		
SK112	北	4K,5K	3	5	円形土坑墓	中近世		
SK114	北	3K	3	5	方形土坑墓	中世		
SK115	北	3K	3	5	不整形土坑	中近世		
SK116	北	3K	3	5	隅丸方形土坑墓	中世		
SK117	北	4K	3	5	隅丸方形土坑墓	中世	カワラケ3	
SK118	北	4K	3	5	不整形土坑	中近世		
SK119	北	4K	3	5	長方・楕円形土坑	中近世	弥生1	
SK121	北	4K	3	5	不整形土坑	中近世		
SK122	北	5L	3	5	不整形土坑	中近世		
SK123	北	4L,5L	3	5	不整形土坑	中近世		
SK124	北	4L	3	5	不整形土坑	中近世		
SK125	北	3K	3	5	不整形土坑	中近世	弥生2	
SK126	北	3K	3	5	不整形土坑	中近世		
SK127	北	3J,3K,4J,4K	3	5	不整形土坑	中近世		
SK128	北	3K	3	5	不整形土坑	中近世	弥生1	SK129と切り合い
SK129	北	3J,3K	3	5	不整形土坑	中近世		SK128,130と切り合い
SK130	北	3J,3K	3	5	不整形土坑	中近世		
SK131	北	3K,4K	3	5	不整形土坑	中近世		
SK132	北	3K	3	5	隅丸方形土坑墓	中世		
SK133	北	3K,4K	3	5	隅丸方形土坑墓	中世		

遺構番号	地区	グリッド	1/250 区画	調査区域	種　類	時　期	出　土　遺　物	特　記　事　項
SK134	北	3K	3	5	円形土坑墓	中近世		
SK135	北	4K	3	5	方形土坑墓	中世		
SK136	北	4K	3	5	隅丸方形土坑墓	中世	瀬戸皿1	
SK137	北	3K	3	5	不整形土坑	中近世		
SK138	北	4K	3	5	不整形土坑	中近世	縄文1	
SK139	北	3K,4K	3	5	不整形土坑	中世	青磁碗1	
SK140	北	3J	3	5	不整形土坑	中近世		
SK142	北	4J	3	5	不整形土坑	中近世		
SK143	北	3K	3	5	不整形土坑	中近世		
SK144	北	4K	3	5	不整形土坑	中世	瀬戸皿1(古段IV)	遺物は最上層出土。
SK146	北	3K	3	5	不整形土坑	中近世		
SK147	北	4K	3	5	円形土坑墓	中近世		
SK148	北	4J	3	5	不整形土坑	中近世		
SK149	北	4J	3	5	長方・楕円形土坑	中近世		
SK150	北	4J	3	5	不整形土坑	中近世		
SK151	北	4J	3	5	長方・楕円形土坑	中近世		
SK152	北	4J	3	5	長方・楕円形土坑	中近世	縄文1	
SK153	北	4J	3	5	円形土坑墓	中近世		
SK154	北	4J	3	5	不整形土坑	中近世		
SK155	北	4J	3	5	不整形土坑	近世		SK157を切る。
SK156	北	4J	3	5	不整形土坑	近世	弥生1，カワラケ2	SK157を切る。
SK157	北	4J	3	5	不整形土坑	近世	宣永テフラ多含	
SK158	北	4J	3	5	不整形土坑	中近世		SK157より古い。
SK159	北	4J	3	5	不整形土坑	近世		SK157を切る。
SK160	北	4J	3	5	隅丸方形土坑	中近世		
SK161	北	4J	3	5	不整形土坑	中近世	鉄釘1	
SK162	北	4J	3	5	長方・楕円形土坑墓	中近世		
SK163	北	4J	3	5	不整形土坑	近世		上層に宝永テフラ少量含む。
SK164	北	4J	3	5	長方・楕円形土坑墓	近世		上層に宝永テフラ少量含む。
SK165	北	4J	3	5	不整形土坑	中近世		土坑墓の可能性。
SK166	北	4H	2	5	不整形土坑墓	中近世		
SK170	北	4K	3	5	方形土坑墓	中世		SK061,093と切り合い
SK174	中	4L	4	6	方形土坑墓	中世		
SK175	中	4L	4	6	長方・楕円形土坑墓	中近世		
SK176A	中	4L	4	6	方形土坑墓	中世		
SK176B	中	4L	4	6	隅丸方形土坑墓	中世		
SK179	中	4L	4	6	不整形土坑墓	中近世		
SK180	中	4L	4	6	不整形土坑墓	中近世		
SK182A	中	4L	4	6	隅丸方形土坑墓	中世	弥生1	階段状
SK182B	中	4L	4	6	隅丸方形土坑墓	中世		新規番号
SK182C	中	4L	4	6	円形土坑墓	中世		新規番号
SK183	中	4M	4	6	長方・楕円形土坑墓	中近世		
SK184A	中	4M,5M	4	6	円形土坑墓	中世	縄文1，常滑甕1，カワラケ5	
SK184B	中	4M,5M	4	6	隅丸方形土坑墓	中世		新規番号
SK184C	中	4M	4	6	方形土坑墓	中世		新規番号
SK184D	中	4M	4	6	長方・楕円形土坑墓	中世		新規番号
SK185	中	4L	4	6	不整形土坑墓	中世	弥生2，白磁皿1，常滑捏鉢5(還元・7型式)・壺2・甕砥石1，砥石1	
SK186A	中	4L	4	6	不整形土坑墓	中世	常滑捏鉢1	
SK186B	中	4L	4	6	不整形土坑	中近世		新規番号
SK187	中	4L	4	6	不整形土坑	中世	常滑甕1(5～6a型式)，板碑1，鉄製金具1	削りだし　斜面整形
SK188	中	4L	4	6	不整形土坑	中世	常滑捏鉢1(還元)・甕1	
SK189	中	4M	4	6	長方・楕円形土坑墓	中世	弥生1，瀬戸卸皿1，銀美鏡1	
SK190	中	4M	4	6	隅丸方形土坑墓	中世	弥生1，常滑甕2，砥石1	
SK191	北	4L,5L	3	5	不整形土坑	中近世		SK082のダブリを変更
SK193	中	4M	4	6	長方・楕円形土坑墓	中世		新規番号
SK194	中	4M	4	6	円形土坑墓	中世		新規番号
SK195	中	4M	4	6	円形土坑墓	中世		新規番号
SK196	中	4L	4	6	円形土坑墓	中世		新規番号
SK197	中	5L	4	6	方形土坑墓	中世		新規番号

遺構番号	地区	グリッド	1/250 区画	調査年度	種　類	時　期	出　土　遺　物	特　記　事　項
SK201	南	6H	2	5	隅丸方形土坑墓	中世	常滑甕1	板跡と切り合いか。
SK202	南	6H	2	5	円形土坑墓	近世		上層に宝永テフラ混入
SK203	南	6H	2	5	不整形土坑	近世		上層に宝永テフラ混入
SK206	南	5I	2	5	方形火葬墓	中近世		SK225と切り合い
SK207	南	5J	3	5	方形土坑墓	中世	常滑甕2(6b型式)	
SK208	南	5H	2	5	方形土坑墓	中世		208(新) 209(古)
SK209	南	5H	2	5	方形土坑墓	中世	銅製品1	
SK210	南	5H	2	5	長方・楕円形土坑	中近世		
SK211	南	5H	2	5	隅丸方形土坑墓	中世	常滑捏鉢1	SK212と切り合い
SK212	南	5H	2	5	隅丸方形土坑墓	中世	常滑甕1(5~6a型式)	SK211と切り合い
SK213	南	5H	2	5	隅丸方形土坑墓	中世	常滑捏鉢1	
SK214	南	5H,5I	2	5	隅丸方形土坑墓	中世	常滑捏鉢1	SK204と切り合い
SK215	南	5J	3	5	円形土坑墓	中世	常滑甕1(9型式)	
SK217	南	5J	3	5	不整形土坑	中近世		
SK220	南	6I	2	5	円形土坑墓	中世	常滑甕1・硬質石1、動物骨	下場不明
SK221	南	5I	2	5	隅丸方形土坑墓	中世	常滑捏鉢1・甕1、カワラケ4	
SK222	南	6H	2	5	不整形土坑	中世	常滑甕1、鉄製品1	
SK223	南	5J	3	5	長方・楕円形土坑墓	中世	常滑甕1	SK207(側溝)より古い
SK224	南	5I,6I	2	5	隅丸方形土坑墓	中世		SK225と切り合い
SK225	南	5I	2	5	長方・楕円形土坑	中近世		SK206,224と切り合い
SK227	南	5I	2	5	長方・楕円形土坑	中近世		SK228と切り合い
SK228	南	5I	2	5	隅丸方形土坑墓	中世		
SK229	南	6H	2	5	不整形土坑	近世		中層に宝永テフラ混入
SK230	南	5I	2	5	不整形土坑墓	中近世		壁面・底面凸凹あり。近世か
SK231	南	5I	2	5	長方・楕円形土坑	中近世		SK232, SK233と切り合い
SK232	南	5I	2	5	隅丸方形土坑墓	中近世		SK231,233と切り合い
SK233	南	5I	2	5	円形土坑墓	中世		SK231,231,232と切り合い
SK234	南	5I	2	5	円形土坑墓	中近世		
SK235	南	6H	2	5	隅丸方形土坑墓	中世		
SK236	南	6H	2	5	隅丸方形土坑墓	中世		SK237より新
SK237	南	6H	2	5	長方・楕円形土坑	中近世		SK236より古
SK238	南	5H	2	5	不整形土坑	中近世		SK239より古。壁・底やや凹凸あり。近世か
SK239	南	5H	2	5	不整形土坑	中近世		SK238より新。壁・底やや凹凸あり。近世か
SK241	南	5H	2	5	円形土坑	中近世		
SK304	逆回	6M,6N	8	6	長方・楕円形土坑墓	中世	常滑甕4(6b型式)	
SK313	逆回	7I	7	6	円形土坑墓	中近世		SK311の西側。新規番号
SX005 A	北	4I	2	5	隅丸方形土坑墓	中世	カワラケ2、北宋銭3、銅製品1、鉄滓1	
SX005-B	北	4I	2	5	隅丸方形土坑墓	中世	常滑硬質石1	
SX005-C	北	4I	2	5	円形土坑墓	中世		
SX005-D	北	4I	2	5	円形土坑墓	中世		
SX005-E	北	4I	2	5	円形土坑墓	中世		
SX005-H	北	5I	2	5	不整形土坑墓	中世		新規番号
SX008A	北	4K	3	5	不整形土坑	中世	常滑捏鉢1(10型式)、カワラケ1	
SX018	北	4I	2	5	不整形土坑	中近世		土坑の連続で細長い
SX218	南	5I,5J	3	5	長方・楕円形土坑墓	中世	常滑硬質石1	

	東	1S	6	3	グリッド		土師器1
	北	2L	4	5	グリッド		常滑甕1、カワラケ1
	北	2M	4	5	グリッド		瀬戸平椀2
	北	2N	4	5	グリッド		常滑甕1
	東	2O	5	3	グリッド		土師器1、常滑甕1
	東	2Q	6	3	グリッド		弥生2
	東	2R	6	3	グリッド		弥生3
	北	3J	3	5	グリッド		弥生1、瀬戸皿1(古後田)、常滑捏鉢2(雄元)
	北	3K	3	5	グリッド		弥生5、瀬戸皿1、常滑捏鉢3(7型式)・甕1、鉄滓1
	北	3L	3,4	5	グリッド		弥生5、常滑捏鉢2・甕2(10型式)、カワラケ1
	中	3M	4	6	グリッド		弥生2
	東	3R	6	3	グリッド		弥生1

遺構番号	地区	グリッド	1/250 区画	調査年度	種　　類	時　期	出　土　遺　物	特　記　事　項
	北	4F	1	5	グリッド		常滑捏鉢1・甕2・甕砥石1	
	北	4G	1	5	グリッド		常滑捏鉢1(還元)	
	北	4H	2	5	グリッド		弥生2，青磁碗1，常滑捏鉢1(6a型式)・甕1，カワラケ3，北宋銭3	
	北	4I	2	5	グリッド		弥生1，須恵器1，青磁碗1，常滑捏鉢5(5型式)・甕3，カワラケ2，鉄製品1	
	北	4J	3	5	グリッド		弥生1，須恵器1，白磁皿1，褐釉壺2，常滑捏鉢砥石1(還元)・甕砥石1	
	北	4K	3	5	グリッド		縄文4，弥生4，褐釉壺1，瀬戸皿2・大皿1，平碗1，常滑捏鉢4・甕2，カワラケ4，砥石4，明銭1	
	北	4L	3,4	5	グリッド		縄文4，弥生4，須恵器1，青磁碗1，常滑捏鉢6(6a,10型式)・甕6・捏鉢砥石2・甕砥石1，板碑2，硫石1，鉄製金具1，銅製金具1，寛永通宝(銭)1	
	東	4O	5	5	グリッド		土師器1，常滑捏鉢4(還元・9型式)・捏鉢砥石1，カワラケ1	
	南	5F	1	5	グリッド		常滑捏鉢1(還元)	
	南	5G	1	5	グリッド		弥生1	
	南	5H	2	5	グリッド		弥生2，常滑捏鉢2・甕4，カワラケ2	
	南	5I	2	5	グリッド		青磁碗1，瀬戸平碗4(古後II,IV)，常滑捏鉢4(還元・9型式)・甕5・捏鉢砥石1，東海系羽釜2，カワラケ2，砥石1	
	北南	5J	3	5	グリッド		弥生3，褐釉壺1，瀬戸天目1・壺1，常滑捏鉢2・甕2・甕砥石1，東海系羽釜15，板碑1	
	北	5K	3	5	グリッド		縄文1，弥生1，土師器2，須恵器2，褐釉壺1，瀬戸皿1・小鉢1，大皿1，常滑捏鉢8・甕5・甕砥石2，縄美壺1，カワラケ2	
	北	5L	3	5	グリッド		縄文1，弥生3，青磁碗1，瀬戸皿2，常滑捏鉢2(10型式)・甕4・甕砥石1	
	南	6H	2	5	グリッド		弥生1，瀬戸皿2，唐銭1	
	南	6I	2	5	グリッド		常滑甕1	
	迂回	7H	7	6	グリッド		瀬戸大皿1，常滑甕砥石1	
	迂回	7I	7	6	グリッド		瀬戸大皿1，常滑甕1	
	迂回	7K	7	6	グリッド		常滑甕1	
	迂回	7L	8	6	グリッド		瀬戸平碗1(古後II)，常滑甕6	
	迂回	8I	7	6	グリッド		縄文2，土師器1，青磁梅瓶5，志戸呂壺1，常滑捏鉢1・甕6，茶臼1	
遺跡一括							縄文1，弥生14，土師器3，須恵器3，白磁皿1，青磁碗2，瀬戸皿皿1(古後IV新)・大皿3(古後I)・平碗2(古後II)，常滑捏鉢14(還元・9型式)・甕10・捏鉢砥石5・甕砥石3・カワラケ8，板碑1，鉄製品1，中国銭1，寛永通宝2	

基（内土坑墓に推定されるもの115基）である。なお，性格不明のピットは約950基ある。

調査区の東西を走る現道下から検出された道路跡の出土遺物は，中世陶磁器片を主体とするが，旧石器時代石器から近代陶磁器まで至るものである。本遺跡出土遺物の約６割はこの覆土中から出土し，接合・同一個体関係から，周囲から投げ込まれていることが明らかとなった。道は整備されていくものであるので，古い時期の遺物が混入していても清掃や改修によって新しい遺物も入り，新旧入り交じった状況ではあるが，墓域の一部は明らかにこの道によって切られていること，宝永テフラの混入，近代遺物の混入などから遺構の中では最後まで機能したものである。

方形竪穴建物跡については，方形土坑墓と区別が難しく，内部の柱穴の有無や覆土・遺物の状況から判断したものであり，推定である。また，ピットについては，遺跡全体で約2,200基あり，発掘調査段階では，掘立柱建物跡などの遺構として組んでいたものは２棟にすぎないので，それらの解釈のため，集中地点についてはなるべく遺構として組んだものである。道や溝沿いのピット群は並木状の植栽痕列と推測し，中世の掘立柱建物跡や柵列は，正確な方形や間尺にこだわらず，横木の上に柱を組んだものも想定し，また，近現代の耕作による消失や深さが表土中で止まって確認面であるソフトローム面にまで達していないものの存在も考慮した。掘立柱建物跡として確実なものは，中央部に位置する台地整形区画内のものだけであるが，建物域はそれに並び，街道に平行するように推測される。

中・近世遺物については，陶磁器が中心であるが，12世紀後半から16世紀初頭まで確認でき，その後18世紀以降のものが若干混入するが，中心は13世紀後半から14世紀前半と15世紀中葉から後半の２回のピークがある。特に常滑産コネ鉢の量は県内では最も多く，良好な資料である。この常滑焼は，使用痕跡は勿論，甕類も含めて砥石として転用されている例が多く，生活感が強く感じられる。

なお，平成５年度発掘調査担当者は，「鎌倉街道」地名，この道が現在の大字境であること，掘立柱建物跡が組めないことから簡易な小屋程度の建物を想定すること，集落規模に比べて井戸が少ないこと，堂を中心とする墓域の存在などから，集落域は非日常的空間であるとして，中世街道沿いの「市」という性格付けを提示している。[1・2] しかし，次年度で調査された隣接区の調査成果も合わせると，出土遺物からは長期にわたる生活感が確認され，「市」とする積極的な証拠はない。また，堂跡とする調査区中央からやや西側の整形区画内には，他の整形区画同様，垣根に囲まれた東西に長い掘立柱建物跡，縁に半地下式の土坑墓が存在することから，屋敷的なものと推測される。そして，確かに街道に沿った形の建物群に復元できた主に調査区西側のピット群は，南北側に垣根が想定でき，これもまた屋敷群の可能性がある。他の同時期の遺跡に較べた大量の常滑コネ鉢の意味や堂跡か屋敷跡かの解釈の違いによって，街道沿いの農村(街村)と墓域か，墓域を伴う街道沿いの市かとその性格は変わる。本報告では，無理な解釈はなるべく避け，多くの可能性のために，なるべく詳細なデータを提供しようしたものである。

第２節　遺跡の位置と環境

１　地理的環境（第１・２・７図）

山谷遺跡は，北西が東京湾に，東側が養老川に，南側が小櫃川沖積地に挟まれた標高30m～50m（東高西低）の台地（袖ケ浦台地）の中央南縁に位置し，小櫃川沖積地に開析する小支谷が入り込んだ標高40m～52mの台地上に位置する。当遺跡の北側に入り込む小支谷は，西方に伸びて遺跡から西南西2.5km地点で

第7図：明治時代前半の遺跡周辺地形図（1/20,000）

小櫃川沖積地に開放されるものである。

遺跡の立地する台地上は，畑地を中心に随所に山林が見られ，農家は散村的に存在する景観であるが，南側では住宅団地も造成されている。しかし，袖ケ浦台地は，江戸時代は鷹捉飼場で原野が続き，明治初期から開墾が始められたが，大正8年(1919)に開墾助成法制定により政府の助成が行われはじめ，根形村野田台山地区は昭和初年頃までは，ほとんど山林と草地によって占められていた。[31] 本遺跡を東西に貫通していた道を境に北側が大字「野田」，南側が大字「大曽根」であり，野田の集落は本遺跡の西側（中心間400m）に，大曽根の集落は南側（中心間600m）に，いずれも台地下の道沿いに集村し街村的様相を示す。

2　歴史的環境（第7～9図，第2表）

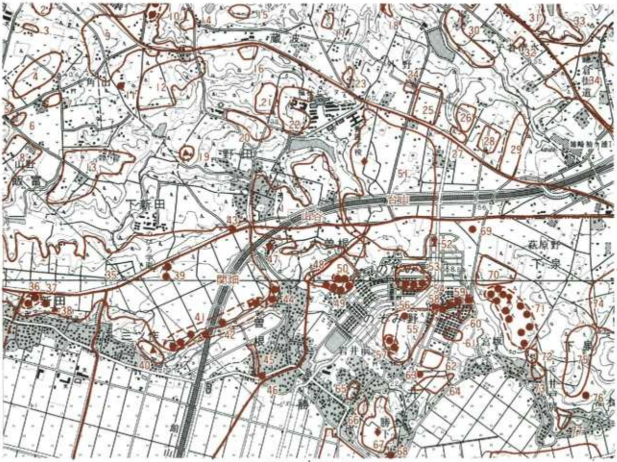
山谷遺跡周辺の遺跡については，本遺跡の西側の根形台遺跡群(35)[4～7]，東側の台山遺跡(51)[8]，南東側の山王辺田遺跡群(48～50，52～62)が[9]発掘調査されているので，主にこれらの遺跡の調査成果を中心に述べていきたい。根形台遺跡群は，東関東自動車道（千葉・富津線）建設に伴う当センターで調査した関畑遺跡[10・11]のほかは，(財)君津郡市文化財センターにより小規模な調査が各地区で実施されており，おおよその遺構分布傾向は捉えられる。台山遺跡は，関畑遺跡同様，東関東自動車道建設に伴う調査である。また，山王辺田遺跡群は，昭和50年から52年にかけての「のぞみ野」の団地造成に伴う調査であり，面積的にも限定された調査である。

旧石器時代の遺跡は，伊丹山遺跡(5)[12]，中六遺跡[13～15](9)，関畑遺跡，台山遺跡等で調査されている。特に当遺跡の小谷津を挟んで西側の関畑遺跡では26か所，東側の台山遺跡は17か所から石器が出土しているが，現在整理途中であり，これらの報告書刊行によって，当地域の旧石器時代の状況が更に明らかになるものと考えられる。

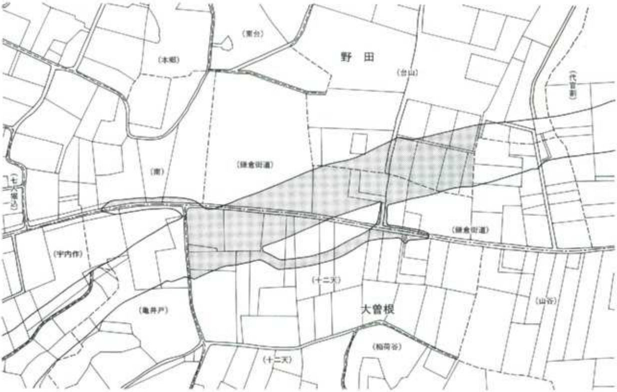
縄文時代の遺跡は，周辺に数多く分布するが，特に当遺跡の北側の小支谷を挟んだ台地上に多く分布する。発掘調査が行われた遺跡は，伊丹山遺跡(中後期)，角山遺跡(早・後期)(6)[16]，中六遺跡(早・前・中期)，蔵波六山遺跡(早期)(18)[17・18]，正源戸B遺跡(早期)(26)[19]，関畑遺跡(早・前・中・後・晩期)，三ツ作貝塚(早期)(40)[21・22]，墓山遺跡(早期)(48)，台山遺跡(中・晩期)，山王辺田遺跡(早期)(53)等[23]である。根形台遺跡群では東部で早期土坑群が検出されているが，西部ではやや少ない傾向である。なお，関畑遺跡では早期陥穴27基・土坑18基が，台山遺跡では陥穴1基が検出されている。

弥生時代の遺跡は，縄文時代の遺跡分布と重なるが，更に当遺跡の南東台地上に多く見られる傾向となる。根形台遺跡群(35)の東部では，方形周溝墓，西部では環濠集落とみられる後期集落と方形周溝墓が主で，西端部の西ノ窪遺跡[24・25]・境遺跡[26～29]と共に集落が検出されている。東部では集落は少ない傾向であるが，関畑遺跡では，後期竪穴住居跡31軒・中期方形周溝墓7基が検出されている。山王辺田遺跡(53)では，弥生後期の集落や方形周溝墓が多く検出されている。

古墳時代の集落は，根形台遺跡群では前期がやや見られるが，大きな集落は検出されていない。一方，正源戸遺跡(26～28)等，特に当遺跡から北東方向に多く検出され，台山遺跡では前期竪穴住居跡112軒・方形周溝墓6基が検出されている。また，山王辺田遺跡群からその南の念仏塚遺跡(64)[30]では前期から後期の集落が検出されている。古墳は，根形台遺跡群では，主に東部で多く検出されるほか，台地の南側縁辺部に宮ノ後古墳群(41)が存在する。また，本遺跡の立地する台地南側縁辺部には，境古墳群(36)，墓山古墳群(48)[31]，山王辺田古墳群(54)[32]，勘佐古墳群(59)，大塚古墳群(71)[33]などが存在する。これらの多くは円墳で



第8図　周辺の遺跡（1/25,000）　（太線は鎌倉街道）



第9図　周辺地籍図（1/4,000）　（袖ケ浦市地番図よりトレース）

第２表　周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中近世	備考
1	山谷	○	早・中・後・晩期	後期	前・中・後期	○	○	
2	木瓜代				○			
3	大明神墳		○					
4	伊丹山A		中・後期	後期				
5	伊丹山	○	中・後期	後期				発掘調査
6	角山		早・後期					発掘調査
7	直ノ台A		○	後期	○			
8	直ノ台B		中・晩期					
9	中六	○	早・前・中期					発掘調査
10	大谷古墳群				○			円墳６基
11	角山古墳				○			方墳。塚の可能性。
12	赤池		早・後期	後期		平安		
13	下野田			後期		○		
14	逃田		○	後期		平安		
15	細山			○				消滅
16	二ノ堀			○		○		
17	外野A				○			
18	蔵波六山		早期		○			発掘調査
19	下野田貝塚		○					
20	秋葉台		後期			平安		
21	弐反割		後期					
22	鎌倉街道A	○	早期	後期		平安		
23	外野B		後期		前			
24	神代山			○				
25	新堀山			○	○			
26	正源戸B		早期		○	平安		発掘調査
27	正源戸C				○			
28	正源戸A				○			
29	鎌倉街道E				○			
30	子者清水		○	後期	○			
31	二ノ山		○		○			
32	鎌倉街道D				○			
33	兎谷台遺跡		早期		○			
34	鎌倉街道C		前期	後期	○			
35	根形台遺跡群	○	早・前・中・後・晩期	中・後期	前・中・後期	○		境・関畑遺跡を含む。発掘調査
36	境古墳群				○			円墳２基
37	白幡塚						○	円形塚
38	大宮台貝塚		○					
39	仏塚群						○	円形塚２基
40	三ツ作貝塚		早期					発掘調査
41	宮ノ後古墳群				○			円墳10基・前方後円墳２基。測量調査
42	坂ノ上塚						○	円形塚
43	野田八幡塚						○	発掘調査
44	蓮華寺塚群						○	円形塚２基
45	大曽根台畑				前期			発掘調査。
46	表塚						○近	円形出羽三山塚
47	亀井戸古墳				○			発掘調査
48	墓山		早期	後期	○			草山遺跡改称。
49	墓山塚群						○	円形塚４基。測量調査
50	墓山古墳群				○			測量調査
51	台山遺跡	○	中・晩期	後期	前期	平安		発掘調査

番号	遺　跡　名	旧石器	縄　　文	弥　生	古　墳	奈良・平安	中近世	備　　考
52	山谷古墳				○			前方後円墳。発掘調査
53	山王辺田		早期	後期	前期			発掘調査。
54	山王辺田古墳群			後期	前・後期			前方後方墳２・方墳12・円墳14・方形周溝墓３基
55	大塚台			後期	前期	平安		発掘調査
56	熊切山塚						○	円形塚。消滅
57	雲塚台古墳群				○			円墳２基。発掘調査
58	関戸古墳				○			円墳
59	勘佐古墳群				○			円墳４基。発掘調査
60	勘佐			○	○			
61	水戸口				○	○		
62	和泉台			○	○			
63	念仏塚古墳				前・中期			円墳
64	念仏塚		○	後期	○	平安		発掘調査
65	岩井前				○			
66	高台				○			
67	宮ノ台				○			玉作跡。発掘調査
68	国勝神社内塚						○	円形塚
69	東台古墳				○			円墳
70	下泉			○	○			
71	大塚古墳群				○			前方後円墳１基・円墳12基
72	堀ノ内		○		○			
73	八幡神社				○			
74	神野台		○		前・中期			
75	雨久保			後期	前・中期			
76	椎木塚						○	円形墳。雑木塚を改称
77	井戸尻			○		○		
78	鎌倉街道						○	道路跡

あるが，当遺跡当方800mに位置する山谷古墳(52)や宮ノ後古墳群では前方後円墳が，山王辺田古墳群では前方後方墳が確認されている。

奈良・平安時代の遺跡は，当遺跡周辺に散在的に見られる。根形台遺跡群では，西端部の西ノ窪遺跡・境遺跡では集落が検出され，東部の関畑遺跡では平安時代竪穴住居跡4軒・奈良・平安時代方形周溝遺構5基が検出される等，中央部には少ない。南側では，山王辺田遺跡のさらに南側の念仏塚遺跡で平安時代集落が若干検出されている。なお，平安時代中期の小櫃川流域は，中～下流域が上総国望陀郡，中～上流域が同国畔蒜郡と呼ばれていた（『和名類従抄』）。また，西方3kmにある飽富神社（飯富神社・飫富神社）は上総国延喜式内社五社の一つといわれる。

鎌倉期には，望陀郡内には近衛家領菅生庄（中流域左岸），得宗領飫富庄（中流域右岸），国衙領金田保（下流域）が，畔蒜郡はほぼ全域が熊野山領畔蒜庄として成立していた（『吾妻鏡』他）。山谷遺跡の位置は，飽富神社を中心とする飯富庄の東南域，加津庄の北西域に当たると見られる。[34]

本遺跡が所在する野田及び大曽根地区に直接関連する中世文献史料は確認されていない。よって，以下比較的史料の多い畔蒜荘を中心にその歴史を概観してみたい。畔蒜荘南庄亀山郷は，弘安6年(1283)に北条時宗により将軍家祈禱所として円覚寺に寄進される（『円覚寺文書』）。永仁3年(1295)には，畔蒜庄の年貢が紀伊国まで運ばれており，東京湾から太平洋航路を経由して年貢が熊野社まで輸送されていた（『紀伊続風土記付録十四　本宮社家二階堂氏所蔵文書』）。

南北朝～室町期には，畦蒜庄は，建武2年(1335)足利尊氏から佐々木導誉に勲功の賞として上総国守護職と共に与えられる（『佐々木文書』）。その後，いったん没収されるが，応永元年(1394)，足利義満は佐々木高詮に畦蒜庄を返し，年貢の一部を禁裏御服料として進納することを命じている。佐々木氏は，南北朝期を通じて畦蒜庄の地頭職を得ていたと推測されている。なお，畦蒜庄内の南庄（上流域）の亀山郷に関しては，応永8年(1375)，円覚寺は同郷から造営料として用木を徴用しており，小櫃川を利用して東京湾に出て鎌倉方面へ運搬されたと考えられる。同庄は，応永26年(1419)足利持氏によって安堵されるまで，円覚寺領として史料上確認できる。一方，金田保では，保内の大崎村が応永3年(1396)以降幕府政所頭人伊勢貞信から鎌倉円覚寺領に，高柳郷が同じ頃金沢称名寺へと変わっている。[35] つまり，本遺跡の南側に広がる小櫃川沖積地は，地理的にも鎌倉・三浦半島と近く，中世前期には鎌倉幕府や鎌倉府権力と密接な結びつきをもつ領有関係にあったといえる。

戦国期，応永23年(1416)の上杉禅秀の乱，永享10年(1438)の永享の乱等を通じ，鎌倉の求心性がなくなるとともに，当地域は政治的に空白状況となる。その間隙を突く形で公方権力として武田氏が入部し，小櫃川中流域に位置する真里谷城を本拠に短期間の内に西上総地方を領有した。この段階で，鎌倉と上総・安房で二百数十年もの長い間続いた政治・経済・文化など様々な面での緊密な関係は薄れていったと考えられる。なお，真里谷武田氏は，16世紀前葉には一族間の内乱や天文7年(1538)の第一次国府台合戦以降，衰亡したため，当地域は南から里見氏，北から後北条氏の勢力が進出し，両勢力の境界に位置することとなった。

中・近世の遺跡は，当遺跡近辺では，以南の台地上から小櫃川沖積地に降りる微高地に集中し，先の古墳群の分布と重なる傾向が見える。なお，中・近世の街道跡としての「鎌倉街道」が，本遺跡を東西に結ぶルートに推定されている。[36・37] この道は，本遺跡の西側3km地点で南からの小櫃川沖積地からの道が合流し，本遺跡から東2km地点で北東に伸びて上総国府へ向かう道が推定されており，古代東海道にも比定されて

いる。[36]道沿いには道標が点在しており，本遺跡の東方400mの位置にも２基が建つ。北側（大字野田）は，仏像の下に戒名が３行刻まれる供養塔で，南側（大字大曽根）は，浮き彫りの地蔵座像下に「南無阿弥陀仏」が刻まれ，両塔方共に「北ちばみち」・「南たかくら道」と刻まれる（第２図，図版15）。両塔共時代不詳であるが，「たかくら」は現木更津市高蔵寺（高蔵観音）であり，この「鎌倉街道」と交差する道は近世の巡礼街道として機能したものと推測される。

周辺の中世遺跡は，近年多くの調査が行われ，その成果から既に本遺跡調査前の1993年に笹生衛・柴田龍司氏によって，小櫃川流域の中世史が語られている。[39]菅生遺跡[40]（沖積地）は12世紀～15世紀の在地領主の居館跡や上級名主層の屋敷地に，文脇遺跡[41]（台地上）は13世紀～14世紀前半の中・小名主の屋敷地に，芝野遺跡[42]（沖積地）は12世紀～15世紀前半の小百姓・作人層の在家に，荒久遺跡[43・44]（台地上）は14世紀後半～15世紀前半の延命寺門前の宿に推定されている。また，笹子城跡[45]は15世紀末から16世紀前葉の生活観のある遺構・遺物が検出された。その歴史的背景としては，12世紀代には低地における耕地の再開発によって荘園が成立し（菅生・文脇・芝野遺跡の成立），14世紀後半～15世紀前半には交通・流通路の整備・発展とそれに伴う村落構造の変化が起こり宿も成立し（文脇遺跡の消滅・荒久遺跡の成立・発展），15世紀後半には真里谷武田氏の領国支配によって交通・流通の移転や再編成が行われた（菅生・芝野・荒久遺跡の消滅，笹子城跡の成立）とする。また，城は16世紀中葉を境に日常性の強さから軍事性を重視した施設へ変化するとする。

その後も当地域では注目される調査が相次ぎ，古墳の裾部に14世紀から16世紀の中世墓域が検出された神田遺跡[46]，中・近世の道跡としては，当遺跡の西側に隣接する地区の「鎌倉街道」沿いで（財）君津郡市文化財センターが調査した山谷遺跡[47・48]・七人堀込遺跡[49]・境遺跡[50]，「鎌倉街道」の東方約2km地点で（財）市原市文化財センターによって調査された市原市天羽田稲荷山遺跡[51]などがある。なお，境遺跡では，狭小な調査範囲ながら，溝で区画された屋敷地や土坑墓等も13世紀から15世紀の遺物を伴って検出されており，本遺跡の景観と類似することが窺われ，注目できる。なお，周辺遺跡と本遺跡の比較・検討については，遺物群の様相も含めて改めて最終章にまわすこととする。

注１　柴田龍司　1994「鎌倉街道と市－袖ケ浦市山谷遺跡の成果から－」『研究連絡誌』第41号　財団法人千葉県文化財センター

２　柴田龍司　1999「西上総の中世道路跡－袖ケ浦市山谷遺跡の事例を中心に－」『中世のみちと物流』山川出版社

３　谷萩藤嗣　1990「第五編　近現代，第五章　産業・経済」『袖ヶ浦町史　通史編　下巻』袖ヶ浦町

４　財団法人君津郡市文化財センター　1984『君津郡市文化財センター年報』№２

５　財団法人君津郡市文化財センター　1995『君津郡市文化財センター年報』№13

６　財団法人君津郡市文化財センター　1998『君津郡市文化財センター年報』№15

７　財団法人君津郡市文化財センター　1999『君津郡市文化財センター年報』№16

８　財団法人千葉県文化財センター　1993『千葉県文化財センター年報』№18

９　袖ケ浦市史編さん委員会　1999『袖ケ浦市史　資料編１　原始・古代・中世』袖ケ浦市

10　財団法人千葉県文化財センター　1992『千葉県文化財センター年報』№17

11　注９に同じ

12　三森俊彦　1979『袖ヶ浦町伊丹山遺跡』伊丹山遺跡発掘調査団

13　井口　崇　1987『中六遺跡』財団法人君津郡市文化財センター

14　桐村修司　1993『中六遺跡II』財団法人君津郡市文化財センター
15　小林清隆　1999『袖ケ浦市中六遺跡』財団法人千葉県文化財センター
16　石田広美　1980『君津広域水道用水供給事業に伴う埋蔵文化財調査報告書』君津広域水道企業団
17　袖ケ浦市教育委員会　1997『袖ケ浦市内遺跡発掘調査報告書－平成８年度－』
18　注５に同じ
19　注６に同じ
20　財団法人君津郡市文化財センター　1997『君津郡市文化財センター年報』№14
21　西村正衛　1953「千葉県君津郡三ツ作貝塚発見の早期縄文土器」『古代』12号　早稲田大学
22　石井重雄　1993「三ツ作貝塚」『袖ケ浦市史研究』創刊号　袖ケ浦市史編さん準備委員会
23　注９に同じ
24　井口崇・賀島正弘他　1982『西ノ窪遺跡　－発掘調査概報－』袖ヶ浦町教育委員会
25　井口　崇　1985『西ノ窪遺跡　－袖ヶ浦町郷土博物館建設に伴う発掘調査』袖ヶ浦町教育委員会
26　小澤　洋　1985『境遺跡』財団法人君津郡市文化財センター
27　牛房茂行　1985『境№２遺跡』財団法人君津郡市文化財センター
28　能城秀樹　1989『境遺跡－第２次調査－』財団法人君津郡市文化財センター
29　鈴木久美子　1995『境遺跡－第３次調査－』財団法人君津郡市文化財センター
30　光江　章　1987『念仏塚遺跡』財団法人君津郡市文化財センター
31　柴本一郎他　1977「墓山古墳群測量調査」『東洋大学考古学研究会会報』№８
32　注９に同じ
33　吉野俊忠　1977「研修会におけるフィールド調査結果報告」『東洋大学考古学研究会会報』№８
34　嘉齋直美・牛房茂行　1985「第三編　中世」『袖ヶ浦町史　通史編　上巻』袖ヶ浦町
35　笹生衛・柴田龍司・鈴木哲雄・湯浅治久　1995「上総国畦蒜荘横田郷の荘園調査報告」『千葉県史研究』３号　千葉県
36　小熊吉蔵　1933「鎌倉街道」『史蹟名勝天然記念物調査』第十輯　千葉県
37　大谷弘幸　1994「西上総地域の古道跡－いわゆる鎌倉街道を中心として－」『研究連絡誌』第41号　財団法人千葉県文化財センター
38　須田　勉　1978　「川原井廃寺と古代東海道」『南総郷土文化研究会誌』第11号　南総郷土文化研究会
39　笹生衛・柴田龍司　1993「小櫃川流域における中世遺跡の変遷」『研究連絡誌』第37号　財団法人千葉県文化財センター
40　大場厳雄・乙益重隆　1979『上総菅生遺跡』木更津市菅生遺跡調査団
41　山本哲也　1991『文脇遺跡』財団法人君津郡市文化財センター
42　笹生衛・神野信　1993「芝野遺跡の概要」『研究連絡誌』第37号　財団法人千葉県文化財センター
43　加藤正信・笹生衛　1993「荒久遺跡の概要」『研究連絡誌』第37号　財団法人千葉県文化財センター
44　小林清隆　1998『袖ケ浦市荒久（２）遺跡』財団法人千葉県文化財センター
45　柴田龍司　1993「笹子城跡の概要」『研究連絡誌』第37号　財団法人千葉県文化財センター
46　富貴紀子　1995『神田遺跡・神田古墳群』財団法人君津郡市文化財センター
47　今坂公一　1998『山谷遺跡（２）』財団法人君津郡市文化財センター
48　安藤道由　1999『山谷遺跡』財団法人君津郡市文化財センター
49　請墨智義　1992『七人堀込遺跡』財団法人君津郡市文化財センター
50　注27～30に同じ
51　桜井敦史　1998「天羽田稲荷山遺跡」『市原市文化財センター年報　平成７年度』　財団法人市原市文化財センター

なお，『袖ケ浦市史　資料編１　原始・古代・中世』（1999年）には，本稿で取り上げた三ツ作貝塚・西ノ窪遺跡・境遺跡・境№２遺跡・台山遺跡・山谷古墳・山王辺田２号墳・西ノ窪遺跡・念仏塚遺跡・山王辺田遺跡群・山谷遺跡・神田遺跡・境遺跡・荒久遺跡・文脇遺跡等が，『千葉県の歴史　資料編　中世１（考古資料）』千葉県（1998年）には，「神田遺跡・神田古墳群」・「荒久遺跡」・「文脇遺跡」・「山谷遺跡」・「笹子城跡」・「菅生遺跡」の調査成果が掲載されており，参考とした。両書の中世遺跡の執筆者は，神田遺跡・境遺跡・荒久遺跡・文脇遺跡が笹生衛，山谷遺跡・笹子城跡が柴田龍司，菅生遺跡が高梨俊夫である。また，遺跡位置・名称等については『千葉県埋蔵文化財分布地図（４）－君津・夷隅・安房地区（改訂版）－』千葉県教育委員会（2000年）に依る。

第２章　旧石器時代

第１節　概要（第10図）

本遺跡における旧石器時代の遺物は，東西に長い調査対象区内の東端から北側境界付近，そして西端にわたって11か所において確認され，そのうち，石器集中地点（ブロック）は，計６か所検出され，中央部には空白がある。中央部は上層遺構（主に中世）が密集し，立川ローム層上部が攪乱されたこともあるが，あたかも直径230mの環状ブロックの様な分布状況である。しかし，出土層位(Ⅳ層～Ⅹ層)はそれぞれで，有機的関係はないと見られる。ソフトローム（Ⅲ層）出土のものはない。また，確認グリッドで単独出土のものや上層遺構の覆土中から出土したものも多い。

第２節　石器集中地点

１　３I-67ブロック（第11～14図，第３表，図版４・20）

調査区北東において確認された石器集中区であり，地形的には，台地平坦面の縁辺であり，北に向かって開く谷の最奥部にあたる。石器点数は敲石１点，石核１点，剥片・砕片16点の18点で，東西約３m，南北約３mの範囲に集中して分布している。層位的には，Ⅶ層からⅨb層の間で，標高は，49.23m～49.85mの約0.63mの間であり，Ⅸa層上面にまとまる傾向が認められる。石器の石材はメノウ１点，頁岩17点で，圧倒的に頁岩が多い。

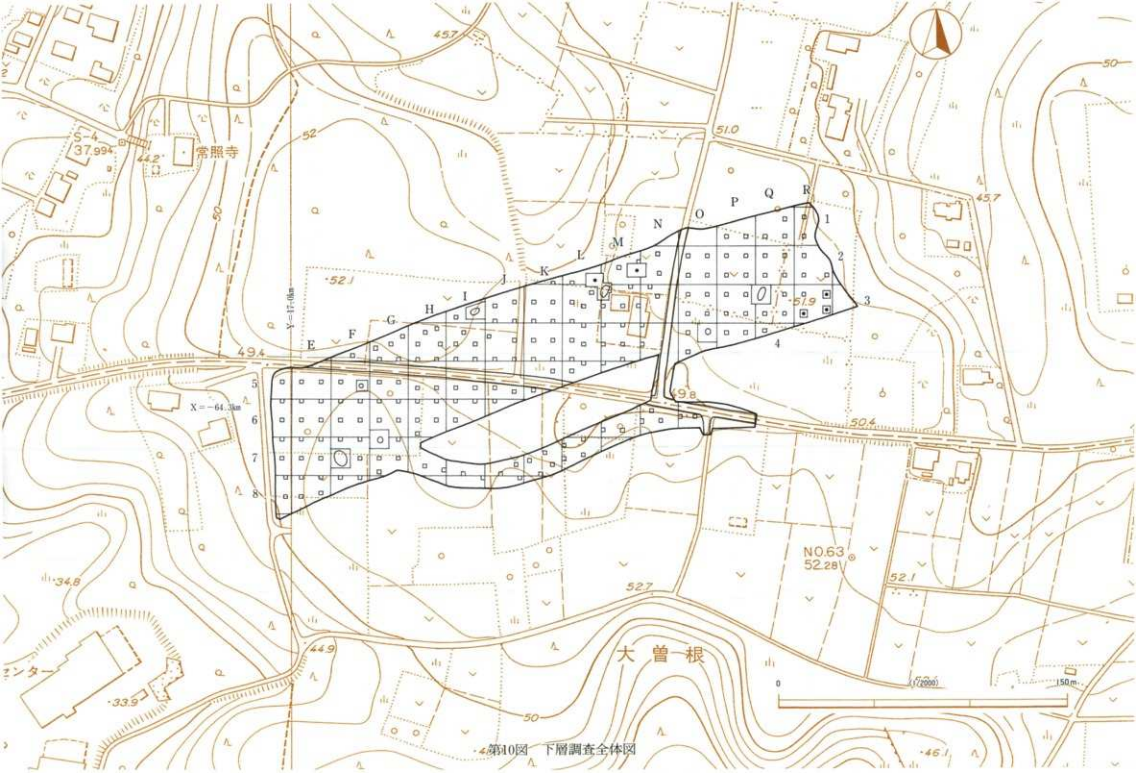
１は，長軸端部に敲打による細かい剥離痕が多く認められる敲石である。２は一部に自然面を残す石核である。３・４は縦長の剥片で背面の一部に自然面が残る。５～12は打面や背面，側面の一部に自然面を残す調整剥片である。

接合関係については，次のとおりである。接合１は，１の敲石と５・７・９・10・12の調整剥片が接合したものであり，本例から見て，細長い自然礫の一端を使用面とした敲石に石割が行われた様子が見て取れる。

接合２は，４の縦長剥片と，６・８の調整剥片が接合したものであり，同一方向からの連続した剥片剥離が行われていた様子が見て取れる。

２　３M-00ブロック（第15～17図，第３表，図版20）

調査区中程のやや北よりにおいて確認された石器集中区であり，地形的には平坦面の縁辺で，北に向かって開く谷の最奥部にあたり，３I-67ブロックと谷を挟んで対峙する位置にあたる。石器点数は，敲石１点，石刃１点，剥片・砕片38点の40点で，東西約４m，南北約３mの範囲に集中して分布している。層位的には，Ⅴ層からⅦ層の間で，標高は，49.042m～49.805mの約0.763mの間であり，Ⅶ層上面にまとまる傾向が認められる。石器の石材は安山岩31点，黒曜石５点，流紋岩１点，頁岩２点，砂岩１点で，圧倒的に安山岩が多い傾向にある。



第10図　下層調査全体図

1は，長軸端部に敲打痕が認められる敲石である。2は打面調整が行われた石核から剝離された石刃である。3・4は，黒曜石の縦長剝片である。5～10は，打面が除去された調整剝片であり，11は自然面を打面とした調整剝片である。

3　3Q-10ブロック（第18・19図，第3表，図版4・21）

調査区東よりにおいて確認された石器集中区であり，地形的には平坦面の中程にあたる。石器点数は，ナイフ形石器1点，加工痕を有する剝片1点，剝片・砕片10点，礫1点の13点で，東西約3m，南北約6mの範囲に散漫と分布している。層位的には，Ⅴ層からⅥ層の間で，標高は，50.01m～50.33mの約0.31mの間であり，Ⅴ層下部にまとまる傾向が認められる。石器の石材は，黒曜石6点，頁岩5点，安山岩2点で，黒曜石が多い傾向にある。

1はナイフ形石器であり，縦長剝片の両側縁にプランティングを施している。2は加工痕を有する剝片であり，打面側の両面に調整が施されている。3は，縦長剝片であり，4は横長剝片である。

4　4O-17ブロック（第20・21図，第3表，図版4・21）

調査区南寄りにおいて確認された石器集中区であり，地形的には平坦面のやや谷よりにあたる。石器点数は剝片3点で，南北約3m，東西約1mの範囲に集中して分布している。層位的には，Ⅳ層からⅤ層の間で，標高は，50.107m～50.245mの約0.137mの間であり，Ⅳ層下部にまとまる傾向が認められる。石器の石材は，全て頁岩である。

1は縦長剝片であり，2・3は調整剝片である。

5　5F-67ブロック（第22・23図，第3表，図版21）

調査区の西よりにおいて確認された石器集中区であり，地形的には平坦面の中程にあたる。石器点数は剝片2点で，東西約1m，南北約0.5mの範囲に集中して分布している。層位的には，Ⅶ層中にまとまる傾向が認められる。石器の石材は，全て頁岩である。

1は縦長剝片であり，2は調整剝片である。両者には接合関係が認められた。

6　7F-31ブロック（第24図，第3表，図版21）

調査区の南西寄りで確認された石器集中区であり，地形的には平坦面の中程にあたる。石器点数は，ナイフ形石器2点，加工痕を有する剝片1点，剝片・砕片28点の31点で，東西約5m，南北約6mの範囲内において，北側にややまとまって分布している。層位的には，Ⅵ層からⅨa層の間で，標高は49.855m～50.158mの約0.138mの間であり，Ⅶ層上面にまとまる傾向が認められる。なお，本地区はローム層上部が削平されている。石器の石材は，黒曜石30点，頁岩1点で，黒曜石が圧倒的である。

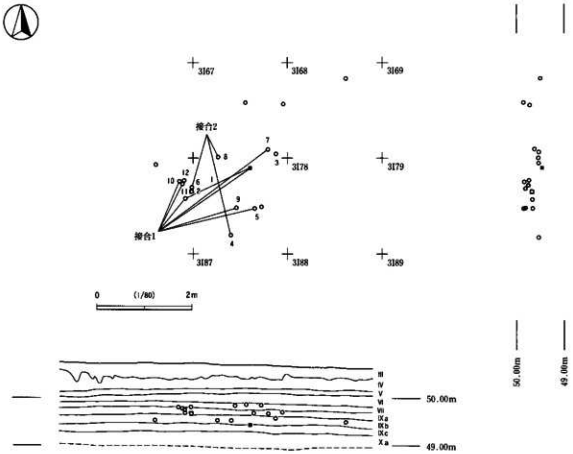
1・2はナイフ形石器であり，1は，両側縁に，2は先端部の片側にプランティングを施している。3～9は縦長剝片であり，このうち8・9の2点は主要剝離が，背面側に迄及んでいる。

第３節　ブロック外資料（第25～27図，第３表，図版21）

確認グリッド単独出土のものと上層遺構覆土中から出土した旧石器時代の石器である。本遺跡各地区から出土している。加工痕を有する剝片１点（黒曜石），楔形石器２点（黒曜石），剝片16点（黒曜石９点，安山岩３点，頁岩３点，ホルンフェルス１点），石刃２点（黒曜石１点，安山岩１点），礫１点（頁岩）である。

このうち，上層遺構による攪乱等で移動していないものは，２L，２R，３Rグリッドで確認されたものである。2L-88グリッドは調査区中央寄りの北部で，Ⅶ層から出土した黒曜石製石刃である。2R-69グリッドは調査区東端部で頁岩製剝片が出土した。3R-27グリッドのⅢ層～Ⅳ層出土のものは安山岩製剝片，3R-67グリッドのⅥ層出土のものは頁岩製剝片，3R-72グリッドのⅣ層～Ⅵ層出土のものも頁岩製剝片である。

１・２は，楔形石器であり，３～９は縦長剝片，10～12は調整剝片である。13～18は剝片である。このうち，15～17は両極剝離によるものである。

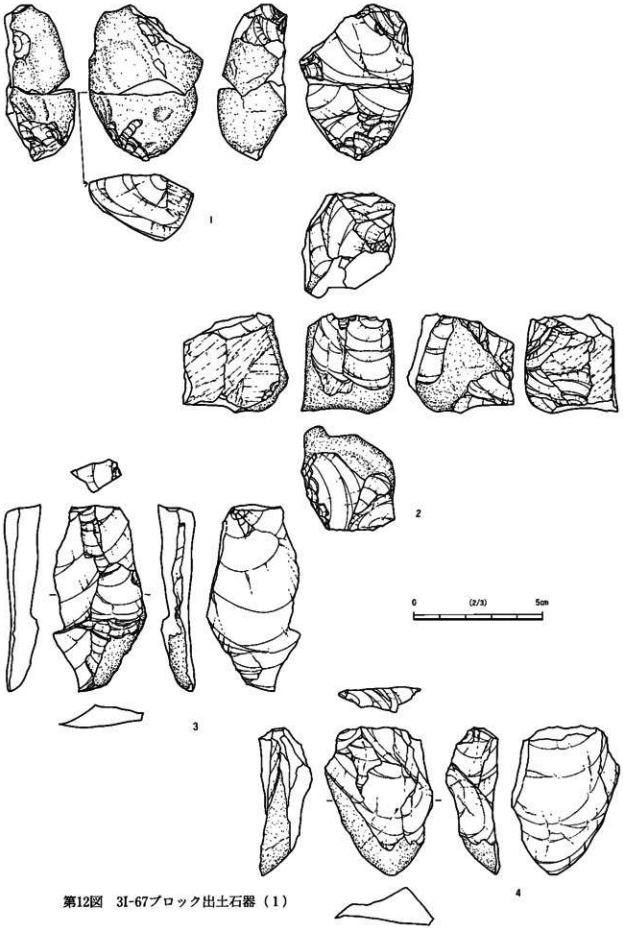


（山谷遺跡　立川ローム層基本層序）
III層　黄褐色。ソフトローム層。
IV層　明褐色。硬質。赤色スコリア粒含む。
V層　褐色から黄褐色。硬質。（第１黒色帯相当）
VI層　明黄褐色。硬質。ガラス質粒（AT）多く含み、乾燥後白みが顕著。
VII層　褐色。赤色・黒色スコリア粒やや多く含む。ATを含み、VI層同様、乾燥後白みが顕著。（第２黒色帯上部相当）
IXａ層　暗褐色。赤色・黒色・緑色スコリア粒含む。（第２黒色帯下部上半相当）
IXｂ層　褐色。やや軟質。（第２黒色帯下部間層相当）
IXｃ層　暗褐色。暗緑色スコリア粒顕著でIXa層より暗い。（第２黒色帯下部下半相当）
Ｘａ層　茶褐色。赤色・黒色スコリア粒含む。前後層よりやや明色。
Ｘｂ層　暗茶褐色。Ｘａ・Ｘｃ層より暗色。スコリア粒少量。
Ｘｃ層　茶褐色。スコリア粒を殆ど含まない。（立川ローム層最下層）

旧石器時代石器種別凡例

- ▲ ナイフ形石器
- ■ 敲石
- ● ＵＦ（使用痕を有する剥片）
- □ 石核
- ★ 石刃
- ○ 剥片
- ● 礫

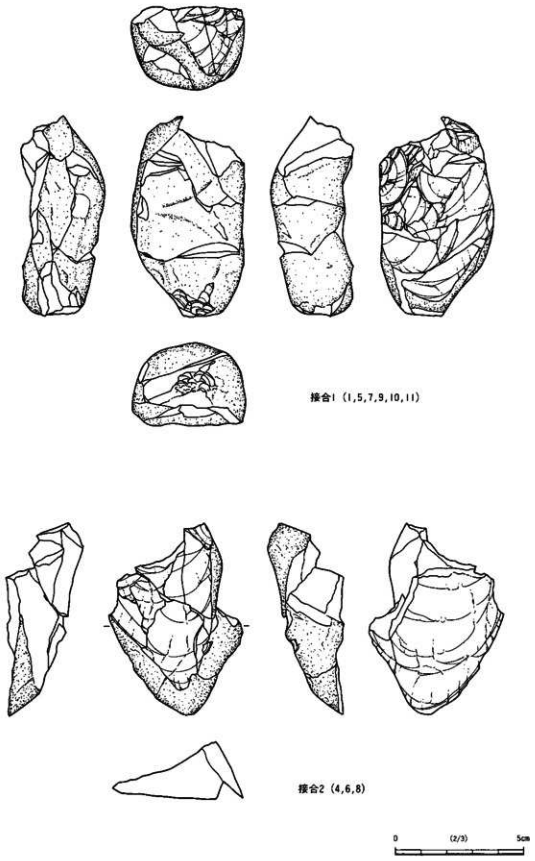
第11図　3I-67ブロック石器分布



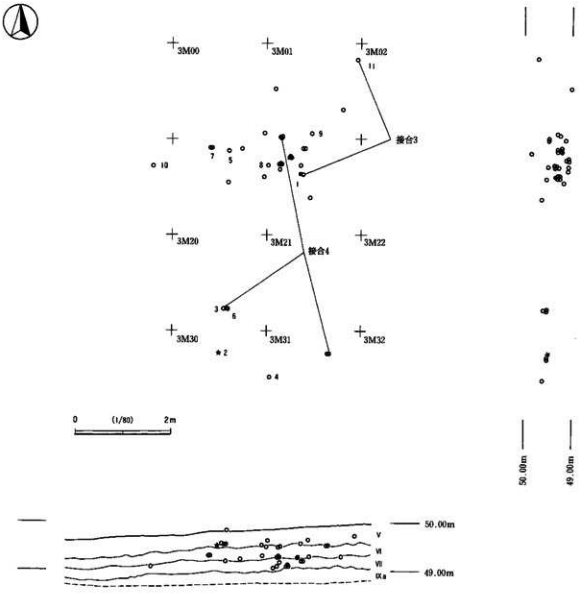
第12図　3I-67ブロック出土石器（1）

第13図　3I-67ブロック出土石器（2）

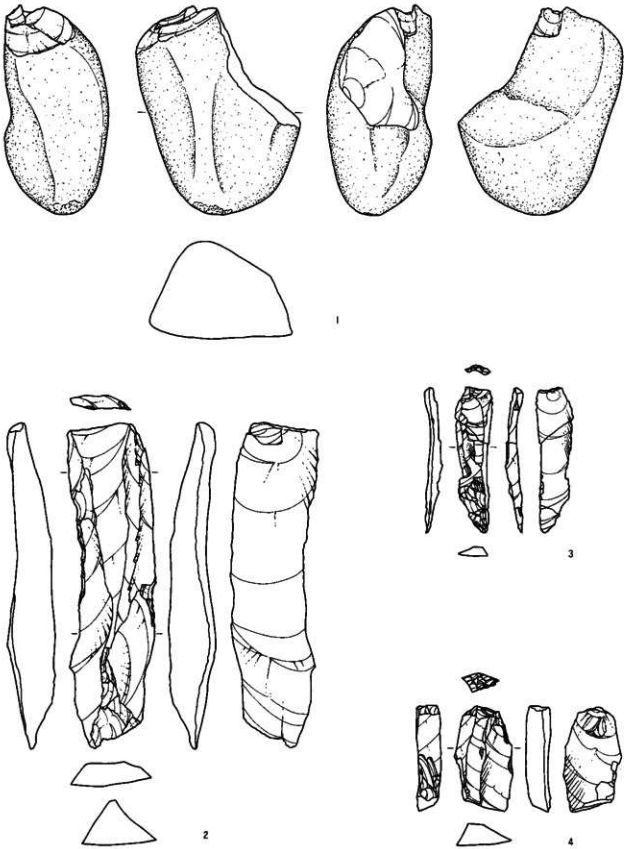
0　(2/3)　5cm



第14図　3I-67ブロック出土石器接合関係

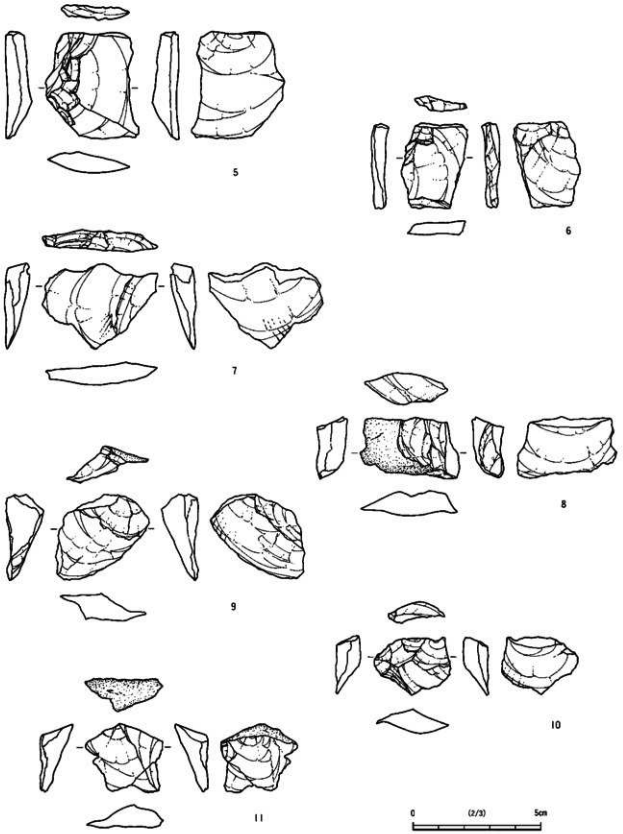


第15図　3M-00ブロック石器分布

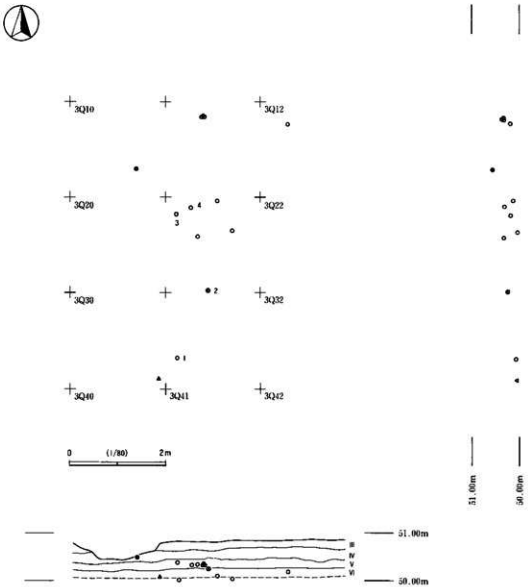


第16図　3M-00ブロック出土石器（1）

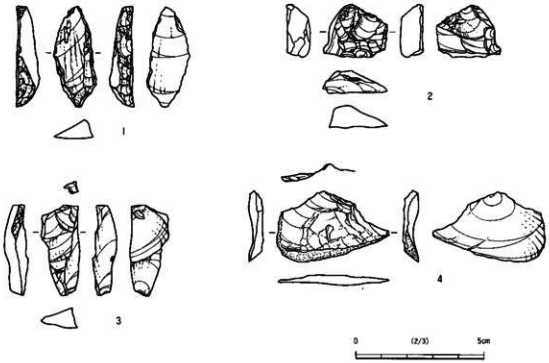
0　(2/3)　5cm



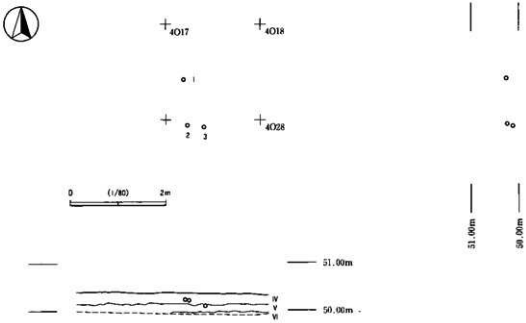
第17図　3M-00ブロック出土石器（2）



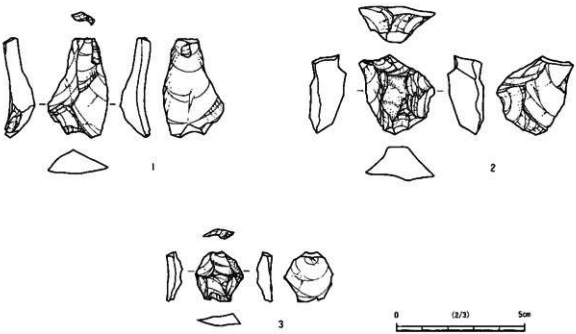
第18図　3Q-10ブロック石器分布



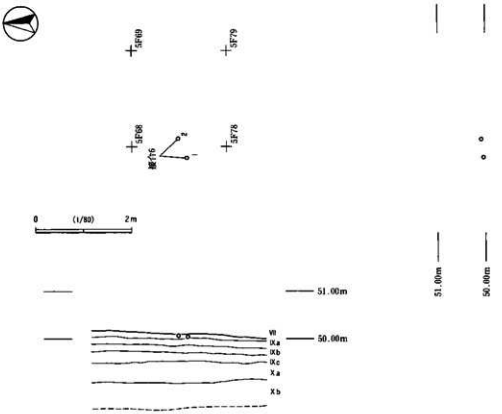
第19図　3Q-10ブロック出土石器



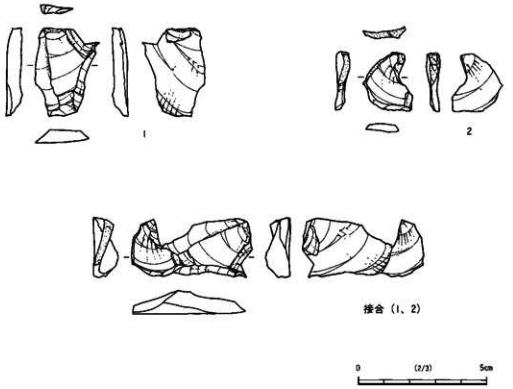
第20図　4O-17ブロック石器分布



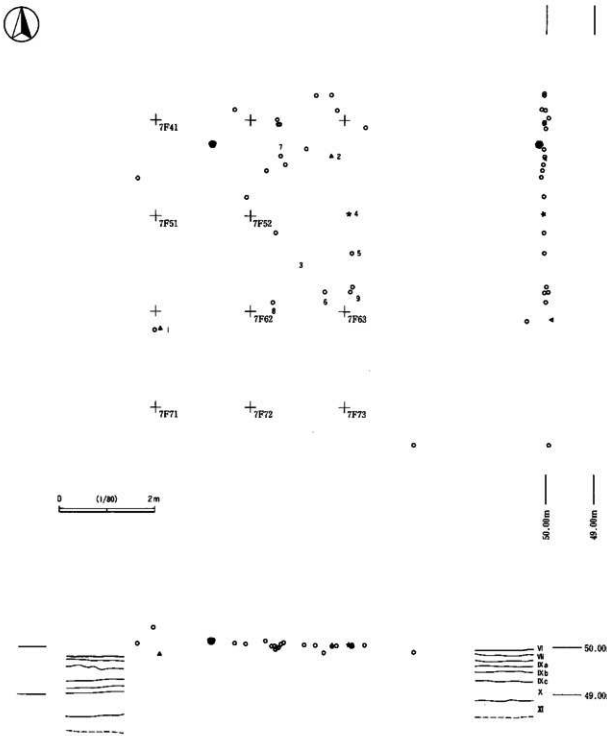
第21図　4O-17ブロック出土石器



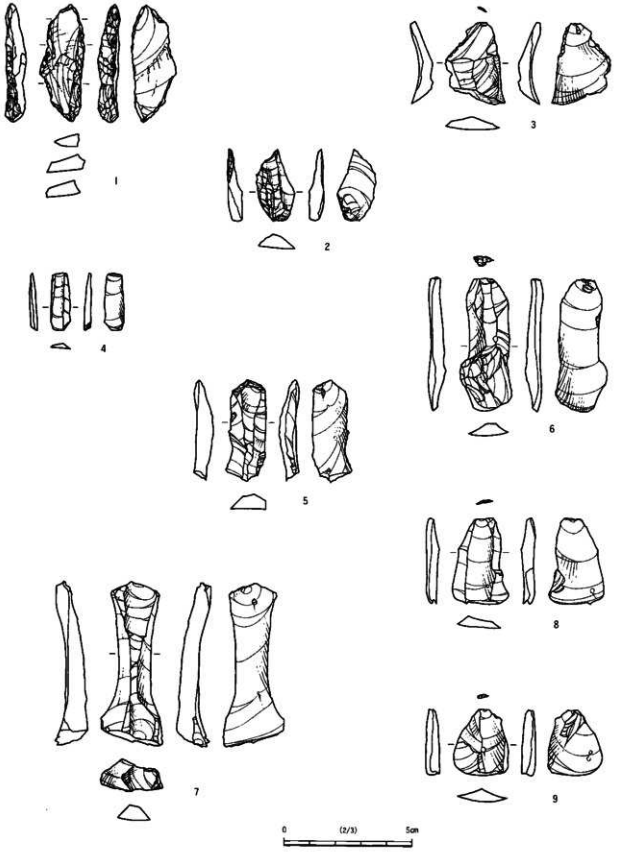
第22図　5F-67ブロック石器分布



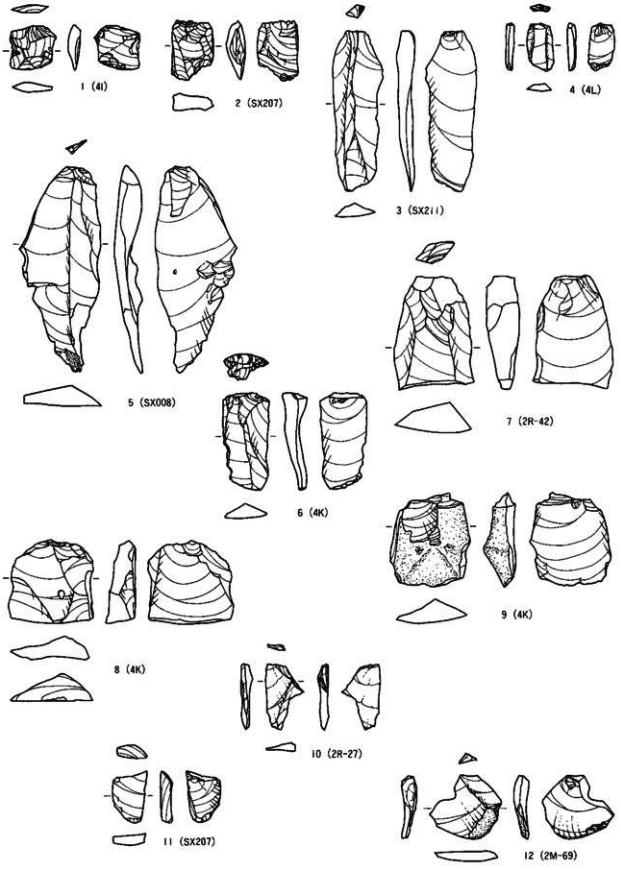
第23図　5F-67ブロック出土石器



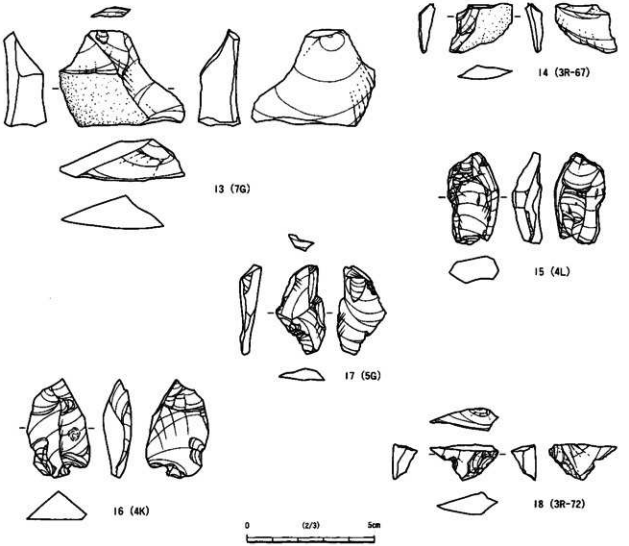
第24図　7F-31ブロック石器分布



第25図　7F-31ブロック出土石器



第26図　グリッド・上層遺構出土石器（1）



第27図　グリッド・上層遺構出土石器（2）

第3表　石器属性表

グリッド		番号	ブロック等	図	No.	器種	杭高	K高	レベル	標高	石材	同一個体	接合	重量(g)	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)
3I	67	1	3I67			剥片	51.111	0.889	2.290	49.710	頁岩	4		5.1	31.9	31.5	5.1
3I	67	2	3I67			剥片	51.111	0.889	2.150	49.850	頁岩	2		1.1	13.7	25.5	3.6
3I	67	3	3I67	12	3	剥片	51.111	0.889	2.420	49.580	珪質頁			29.15	70.9	36.9	12.9
3I	67	4	3I67	12	7	剥片	51.111	0.889	2.350	49.650	頁岩	1	接1	10.45	27.5	29.6	15.6
3I	67	5	3I67	13	8	剥片	51.111	0.889	2.460	49.540	頁岩	3	接2	5.67	26.2	35.2	7
3I	68	1	3I67			砕片	51.111	0.889	2.510	49.490	頁岩			0.07	9.7	5.7	1.5
3I	76	1	3I67			剥片	51.111	0.889	2.450	49.550	頁岩	2		5.69	24.9	25.1	8
3I	76	2	3I67	13	10	剥片	51.111	0.889	2.200	49.800	頁岩	1	接1	3.61	20.7	33.9	6.8
3I	76	3	3I67	13	11	剥片	51.111	0.889	2.220	49.780	頁岩	1	接1	9.68	38.4	23.3	14.2
3I	76	4	3I67	13	6	剥片	51.111	0.889	2.200	49.800	頁岩	3	接2	11.46	37.7	38.9	12.8
3I	76	5	3I67	13	1	剥片	51.111	0.889	2.310	49.690	頁岩	1	接1	39.88	39.6	46.3	25
3I	76	6	3I37	13	12	剥片	51.111	0.889	2.250	49.750	頁岩	1	接1	2.43	15.9	24.2	9.1
3I	76	7	3I67	12	2	石鏃	51.111	0.889	2.330	49.670	頁岩	2		69.17	34.8	43.1	36.6
3I	77	1	3I67	12	1	敲石	51.111	0.889	2.570	49.430	頁岩	1	接1	33.64	30.1	41.7	27.9
3I	77	2	3I67			剥片	51.111	0.889	2.170	49.830	頁岩	2		1.81	35.6	13	5.1
3I	77	3	3I67	13	9	剥片	51.111	0.889	2.190	49.810	頁岩	1	接1	4.99	3.01	21.1	8.3
3I	77	4	3I67	12	4	剥片	51.111	0.889	2.470	49.530	頁岩	3	接2	36.9	58.3	43.1	19.5
3I	77	5	3I67	13	5	剥片	51.111	0.889	2.330	49.670	頁岩	1	接1	17.99	37.4	37.1	12.7
3M	31	1	3M00			剥片	50.346	0.654	1.467	49.533	黒曜石		接3	0.18	9.8	8.4	3.3
3M	31	1	3M00			砕片	50.346	0.654	1.467	49.533	黒曜石			0.2	5.3	12.5	2.8
3M	31	2	3M00	16	4	剥片	50.346	0.654	1.395	49.605	黒曜石			8.75	39.8	23.4	9.6
3M	30	3	3M00	16	2	石刃	50.346	0.654	1.485	49.515	流紋岩			72.3	125.3	31.3	18.9
3M	20	4	3M00	16	3	剥片	50.346	0.654	1.415	49.585	黒曜石		接3	2.16	36.5	11.8	4.8
3M	10	5	3M00			剥片	50.346	0.654	1.808	49.192	安山岩	4		0.65	12.1	12.4	6.6
3M	10	6	3M00			剥片	50.346	0.654	1.464	49.536	安山岩	4		1.24	11.6	17.6	6.3
3M	11	7	3M00	17	8	剥片	50.346	0.654	1.520	49.480	安山岩	4		11.67	26.1	38.5	12.8
3M	01	8	3M00			剥片	50.346	0.654	1.513	49.487	安山岩	4		17.37	28.6	43	16
3M	01	9	3M00			剥片	50.346	0.654	1.958	49.042	頁岩			1.74	23.9	19.7	4.6
3M	01	10	3M00	17	11	剥片	50.346	0.654	1.300	49.700	安山岩	4	接4	5.71	27.7	24.5	10
3M	01	11	3M00			剥片	50.346	0.654	1.700	49.300	頁岩			3.97	25.1	20.2	9.5
3L	19	12	3M00	17	10	剥片	50.346	0.654	1.935	49.065	安山岩	2		4.84	22.6	29.2	9.3
3M	10	13	3M00	17	7	剥片	50.346	0.654	1.701	49.299	安山岩	4		10.81	36.1	41.9	8
3M	10	13	3M00	17	7	剥片	50.346	0.654	1.701	49.299	安山岩	4		1.29	21.8	12.7	5.5
3M	10	14	3M00	17	5	剥片	50.346	0.654	1.195	49.805	安山岩	1		15.68	41.7	41.2	10.6
3M	10	15	3M00			剥片	50.346	0.654	1.788	49.212	安山岩	4		1.46	18.6	10.5	6.4
3M	00	16	3M00			剥片	50.346	0.654	1.688	49.312	安山岩	4		0.92	12.5	18.4	5.1
3M	01	17	3M00			剥片	50.346	0.654	1.501	49.499	安山岩	4		5.15	21.2	30.9	8.3
3M	01	18	3M00			剥片	50.346	0.654	1.745	49.255	安山岩	4		11.05	30.2	41.2	12.9
3M	11	19	3M00			剥片	50.346	0.654	1.385	49.615	安山岩	4	接4	0.32	12.8	11.5	3.3
3M	11	19	3M00			剥片	50.346	0.654	1.385	49.615	安山岩	4		1.58	19.3	16.8	5
3M	11	19	3M00			剥片	50.346	0.654	1.803	49.197	安山岩	4		10.59	27.7	38	14.1
3M	11	19	3M00			剥片	50.346	0.654	1.803	49.197	安山岩	4		0.58	18.3	10	4
3M	11	20	3M00			剥片	50.346	0.654	1.803	49.197	安山岩	4		1.05	10.2	19.9	5.5
3M	11	21	3M00			剥片	50.346	0.654	1.730	49.270	安山岩	4		1.73	24	18.2	4.5
3M	11	22	3M00	16	3	敲石	50.346	0.654	1.704	49.296	砂岩			209.02	84.4	69.2	42.5
3M	11	23	3M00			剥片	50.346	0.654	1.700	49.300	安山岩	4		3.24	24.3	27.6	5.5
3M	11	23	3M00			剥片	50.346	0.654	1.700	49.300	安山岩	4		2.23	28.6	18.3	4.7
3M	11	23	3M00			剥片	50.346	0.654	1.700	49.300	安山岩	4		0.51	11.7	12	5.3
3M	11	23	3M00			剥片	50.346	0.654	1.700	49.300	安山岩	4		0.25	12.1	7.3	3.6
3M	11	24	3M00			砕片	50.346	0.654	1.902	49.098	安山岩	4		0.43	9.6	7.5	5.8
3M	11	24	3M00			剥片	50.346	0.654	1.902	49.098	安山岩	4		0.51	8.5	18.6	3.7
3M	11	24	3M00			剥片	50.346	0.654	1.902	49.098	安山岩	4		0.24	10.9	9.3	2.5
3M	11	25	3M00			剥片	50.346	0.654	1.936	49.064	安山岩	4		0.61	12.8	14	5.3
3M	11	26	3M00			剥片	50.346	0.654	1.679	49.321	安山岩	4		11.44	31.2	30.7	12.4
3M	11	26	3M00			剥片	50.346	0.654	1.679	49.321	安山岩	4		1.23	16.5	16.3	5
3M	11	26	3M00			剥片	50.346	0.654	1.679	49.321	安山岩	4		2.5	16.3	17.7	8.7
3M	1	27	3M00			剥片	50.346	0.654	1.843	49.157	黒曜石		接3	1.31	19.9	14.2	4.4
3M	20	28	3M00	17	6	剥片	50.346	0.654	1.443	49.557	安山岩	4		6.34	33.7	23.8	6.3
3Q	10	1	3Q10			礫	51.809	0.191	1.470	50.530	安山岩			1.16	16.7	15	5.6
3Q	11	1	3Q10			剥片	51.809	0.191	1.640	50.360	頁岩	1	接5	1.64	24.5	12.8	4.6
3Q	11	1	3Q10			砕片	51.809	0.191	1.640	50.360	頁岩	1	接5	0.56	13.6	12.4	3.5
3Q	11	1	3Q10			砕片	51.809	0.191	1.640	50.360	頁岩	1	接5	0.76	17.8	9.7	4.7
3Q	12	1	3Q10			砕片	51.809	0.191	1.805	50.195	黒曜石			0.62	15.6	6.4	7.1
3Q	21	1	3Q10	19	2	R F	51.809	0.191	1.770	50.230	黒曜石	1		4.23	22.4	22	9.1
3Q	21	2	3Q10			砕片	51.809	0.191	1.670	50.330	黒曜石	1		0.15	7.7	11.8	1.9

グリッド	番号	ブロック等	図No.	器種	杭高	K高	レベル	標高	石材	同一個体	接合	重量(g)	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)
3Q	21	3 3Q10	19	3 剥片	51.809	0.191	1.805	50.195	頁岩	1		3.56	35.6	15.9	8.9
3Q	21	4 3Q10	19	4 剥片	51.809	0.191	1.680	50.320	頁岩			5.43	26.1	43.9	5.9
3Q	21	5 3Q10		砕片	51.809	0.191	1.890	50.110	黒曜石	1		0.66	17.5	8.3	4.3
3Q	21	6 3Q10		砕片	51.809	0.191	1.990	50.010	黒曜石	1		0.08	4.4	9.1	2.2
3Q	30	1 3Q10	19	1 ナイフ形石器	51.809	0.191	1.910	50.090	安山岩			5.3	39	14.7	8.6
3Q	31	1 3Q10		砕片	51.809	0.191	1.975	50.025	黒曜石			0.04	3.7	10	1.4
4O	17	1 4O17	21	1 剥片	51.946	0.054	1.755	50.245	頁岩			6.19	39.1	23.5	11.1
4O	27	1 4O17	21	3 剥片	51.946	0.054	1.893	50.107	頁岩			1.85	20.1	18.8	6.5
4O	27	2 4O17	21	2 剥片	51.946	0.054	1.785	50.215	頁岩			9.67	33.7	25.8	13
5F	67	1 5F67	23	1 剥片	50.443	1.057	1.460	50.040	頁岩		接6	5.11	34.5	24.5	5.1
5F	68	1 5F67	23	2 剥片	50.443	1.057	1.430	50.070	頁岩		接6	1.37	23	21.7	4.2
7F	52	1 7F31	25	3 R F					黒曜石	8		3.28	31.6	23	8.8
7F	52	2 7F31		剥片	50.443	1.057	1.457	50.043	黒曜石	3		0.24	10.4	13.5	1.7
7F	52	3 7F31	25	8 剥片	50.443	1.057	1.495	50.005	黒曜石	5		2.98	33.4	21.8	4.1
7F	52	5 7F31	25	6 剥片	50.443	1.057	1.605	49.895	黒曜石	1		5.57	51.3	19.4	7
7F	61	6 7F31	25	1 ナイフ形石器	50.443	1.057	1.645	49.855	頁岩	1		5.69	45.2	16.6	7.3
7F	53	7 7F31	25	9 剥片	50.443	1.057	1.482	50.018	黒曜石	1		2.43	25.6	21.3	5.5
7F	53	8 7F31		剥片	50.443	1.057	1.478	50.022	黒曜石	6		15.7	20.1	47.6	14.5
7F	53	9 7F31	25	5 剥片	50.443	1.057	1.450	50.050	黒曜石	9		3.62	38.5	14.9	6.8
7F	43	10 7F31	25	4 剥片	50.443	1.057	1.438	50.062	黒曜石	2		0.44	22.6	7.3	2.5
7F	42	11 7F31	25	2 ナイフ形石器	50.443	1.057	1.438	50.062	黒曜石	1		1.55	27.4	14.6	5.1
7F	43	12 7F31		剥片	50.443	1.057	1.450	50.050	黒曜石	2		0.42	18.9	14.6	2.5
7F	32	13 7F31		剥片	50.443	1.057	1.460	50.040	黒曜石	5		2.98	33.4	8.6	10.6
7F	32	14 7F31		剥片	50.443	1.057	1.470	50.030	黒曜石	1		1.96	23.8	14.1	5.2
7F	32	15 7F31		剥片	50.443	1.057	1.475	50.025	黒曜石	4		0.31	18.3	9.9	1.8
7F	42	16 7F31		剥片	50.443	1.057	1.455	50.045	黒曜石	3		1.05	21.4	23	3
7F	42	17 7F31		剥片	50.443	1.057	1.480	50.020	黒曜石	3	接7	0.12	10.6	13.3	1
7F	42	17 7F31		剥片	50.443	1.057	1.480	50.020	黒曜石		接7	0.03	3.1	8.1	0.8
7F	42	18 7F31	25	7 剥片	50.443	1.057	1.445	50.055	黒曜石	5		9.14	60.1	25.3	11.7
7F	42	19 7F31		剥片	50.443	1.057	1.412	50.088	黒曜石	8		2.54	28.4	20.7	6.6
7F	42	20 7F31		剥片	50.443	1.057	1.342	50.158	黒曜石	9		4.68	56.4	16.1	6
7F	41	21 7F31		剥片	50.443	1.057	1.445	50.055	黒曜石	7		0.2	9.2	11.2	2.2
7F	41	22 7F31		剥片	50.443	1.057	1.348	50.152	黒曜石	4		1.63	29.3	23.2	4
7F	41	22 7F31		剥片	50.443	1.057	1.348	50.152	黒曜石	3	接8	1.3	21.4	27.5	4.9
7F	41	22 7F31		剥片	50.443	1.057	1.348	50.152	黒曜石		接8	0.18	14.3	8.7	2.3
7F	41	22 7F31		剥片	50.443	1.057	1.348	50.152	黒曜石		接8	0.56	14.2	20.2	2.8
7F	41	22 7F31		剥片	50.443	1.057	1.348	50.152	黒曜石	6		0.15	9.2	14.1	1.7
7F	31	23 7F31		剥片	50.443	1.057	1.425	50.075	黒曜石	6		0.97	18.9	14.3	6.4
7F	40	24 7F31		剥片	50.443	1.057	1.405	50.095	黒曜石	7		0.55	17.4	10.1	4.6
7F	73	25 7F31		剥片	50.443	1.057	1.595	49.905	黒曜石	2		6.45	34.4	22.7	8
7F	32	26 7F31		剥片	50.443	1.057	1.535	49.965	黒曜石	3		0.69	19.3	7.1	5.2
7F	60	27 7F31		剥片	50.443	1.057	1.078	50.422	黒曜石			0.91	8.2	16.1	5.1
1R	28	1 上層グリッド		礫					頁岩			35.46	41.6	36.8	19.1
2L	88	1 2L	26	4 石刃	50.220	1.280	2.210	49.290	黒曜石			0.68	18.4	110.1	3.3
2M	69	1 2M	26	12 剥片	50.842	1.158	2.770	49.230	頁岩			3.23	25.5	27.7	6
2R	42	1 2R	26	7 剥片					安山岩			19.11	4.15	3.01	1.31
3R	27	1 3R	26	10 剥片					安山岩			1.04	25	15	3.5
3R	67	1 3R	27	14 剥片					頁岩			2.07	16.5	30.1	5.6
3R	72	1 3R	26	18 剥片					頁岩			2	26.2	13.3	9.3
4I		1 上層グリッド	26	1 楔形石器					黒曜石			1.31	1.63	1.78	0.47
4I		1 上層グリッド		剥片					黒曜石			0.67	1.05	2.42	0.38
4K		1 上層グリッド	26	6 R F					黒曜石			4.47	3.77	1.83	0.95
4K		1 上層グリッド	26	9 剥片					黒曜石			11.51	3.65	3.07	1.28
4K		2 上層グリッド	26	8 剥片					安山岩			11.52	3.2	3.31	1.07
4K		8 上層グリッド	27	16 剥片					黒曜石			7.03	3.78	2.27	1.02
4L		1 上層グリッド	27	15 剥片					黒曜石			6.94	3.48	2.01	1.13
5G		201 上層グリッド	27	17 剥片					黒曜石			2.28	3.36	1.87	0.59
7G		1 7G	27	13 剥片					ホルンフェルス			20.6	36.7	42.3	14.1
7G		2 7G		剥片	50.443	1.057	1.580	49.920	黒曜石			0.15	7.7	11.9	1.5
SX	008	3 上層遺構覆土	26	5 剥片					黒曜石			14.42	7.91	3.2	0.8
SX	018	1 上層遺構覆土		剥片					黒曜石			1.54	1.31	1.44	0.79
SX	207	28 上層遺構覆土	26	2 楔形石器					黒曜石			2.37	2.26	1.61	0.64
SX	207	42 上層遺構覆土	26	11 剥片					黒曜石			1.67	2.16	1.25	0.5
SX	211	2 上層遺構覆土	26	3 石刃					安山岩			7.89	6.19	1.97	0.68

第3章　縄文時代

第1節　概要（第28図）

確実な縄文時代の遺構としては，陥穴6基のみである。本遺跡の調査区西側では中世の土坑が密集しており，その中には或いは縄文時代の土坑も含まれている可能性もある。しかし，調査区東側では中世遺構・遺物の密度が薄く，その中の土坑数基は当該期の可能性もあるが，確証が得られないため，中・近世の遺構として第6章で紹介した。6基のうち，東側の3基はやや距離をおいて，西側の3基は近接して検出された。主軸は概ね北東－南西方向である。以下，陥穴を西から順に説明した後，僅かな遺物を紹介したい。

第2節　陥穴（第29・30図，図版5・14）

SX015

主軸はN-46°-Eで北東－南西，形状は細長い溝状で，長軸200cm，短軸43cm，深さ85cmである。覆土は，灰褐色土である。

SX024

主軸はN-9°-Eで北北東－南南西，形状は細長い溝状で，長軸360cm，短軸45cm，深さ112cmである。覆土は，ローム粒を多く含む黒褐色土から黄褐色土である。中世の整形区画遺構SX005に切られており，常滑コネ鉢の破片が出土した。

SX004

主軸はN-9°-Eで北北東－南南西，形状は確認面で楕円形，底面が長方形で，長軸200cm，短軸170cm，深さ155cmである。覆土は，ローム粒を多く含む黒褐色土から灰褐色土である。

SK003

主軸はN-70°-Eで東北東－西南西，形状は細長い溝状で，長軸280cm，短軸90cm，深さ175cmである。覆土は，ローム粒を多く含む黒褐色土から黄褐色土である。

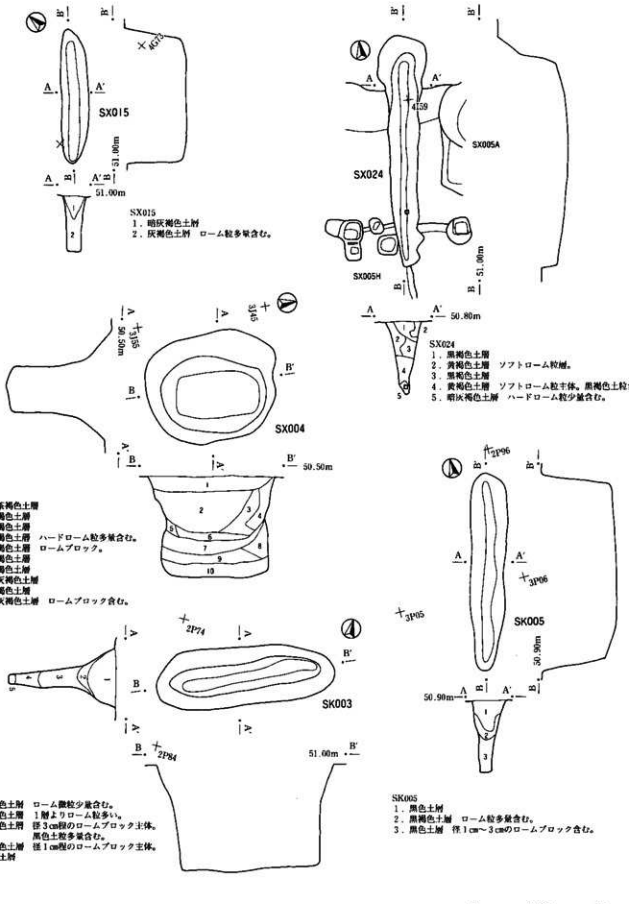
SK005

主軸はN-16°-Eで北北東－南南西，形状は細長い溝状で，長軸310cm，短軸52cm，深さ112cmである。覆土は，ローム粒を多く含む黒色土から黒褐色土である。

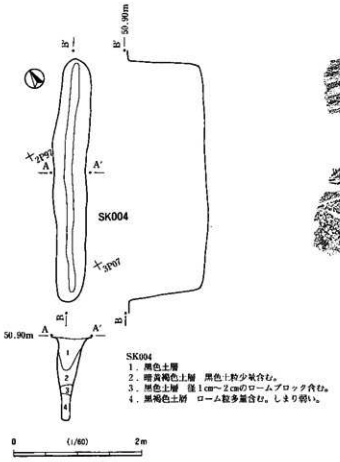
SK004

主軸はN-35°-Eで北東－南西，形状は細長い溝状で，長軸380cm，短軸50cm，深さ130cmである。覆土は，ローム粒を多く含む黒褐色土から黄褐色土である。

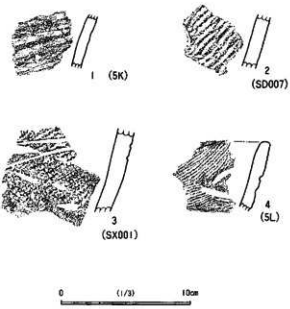
第28図　原始・古代遺構配置図



第29図　縄文時代遺構（1）



第30図　縄文時代遺構（2）



第31図　縄文土器

第3節　遺物（第31図）

縄文土器は，陥穴からの出土はなく，古代以降の遺構覆土中から細片が35点ほど出土した。以下，摩滅が少なく図示できた4点について時期順に説明したい。

1は，5Kグリッド（調査区中央部）出土の早期沈線文系土器で，胎土は径1mmほどの砂粒をやや多く含み，色調は内外面共にぶい橙色である。田戸下層式と推定される。2は，調査区東側の中・近世溝であるSD007覆土中から出土した中期～後期の土器で，縄文が施文されている。胎土は砂粒微粒をやや多く含み，色調は外面にぶい赤褐色，内面赤黒色である。3は，奈良・平安時代の方形周溝遺構の周溝覆土から出土した後期の土器で，縄文が沈線で区画されている。胎土は砂粒微粒をやや多く含み，色調は外面にぶい黄橙色，内面橙色である。堀之内式に推定される。4は5Lグリッド（調査区中央部）出土の後期から晩期の土器の口縁部で，細かい縄文に沈線が施文されている。内面のヘラナデや焼成は良好，胎土は砂粒微粒をやや多く含み，色調は外面黄灰色，内面にぶい黄橙色である。晩期安行式系に推定される。

第4章　古墳時代

第1節　概要（第28図）

調査区東部の南側で前期竪穴住居跡が3軒近接して検出されたが，当該期の遺構は他にはない。ただ，土器細片は，中・近世遺構覆土内やグリッド一括で調査区南側以外で120点余り採集された。以下，竪穴住居跡とその出土遺物について説明したい。

第2節　竪穴住居跡

SI001（第32・33図，第4・5表，図版5・22・25）

主軸はN-34°-Wの北西－南東方向，形状は隅丸方形で，規模は長軸・短軸共4.3m，深さ40cmである。周溝は全周し，炉は北寄りに位置し，主柱穴は4本ある。主柱穴の柱心間距離は，南北1.6m～1.7m・東西1.95m～2.1mで，東西方向にやや長い。他のピットなどは，南西コーナーに長軸1m余・短軸80cm・深さ50cmの楕円形の穴，南壁寄りに長軸90cm・短軸45cm・深さ30cmの楕円形の穴が存在する。前者が貯蔵穴，後者が出入口施設に関連する穴と考えられる。住居全体の覆土は，上層が黒褐色土，下層が焼土粒を含む黒色土である。

遺物は，高坏・台付甕・壺・甕・敲石・砥石で，床面に点在していた。図化した遺物の詳細については，第4・5表（観察表）を参照されたい。ただ，砥石については，中・近世の所産の可能性もあるが，砂岩質であり，中・近世として図化した凝灰岩質の砥石群とは異質ではある。

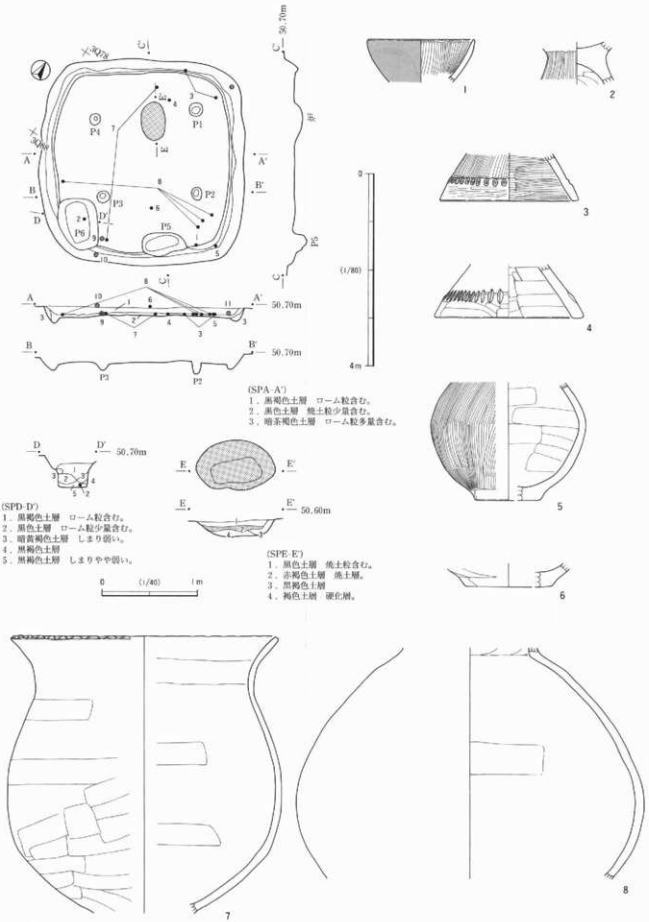
SI002（第34・35図，第4・5表，図版5・6・23・25）

主軸はN-37°-Wの北西－南東方向，形状は南西－北東方向に長い隅丸方形，規模は長軸4.0m・短軸3.4m，深さは35cmである。炉は北西寄りで，周溝は検出されなかった。本来の主柱穴は柱心間距離が1.5m前後のP1，P2，P3，P4の4本に推定されるが，西側方向に柱心間距離を1.2mと若干短くしたP9，P10の2つの柱穴が主柱穴を補助し，全体で6本の主柱穴を持つ構造と考えられる。深さはいずれも15cmほどである。炉を中心として本来の主柱穴で囲まれた範囲を中心に硬化面が形成されていることもそれを物語る。他のピットは，北コーナーに深さ25cmのP6，南コーナー付近に深さ30cmのP5，深さ25cmのP7，深さ20cmのP8，深さ20cmのP11とが存在する。この内，P7は出入口施設関連，他は貯蔵穴の可能性がある。住居全体の覆土は，炭化物・焼土粒を少量含む黒褐色土が主体である。

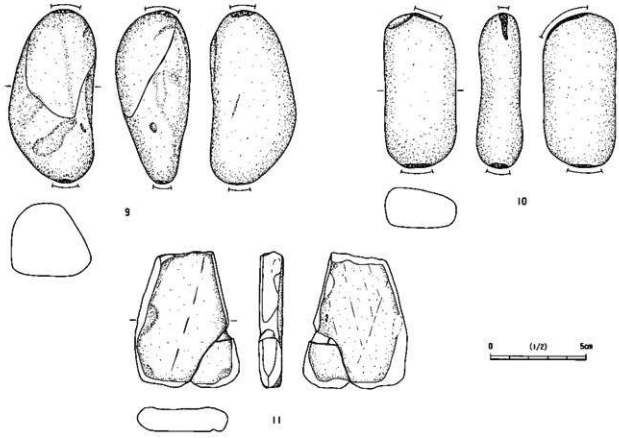
遺物は，硬化面部分を中心に，椀，台付鉢，器台，小型甕・壺，台付甕・壺，敲石など，器種・量共に多く出土し，特に壺・甕類が目立つ。図化した遺物の詳細については，第4・5表（観察表）を参照されたい。

SI003（第36図，第4表，図版6・14・24）

主軸はN-35°-Wの北西－南東方向，形状は南西－北東方向にやや突出する亀甲状の平面形，規模は長軸


P1
P2
P3
P4
P5
P6
50.70m
50.60m
(1/80)
4m
(SPA-A')
1．黒褐色土層　ローム粒含む。
2．黒色土層　焼土粒少量含む。
3．暗茶褐色土層　ローム粒多量含む。
(SPD-D')
1．黒褐色土層　ローム粒含む。
2．黒色土層　ローム粒少量含む。
3．暗黄褐色土層　しまり弱い。
4．黒褐色土層
5．黒褐色土層　しまりやや弱い。
(1/40)
1m
(SPE-E')
1．黒色土層　焼土粒含む。
2．赤褐色土層　焼土層。
3．黒褐色土層
4．褐色土層　硬化層。
(1/3)
10cm

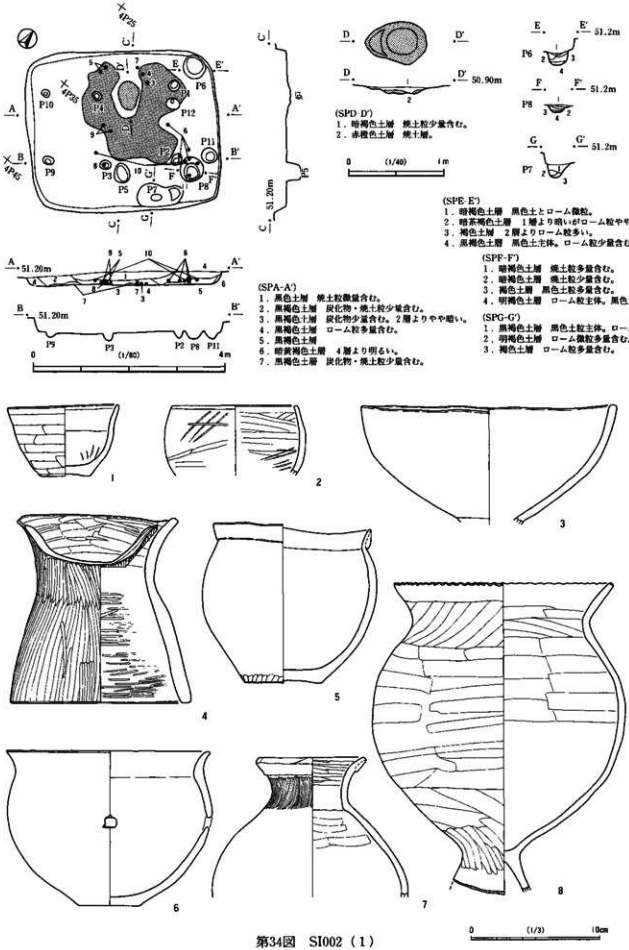
第32図　SI001（1）



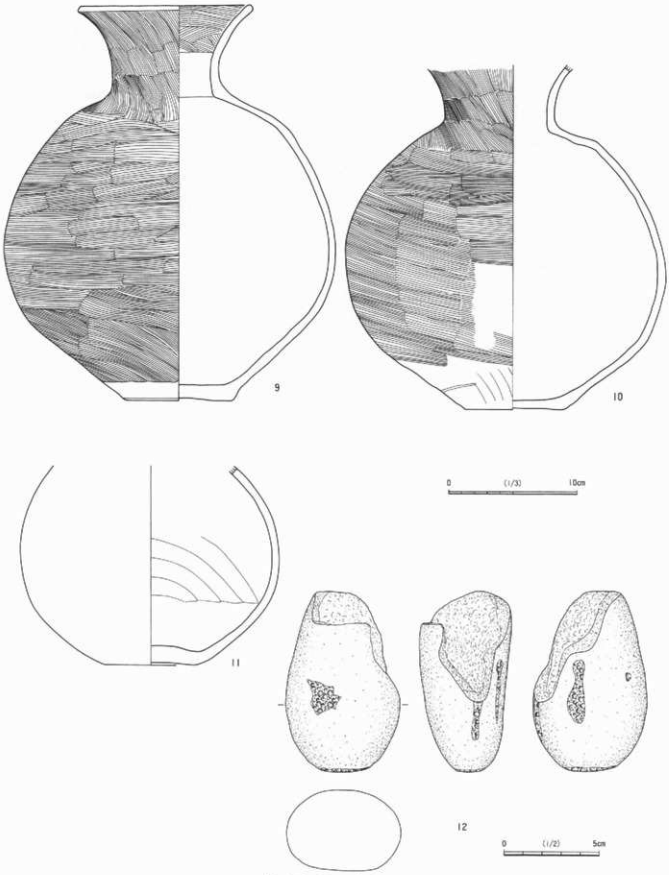
第33図　SI001（2）

3.2m・短軸3.6mであるが，ある。深さは12cmほどである。炉はやや東寄りの北東側で，周溝や柱穴は検出されなかった。炉の周囲から南側にかけて硬化面が形成されている。

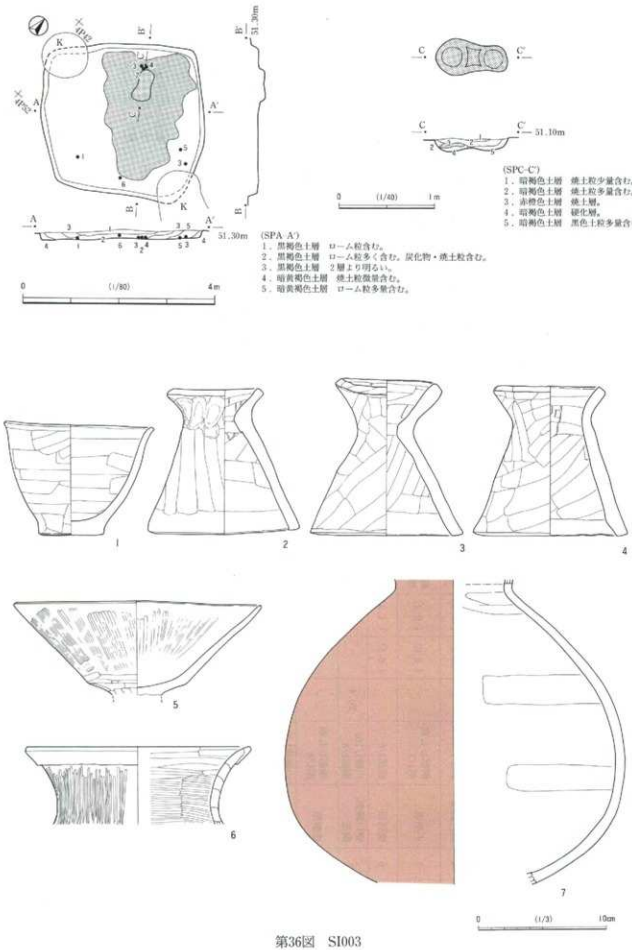
遺物は，椀，器台，高坏，壺などであり，特に炉近辺で炉器台が３つ並んで出土したことは，祭祀的行為が窺われて注目される。


(SPD-D')
1．暗褐色土層　焼土粒少量含む。
2．赤褐色土層　焼土層。
(SPE-E')
1．暗褐色土層　黒色土とローム微粒。
2．暗茶褐色土層　1層より暗いがローム粒やや大きい。
3．褐色土層　2層よりローム粒多い。
4．黒褐色土層　黒色土主体。ローム粒少量含む。
(SPA-A')
1．黒色土層　焼土粒微量含む。
2．黒褐色土層　炭化物・焼土粒少量含む。
3．黒褐色土層　炭化物少量含む。2層よりやや暗い。
4．黒褐色土層　ローム粒多量含む。
5．黒褐色土層
6．暗黄褐色土層　4層より明るい。
7．黒褐色土層　炭化物・焼土粒少量含む。
(SPF-F')
1．暗褐色土層　焼土粒多量含む。
2．暗褐色土層　焼土粒少量含む。
3．褐色土層　黒色土粒多量含む。
4．明褐色土層　ローム粒主体。黒色土粒少量含む。
(SPG-G')
1．黒褐色土層　黒色土粒主体。ローム粒微量含む。
2．明褐色土層　ローム微粒多量含む。
3．褐色土層　ローム粒多量含む。
51.20m
50.90m
51.2m
0 (1/40) 1m
0 (1/80) 4m
0 (1/3) 10cm

第34図　SI002（1）



第35図　SI002（2）


(SPA-A')
1．黒褐色土層　ローム粒含む。
2．黒褐色土層　ローム粒多く含む。炭化物・焼土粒含む。
3．黒褐色土層　2層より明るい。
4．暗黄褐色土層　焼土粒微量含む。
5．暗黄褐色土層　ローム粒多量含む。
(SPC-C')
1．暗褐色土層　焼土粒少量含む。
2．暗褐色土層　焼土粒多量含む。
3．赤橙色土層　焼土層。
4．暗褐色土層　硬化層。
5．暗褐色土層　黒色土粒多量含む。
51.30m
51.10m
(1/80)
(1/40)
(1/3)
0
4m
1m
10cm

第36図　SI003

第4表　古墳時代土器観察表

遺構番号	挿図番号	器種	遺存度	単位：cm 口径	〔復元値〕底径	〔現存値〕器高	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調 外面	色調 内面	備考	時代・時期等
SI001	1	高坏坏部	坏部1/4	(8.4)	−	〔 3.3〕	ハケ目後指ナデ	丁寧なヘラミガキ	細砂粒を少し含む	良好	赤橙色，赤彩	赤橙色		古墳前期
SI001	2	高坏脚部	脚部1/2	−	−	−	縦位ヘラミガキ	坏内面ヘラミガキ，脚内面ヘラケズリ	砂粒を少し含む	良好	黒褐色	橙褐色		古墳前期
SI001	3	高坏脚部	脚部2/3	−	10.8	〔 3.7〕	縦位ヘラミガキ，底部直上に竹管状工具による刺突	横位ヘラミガキ	細砂粒を少し含む	良好	橙褐色	橙褐色		古墳前期
SI001	4	高坏脚部	脚部1/4	−	11.2	〔 4.2〕	指ナデ，底部直上に爪形による刺突	横位ヘラナデ	長石粒を多く含む	良好	橙褐色	橙褐色		古墳前期
SI001	5	小型壺	胴部1/4，底部1/3	−	(5.0)	〔 9.2〕	縦位ハケ目調整，底部付近横位ヘラケズリ	横位ヘラケズリ	砂粒，長石粒を少し含む	良好	黄褐色	橙褐色		古墳前期
SI001	6	甕底部	底部1/6	−	(6.6)	〔 1.3〕	斜位及び横位ヘラケズリ	指ナデ	砂粒を少し含む	良好	黄橙色	黒褐色		古墳前期
SI001	7	甕口縁部，胴部	口縁1/16，胴部1/8	20.4	−	〔21.7〕	口唇部押捺，ハケ目調整後指によるナデ	ヘラケズリ後ヘラミガキ	細砂粒を少し含む	良好	黒褐色，スス付着	黄橙色		古墳前期
SI001	8	壺胴部	頸部1/4，胴部1/8	−	−	(18)	ヘラケズリ後ヘラミガキ	頸部ヘラケズリ，胴部ヘラケズリ後指ナデ	細砂粒を少し含む	良好	橙褐色，一部スス付着	橙褐色	胴部内面2次焼成により器面剥離が著しい	古墳前期
SI002	1	椀	口縁部1/2及び体部1/5を欠く	8.6	3.8	5.5	口唇部指ナデ，体部横位ヘラケズリ	口唇部指ナデ，横位ヘラケズリ後指ナデ	細砂粒を少し含む	良好	黄褐色	黄褐色		古墳前期
SI002	2	鉢	体部4/5	9.8	−	5.4	横位ヘラケズリ後斜位ヘラミガキ	口唇部指ナデ，横位ヘラケズリ後斜位ヘラミガキ	長石粒・細砂粒を少し含む	良好	黄橙褐色	黄橙褐色		古墳前期
SI002	3	台付鉢	体部1/3及び脚台部を欠く	19.8	−	9.3	横位ヘラケズリ後斜位及び縦位ヘラミガキ	横位ヘラミガキ	細砂粒を少し含む	良好	赤褐色，赤彩	赤褐色，赤彩		古墳前期
SI002	4	器台	体部1/4を欠く	12.0	14.0	14.7	口縁部及び頸部縦位ヘラミガキ，体部縦位ヘラケズリ及び一部縦位ヘラミガキ	口縁部横位ヘラケズリ，体部横位ヘラミガキ	細砂粒を少し含む	良好	黒褐色	黒褐色	脚部内面2次焼成により器面剥離が著しい	古墳前期
SI002	5	小型甕	口縁部1/8を欠く	13.7	6.0	12.5	口縁部指ナデ，胴部上半ヘラケズリ後横位ヘラミガキ，下半斜位ヘラミガキ，底部直上斜位ヘラケズリ	ヘラケズリ後横位ヘラミガキ	長石粒・細砂粒を少し含む	良好	黒褐色	黒褐色		古墳前期
SI002	6	小型甕	完形	15.4	4.8	12.2	口唇部指ナデ，胴部上半ヘラケズリ後横位ヘラナデ，下半斜位ヘラナデ	口縁部指ナデ，胴部横位ヘラナデ	長石粒を少し含む	良好	黄褐色	黄褐色	胴部中央付近に穿孔	古墳前期

遺構番号	挿図番号	器種	遺存度	単位：cm（復元値）〔現存値〕			調整		胎土	焼成	色調		備考	時代・時期等
				口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面		
SI002	7	小型壺	口縁部1/3及び胴部下半を欠く	8.3	－	〔11.0〕	口唇部指ナデ，頸部縦位ヘラミガキ，胴部指ナデ後ヘラミガキ	口縁部上半横位ヘラミガキ，下半指ナデ，胴部上半横位ヘラケズリ	長石粒を少し含む	良好	頸部黒色，胴部橙褐色	橙褐色		古墳前期
SI002	8	台付甕	口縁部4/5及び脚台部を欠く	17.1	－	24.3	口縁部指ナデ，頸部斜位ヘラナデ，胴部横位ヘラナデ	口縁部上半指ナデ，胴部上半横位ヘラナデ，胴部下半指ナデ	長石粒を少し含む	良好	橙褐色，胴部上半スス付着	橙褐色		古墳前期
SI002	9	壺	口縁部1/4を欠く	13.3	8.2	30.9	頸部縦位ハケ目調整，胴部横位ハケ目調整，底部直上斜位ハケ目調整，底部指ナデ	口縁部上半横位ハケ目調整，下半指ナデ，胴部横位ヘラケズリ後ヘラナデ	細砂粒を少し含む	良好	橙褐色	橙褐色		古墳前期
SI002	10	壺	口縁部上半及び胴部1/3を欠く	－	7.6	〔26.5〕	頸部斜位ハケ目調整，胴部横位ハケ目調整，底部直上斜位ハケ目調整後指ナデ，底部指ナデ	口縁部上半横位ハケ目調整，下半指ナデ，胴部横位ヘラケズリ後ヘラナデ	細砂粒を少し含む	良好	橙褐色	橙褐色	胴部内面下半2次焼成により器面剥離が著しい	古墳前期
SI002	11	壺	口縁部及び胴部1/3を欠く	－	7.1	〔15.6〕	頸部直下横位ヘラミガキ，胴部横位ヘラケズリ後縦位ヘラミガキ，底部直上斜位ヘラナデ	指ナデ後斜位ヘラケズリ	長石粒・砂粒を多く含む	良好	黄褐色，胴部下半スス付着	黄褐色		古墳前期
SI003	1	椀	口縁部1/5を欠く	11.4	5.0	8.9	口唇部指ナデ，横位ヘラケズリ	横位ヘラケズリ	長石粒・細砂粒を少し含む	良好	黄褐色	黄褐色		古墳前期
SI003	2	器台	完形	6.5	11.8	11.4	頸部指頭圧痕，脚部縦位ヘラケズリ	頸部横位ヘラケズリ，脚部横位ヘラケズリ	砂粒を多く含む	良好	橙褐色	橙褐色		古墳前期
SI003	3	器台	口縁部1/5を欠く	7.4	12.0	12.2	斜位ヘラケズリ	頸部横位ヘラケズリ，脚部斜位ヘラケズリ	砂粒を少し含む	良好	橙褐色	橙褐色		古墳前期
SI003	4	器台	完形	7.8	12.0	11.7	頸部及び脚部上半斜位ヘラケズリ，脚部下半横位ヘラケズリ	頸部横位ヘラケズリ，脚部斜位ヘラケズリ	砂粒を含む	良好	橙褐色	橙褐色		古墳前期
SI003	5	高坏坏部	口縁部1/5及び脚部を欠く	19.1	－	7.3	坏部丁寧な縦位ヘラミガキ，頸部上半横位ヘラケズリ，下半縦位ヘラケズリ	坏部丁寧な縦位ヘラミガキ	細砂粒を少し含む	良好	黄橙褐色	黄橙褐色		古墳前期
SI003	6	壺口縁部及び頸部	口縁部7/8を欠く	(17.4)	－	6.0	口唇部指ナデ，頸部縦位ヘラミガキ	口唇部横位ヘラケズリ，頸部横位ヘラミガキ	細砂粒を少し含む	良好	橙褐色	橙褐色		古墳前期
SI003	7	壺	胴部1/2及び口縁部，底部を欠く	－	－	23.1	横位ヘラミガキ	頸部ヘラケズリ，胴部上半横位ヘラケズリ後指ナデ，下半指ナデ	長石粒を少し含む	良好	黄褐色，赤彩	黄褐色，赤彩		古墳前期

第５表　古墳時代石器観察表

遺構番号	挿図番号	種類	遺存度	単位：cm (復元値) 長さ	幅	(現存値) 厚さ	観察 上面	観察 下面	色調	石材	時代・時期等
SI001	9	敲石	完形	9.0	4.6	3.8	頭部及び底部に打痕有り		青灰色	安山岩	古墳前期
SI001	10	敲石	完形	8.1	3.8	2.1	頭部及び底部に打痕有り		青灰色	安山岩	古墳前期
SI001	11	砥石	頭部を欠く	〔7.1〕	5.5	1.3	擦痕有り	擦痕有り	灰褐色	砂岩	古墳前期
SI002	12	敲石	頭部を欠く	〔9.5〕	6.1	4.2	底部及び胴部・側面に打痕有り	底部及び胴部・側面に打痕有り	青灰色	安山岩	古墳前期

第５章　奈良・平安時代

第１節　概要（第28図）

当該期の遺構は，方形周溝遺構１基のみである。また，遺物も僅かである。

第２節　方形周溝遺構（第37図，図版６）

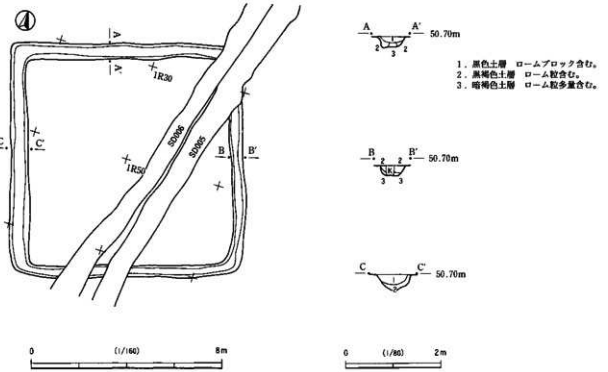
SX001

調査区東側の北部で検出された。主軸は僅かに東寄りのほとんど北でN-15°-E，周溝外縁は，長軸・短軸共9.6mのほぼ正方形，周溝の幅は50cm～70cm，深さは35cm前後である。中央からやや東側で北東－南西方向に中・近世の溝SD005，006に切られている。主体部は検出されなかった。周溝の覆土はローム粒を含む黒～暗褐色土である。遺物は，周溝覆土中から縄文土器片が出土した他にはない。周辺の遺跡の状況からみて，時期的には８世紀後半頃の遺構の可能性がある。

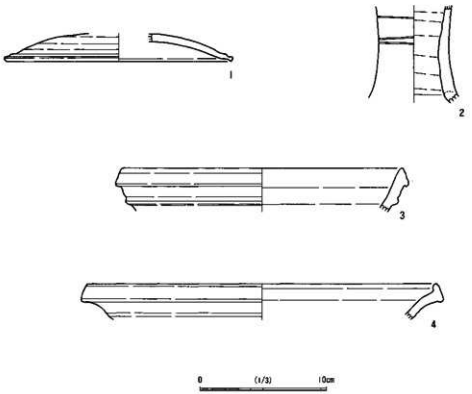
第３節　遺物（第38図，図版25）

本遺跡から出土した土師器，須恵器は極めて少量である。図示した４点は全て須恵器であるが，他に土師器杯小片が出土している。

１は，表面採集された須恵器杯蓋である。推定口径17.6cm，ロクロ成形で，胎土は長石・石英微粒を少量含み，色調は外面灰色，内面黄灰色である。８世紀前半頃の所産と考えられる。２は，SX007(鎌倉街道北側溝)覆土中出土の須恵器長頸瓶の頸部である。中央部径は6.0cm，ロクロ成形で，胎土は黒色微粒を少量含み，色調は内外面共灰白色である。肩部にかかる部分に自然釉が斑状に付着している。８世紀後半頃の所産と考えられる。３は，SX207(鎌倉街道南側側溝)覆土中出土の須恵器甕の口縁部小片である。推定口径は21.6cm，ロクロ成形で，胎土は砂粒微粒を少量含み，色調は内外面灰白色である。内面には自然釉が斑状に付着している。４は４Ｌグリッド一括の須恵器甕の口縁部小片で，推定口径27.2cm，ロクロ成形で，胎土は長石微粒をやや多く含み，色調は内外面灰色である。内面には自然釉が斑状に付着している。



第37図　SX001



第38図　奈良・平安時代遺物

第6章　中・近世

第1節　概要

検出遺構内容は，既に第1章第1節　調査の概要に記したが，調査区の中央から西側を中心として，東西を走る主要道（字名から仮に「鎌倉街道」とする）の両側にそれに平行或いは直交する様な道4条や溝32条，並木状植栽痕列14条が走り，街道より北側でⅠ区～Ⅸ区，南側でⅩ区～ⅩⅡ区の幅20m～25mの12区画が想定できる。この区画内は，さらに計8か所の整形区画が形成され，生活関連遺構と葬送関連遺構とが展開する。改めて列挙すると，日常生活関係遺構は，井戸6基，方形竪穴建物跡14棟，掘立柱建物跡43棟，柵列14条等，葬送関連遺構は，地下式坑14基，火葬土坑10基，土坑墓115基であり，他の性格不明土坑約180基，性格不明ピット約950基である。

ただし，以上の遺構種類・数については，発掘調査時に判断された数とは異なり，かつ現時点で確定されるものではない。方形竪穴建物跡は大型の方形土坑墓と類似していることから，規模やピットの有無から判断した。土坑の多くは土坑墓と考えられるが，形状・覆土・遺物などから明らかに墓と考えられるものを数えたものである。遺跡全体で約2,200基検出されたピットについては，調査時に2棟の掘立柱建物跡が組まれていたのみであるが，集中地点については正確な柱間や方形が組めなくても，その性格を明らかにするデータを提示さるために，なるべく多くの断面図を作成した。よって掘立柱建物跡の数はかなり多めである。ただ，柵列や並木条植栽痕列についてはおおむね正しいと考えている。

本遺跡の解釈は，調査区を東西に走る道「鎌倉街道」と周辺の生活関連遺構と葬送関連遺構との時期的な関係が重要な意味をもつと考えられる。しかし，この道は，現道（アスファルト舗装）直下に近代の道跡があり，薄い覆土と側溝中から中・近世の遺物が大量に出土した。本遺跡の出土遺物の多くはここから出土しており，後述するように遺物の接合関係・同一個体関係は，かなりの距離があり，周囲からこの道に投げ捨てられたことが窺える。側溝中からは18世紀初頭の宝永チフラが層を形成しており，側溝の清掃・整備は，以降行われなくなったものと推測される。この道の最初の造成時期は不明確である。ただ，調査区中央部から西側にかけての整形区画やピット群（建物域・柵列）や溝・道などの生活域はこの道にほぼ平行或いは直交する配置が見られること，調査区中央部の墓域である整形区画の覆土や土坑を切っている部分が多く見られること等から，恐らく中世から清掃・整備・改変が繰り返されたものである。

遺構分布状況は，全体としては中央部の埋没谷に土坑墓が，西側に建物域が集中する傾向が見られる。しかし，方形竪穴建物跡や掘立柱建物跡はほぼ街道に沿う形で，土坑墓も調査区中央以西全体に分布しており，明確な生活域や墓域という様な区画は見られない。一つ一つの整形区画についてみると，縁部に地下式坑，内部に方形竪穴建物跡や掘立柱建物跡，その中間に土坑墓群，やや離れて井戸の存在という共通性が見られることから，基本的には墓を伴う屋敷地の集合体であろう。切り合った遺構の土層堆積状況等からは，基本的には主要道（鎌倉街道）の造成が先行し，整形区画が造られて，方形竪穴建物跡や掘立柱建物跡が形成された街道沿いの集落（街村）が造られ，集落廃絶後は主に中央部埋没谷に墓が造られ続けて墓域が形成されたことが推測される。

これらの時期は，出土遺物から12世紀後半から16世紀初頭と18世紀後半から19世紀と推定されるが，中

心は13世紀後半から15世紀後半，つまり中世でも本格的な戦国期を迎える前の中世前期を中心とする。

よって，本章の構成は，まず，区画遺構としての道・溝，整形区画，次に生活関連遺構とし，最後に葬送関連遺構とする。なお，調査時に複数の遺構を通した土層堆積状況を記録しているものも多いので，挿図はそのまま活かして掲載しており，例えば，地下式坑の項目中に土坑墓等の図示・説明が入る様な例は多い。また，ピット・土坑は密集して数が多いので個別の説明はなるべく省略し，全体図は1/250で1区～8区に分けた。土坑については，形態表を参照されたい。遺物については，各遺構でも図示・説明するが，多くが異なる遺構間の接合・同一個体関係があるので，基本的には第3節で一括して説明したい。

第2節　区画遺構

1　鎌倉街道（第40図～第44図，図版2・3・7・8・14・15）

(1)　形状

調査区西側約半分のほぼ東西133mに亘り，断面逆台形の堀状に現道下から検出され，両側に側溝を有する。主軸は，東西から若干ずれたN-85°-Wであるが，東端部から35m地点でN-76°-Wと若干南方に折れる。遺構番号は，道路面はKR，北側側溝はSX007，南側側溝はSX207と付けられた。掘込みの上幅は4.5m～9m，道路面(KR)までの深さは60cm～80cm，道路面の幅は2.2m～3mである。

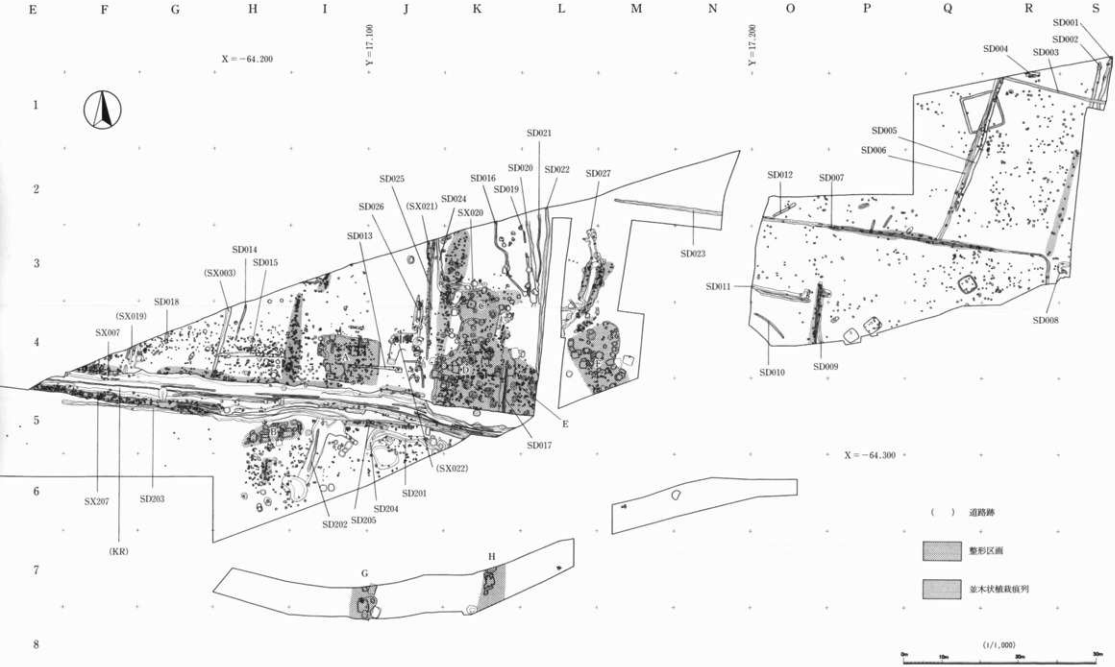
上幅は，西端部で7mであるが，東側に徐々に9mと広がり，中央部から5mと狭くなり，いったん7.5mと広がるが，東端部では4.5mと急激に狭くなる。一方，道路面(KR)幅は，中央から西側で1.8m～2.5m，中央部で2.7mであるが，やや東寄りで1.7mと狭くなり，上幅が狭くなる直前で約3mと広がり，東端部で1.6mと狭くなる。側溝心々距離は西半部で3.5m～4.5m，東半部では2.7m～3.4mである。東端部で急激に狭くなるのは，北側から入り込む小支谷（埋没谷）を避ける意味が窺える。北側側溝(SX007)は，南側側溝(SX207)に比べて浅いため，中央部の33mほどの範囲では不明確である。

上端部から側溝壁面にかけて多くのピットが掘り込まれている。特に西側南壁に集中が見られる。これらの性格は不明であるが，並木状になる植栽痕の可能性が考えられる。また，南側側溝(SX207)の中央部あたりで，側溝内に掘り込まれた井戸跡（SK219）が検出された。径1.5mの円形プランで素掘である。3mほど掘り下げたが底面には達しなかった。この井戸跡には両端に側溝が取り付いていることから，側溝の排水及び水溜のための機能を併せもっていたものと考えられる。他に道路面や側溝内にSX207B，C，D等の土坑が幾つか掘り込まれている。セクションにかかるものはこの道以前のものである。

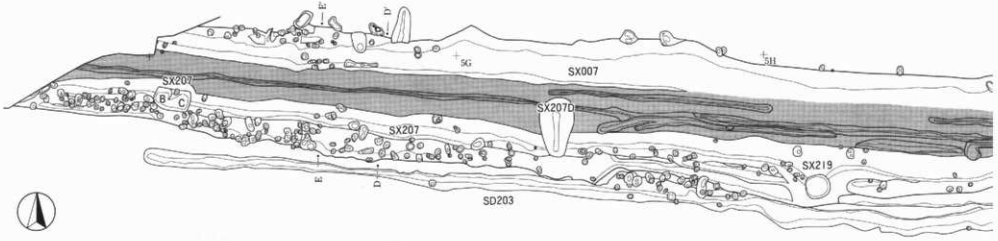
(2)　土層堆積状況

東端部（SPA-A′）

南側に幅1.2mほどの硬化層が2面存在し，古い時期の道路面(KR1，KR2)と考えられる。なお，轍痕と考えられる幅1.1mで平行して走る小溝が検出された。また，北側には整形区画の覆土埋没土があり，このレベルで板碑片が出土している。この覆土上面に宝永4年(1707)降灰の宝永テフラ層がブロック状に載るが，南側の道路面上の覆土の上と同様にこの上に更に幅3.8mの硬化層が2面形成されており，近世前期(KR3)とそれ以降の道路面と考えられる。路面には轍痕が存在する。さらにその上にアスファルト舗装に伴う造成土が載る。道路は，常に清掃整備されるものであるので，古い時期の路面を削ることが考えられるが，現代の造成の際にも表土を含め大きく削っている。

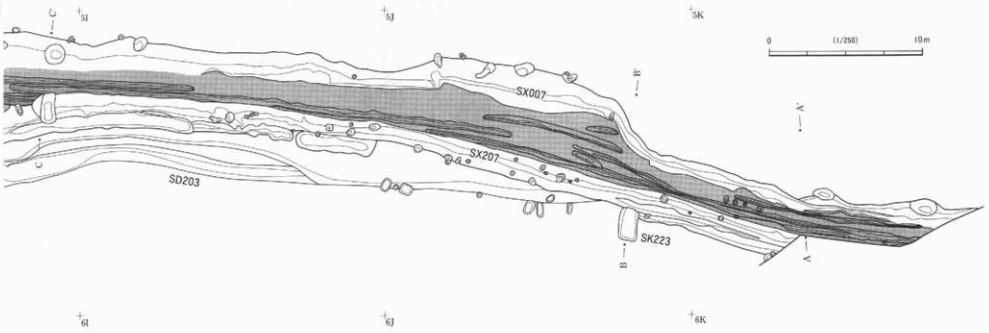

E
F
G
H
I
J
K
L
M
N
O
P
Q
R
S
1
2
3
4
5
6
7
8
X＝−64.200
Y＝17.100
Y＝17.200
X＝−64.300
SD001
SD002
SD003
SD004
SD005
SD006
SD007
SD008
SD009
SD010
SD011
SD012
SD013
SD014
SD015
SD016
SD017
SD018
SD019
SD020
SD021
SD022
SD023
SD024
SD025
SD026
SD027
SD201
SD202
SD203
SD204
SD205
(SX003)
(SX007)
(SX019)
(SX020)
(SX021)
(SX022)
SX207
(KR)
E
G
H
（　）道路跡
整形区画
並木状植栽痕列
(1/1,000)

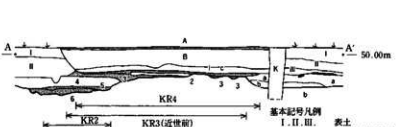
第39図　区画遺構分布



第40図　鎌倉街道（1）

（トーン部分＝KR＝路面）



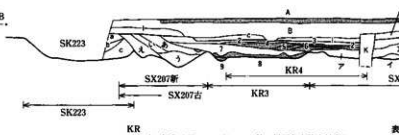


基本記号凡例

I.II.III.	表土	全てのセクションに対応
A.B.C.	近現代道路造成土	〃
黒色塊りつよし	宝永テフラ	〃
1.2.3.	KR	SPD-D'とSPE-E'は共通だが、他はそれぞれ。
アイ.ウ.	SX007	〃
あ.い.う.	SX207	〃
他	土坑・ピット	〃

(SPA-A')
近現代道路造成土
A．アスファルト舗装
B．砕石
C．道路敷土　暗灰色土とハードブロック
表土
I．植作土
II．暗灰褐色土層　ハードローム粒少量含む。
III．灰褐色土層　ハードローム粒少量含む。

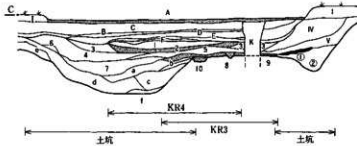
KR3
1．暗灰色土層　硬化層
2．暗灰褐色土層
3．淡青灰色土層　硬化層
KR2
4．明灰褐色土層　ハードローム粒少量含む。
5．淡青灰色土層　硬化層
KR1
6．灰色土層　硬化層
基域埋土
a．灰褐色土層　整地層
b．灰褐色土層　ハードローム粒少量含む。



(SPB-B')
SK223
a．灰色土層
b．黒褐色土層　ハードローム粒少量含む。
c．灰褐色土層　ソフト・ハードローム粒含む。
SX207新
あ．暗灰褐色土層　ハードローム粒微量含む。
い．暗灰褐色土層　ハードローム粒含む。
う．暗灰色土層　ソフト・ハードローム粒少量含む。
SX207古
え．黒褐色土層　ハードローム粒少量含む。

KR
1．暗灰褐色土層　ハードローム粒・黒灰色土粒少量含む。しまり強い。
2．暗灰褐色土層　黒灰色土粒含む。
3．黒灰色土層
4．暗灰褐色土層　ハードローム粒含む。硬化層。
5．明灰色土層　硬化層
6．暗灰褐色土層　ハードローム粒含む。硬化層。
7．暗灰褐色土層　ソフト・ハードローム粒・ブロック少量含む。
8．濃青灰色土層　硬化層。
9．暗灰色土層　硬化層。

表土
IV．灰褐色土層　ハードローム粒多量含む。しまり強い。
SX007新
ア．灰褐色土層　ソフト・ハードローム粒少量含む。
イ．灰褐色土層　ソフト・ハードローム粒含む。
SX007古
ウ．濃明灰色土層　ハードローム粒少量含む。硬化層。
エ．暗灰褐色土層　ハードローム粒多量含む。しまり強い。
オ．濃暗灰色土層　ハードローム粒少量含む。しまり強い。



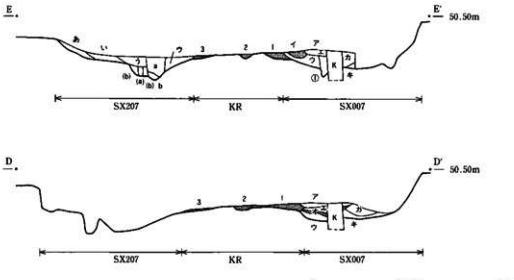
(SPC-C')
近現代道路造成土
D．黒褐色土層
E．貝層層
F．黒褐色土層
表土
V．暗茶褐色土層

KR
1．黄褐色土層
2．暗灰色土層　上位硬化層。
3．暗褐色土層
4．茶褐色土層
5．暗茶褐色土層
6．暗黄褐色土層
7．褐色土層
8．明灰色土層
9．濃明灰色土層　下位硬化層。
10．濃明灰色土層　しまり強い。

南側の土坑
a．暗褐色土層
b．暗黄褐色土層
c．暗灰褐色土層　ハードローム粒少量含む。
d．暗灰褐色土層　ハードローム粒微量含む。
e．暗青褐色土層
f．黄褐色土層
北側の土坑
①．黒褐色土層　宝永テフラ多量含む。しまりなし。
②．黒褐色土層

0　(1/80)　4m

第41図　鎌倉街道（2）

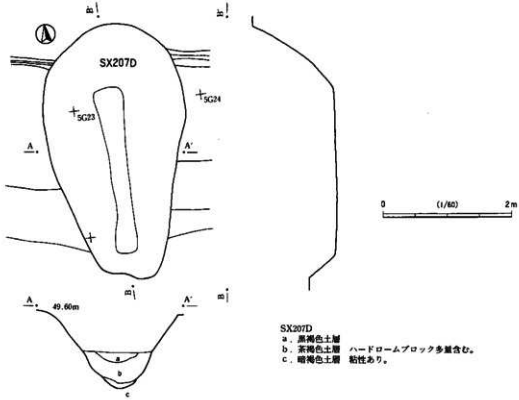


(SPD-D',SPE-E')

SX207
あ．灰褐色土層　ソフト・ハードローム粒含む。
い．暗灰褐色土層　ソフト・ハードローム粒少量含む。
う．暗灰褐色土層　ハードローム粒・明灰色土粒少量含む。
SX207以前のピット
(a)．灰黒褐色土層
(b)．暗灰色土層　しまり良い。
SX207を切るピット
a．黒褐色土層　明灰色土粒多量含む。
b．黒褐色土層　ソフト・ハードローム粒含む。

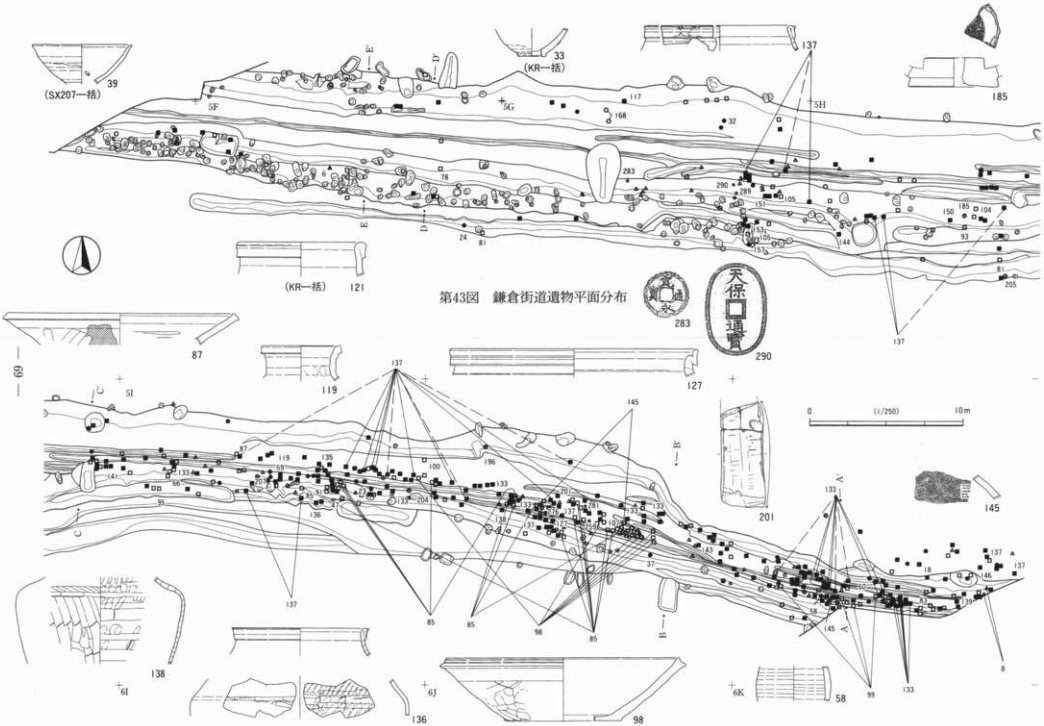
KR
1．濁灰色土層　硬化層。
2．濁褐灰色土層　硬化層。
3．暗灰褐色土層　硬化層。

SX007新
ア．暗灰褐色土層　ハードローム粒・明灰色土粒少量含む。
イ．暗灰褐色土層　硬化層。
ウ．暗灰褐色土層
エ．暗灰褐色土層　明灰色土粒多量含む。
オ．暗灰褐色土層　空水ナツラ多量含む。
SX007新を切るピット
①．暗灰褐色土層　ハードローム粒含む。
SX007古
カ．暗灰色土層　明灰色土粒多量含む。
キ．暗灰色土層

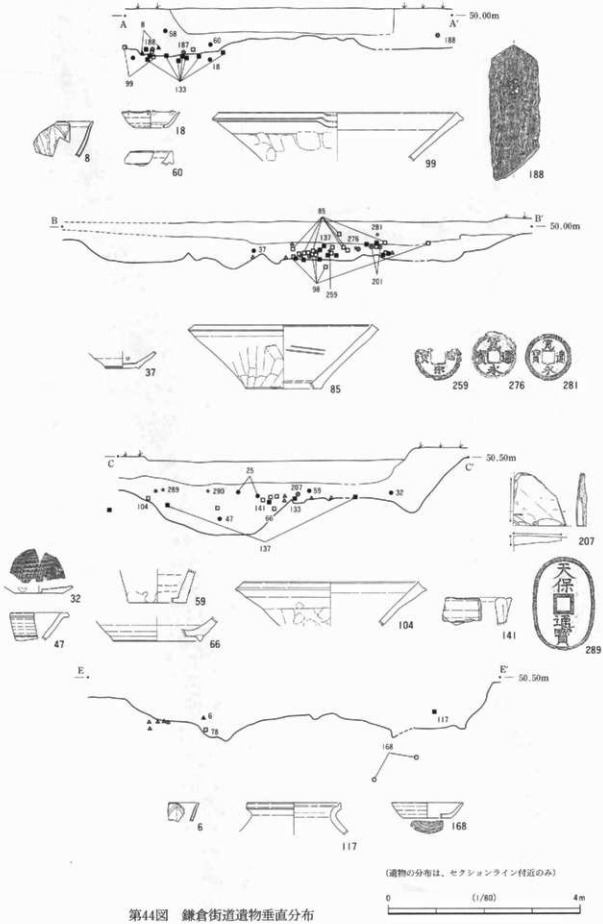


SX207D
a．黒褐色土層
b．茶褐色土層　ハードロームブロック多量含む。
c．暗褐色土層　粘性あり。

第42図　鎌倉街道（3）



第43図　鎌倉街道遺物平面分布



第44図　鎌倉街道遺物垂直分布

東側屈曲部（SPB-B′）

南側で土坑(SK233)が掘り込まれ，その覆土を切る様に側溝SX207の２段階の掘込みが存在する。北側のSX007も２段階である。側溝間の硬化層が古い段階の道路面(KR３)と考えられる。幅は，KRが2.1m，側溝の上幅は，SX007が3.1m，SX207が1.9mである。路面には轍痕が存在する。側溝の深さは，道路面から底まで20cm～40cmである。その後，10cm～20cmの間層を挟んで幅約３m硬化層(KR４)が形成され，直上に現代の造成土が載る。

中央部（SPC-C′）

北側と南側に土坑が形成され，それが埋没した後に道路面が形成されている。北側の土坑覆土上面には宝永テフラ層が載り，そのレベルで幅2.4mの硬化層(KR３)があり，さらに10cmほどの間層を挟んで幅2.8mの硬化層(KR４)が載る。SPA-A′同様，古い路面は近世前期と考えられる。

西端部付近１（SPD-D′）

現代の道路造成土を除去すると，間層なく幅1.9mの道路面(KR)，両側に側溝の覆土が検出された。側溝の上幅はSX007，SX207共に2.9mである。いずれも埋没途中段階でピットが掘り込まれている。

西端部付近２（SPE-E′）

SPD-D′同様の状況である。道路面(KR)の幅は2.6m，側溝の幅はSX007は2.5m，SX207は３mである。

土層堆積状況をまとめると，次のようである。東端部では，近世の道路面と中世の道路面（両側側溝）がずれていたため，プライマリーな中世道路面が検出された。一方，それより西側では，堀状に掘り込まれた底面を道路面としているため，中世から近世までは同一面で機能していたと考えられる。

(3) 遺物出土状況

本遺跡出土遺物の約６割がこの道の覆土中から出土した。縄文土器，弥生土器，土師器，須恵器など原始・古代の遺物が若干あるが，中心は中世陶磁器であり，特に常滑甕の破片が多い。分布は東側に集中し，西側は少ない。これは，東側が現代の道路造成での削平が少なく，西側よりも覆土が残存していたことが一つの理由であろうが，側溝覆土中からの出土はやはり東側に多い。側溝内の中世遺物の大部分は，宝永テフラより下位の覆土上層からの出土で，覆土中～下層からはほとんど出土しなかった。なお，この道路以外の遺物との接合・同一個体関係が多く見られることから，中・近世を通じて周囲から投げ捨てられた可能性が高い。また，18世紀後半以降の近世陶磁器，瓦，銭貨も本遺構から出土しており，陶磁器関係では16%が近世である。

(4) 小結

この道路跡の時期については，まず，古東海道を踏襲しているか否かであるが，側溝心々距離が最大でも4.5mしかなく，最小では約2.7mになってしまうこと，全長133mの道路内で西半部・東半部・東端部と大きく２度も幅が変化すること，側溝内で出土した遺物も中世であること，等からこの道路跡は古代官道を踏襲している可能性は低いことが考えられる。開道時期については，決定するような資料は得られなかったが，出土遺物からは13世紀には使用されていた可能性が考えられる。道路は現在まで機能しているが，側溝がほとんど埋没した後も多くの中世遺物が流入し，しかもその上層には宝永テフラが認められることから，側溝が機能するように常に維持管理されていたのは15世紀後半までであった可能性が強い。その後，18世紀代に改めて整備されて，現代まで使用され続けたことが考えられる。

2　溝・道（第45図～第55図，図版9・10・11・15・16）

鎌倉街道以外の道や溝である。主軸は，鎌倉街道とほぼ同軸或いはほぼ直交するものが多い。いずれも溝状を呈しているが，道は硬化面の存在から判断した。合わせて調査区の西方から説明したい。

SX019（第45図，図版16）

北区西端部で検出された，長さ7mで両側に側溝を持つ道路跡で，主軸はN-10°-Eである。農道と同方向であるが，若干東側にずれている。東側には隣接して高さ70cmの段がほぼ同方向で形成されており，井戸(SX006)が存在する。この段は，鎌倉街道同様，この道が溝状に掘り込まれたものの可能性が高いが，西側は調査区端でもあり不明である。或いは整形区画の可能性もある。南側は，鎌倉街道に切られている様相である。側溝は，3m程で途切れているが，路面はさらに2m程伸び，西側側溝の延長と考えられる溝が南側で検出されている。硬化面は幅50cm～60cm，側溝は北側で幅50cm～60cm，南側で幅1m，深さは10cmである。出土遺物はない。

SD018（第45図）

北区西端近くで3m検出された。主軸はN-3°-E，幅は1m，深さは確認面（ソフトローム面）から約20cm，覆土は砂粒を多く含む暗灰色土層である。出土遺物はない。

SX003（第46図，図版11）

北区西寄りで，18m検出された溝内部に2面の硬化面が形成された道路跡である。主軸はN-12°-E，溝の幅は80cm～1.2m，深さは，掘込み面から上位硬化面までが42cm程，下位硬化面まで55cm程，掘方までが60cm程である。掘込み面より上層で宝永テフラがブロック状に混入しており，覆土上層中から弥生土器片3点，常滑コネ鉢片6点，常滑甕片1点(129)（6a型式・13世紀後半）の，カワラケ片3点，北宋銭2枚(249，254)，貝殻片が出土した。中世の道であることは間違いない。

SD014（第45図）

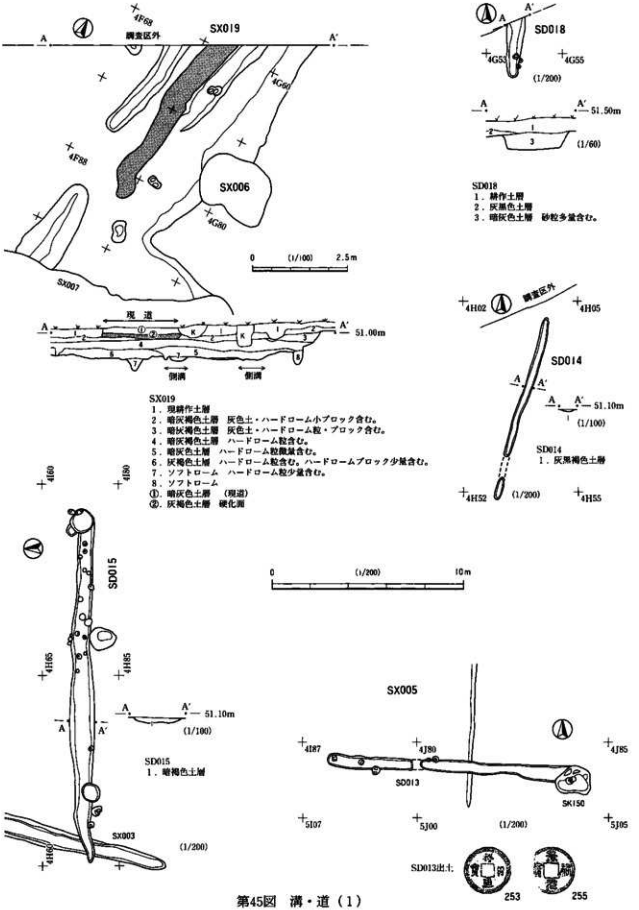
SX003の東側に平行して10m検出された。主軸はN-14°-E，幅は50cm，深さは10cm，覆土は灰黒褐色土である。道SX003との密接な関係が考えられる。出土遺物はない。

SD015（第45図）

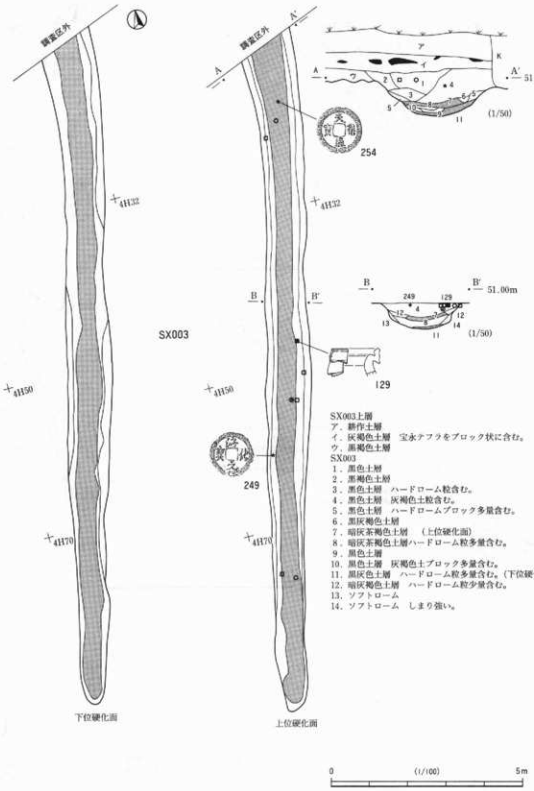
北区西寄りで，18m検出された。主軸は東西方向で，西端部でSX003を切っている。幅は50cm～70cm，深さは15cm程である。周囲のピット群は本遺構覆土を切っているものが多かった。出土遺物はない。

SD013（第45図）

北区中央部の整形区画SX005のほぼ中央を東西に横切り，13.5m検出された。主軸はN-85°-W，幅は60cm～80cm，深さは5cm～10cmと浅い。北宋銭2点(祥府通宝(253)景祐元宝(255))が出土した。SX005より新しい遺構と考えられる。


SX019
調査区外
SX006
SX007
4F68
4G60
0 (1/100) 2.5m
現 道
側溝
側溝
51.00m
SX019
1．黒耕作土層
2．暗灰褐色土層　灰色土・ハードローム小ブロック含む。
3．暗灰褐色土層　灰色土・ハードローム粒・ブロック含む。
4．暗灰褐色土層　ハードローム粒含む。
5．暗灰色土層　ハードローム粒微量含む。
6．灰褐色土層　ハードローム粒含む。ハードロームブロック少量含む。
7．ソフトローム　ハードローム粒少量含む。
8．ソフトローム
①．暗灰色土層　（現道）
②．灰褐色土層　硬化面
SD018
4G53
4G55
(1/200)
51.50m
(1/60)
SD018
1．耕作土層
2．灰黒色土層
3．暗灰色土層　砂粒多量含む。
調査区外
4H02
4H05
SD014
51.10m
(1/100)
SD014
1．灰黒褐色土層
4H52
(1/200)
4H55
4H80
4H80
SD015
4H85
4H85
51.10m
(1/100)
SD015
1．暗褐色土層
SX003
4H95
(1/200)
0 (1/200) 10m
SX005
4I87
4J80
4J85
SD013
SK150
5I07
5J00
(1/200)
5J05
SD013出土
253
255

第45図　溝・道（1）


調査区外
調査区外
A
A'
B
B'
SX003
4H32
4H50
4H70
下位硬化面
上位硬化面
254
249
129
51.00m
(1/50)
SX003上層
ア．耕作土層
イ．灰褐色土層　宝永テフラをブロック状に含む。
ウ．黒褐色土層
SX003
1．黒色土層
2．黒褐色土層
3．黒色土層　ハードローム粒含む。
4．黒色土層　灰褐色土粒含む。
5．黒色土層　ハードロームブロック多量含む。
6．黒灰褐色土層
7．暗灰茶褐色土層　（上位硬化面）
8．暗灰茶褐色土層ハードローム粒多量含む。
9．黒色土層
10．黒色土層　灰褐色土ブロック多量含む。
11．黒灰色土層　ハードローム粒多量含む。（下位硬化面）
12．暗灰褐色土層　ハードローム粒少量含む。
13．ソフトローム
14．ソフトローム　しまり強い。
0
(1/100)
5m

第46図　溝・道（2）

SX022（第47図，図版12）

北区中央部でSX005の東側で検出された屈曲した幅広い溝状遺構である。東西方向の北部は，幅4.3m，長さ7m，南部は南北方向に近いN-15°-Eで，幅2m～2.5mである。深さはいずれも15cm程である。北部の北寄りには，幅50cm～70cm，長さ1.5m～2.2m，深さ数cmの南北方向の溝が東西方向に並ぶ。中世道路遺構によく見られる，いわゆる波板状凹凸で，道路補修痕と考えられる。SX022全体では，常滑コネ鉢片2点（内，転用砥石1点），常滑甕片1点，瓦質壺片3点，カワラケ片5点(174)の他，なぜか釘等の鉄製品8点(219，224，227～231，234)が出土した。

SD026（第47・48図）

SX022の北東部で9m程検出されたほぼ南北方向の2条の溝であるが，西側の溝が東側の溝を切っている。いずれも主軸はN-8°-E，幅は80cm程，深さは60cmである。覆土は灰黒色土で，弥生土器片1点，瀬戸・美濃平碗片1点，常滑甕片1点，不明鉄製品1点(218)が出土した。

SX021（第47・48図，図版11）

北区中央部東寄りで，SX026の東側，SD025の西側にほぼ南北方向で検出された硬化面を有する溝状の道路跡である。調査区北端際で3m，SX022北東部で10m，さらに土坑群を挟んで南側に5m検出された。西側はSD026新段階の溝に，中央部は土坑群に切られていることから，これらより古い道であるが，覆土確認面レベルで宝永テフラが載ることから，中世後半に機能した溝であることが考えられる。主軸はN-1°-E，幅は80cm程，深さは50cmで，硬化面はSX003同様2面存在する。出土遺物はない。

SD025（第48図，図版11）

北区東寄りで，SX021の東側に平行する形で32m検出された。主軸はN-1°-E，幅は50cm～1.2m，深さは60cm程である。掘込み面より上層中に宝永テフラブロックが検出されており，溝覆土にはピットが掘り込まれている。出土遺物はないが中世段階の溝とピットであろう。

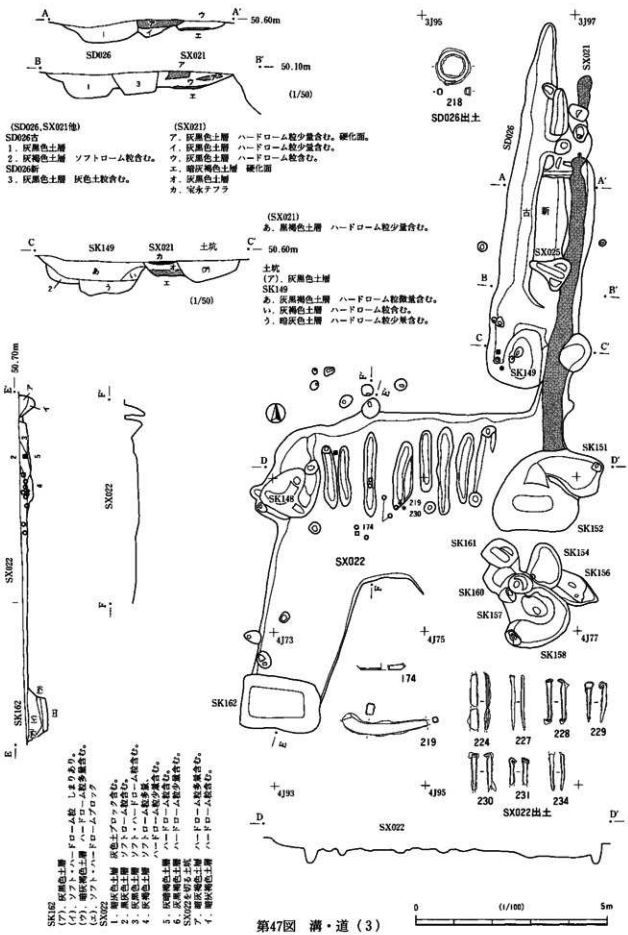
SD024（第48図）

北区東寄りでSD025の東側に南北方向で13m程検出され，東側のSX020と切り合う。主軸はN-12°-Wで，SD025とはやや異なる。幅は60cm～1.4m，深さは掘込み面から30cm程で，覆土上面に宝永テフラが堆積するので中世段階の溝であろう。覆土は暗灰色土で，弥生土器片1点，常滑甕片1点が出土した。

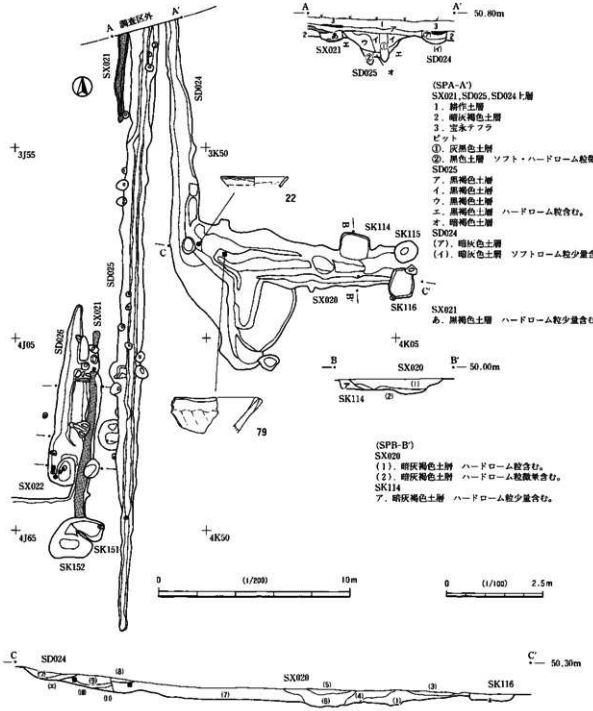
SX020（第48図）

SD024の南端部に接して切るように東西方向に12m程検出された。主軸はN-88°-W，幅は2m程，深さは40cm程で内部には段差が見られる。覆土は暗灰褐色土で，常滑甕片1点の他，確認面でグリッド取り上げであるが，瀬戸・美濃縁釉小皿（22）（古瀬戸後Ⅲ期・15世紀前葉），常滑コネ鉢(79)（7型式・14世紀前半）が出土した。

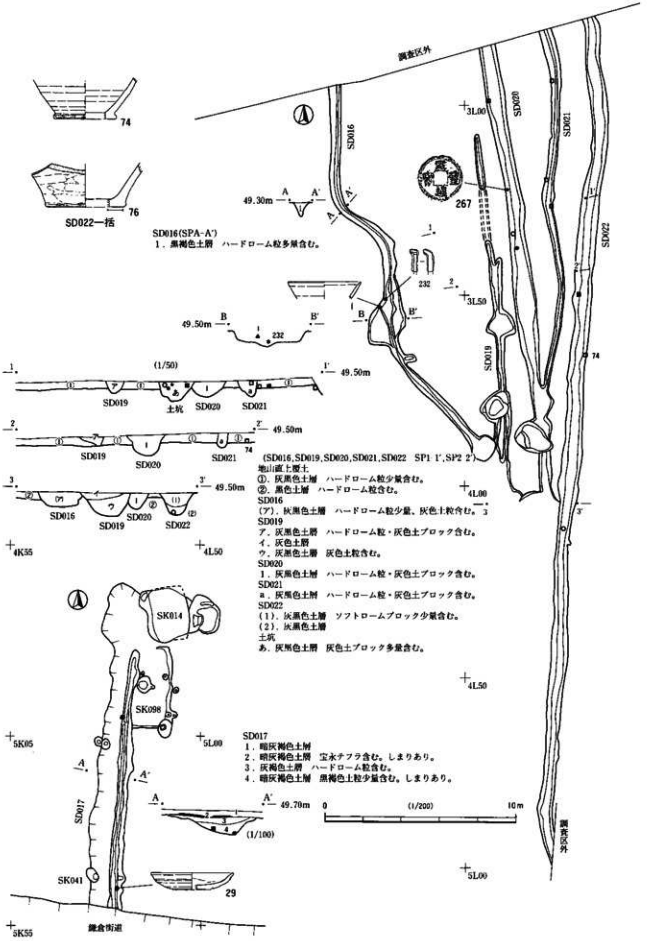
SD016（第49図，図版16）


SD026
SX021
50.60m
50.10m
(1/50)
(SD026,SX021他)
SD026古
1．灰黒色土層
2．灰褐色土層　ソフトローム粒含む。
SD026新
3．灰黒色土層　灰色土粒含む。
(SX021)
ア．灰黒色土層　ハードローム粒少量含む。硬化面。
イ．灰黒色土層　ハードローム粒少量含む。
ウ．灰黒色土層　ハードローム粒含む。
エ．暗灰褐色土層　硬化面
オ．灰黒色土層
カ．宝永テフラ
(SX021)
あ．黒褐色土層　ハードローム粒少量含む。
SK149
土坑
(ア)．灰黒色土層
SK149
あ．灰黒褐色土層　ハードローム粒微量含む。
い．灰褐色土層　ハードローム粒含む。
う．暗灰色土層　ハードローム粒少量含む。
SD026出土
SX022
SX022出土
SK162
(1/100)
5m

第47図　溝・道（3）


A
A'
調査区外
SX021
SD024
SD025
3J55
3K50
22
SK114
SK115
SX020
SK116
C
C'
B
B'
4J05
4K05
SP026
SX022
79
4J65
4K50
SK151
SK152
50.80m
(SPA-A')
SX021,SD025,SD024上層
1．耕作土層
2．暗灰褐色土層
3．宝永テフラ
ピット
①．灰黒色土層
②．黒色土層　ソフト・ハードローム粒微量含む。
SD025
ア．黒褐色土層
イ．黒褐色土層
ウ．黒褐色土層
エ．黒褐色土層　ハードローム粒含む。
オ．暗褐色土層
SD024
(ア)．暗灰色土層
(イ)．暗灰色土層　ソフトローム粒少量含む。
SX021
あ．黒褐色土層　ハードローム粒少量含む。
50.00m
(SPB-B')
SX020
(1)．明灰褐色土層　ハードローム粒含む。
(2)．暗灰褐色土層　ハードローム粒微量含む。
SK114
ア．明灰褐色土層　ハードローム粒少量含む。
0
(1/200)
10m
0
(1/100)
2.5m
50.30m
(SPC-C')
SD024
(ウ)．暗茶褐色土層
(エ)．暗茶褐色土層　ソフトローム粒含む。
SX020
(3)．灰褐色土層
(4)．灰褐色土層
(5)．暗灰褐色土層　ハードローム粒含む。
(6)．暗灰褐色土層　ソフト・ハードローム粒含む。
(7)．灰褐色土層　ハードローム粒・小ブロック含む。
(8)．灰褐色土層　ハードローム粒少量含む。
(9)．暗灰褐色土層　ハードローム粒少量含む。
(10)．濃黒褐色土層　ハードローム粒少量含む。
(11)．暗灰褐色土層　ハードローム粒少量含む。
SK116
ま．黒褐色土層　ソフトローム粒含む。

第48図　溝・道（4）


調査区外
SD016
SD020
SD021
SD022
SD019
267
232
74
76
SD022一括
SD016(SPA-A')
1．黒褐色土層　ハードローム粒多量含む。
49.30m
49.50m
3L00
3L50
4L00
4L50
5L00
5K05
5K55
4K55
(1/50)
SD019
土坑
SD020
SD021
SD016
SD022
(SD016,SD019,SD020,SD021,SD022　SP1 1',SP2 2')
地山面上層土
①．灰黒色土層　ハードローム粒少量含む。
②．黒色土層　ハードローム粒含む。
SD016
(ア)．灰黒色土層　ハードローム粒少量，灰色土粒含む。
SD019
ア．灰黒色土層　ハードローム粒・灰色土ブロック含む。
イ．灰色土層
ウ．灰黒色土層　灰色土粒含む。
SD020
1．灰黒色土層　ハードローム粒・灰色土ブロック含む。
SD021
a．灰黒色土層　ハードローム粒・灰色土ブロック含む。
SD022
(1)．灰黒色土層　ソフトロームブロック少量含む。
(2)．灰黒色土層
土坑
あ．灰黒色土層　灰色土ブロック多量含む。
SK014
SK098
SD017
SK041
29
鎌倉街道
SD017
1．暗灰褐色土層
2．暗灰褐色土層　宝永テフラ含む。しまりあり。
3．灰褐色土層　ハードローム粒含む。
4．暗灰褐色土層　黒褐色土粒少量含む。しまりあり。
49.70m
(1/100)
0
(1/200)
10m
調査区外

第49図　溝・道（5）

北区北東部で蛇行する溝で，北北西－南南東方向に21m検出された。主軸はN-23°-W，幅は60cmで，断面形は薬研状で，深さは20cmである。覆土は黒褐色土で，縄文土器片1点，土師器片1点，白磁皿片1点（1）（13世紀後半～14世紀前半），鉄釘2点(232)，銅銭1点が出土した。銅銭は小破片であるが，中国銭と見られる。他の溝・道がほぼ直線状であるのに対して蛇行しているのは，北方から入る支谷の地形に沿って，排水溝的な役割を持ったことが推測できる。

SD019（第49図）

SD016の東側にほぼ南北方向に17m検出され，南側で途切れる。主軸はN-6°-Wである。幅は40cm，断面形は薬研状で，深さは15cm～30cmである。覆土は灰黒色土層で，弥生土器片3点が出土した。

SD020（第49図）

SD019のすぐ東側に平行して21m検出された。セクションでは，SD016とSD021を切っている。主軸はN-7°-W，幅は40cm～50cm，断面形は半円形で，深さは30cm程である。覆土は灰黒色土で，弥生土器片9点，常滑甕片1点，カワラケ1点，北宋銭1点(267)（元豊通宝）が出土した。

SD021（第49図）

SD020のすぐ東側にやや蛇行して24m検出され，南部でSD020と合流する。主軸はN-2°-E，幅は30cm～70cmで，断面形は薬研状で，深さは20cmである。覆土は灰黒色土で，還元焼成を含む常滑コネ鉢片3点が出土した。

SD022（第49図，図版12）

SD022のすぐ東側に平行して，北区調査区の東端部で45m検出された。主軸はN-4°-E，幅は80cm～90cm，深さは30cmである。覆土は灰黒色土で，弥生土器片21点，瀬戸・美濃緑釉皿片1点，常滑甕片1点，常滑コネ鉢の転用砥石1点，板碑片1点が出土した。

この北区北東部の溝群周囲は，地山の上に厚さ10cmの土層が載り，溝はそれ以上から掘り込まれている。基本的には，蛇行して幅が狭く断面形が薬研状であるSD016，SD019，SD021とやや規模の大きく直線的なSD020，SD022の2種類あり，前者が排水溝的，後者が区画的な機能ではないかと考えられる。

SD017（第49図）

北区東南端部の整形区画の段の東側下に，14m検出された。主軸はN-3°-E，幅は50cm～70cm，深さは50cmである。覆土上面に宝永テフラが見られ，覆土は灰褐色土で，底部から瀬戸・美濃緑釉皿片1点(29)（古瀬戸後Ⅳ期・15世紀中葉），常滑甕片の転用砥石1点が出土した。

SD203（第40図）

南区で鎌倉街道に沿い76m検出された。主軸はN-85°-Wであるが，鎌倉街道に沿い，或いは南側の墓域を避ける様に，東方でやや北方に曲がり，鎌倉街道に切られた形で合流する。覆土中から，瀬戸・美濃小鉢片1点（古瀬戸後Ⅲ期・15世紀前葉），常滑コネ鉢片3点（7型式・14世紀前半）を含む）壁の転用砥石

1点，貝殻が出土している。

SD202（第50図）

南区東寄りで，幅3m～3.5m，深さ15cmの浅い窪みで北北東－南南西方向に16m検出された。主軸はN-22°-Eである。中央部には主軸がN-14°-Eとややずれた幅70cm程，深さ15cmの溝が11m検出された。覆土中から，弥生土器片1点，青磁碗片1点，瀬戸・美濃椀形鉢片1点(48)（古瀬戸後IV期），大皿1点，常滑コネ鉢片1点(105)（10型式），常滑甕片4点(144他)が出土した。

SD201・SD204・SD205（第50図）

SD201は，南区東端部で，東西方向を主として，両端部で南に折れる様に22m検出された。東西方向の主軸はN-78°-W，幅は1.5m，断面形は底は円形であるが薬研に近く。深さは1.5m～2mで，小規模な堀状である。覆土は茶褐色土で，上面に宝永テフラが溜まる。青磁碗片1点，青磁盤片1点，瀬戸・美濃縁釉皿片5点（21・古瀬戸後III期・15世紀前葉　他），天目茶碗片1点，擂鉢片3点，花瓶片1点(57)（古瀬戸後IV期・15世紀後半），常滑コネ鉢片1点(102)（10型式），甕片8点(139他)（9・10型式・15世紀代），甕の転用砥石1点，カワラケ片2点が出土した。なお，SD204はSD201の西端部で北に膨らみ南側に折れるもので，基本的にはSD201の一部であろう。SD205は，SD204の北西部に検出された幅70cm，長さ3m，深さ30cmの小規模な溝である。

SD201は規模もやや大きく堀状で，東西端で南に折れること，すぐ北側の鎌倉街道内でも遺物が集中し，優品が多く，接合・同一個体関係も多いこと等から，ある程度の階級の屋敷の北側を区画する堀状の施設の可能性も考えられる。

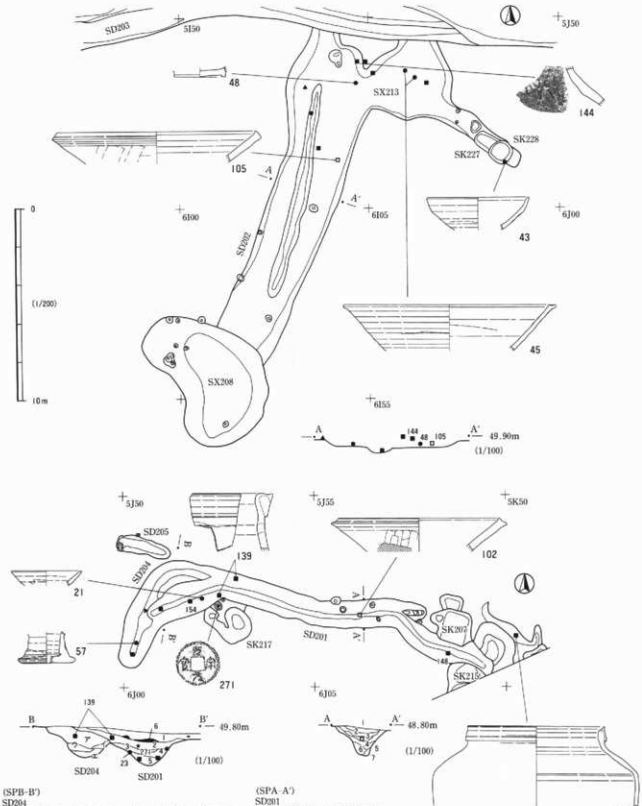
SD027（第51図，図版13）

中区で東側に出る弧を描き，基本的には南北方向に30m検出された。主軸はN-15°-E，幅は4.5m，西側は支谷で窪んでおり，深さは西側で60cm程，東側で1m程である。両壁にピットが多く掘られていおり，この溝に沿った植栽痕の可能性がある。覆土中の遺物は多く，土師器片1点，土錘1点，瀬戸・美濃縁釉皿片2点(19，20)（古瀬戸後II期・14世紀末～15世紀初頭），大皿片1点(46)（古瀬戸後III期・15世紀前葉），常滑コネ鉢片6点(67，75)（4型式・13世紀初頭～10型式・15世紀後半），常滑甕片4点(144他，4～5型式），コネ鉢の転用砥石1点(80)，カワラケ片1点，板碑片1点，砥石1点(208)が出土した。すぐ南側の整形区画Fからの廃棄品や流れ込みの可能性が考えられる。

SD023・SD007（第51・52図，図版10）

中区の北から東区中央部で鎌倉街道にほぼ沿う東西方向に計105m検出され，東端部で南に折れ7m検出された。東西方向の主軸はN-8°-W，南北方向の主軸はN-5°-Eである。幅は50cm～1m，深さは掘込み面から70cm，断面形は中区と東区では異なるが，基本的には，底部にさらに幅50cmの箱状の溝を持つような形態である。覆土は黒色土で，遺物は縄文土器4点が出土したのみである。

SD006（第53図，図版9）



(SPB-B')

SD204

ア．茶褐色土層　径8～9cmのハードロームブロック多量含む。

イ．暗茶褐色土層　ハードロームブロック少量含む。

ウ．灰黒色土層　径2～3cmのハードロームブロック多量含む。

エ．灰茶褐色土層　ハードローム粒が斑点状に見られる。

SD201

1．茶褐色土層　宝永テフラ含む。

2．灰茶褐色土層　ローム粒少量含む。

3．茶褐色土層　炭化物少量含む。

4．明褐色土層　黒褐色土粒多量含む。

5．明褐色土層　暗褐色土粒・ハードローム粒多量含む。

6．宝永テフラ

(SPA-A')

SD201

1．暗褐色土層　黒褐色土粒含む。

2．暗褐色土層　黒褐色土粒多量含む。

3．黒褐色土層

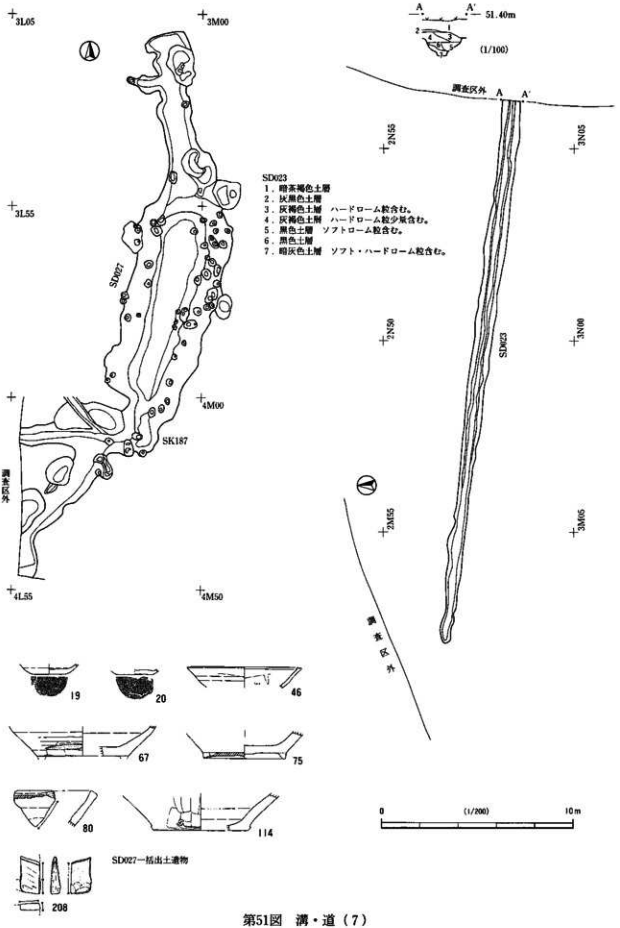
4．暗褐色土層　ハードローム粒多量含む。

5．暗褐色土層　黒褐色土粒少量含む。

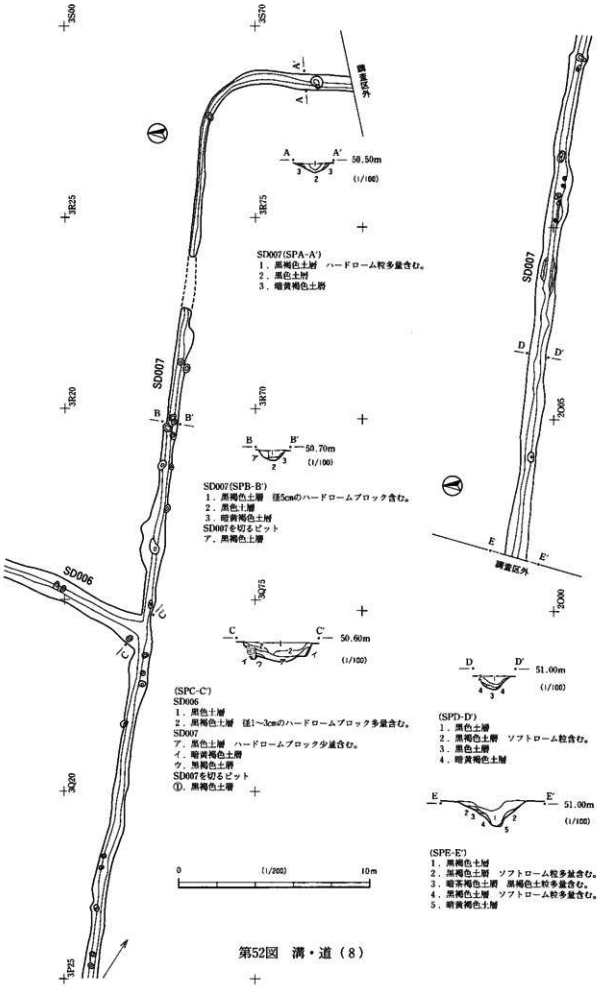
6．黒褐色土層　暗褐色土粒多量。
径1cmのハードロームブロック少量含む。

7．暗褐色土層　黒褐色土粒・ハードローム粒含む。

第50図　溝・道（6）


3L05
3M00
3L55
4M00
4L55
4M50
SD027
SK187
調査区外
SD023
1．暗茶褐色土層
2．灰黒色土層
3．灰褐色土層　ハードローム粒含む。
4．灰褐色土層　ハードローム粒少量含む。
5．黒色土層　ソフトローム粒含む。
6．黒色土層
7．暗灰色土層　ソフト・ハードローム粒含む。
A
A'
51.40m
(1/100)
2N55
3N05
2N90
3N00
2M55
3M05
SD023
19
20
46
67
75
80
114
208
SD027一括出土遺物
0
(1/200)
10m

第51図　溝・道（7）


3S70
3S25
3R75
3R20
3R70
3R25
3R75
3R20
3R25
3S20
3S25
3S65
3S00
SD007
SD006
調査区外
A
A'
50.50m
(1/100)
SD007(SPA-A')
1．黒褐色土層　ハードローム粒多量含む。
2．黒色土層
3．暗黄褐色土層
B
B'
50.70m
(1/100)
SD007(SPB-B')
1．黒褐色土層　径5cmのハードロームブロック含む。
2．黒色土層
3．暗黄褐色土層
SD007を切るピット
ア．黒褐色土層
C
C'
50.60m
(1/100)
(SPC-C')
SD006
1．黒色土層
2．黒褐色土層　径1～3cmのハードロームブロック多量含む。
SD007
ア．黒色土層　ハードロームブロック少量含む。
イ．暗黄褐色土層
ウ．黒褐色土層
SD007を切るピット
①．黒褐色土層
0
(1/200)
10m
D
D'
51.00m
(1/100)
(SPD-D')
1．黒色土層
2．黒褐色土層　ソフトローム粒含む。
3．黒色土層
4．暗黄褐色土層
E
E'
51.00m
(1/100)
(SPE-E')
1．黒褐色土層
2．黒褐色土層　ソフトローム粒多量含む。
3．暗茶褐色土層　黒褐色土粒多量含む。
4．黒褐色土層　ソフトローム粒多量含む。
5．暗黄褐色土層

第52図　溝・道（8）

東区東寄りで北北東－南南西方向に45m検出された。主軸はN-20°-E，幅は1.3m，深さは掘込み面から70cm，断面形状はSD007と同様である。覆土は黒色土で出土遺物はない。

SD005（第53図，図版９）

SD006の東側に隣接して平行して37m検出されたが，SD006に切られ，北端部で東西方向のSD003を切っている。主軸はN-20°-E，幅は80cm～１m，深さは掘込み面から40cm，断面形は逆台形である。覆土は黒色土で，弥生土器片３点，常滑コネ鉢片１点（94・９型式・15世紀前半），常滑甕４点(124・５型式・13世紀前半　他）が出土した。

SD003（第54図，図版９）

東区北東部でSD007とほぼ同方向で28m検出された。主軸はN-15°-W，幅は60cm，深さは50cm～70cm，断面形は両壁が垂直に近い。覆土は黒褐色土で，常滑コネ鉢片１点が出土した。

SD001・SD002（第54図，図版９）

東区北東端部でほぼ南北方向に並んで検出された。SD001は14m，SD002は12mである。主軸はN-９°-E，幅は80cm～１m，深さは15cm～30cm，覆土は黒色土で，SD001から常滑コネ鉢片１点が出土した。東側の谷津に降りる緩斜面に位置している。

SD011（第54図，図版16）

東区南西部にほぼ東西方向で，16m検出された２本の溝が絡んでいる様相である。主軸はN-12°-W，東側は幅が約１m，深さが20cm～45cmの丸底，西側は幅が約１m，深さが45cmの薬研状である。覆土は黒褐色土で，還元焼成の常滑コネ鉢１点，カワラケ１点が出土した。

SD012（第55図，図版10）

東区北西端で，6.5m検出された。主軸はN-38°-E，幅は50cm，深さは20cm，断面形は半円形である。出土遺物はない。

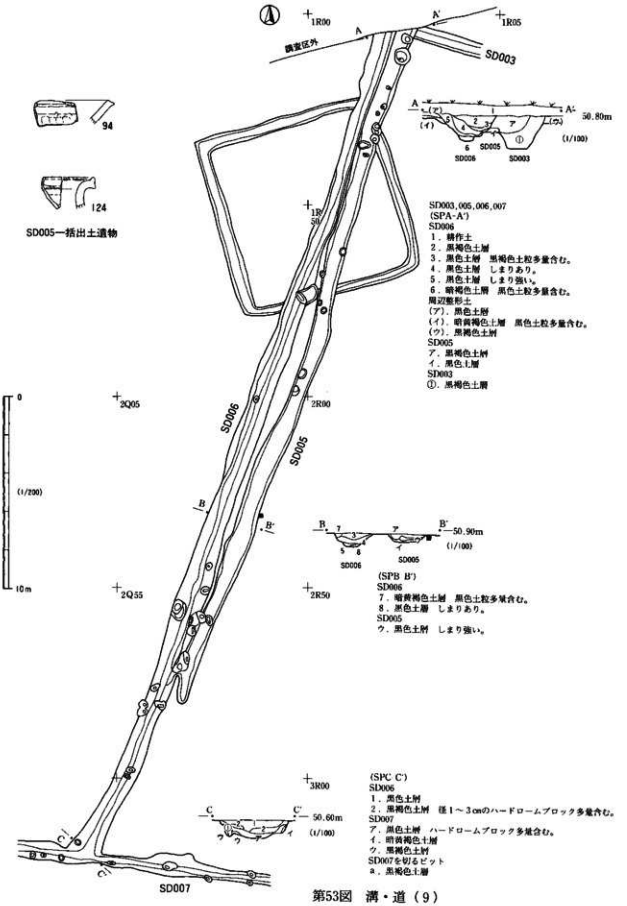
SD010（第55図，図版10）

東区南西端部で北東側に突出する緩やかな弧を描き，10m検出された。主軸はN-48°-W，幅は50cm，深さは20cm，断面形は半円形である。覆土は黒褐色土で，鉄釘１点(226)が出土した。

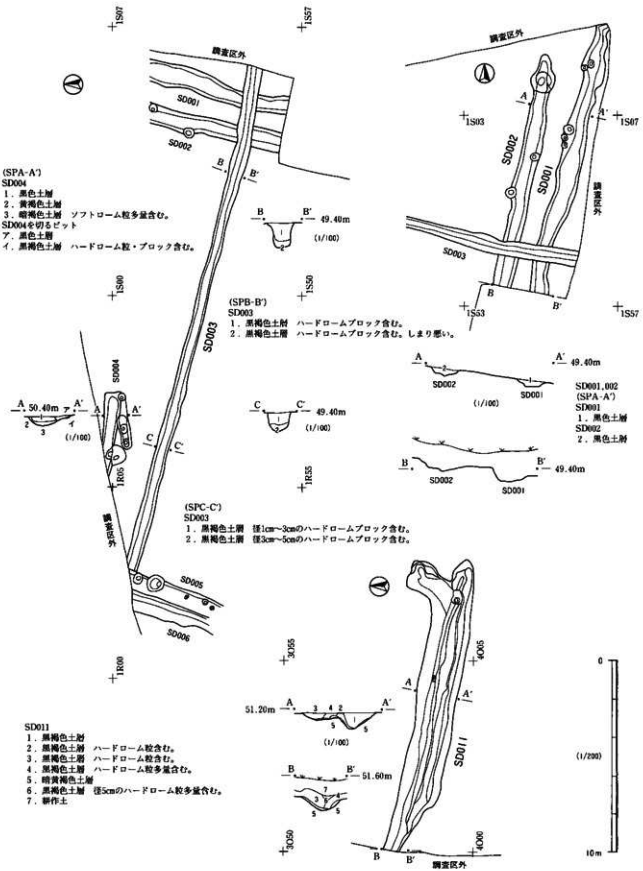
SD009（第55図，図版10）

東区南西端部近くで南北方向に14m検出された2本の溝である。西側の幅は50cm，深さは15cm，東側は西側の溝を切り，幅は90cm，深さは30cm～40cmである。覆土はいずれも黒色土で，弥生土器片６点，瀬戸・美濃天目茶碗片１点，カワラケ片１点が出土した。

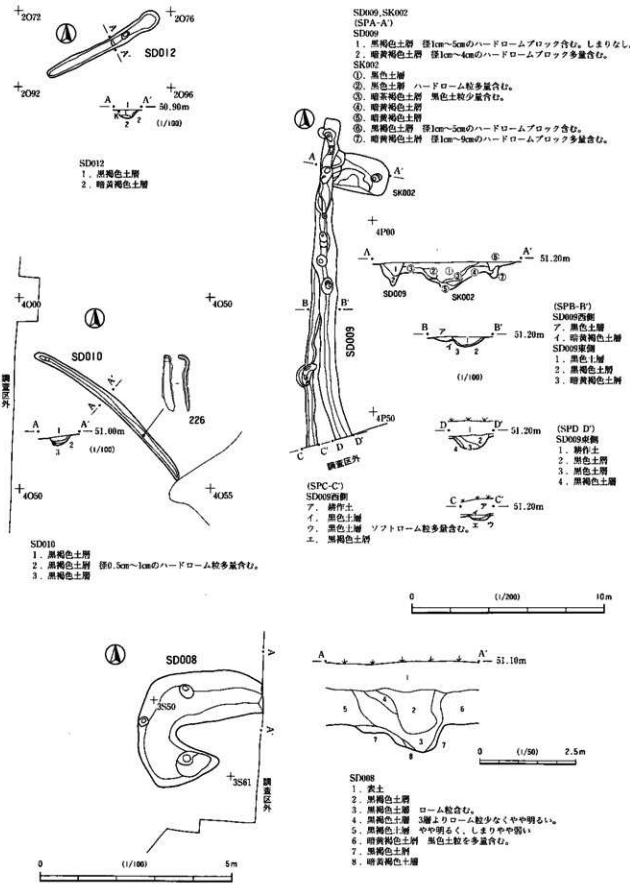
SD008（図版15）


調査区外
SD003
SD005
SD006
SD007
94
124
SD005一括出土遺物
50.80m
50.90m
50.60m
(1/100)
(1/200)
SD003,005,006,007
(SPA-A')
SD006
1．耕作土
2．黒褐色土層
3．黒色土層　黒褐色土粒多量含む。
4．黒色土層　しまりあり。
5．黒色土層　しまり強い。
6．暗褐色土層　黒色土粒多量含む。
周辺整形土
(ア)．黒色土層
(イ)．暗黄褐色土層　黒色土粒多量含む。
(ウ)．黒褐色土層
SD005
ア．黒褐色土層
イ．黒色土層
SD003
①．黒褐色土層
(SPB B')
SD006
7．暗黄褐色土層　黒色土粒多量含む。
8．黒色土層　しまりあり。
SD005
ウ．黒色土層　しまり強い。
(SPC C')
SD006
1．黒色土層
2．黒褐色土層　径1～3cmのハードロームブロック多量含む。
SD007
ア．黒色土層　ハードロームブロック多量含む。
イ．暗黄褐色土層
ウ．黒褐色土層
SD007を切るピット
a．黒褐色土層

第53図　溝・道（9）


調査区外
SD001
SD002
SD003
SD004
SD005
SD006
SD011
(SPA-A')
SD004
1．黒色土層
2．黄褐色土層
3．暗褐色土層　ソフトローム粒多量含む。
SD004を切るピット
ア．黒色土層
イ．黒褐色土層　ハードローム粒・ブロック含む。
(SPB-B')
SD003
1．黒褐色土層　ハードロームブロック含む。
2．黒褐色土層　ハードロームブロック含む。しまり悪い。
(SPC-C')
SD003
1．黒褐色土層　径1cm～3cmのハードロームブロック含む。
2．黒褐色土層　径3cm～5cmのハードロームブロック含む。
SD001,002
(SPA-A')
SD001
1．黒色土層
SD002
2．黒色土層
SD011
1．黒褐色土層
2．黒褐色土層　ハードローム粒含む。
3．黒褐色土層　ハードローム粒含む。
4．黒褐色土層　ハードローム粒多量含む。
5．暗黄褐色土層
6．黒褐色土層　径5cmのハードローム粒多量含む。
7．耕作土
49.40m
50.40m
51.20m
51.60m
(1/100)
(1/200)
10m

第54図　溝・道（10）


SD012
SD010
SD008
SD009
SK002
調査区外
226
(1/100)
(1/200)
(1/50)
0
10m
2.5m
5m
51.00m
50.90m
51.20m
51.10m
SD012
1．黒褐色土層
2．暗黄褐色土層
SD009,SK002
(SPA-A')
SD009
1．黒褐色土層　径1cm～5cmのハードロームブロック含む。しまりなし。
2．暗黄褐色土層　径1cm～4cmのハードロームブロック多量含む。
SK002
①．黒色土層
②．黒色土層　ハードローム粒多量含む。
③．暗茶褐色土層　黒色土粒少量含む。
④．暗黄褐色土層
⑤．暗黄褐色土層
⑥．黒褐色土層　径1cm～5cmのハードロームブロック含む。
⑦．暗黄褐色土層　径1cm～9cmのハードロームブロック多量含む。
(SPB-B')
SD009西側
ア．黒色土層
イ．暗黄褐色土層
SD009東側
1．黒色土層
2．黒褐色土層
3．暗黄褐色土層
(SPD-D')
SD009東側
1．耕作土
2．黒色土層
3．黒色土層
4．黒褐色土層
(SPC-C')
SD009西側
ア．耕作土
イ．黒色土層
ウ．黒色土層　ソフトローム粒多量含む。
エ．黒褐色土層
SD010
1．黒褐色土層
2．黒褐色土層　径0.5cm～1cmのハードローム粒多量含む。
3．黒褐色土層
SD008
1．表土
2．黒褐色土層
3．黒褐色土層　ローム粒含む。
4．黒褐色土層　3層よりローム粒少なくやや明るい。
5．黒褐色土層　やや明るく、しまりやや弱い
6．暗黄褐色土層　黒色土粒を多量含む。
7．黒褐色土層
8．暗黄褐色土層

第55図　溝・道 (11)

東区南東隅で検出された，西側に突出するU字状の溝である。幅は1.3m程，深さは西側で25cmであるが，東側で50cmと深くなる。内部に深さ25cm～40cmの２基のピットが掘り込まれているが，対になる可能性が高い。覆土は黒褐色土で，表土直下40cmから掘り込まれている。

3　整形区画（第39図）

本遺跡中には，台地に段差を造成した整形区画が少なくとも６か所確認された。各区画中には，掘立柱建物跡，方形竪穴，地下式坑，土坑墓，土坑等の遺構が密集するので，それぞれについての詳細は，各遺構の項で紹介し，第７章でまとめたい。よって，ここでは位置と概要を記す。

整形区画Ａ（SX005）（第65図，図版12）

北区中央部の方形区画で，東西軸は南側の鎌倉街道に沿う。規模は東西16m，南北12mで，面積約180m²である。北西部はやや突出し，南東部の段差は見られない。段差に沿っては，北辺に半地下式の方形土坑墓２基，北西部に４基の円形土坑墓，南西部に２基の方形竪穴が存在する。内部には，ピット群があるが，東西に長い掘立柱建物跡とそれを囲む様な垣根状柵列が復元できる。また，掘立柱建物跡の下に方形竪穴が２基存在する。この掘立柱建物跡と方形竪穴の新旧関係は不明であるが，同時存在とすれば，土間的な空間の可能性もあろう。南西部の長方形の方形竪穴は，土坑墓の可能性もあるが，作業小屋的な竪穴に推測される。区画内には中世遺物が散布しており，屋敷墓を持つ屋敷の可能性が考えられる。

整形区画Ｂ

南区中央部の土坑群で，明確な段整形は北辺に確認できるのみであるが，周辺部が削平されているので，少なくとも東西15m，南北５m，面積75m²の区画を想定した。地下式坑，方形竪穴，火葬土坑，土坑墓群からなる。

整形区画Ｃ

北区東部の谷津内に形成された段整形遺構群の北部にあたる。北側はSX020，西側と南側は段差で区画される。西境はSD016と考えられ，東西16m，南北８m，面積約130m²の範囲に想定される。内部には方形竪穴を中心に土坑墓群が形成されている。

整形区画Ｄ

整形区画Ｃの南側に位置し，東側はSD017とそれに伴う段差によって区画される。東側の南半部は西側にやや突出しており，東西18m，南北24m以上，面積360m²以上の範囲である。内部は北から西側段差部分に地下式坑，中央部に掘立柱建物跡，それを囲む様に方形竪穴，地下式坑と方形竪穴の間に土坑墓群という基本的配置がされる。また，鎌倉街道近くに井戸が掘られている。

整形区画Ｅ

整形区画Ｄの東側に位置し，東側はSD022で区画されると考えられる。東側と南側は攪乱等で遺構検出ができなかった模様であるが，東西10m，南北15m以上，面積130m²以上の規模に推測される。

整形区画F

中区の南半部で西側の整形区画C，D，Eと同様，小支谷の埋没谷の地形に沿って形成されている。北東－南西方向は10m～14m，北西－南東方向は南側が調査区外にかかるが17m以上，面積は220m²以上である。内部は東側の段差に沿って土坑墓群，中央部に方形竪穴，西側に井戸が検出された。

整形区画G

迂回路区の西側の遺構集中区では，東側の地下式坑SK311から地下式坑SK307方向から西側に傾斜が存在する。また，不整形竪穴としたSX300とその内部の土坑は，整形区画の一部である可能性もある。地下式坑は整形の段部分に造られる例が多いことからも，この地区に整形区画の存在が想定される。

整形区画H

迂回路区の中央部の遺構集中区では，地下式坑SK310・方形竪穴SK301の西側から東側にかけて傾斜が確認できる。また，SK308周囲では北側に傾斜が見られる。明確な段は検出されなかったが，当地区にも整形区画が想定できる。

4　ピット群（第56～59図）

(1)　概要

本遺跡で検出されたピットは約2,200基と膨大な数であるが，古代の様な直線的で間尺の合った明確な上屋構造はなく，発掘調査段階では，東区で2棟の掘立柱建物跡が推定されたのみであった。よって，本書では，その性格を明らかにするために，まず，集中ブロックを捉え（第56・57図），溝等の遺構調査前に確認されて調査されたピットについては，深さを記号で表した（第58・59図）。

集中か所については，まず，鎌倉街道の南北縁に沿うような東西方向のものとそれに直交するようなピット群が目立つ。これらは，一つ一つは直線的ではなく粗密もあるが，集合体として直線的になることから，並木状植栽痕と想像した。また，調査区中央部から西部に関しては，不確実ながら建物域が復元できる。特に北区中央部のSX005内部とそれ以西の鎌倉街道に沿ったピット群である。後者の南北側には若干の空間をおいて東西にもピットが並ぶことから建物の敷地境の並木か垣根が想像できる。東部のピットも数多いが，この地区は，中央や西部に比べて中世のみならず原始・古代の遺物量も格段に少なく，掘立柱建物跡としては，さらに不確実である。しかし，現代の耕作（トレンチャー）による攪乱やソフトローム面に達しない柱や横木の使用等の可能性もあり，参考資料としてエレベーションを復元した。

各ピットの深さについては，掘立柱建物跡等を組む際の参考となった。特にSX005内の掘立柱建物跡を囲む垣根状の柵列はほぼ同じであること，並木状植栽痕としたものは，深いものが多いがばらつきがおおきいこと，概して，東区のピットは浅いものが多いこと等である。今後の検討資料としても提供するものである。

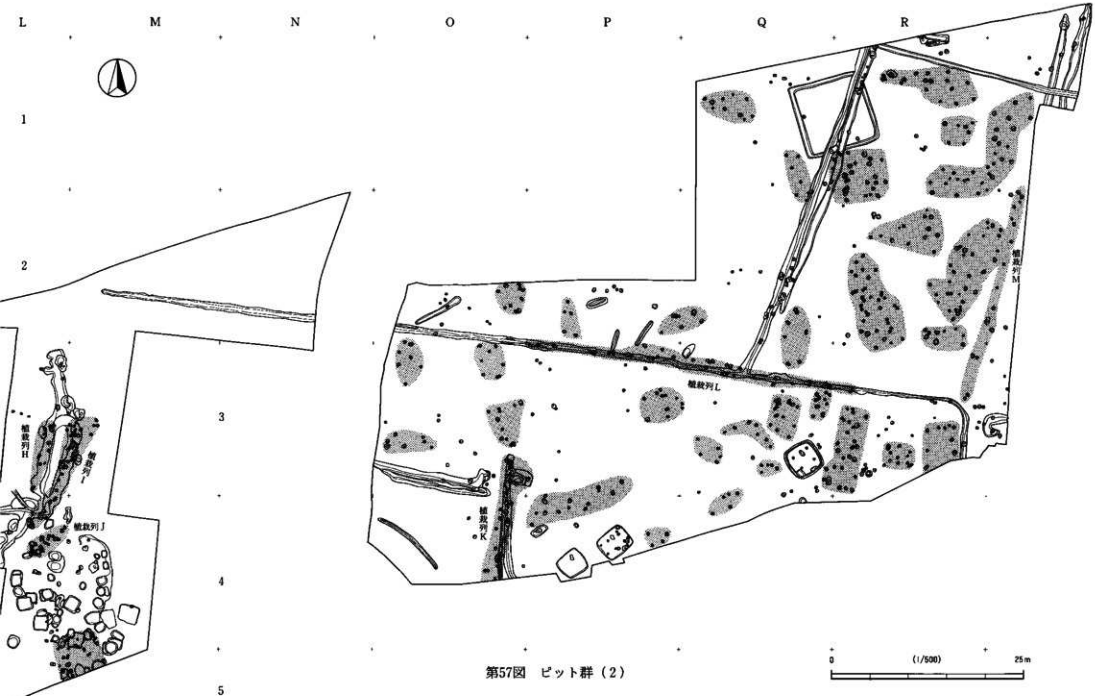
以下，区画遺構の一つとして捉えた並木状植栽痕列から説明したい。

(2)　植栽痕（第56・57図）

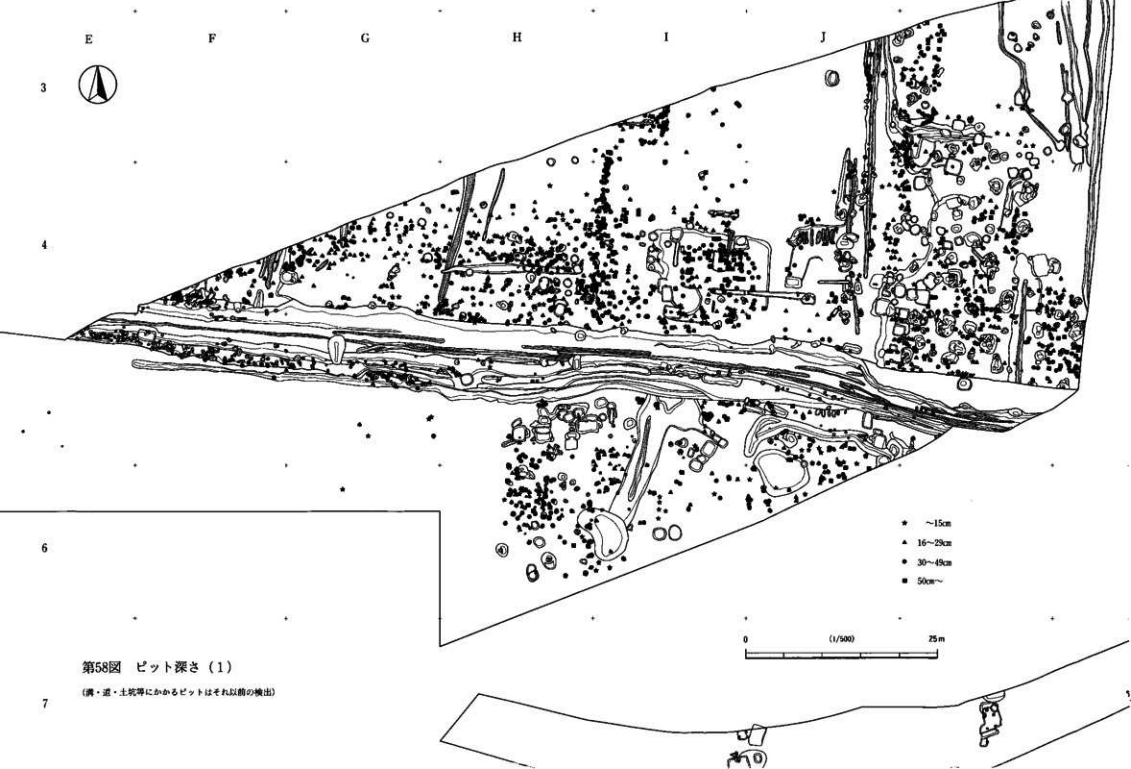
鎌倉街道沿い

既に鎌倉街道の項で説明したが，西方中心に縁から壁面に多くのピットが存在する。直線上には並ばず，

第56図　ピット群（1）

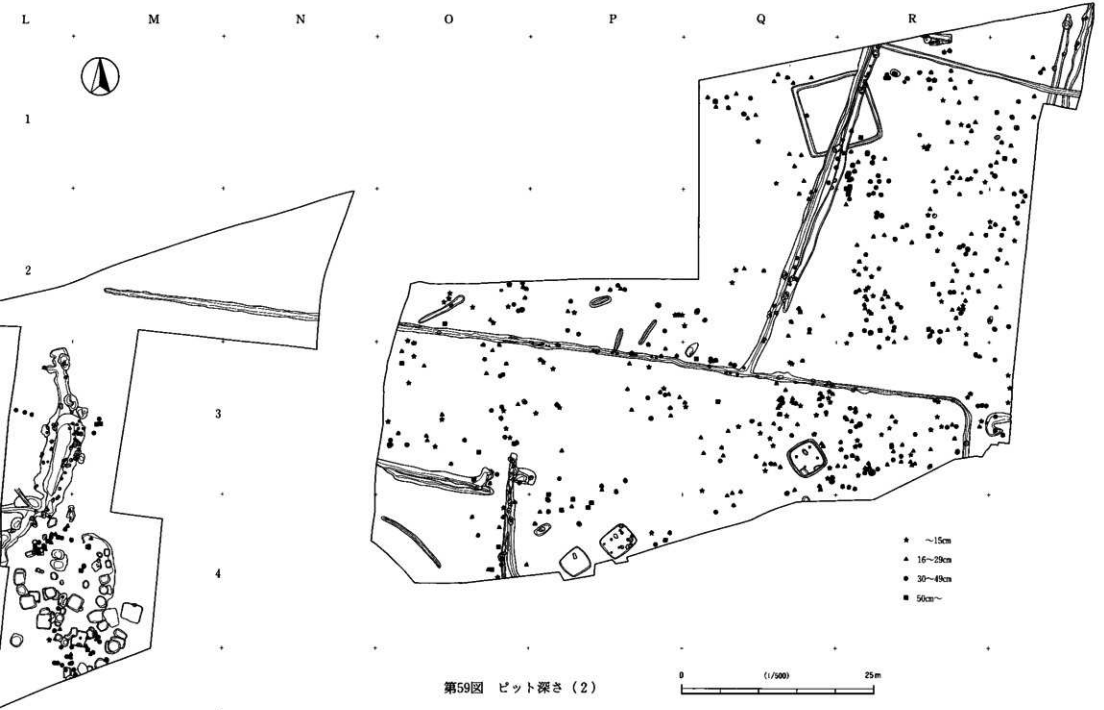


第57図　ピット群（2）



第58図　ピット深さ（1）

（溝・道・土坑等にかかるピットはそれ以前の検出）



第59図　ピット深さ（2）

集合体として，鎌倉街道のほぼ全域の南北縁に沿う形で２条検出された。北側を植栽列Ａ，南側を植栽列Ｂとした。主軸は両者共基本的にN-84°-Wである。

北区

整形区画Ａ(SX005)の西側の幅３ｍ～４ｍで南北方向（主軸N-５°-E）に25mのピット群を植栽列Ｃ，また，東側のSD025に重なる様に，幅２ｍ程でほぼ南北軸に28mのピット群を植栽列Ｄとした。さらにその東側に幅２ｍ～５ｍで南北方向（主軸N-10°-E）に33mのピット群を植栽列Eとした。また，整形区画Ｃの西側の幅２ｍ，南北方向（主軸N-８°-E）に８ｍのピット群を植栽列Ｆとした。

南区

南区中央部の幅３ｍ，南北方向（主軸N-３°-E）に長さ８ｍのピット群は，北区の植栽列Ｃの延長線上に近いが若干西にずれるので，別のものと判断し，植栽列Ｇとした。

中区

中区のSD027の西側縁にあるピット群を植栽列Ｈ（主軸N-13°-E），東側のピット群を植栽列Ｉ（主軸N-27°-E），整形区画Ｆの北側に位置するピット群を植栽列Ｊ(主軸N-58°-E)とした。幅は２ｍ～３ｍ，長さはＨが10m，Ｉが16m，Ｊが７ｍである。ＨとＩの北部はほぼ南北であるが，ＩとＪは北東－南西方向と変化し，その間の空白域を道と想像できる。

東区

東区のSD009に沿うような幅２ｍ，南北方向(主軸N-11°-E)に長さ16mのピット群を植栽列Ｋ，SD007に沿うような幅２ｍ，東西方向（主軸N-82°-W）の長さ43mのピット群を植栽列Ｌとした。また，密度は薄いがSD005，006と同方向で南北（主軸N-15°-E）に並ぶ東端部のピット群を植栽列Ｍとした。

第3節　生活関連遺構

1　掘立柱建物跡・柵列

中世の掘立柱建物跡や柵列の内，正確な方形や間尺ではないものが存在することを想定しなければ，多くの中世遺跡で検出されるピット群の解釈は進展しないと考え，多少の無理があっても想定したものである。遺跡全体を1/250の平面図に分けて，ピット群が検出された1区～6区について概観する。

1区（第61・62図）

SB003とSB007・SB008は鎌倉街道に沿うように東西軸で建つが，SB004～SB006は軸がずれる。また，SB003以外は鎌倉街道との間に遺構の空白地帯を有するので，庭的な場が想定できる。

SB003は桁行・梁行共4.5m(15尺)の掘立柱建物跡を想定した。SB004とSB005はずれているが，軸を同じにするので，或いは同一建物かも知れない。同一と想定すると桁行4.5mである。またそれに重なった形のSB006は梁行2m以上，桁行4mである。SB007は梁行・桁行共4.5mで西側に縁側か庇或いは増築部分が想定できる。SB008も梁行・桁行共4.5mであるが，内柱または別建物として，梁行2m(約7尺)・桁行3m(10尺)の区画が想定できる。

2区北区（第63・64図）

SB009・SB010とSB012～SB014は東西軸で並び，他はほぼ東西軸だが，点在する。SX005内のSB018は別項で扱う。

道跡SX003と並木状植栽痕Cとの間の区間については，東西軸のSB009は梁行2.5m(約8尺)・桁行4m(約13尺)，その南東部に重なるSB010は梁行2.1m(7尺)・桁行3m(10尺)，SB009内部で軸が異なるSB011は梁行1.5m(5尺)・桁行2.7m(9尺)，SB012は梁行2.2m(約7尺)・桁行2.5m(約8尺)，SB013は梁行1.8m(6尺)・桁行2m(約7尺)，SB014は梁行2.5m(約8尺)・桁行3.6m(12尺)，SB015は梁行2.1m(7尺)・桁行2.7m(9尺)である。

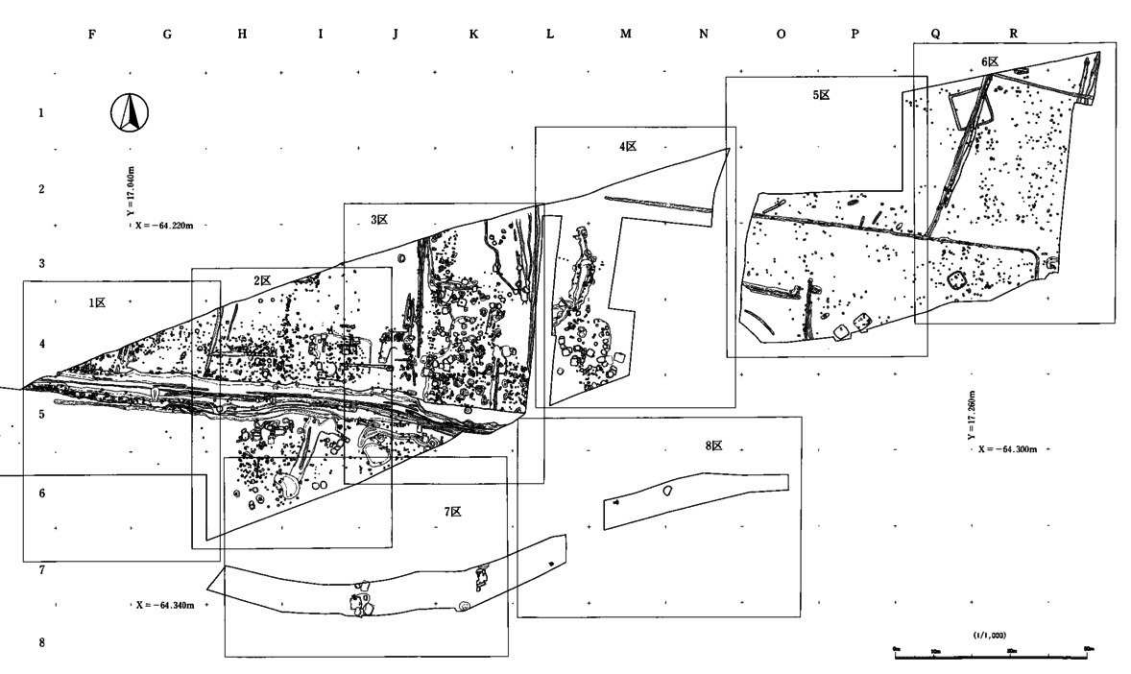
並木状植栽痕Cと整形区画A(SX005)との間については，SB016は梁行2m(約7尺)・桁行3.3m(11尺)，SB017は梁行3m(10尺)・桁行3.3m(11尺)であるが，西側に縁側或いは庇が想定できる。または植栽痕の一部の可能性もある。

整形区画A（SX005）内（第63・65図）

東西軸で，梁行3.6m(12尺)・桁行6.9m(23尺)の掘立柱建物跡SB018が想定できる。建替えのためか，二重に造られているようである。これらの柱穴の深さは80cm前後と他の掘立柱建物跡より深くしっかり造られているようである。また，周囲を巡るピットは共通して径が小さく，深さも30cm～40cmであり，庭を囲むような垣根が想像できる。整形区画の項でも触れたが，この垣根状柵列と整形の段との間には土坑墓や方形竪穴が造られており，前者が屋敷墓，後者が作業小屋または物置と想像できる。

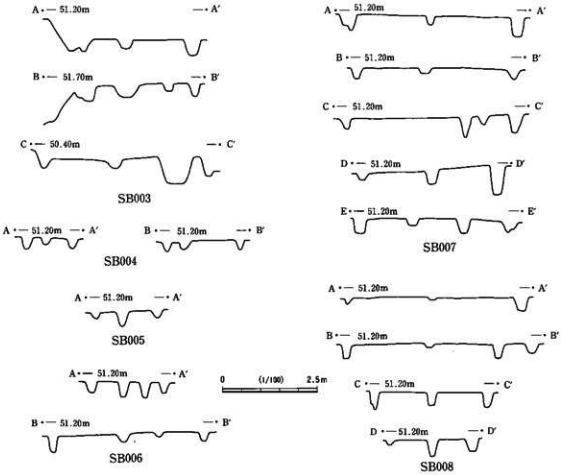
2区南区（第63・64図）

整形区画Bの土坑群の南側にSB021，SB022が，SD201の南側にSB023が，両者の間に小規模な柵列SA008が想定される。



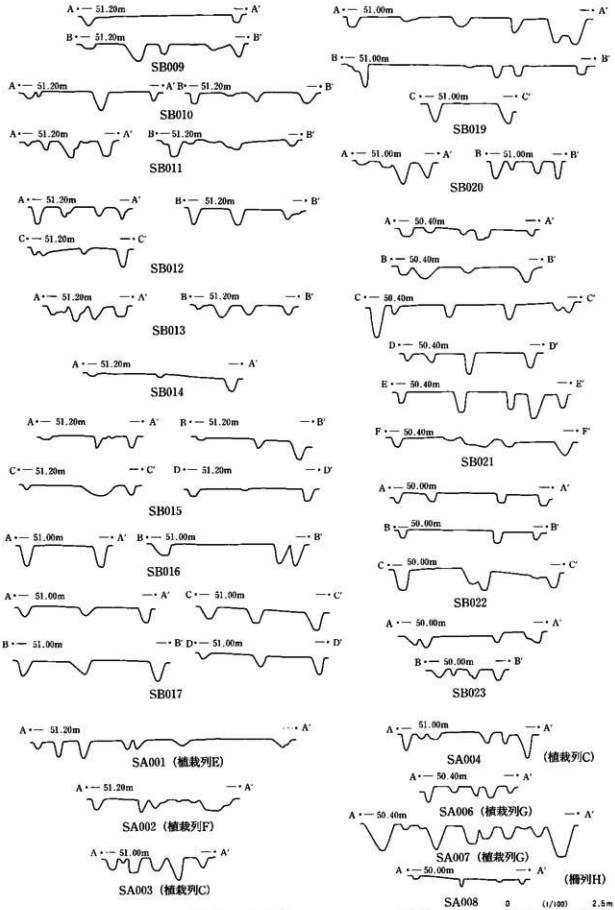
第60図　1/250平面図区画割

第61図　掘立柱建物跡他想定図（１区）

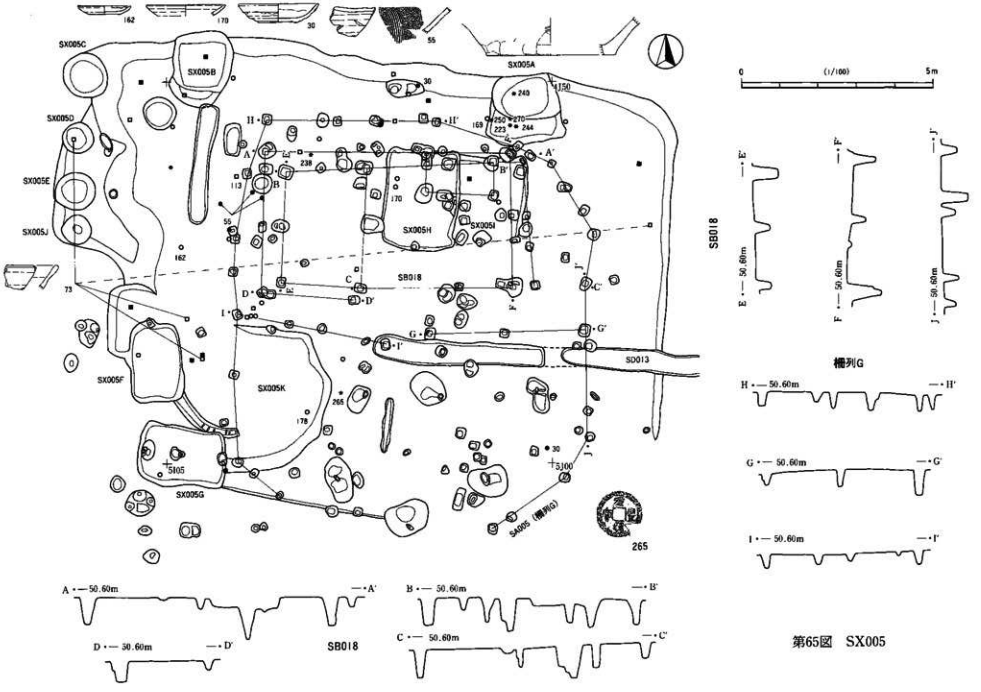


第62図　ピット群エレベーション（1区）

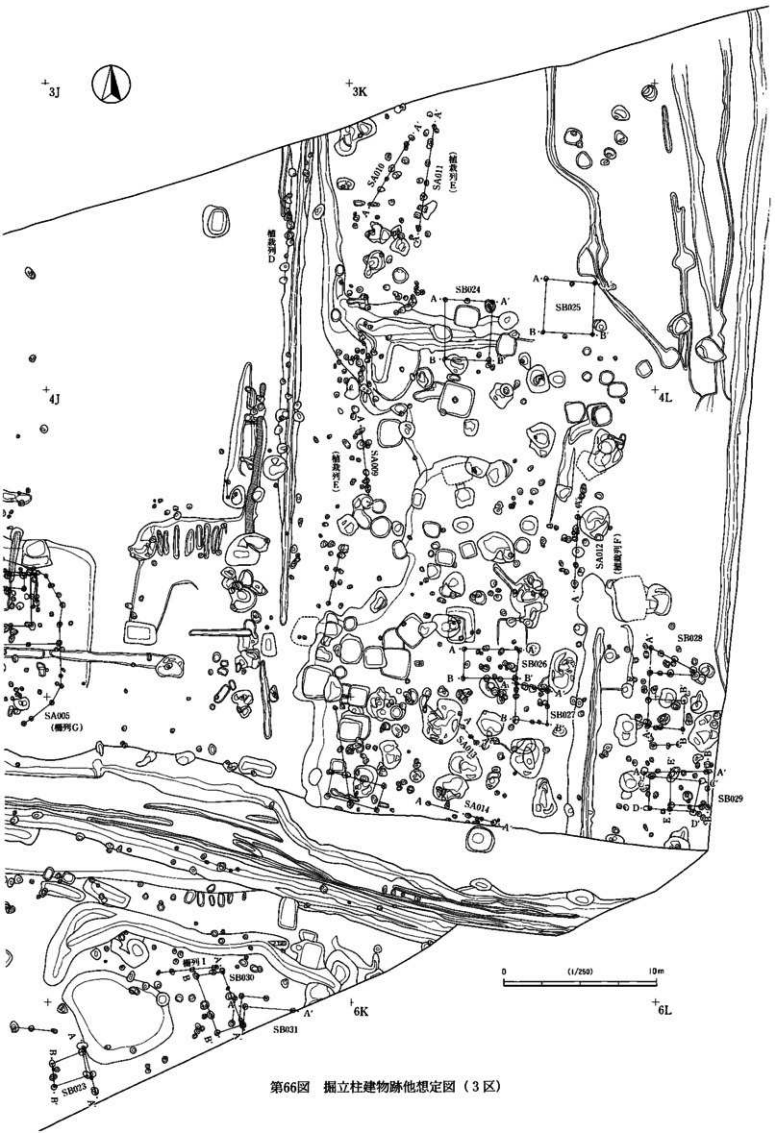
第63図　掘立柱建物跡他想定図（２区）



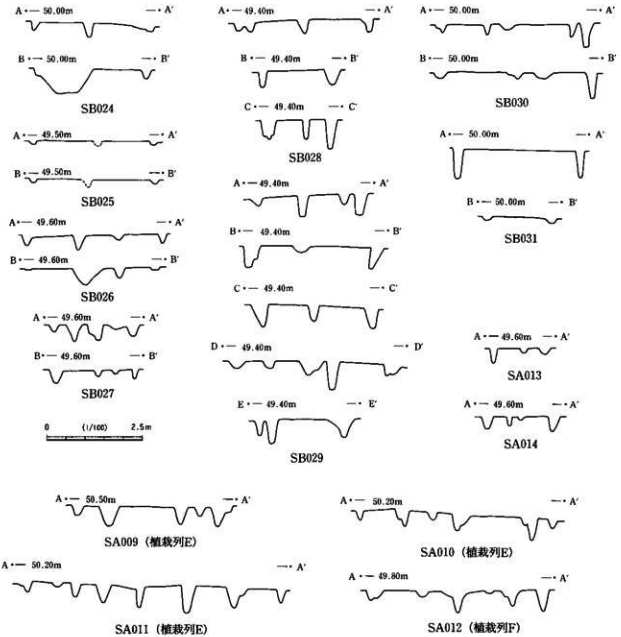
第64図　ピット群エレベーション（２区）


SX005A
SX005B
SX005C
SX005D
SX005E
SX005F
SX005G
SX005H
SX005J
SX005K
SB018
SD013
SA005（柵列G）
265
0
(1/100)
5m
柵列G
A 50.60m
B 50.60m
C 50.60m
D 50.60m
E 50.60m
F 50.60m
G 50.60m
H 50.60m
I 50.60m
J 50.60m

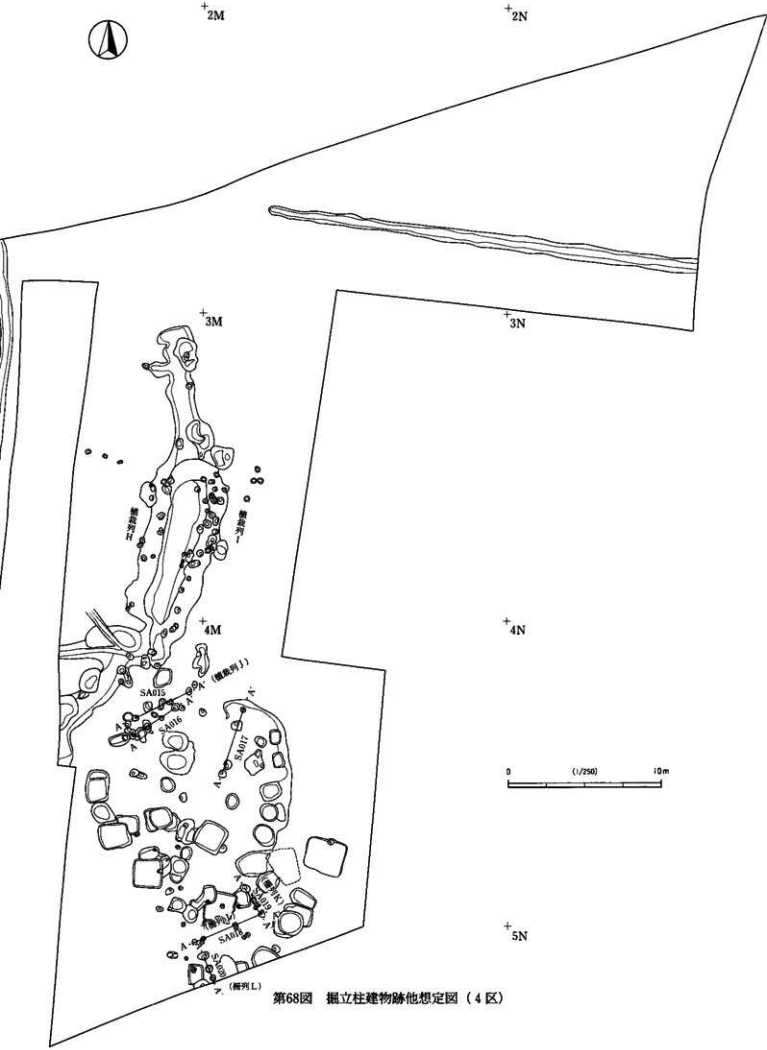
第65図　SX005



第66図　掘立柱建物跡他想定図（３区）

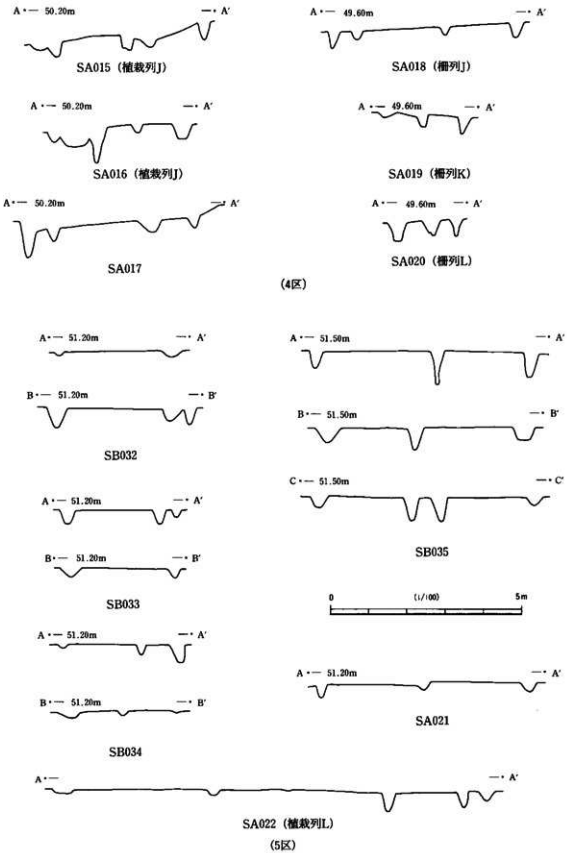


第67図　ピット群エレベーション（3区）



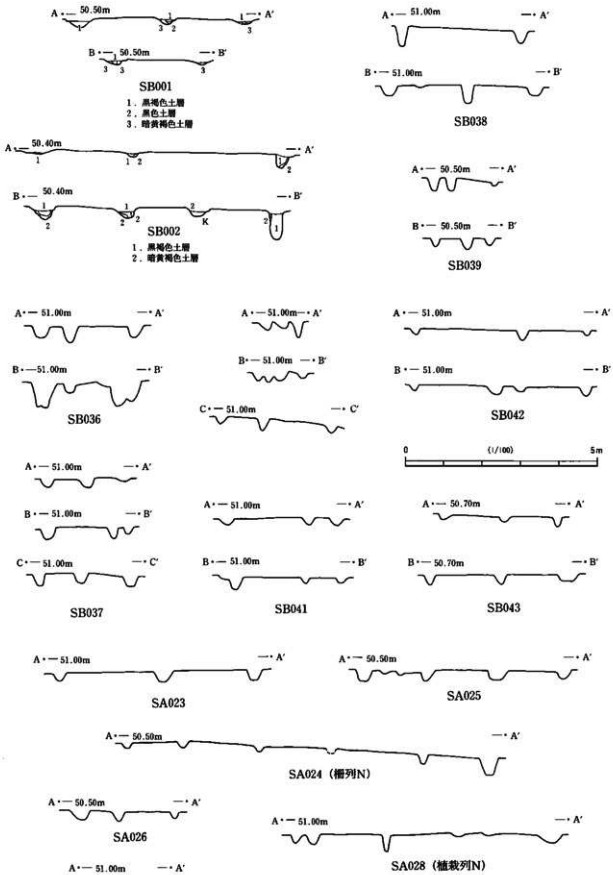
第68図　掘立柱建物跡他想定図（４区）

第69図　掘立柱建物跡他想定図（５区）



第70図　ピット群エレベーション（4・5区）

第71図　掘立柱建物跡他想定図（６区）



第72図　ピット群エレベーション（6区）

SB021は，梁行4.5m(15尺)・桁行5.1m(17尺)で，西側に縁側・庇或いは増築が想像できる柱穴群がある。東部は並木状植栽痕Gが絡んでおり，不明確である。SB022は梁行2.1m(7尺)・桁行3.6m(12尺)である。SB023は梁行1.8m(6尺)・桁行2.2m(約7尺)であるが，東側に柵列状のピットが並ぶので，こちらが本体の可能性がある。

3区北区（第66・67図）

SB024・SB025は整形区画Cの北部，SB026・SB027は整形区画Dの中央部，SB028・SB029は整形区画Eの中央部に想定した。いずれも軸は東西南北軸である。

SB024は，桁行3m(10尺)・梁行4m(約13尺)，SB025は桁行3.2m(約11尺)・梁行3.3m(11尺)であるが，柱間が長く他の建物とは異質である。SB026は桁行2m(約7尺)・梁行3.3m(11尺)，SB027は桁行2.1m(7尺)・梁行2.4m(8尺)である。SB028は北部で不明であるが，桁行2.4m(7尺)・梁行5.1m(17尺)，SB029は桁行2.4m(8尺)・梁行4.2m(14尺)の建物と桁行2.1m・梁行3mの建物2棟が重複している可能性がある。

3区南区（第66・67図）

SB030は，桁行1.8m(6尺)・梁行4m(約13尺)，SB031は南部が調査区外で不明であるが，北西部に庇か縁側の様な柱穴が想定できる。

4区（第68・70図）

柵列と想定したSA018～SA020は掘立柱建物跡の可能性もある。

5区・6区（第69図～72図）

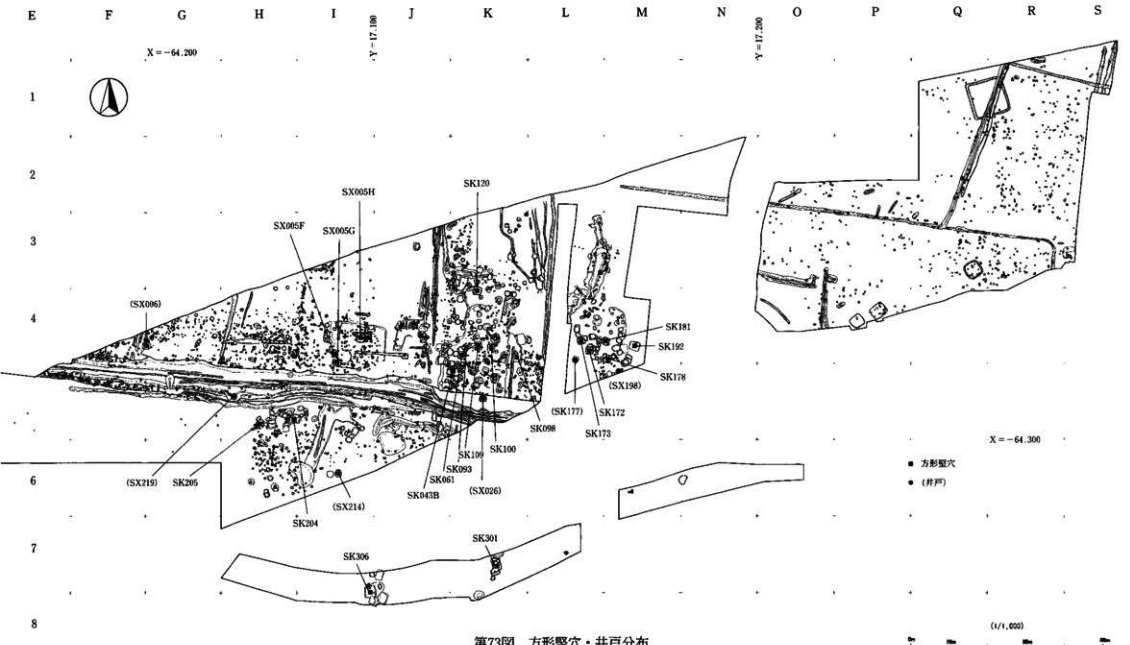
5区・6区については，中世の土坑や遺物も少なく，軸も一定でないので，掘立柱建物跡や柵列としての確実性が低いが，仮に想定してみた。よって説明は省略し，今後の検討資料として作成した平面図とエレベーション図をみていただきたい。

2　方形竪穴（第73図～77図）

本遺跡で検出された方形竪穴は20基としたが，形状や覆土は方形土坑墓と同様であり，規模や内部のピットの有無で判断した。全て整形区画内部であり，しかもその中央部で検出されたものが多い。また，埋没後，土坑墓に切られているものが多い。

SX005H・I（第74図，図版16）

整形区画A(SX005)内部北寄りで，主軸を南北にして2基並んで検出されたが，SX005HがSX005Iを切っているようである。SX005Hは長軸2.6m・短軸1.9m・深さ30cm，SX005Iは長軸2.0m・短軸1.8m以上・深さ15cmである。内部には柱穴が掘られているが，重なる掘立柱建物跡の柱穴と交錯しており，この方形竪穴に伴う柱穴は確実には不明であるが，恐らくそれぞれ南北方向の主軸の中央線上に位置する南北壁際と中央にある柱穴であろう。柱穴の深さは，SX005Hの北壁際のものが50cm～85cm，中央部のものが65cm，



第73図　方形竪穴・井戸分布

南壁際のものが57cmで，これは直径12cmの柱痕が確認された。

SX005F（第74図）

整形区画Aの南西部で検出された。主軸はSX005H及びIと同じく南北である。規模は，長軸2.2m・短軸1.5m，深さはSX005の内側から35cm，外側から75cmである。北側壁寄りに深さ20cm程の小ピットが存在する。覆土はロームブロック主体で人為的に埋め戻されている。

SX005G（第74図）

SX005F同様，整形区画Aの南西部で検出されたが主軸は東西方向である。規模は，長軸2.3m・短軸1.65m・深さ45cmである。ほぼ中央に覆土上からピットが掘り込まれている。また，東西壁際のピットの深さは西が30cm，東が26cmである。覆土中に青白色粘土ブロックが含まれて埋め戻されており，カワラケ片1点が出土した。

SK120（第74図，図版16）

整形区画Cの中央部で検出された。規模は，長軸2.2m・短軸2.1m・深さ45cmで，中央部に深さ55cmの柱穴が掘られている。覆土はロームブロック主体で，上層から青磁碗片1点，カワラケ片1点が出土した。

SK061（第74図，図版19）

整形区画D内の北西部で検出された。西側は方形土坑墓SK060に切られている。規模は，長軸2.1m・短軸2.05m・深さ70cm，覆土は底近くにロームブロック，以上の層は暗灰色土で，覆土中層以下から北宋銭2枚（252・景祐元宝，260・嘉祐元宝）・明銭1枚（273・洪武通宝），小刀(212)，銅製飾金具(241)が出土した。また，底面中央付近は焼けている。出土遺物から土坑墓の可能性もあるが，規模が大きいことから，生活または作業の場としての方形竪穴と考えたい。

SK093（第75図，図版16）

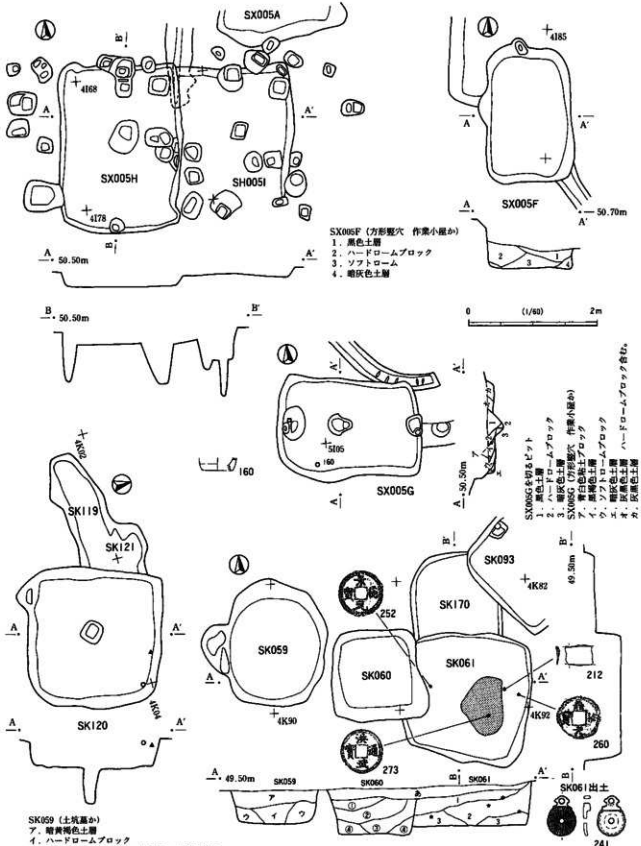
SK061の北東側で検出された。規模は，長軸1.8m・短軸1.75m・深さ60cmで，中央と北壁際にピット（柱穴）が掘られている。覆土はロームブロック主体である。形態的に方形土坑墓に近いが，その規模と底部の柱穴から方形竪穴と判断した。

SK109（第75図，図版16）

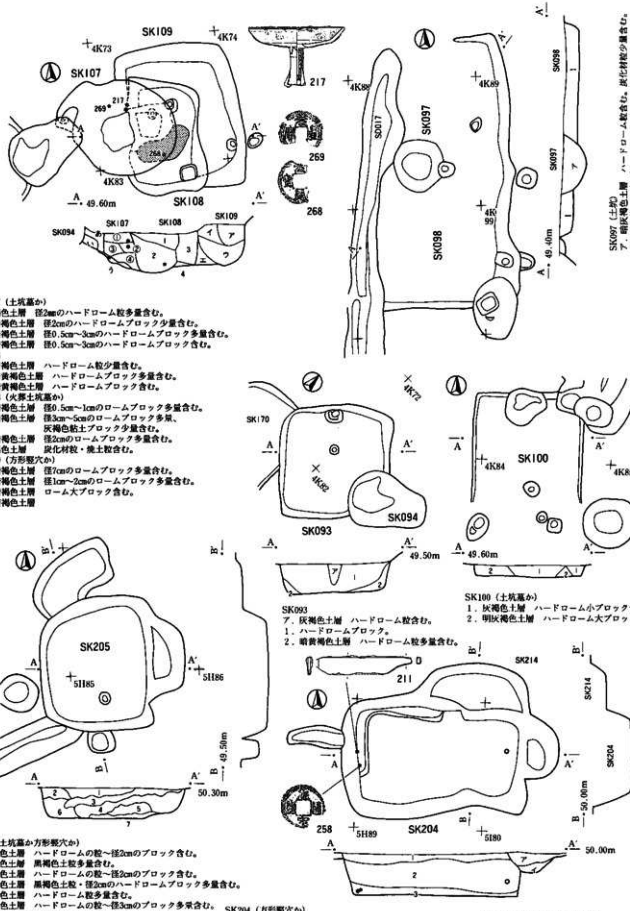
SK093の東側で検出された。西側は土坑墓SK107とSK108に切られている。規模は，長軸2.3m・短軸1.9m・深さ80cmで，南側壁寄りにピットが2基掘られている。ピットの深さは東側で30cm，南側で23cmであり，柱穴であろう。覆土はロームブロックを多く含む暗褐色土である。

SK100（第75図）

SK109の東側で検出された。南側の壁が消失してしまっているが，規模は，長軸・短軸共1.7m，深さ20cmである。ピットはあるが，遺構が浅いので埋没後に掘り込まれたものの可能性もあるが，深さは北壁際


SX005A
SX005H
SH005I
SX005F
SX005G
SK119
SK121
SK120
SK059
SK060
SK061
SK170
SK093
SK061出土
SX005F（方形竪穴　作業小屋か）
1．黒色土層
2．ハードロームブロック
3．ソフトローム
4．暗灰色土層
SX005G（方形竪穴　作業小屋か）
ア．黄白色土層
イ．黒褐色土層
ウ．ハードロームブロック
エ．暗灰色土層
オ．灰黒色土層
カ．ハードロームブロック含む。
SK059（土坑墓か）
ア．暗黄褐色土層
イ．ハードロームブロック
ウ．灰褐色土層　ハードロームブロック多量含む。
SK060（土坑墓か）
①．ソフトローム
②．ソフトローム・ハードロームブロック
③．暗褐色土層
④．灰褐色土層　ハードロームブロック多量含む。
SK061（土坑墓か方形竪穴か）
1．暗灰褐色土層　ハードロームブロック多量含む。
2．暗灰褐色土層
3．ハードロームブロック
SK060、061の土層
あ．暗黄褐色土層　ハードローム粒多量含む。

第74図　方形竪穴（1）



SK107（土坑墓か）
①．褐色土層　径2mのハードローム粒多量含む。
②．暗褐色土層　径2cmのハードロームブロック少量含む。
③．暗褐色土層　径0.5cm～3cmのハードロームブロック多量含む。
④．暗褐色土層　径0.5cm～3cmのハードロームブロック含む。
SK094
あ．明褐色土層　ハードローム粒少量含む。
い．明黄褐色土層　ハードロームブロック多量含む。
う．暗黄褐色土層　ハードロームブロック含む。
SK108（火葬土坑墓か）
1．暗褐色土層　径0.5cm～1cmのロームブロック多量含む。
2．暗褐色土層　径3cm～5cmのロームブロック多量、
灰褐色粘土ブロック少量含む。
3．暗褐色土層　径2cmのロームブロック多量含む。
4．黒色土層　炭化材粒・焼土粒含む。
SK109（方形竪穴か）
ア．暗褐色土層　径7cmのロームブロック多量含む。
イ．暗褐色土層　径1cm～2cmのロームブロック多量含む。
ウ．暗褐色土層　ローム大ブロック含む。
エ．暗褐色土層

SK097（土坑）
ア．明灰褐色土層　ハードローム粒含む。炭化材粒少量含む。
SK098（方形竪穴か）
1．灰褐色土層　ハードローム粒多量含む。

SK093
ア．灰褐色土層　ハードローム粒含む。
1．ハードロームブロック。
2．明黄褐色土層　ハードローム粒多量含む。

SK100（土坑墓か）
1．灰褐色土層　ハードローム小ブロック含む。
2．明灰褐色土層　ハードローム大ブロック多量含む。

SK205（土坑墓か方形竪穴か）
1．暗褐色土層　ハードロームの粒～径2cmのブロック含む。
2．暗褐色土層　黒褐色土粒多量含む。
3．暗褐色土層　ハードロームの粒～径2cmのブロック含む。
4．暗褐色土層　黒褐色土粒・径2cmのハードロームブロック多量含む。
5．暗褐色土層　ハードローム粒多量含む。
6．暗褐色土層　ハードロームの粒～径3cmのブロック多量含む。
7．暗褐色土層　ハードローム粒多量含む。

SK204（方形竪穴か）
1．明褐色土層
2．茶褐色土層　径3cm～3cmのハードロームブロック多量含む。
3．暗茶褐色土層　ハードローム粒・炭化材粒少量含む。

SK204を切る土坑（近世前期）
ア．灰茶褐色土層　宝永テフラ含む。
イ．茶褐色土層　ハードロームブロック多量含む。

0　(1/60)　2m

第75図　方形竪穴（2）

のものが15cm，中央より南寄りのものは10cmである。覆土は，ロームブロック主体である。

SK043B（第103図，図版19）

SK061の南側で，検出された。南西部を方形土坑墓SK043Aに切られている。規模は，長軸2.0m・短軸1.7mで，覆土はロームブロックを多く含む灰褐色土である。方形土坑墓の可能性もあるが，規模が大きいので，方形竪穴と判断したい。

SK098（第75図）

整形区画Eの北西部で検出された。規模は，長軸4.3m・短軸2.05m・深さ20cm，覆土はローム粒を多く含む灰褐色土であり，内部に土坑墓SK097が掘り込まれている。東側の壁の若干の曲がり方からみて，或いは方形土坑墓２基が切り合った遺構の可能性はある。SK097脇のピットの深さは15cmであるが，SK098に伴うものかどうかは不明である。

SK205（第75図）

南区の整形区画Ｂ内西端部で検出された。規模は，長軸2.1m・短軸1.9m・深さ50cmで，底面南寄りに深さ20cmのピット（柱穴）が存在する。覆土は，ローム粒を多く含む暗褐色土であり，明らかな埋戻しである。

SK204（第75図）

SK205の東側，整形区画Ｂの東端近くで検出された。西側は小規模な土坑に切られている。規模は，長軸2.9m・短軸1.85m・深さ70cmで，底部北西隅近辺は浅い溝状となる。覆土はロームブロックを多く含む茶褐色土で，底部近くでカワラケ片２点，小刀１点，北宋銭１点（258・皇宋通宝）が出土した。平面的には，西部と東部の形態がやや異なるので，方形土坑墓が２基切り合った様な様相であるが，覆土の状況は同一なので，方形竪穴とした。

SK173（第76図）

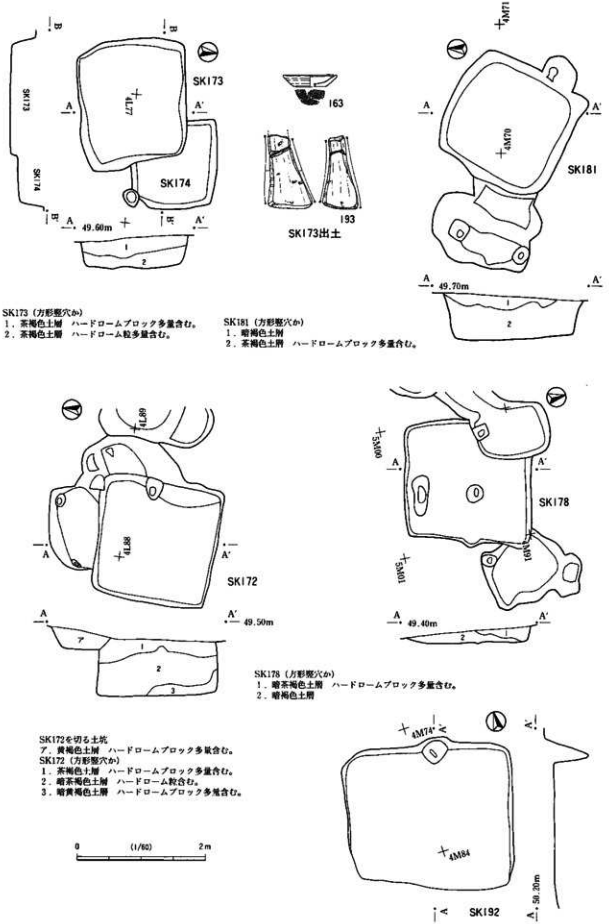
中区の整形区画F内部西側で検出された。規模は，長軸1.95m・短軸1.7m・深さ55cmである。覆土はロームブロックを多く含む茶褐色土で，常滑コネ鉢片１点，カワラケ片１点(163)，砥石１点(193)が出土した。

SK181（第76図）

SK173の東側に位置する。規模は，長軸・短軸共1.95m・深さ75cm，覆土はロームブロックを多く含む茶褐色土である。

SK172（第76図）

SK173とSK181の南側で検出された。規模は，長軸2.0m・短軸1.85m・深さ95cm，覆土はロームブロックを多く含む茶褐色土である。北側の土坑に切られている。



SK173（方形竪穴か）
1．茶褐色土層　ハードロームブロック多量含む。
2．茶褐色土層　ハードローム粒多量含む。

SK181（方形竪穴か）
1．暗褐色土層
2．茶褐色土層　ハードロームブロック多量含む。

SK178（方形竪穴か）
1．暗茶褐色土層　ハードロームブロック多量含む。
2．暗褐色土層

SK172を切る土坑
ア．黄褐色土層　ハードロームブロック多量含む。
SK172（方形竪穴か）
1．茶褐色土層　ハードロームブロック多量含む。
2．暗茶褐色土層　ハードローム粒含む。
3．暗黄褐色土層　ハードロームブロック多量含む。

第76図　方形竪穴（3）

SK178（第76図）

SK173の南東側に位置する。規模は，長軸2.0m・短軸1.95m・深さ30cmで，底面の中央部と南寄りにピットが掘られている。深さは前者が23cm，後者が30cmであり，柱穴であろう。覆土は，ロームブロックを多く含む暗茶褐色土で，還元焼成の常滑コネ鉢片1点，常滑甕片2点が出土した。

SK192（第76図）

整形区画Fの東側で検出された。規模は，長軸2.6m・短軸2.35m・深さ15cmで，北側壁際に深さ55cmのピットが掘られている。

SK301（第113図）

迂回路部分の中央部で検出されたが，南北に土坑が重複している。規模は，長軸2.6m・短軸2.25m・深さ20cmで，内部にピットが6基掘られている。周辺区域が削平されているので，本来の深さは不明である。重複した遺構も含めて常滑甕片1点，甕転用砥石1点，鉄製金具1点，鉄釘1点が出土した。

3　大型不整形竪穴

本遺跡内では，大型で不整形の浅い落込みが，北区の整形区画A（SX005）内に1か所，南区には3か所見られ，覆土中からは遺物が比較的多く出土している。水溜め・排水施設或いは池の可能性も考えられる。

SX005K（第65図）

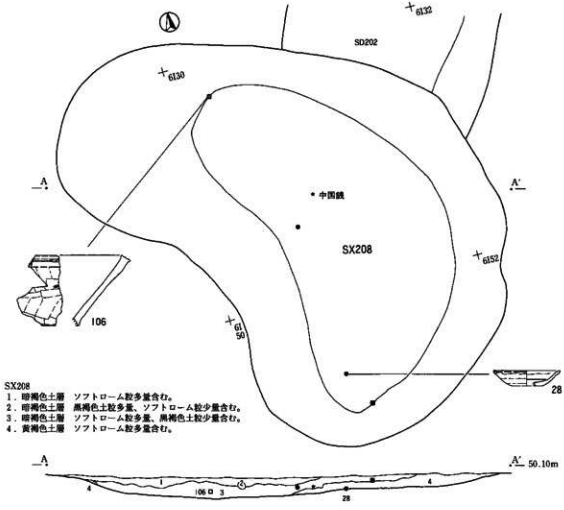
SX005の南西部から検出された。直径3.7m程，深さ10cm程の浅い落込みである。西側には溝30cm，深さ10cm程の溝が掘られ，内部には深さ3cm～5cmの刻みが見られるが，性格は不明である。北西隅から常滑コネ鉢破片が出土した。

SX208（第77図）

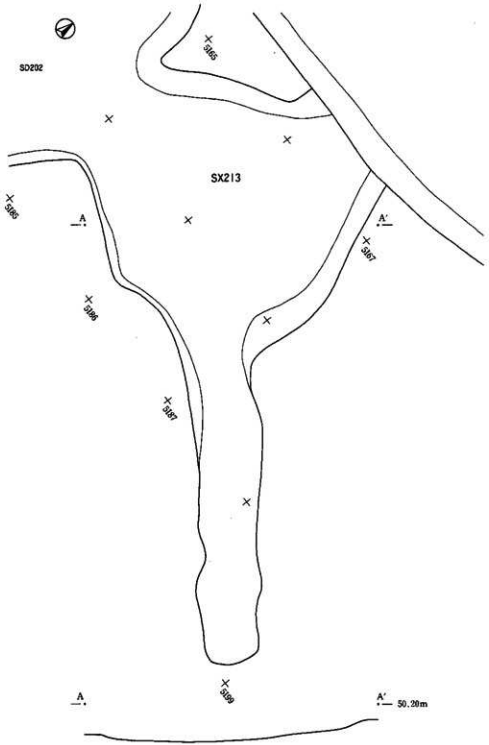
南区中央部の南端部で，SD202の南側で検出された。北西－南東方向にやや長い楕円形で，規模は，長軸7.5m・短軸4.5m，中央部で深さ35cmと深くなる。覆土はローム粒を多く含む暗褐色土で，瀬戸・美濃皿片2点（28・古瀬戸後Ⅳ期古　他），常滑コネ鉢片1点（106・10型式），常滑甕片1点，銅銭1点が出土した。銅銭は細片であるが，中国銭である。

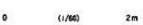
SX213（第78図）

南区中央北寄りでSD202の北東端で検出された，不整形の浅い落込みである。規模は，長軸約4.5m・短軸約4mで，中央部で深さ20cmである。覆土中から瀬戸・美濃折縁深皿片1点（45・古瀬戸後Ⅲ期），常滑甕転用砥石1点が出土した。

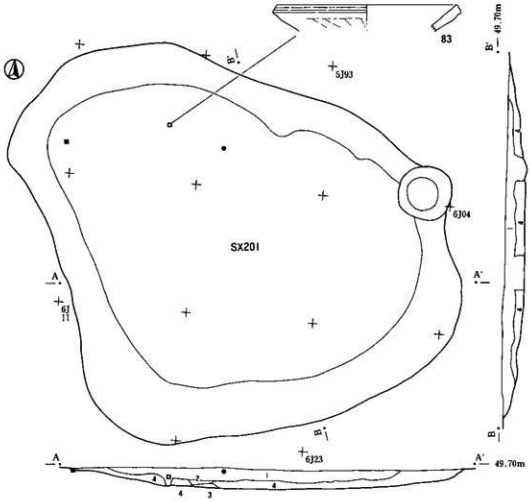


第77図　大型不整形竪穴（1）





第78図　大型不整形竪穴（2）



第79図　大型不整形竪穴（3）

SX201（第79図）

南区東端部近く，SD201の南西側で検出された，不整形の浅い落込みである。規模は，長軸7.5m・短軸6m，深さは中央部で30cmである。覆土はローム粒を多く含む暗褐色土で，瀬戸・美濃緑釉皿片1点，常滑コネ鉢片1点（83・8型式・14世紀後半），甕片1点（133・9型式・15世紀前半），骨片が出土した。常滑製品は鎌倉街道出土遺物と同一個体である。

SX300（第112図）

迂回路西側において，方形竪穴SK306や地下式坑SK307と切り合って検出された径4m程，深さ10cm～50cm程の落込みである。内部の東寄りに長軸1.3m・単軸1.0m・深さ50cmの楕円形土坑が掘られており，全体はこの穴に向かって傾斜する。水溜め施設或いは，整形区画Gとその内部の土坑墓の可能性がある。

4　井戸（第80図）

本遺跡では，素掘りの井戸跡が６基検出されている。北区に２基，中区に１基，鎌倉街道側溝中に１基，南区に１基と250m～400mの距離をおいて分布する。各井戸周辺は掘立柱建物跡や方形竪穴等の遺構が存在しており，生活空間との密接な関係であったことが窺える。

SX006（図版17）

北区西端部付近，道跡SX019の東壁で検出された。長軸2.35m・短軸1.8mの楕円形で，深さは４m以上であり，ピンポールによる確認ではさらに２m以上深い。覆土はロームブロックを多く含む黒褐色土で，埋戻しが推測される。なお，西側（SX019側）で硬化面が検出されている。覆土上層中から土師器片１点，青磁碗片１点１，瀬戸・美濃平碗片１点，常滑甕片１点が出土した。

SX026

北区東端部近く，整形区画Dの南側，鎌倉街道のすぐ北側で検出された。長軸1.85m・短軸1.65mの楕円形であるが，内部はほぼ円形である。深さは1.2m以上である。

SX219（第40図）

鎌倉街道中央部の南側側溝SX207内に検出された。長軸1.6m・短軸1.5mのほぼ円形で，深さは50cm以上である。

SX214

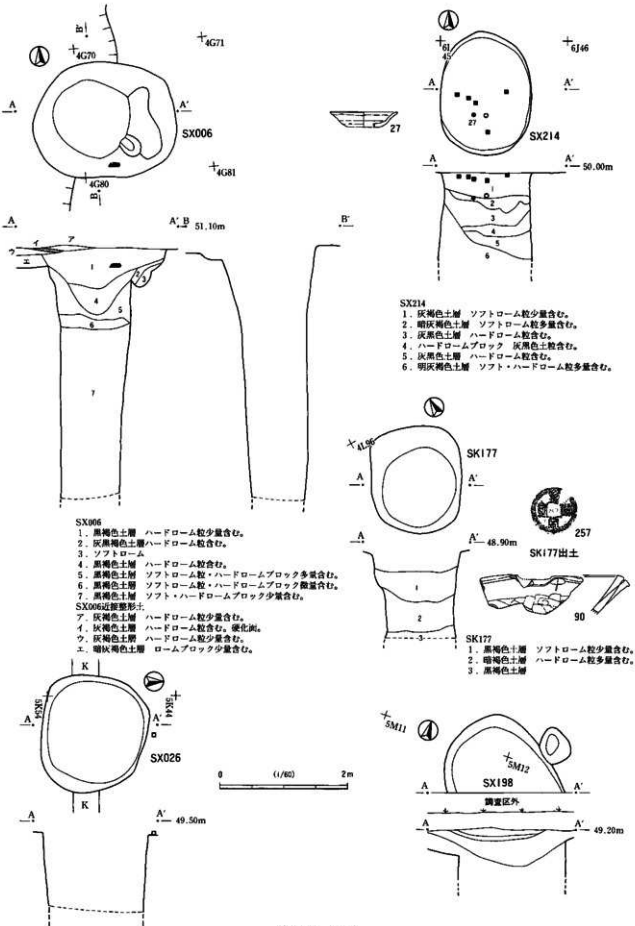
南区中央部南端部近くで検出された。長軸1.95m・短軸1.4mの楕円形だが，内部はほぼ円形で，深さは1.5m以上である。覆土はローム粒を多く含む灰褐色～灰黒色土で，上層から土師器片１点，瀬戸・美濃縁釉皿片１点（27・古瀬戸後Ⅳ期古段階・15世紀中葉），常滑甕片２点，甕転用砥石１点，東海系羽釜片２点の他，貝（キサゴ）が多量に出土している。

SK177

中区の整形区画Ｆの西側緩斜面で検出された。長軸1.7m・短軸1.4mの楕円形であるが，内部はほぼ円形である。深さは1.3m以上である。覆土は黒褐色土で，常滑コネ鉢片１点（90・9型式），常滑甕片１点，北宋銭１点（257・皇宋通宝）が出土した。

SX198

中区南端部の調査区境で検出された。長軸推定２m・短軸推定1.7mの楕円形である。深さは1.3m以上である。



SX006
1．黒褐色土層　ハードローム粒少量含む。
2．灰黒褐色土層ハードローム粒含む。
3．ソフトローム
4．黒褐色土層　ハードローム粒含む。
5．黒褐色土層　ソフトローム粒・ハードロームブロック多量含む。
6．黒褐色土層　ソフトローム粒・ハードロームブロック微量含む。
7．黒褐色土層　ソフト・ハードロームブロック少量含む。
SX006近似整形土
ア．灰褐色土層　ハードローム粒少量含む。
イ．灰褐色土層　ハードローム粒含む。硬化面。
ウ．灰褐色土層　ハードローム粒少量含む。
エ．明灰褐色土層　ロームブロック少量含む。

SX214
1．灰褐色土層　ソフトローム粒少量含む。
2．暗灰褐色土層　ソフトローム粒多量含む。
3．灰黒色土層　ハードローム粒含む。
4．ハードロームブロック　灰黒色土粒含む。
5．灰黒色土層　ハードローム粒含む。
6．明灰褐色土層　ソフト・ハードローム粒多量含む。

SK177
1．黒褐色土層　ソフトローム粒少量含む。
2．暗褐色土層　ハードローム粒多量含む。
3．黒褐色土層

第80図　井戸

第4節　葬送関連遺構

1　地下式坑（第82～87図，図版17・18）

全体の分布状況は，大きく北区東側～中区の整形区画C～Fに6基と鎌倉街道南側の整形区画Bに2基と南部の迂回路部分の整形区画G・Hに6基の3地域に集中が見られ，整形の段にかかる。地下式坑の機能・性格については，葬送関連なのか倉庫なのか未だに議論が分かれるところであるが，本遺跡では，地下式坑の周囲に土坑墓や火葬墓等が分布しているので，とりあえず，葬送関連遺構として扱いたい。なお，方形竪穴同様，埋没後，土坑によって切られている例が多い。特に竪坑部に多いのは，その部分が覆土で軟質であったためと考えられる。

また，地区によって様相が異なり，特に南部の迂回路部分で検出された地下式坑群は竪坑部が不明瞭なタイプであり，遺物量は多い。

SX011（第82図，図版18）

北区東側の谷津が入る緩斜面に形成された整形区画Dの北側整形段に検出された。主軸はほぼ北方向(N-12°-W)である。竪坑は不整方形で，主軸方向・東西方向共1.2mで，深さ1.9mである。覆土はローム粒を含む灰褐色土である。竪坑から主室へは幅・高さ共50cm程の出入口が開口し，主室底面までは50cm程の段差がある。主室底面は若干北壁が長い方形で，規模は，長軸1.9m・短軸1.3m・高さ1.2mである。

SX008B（第82図，図版18）

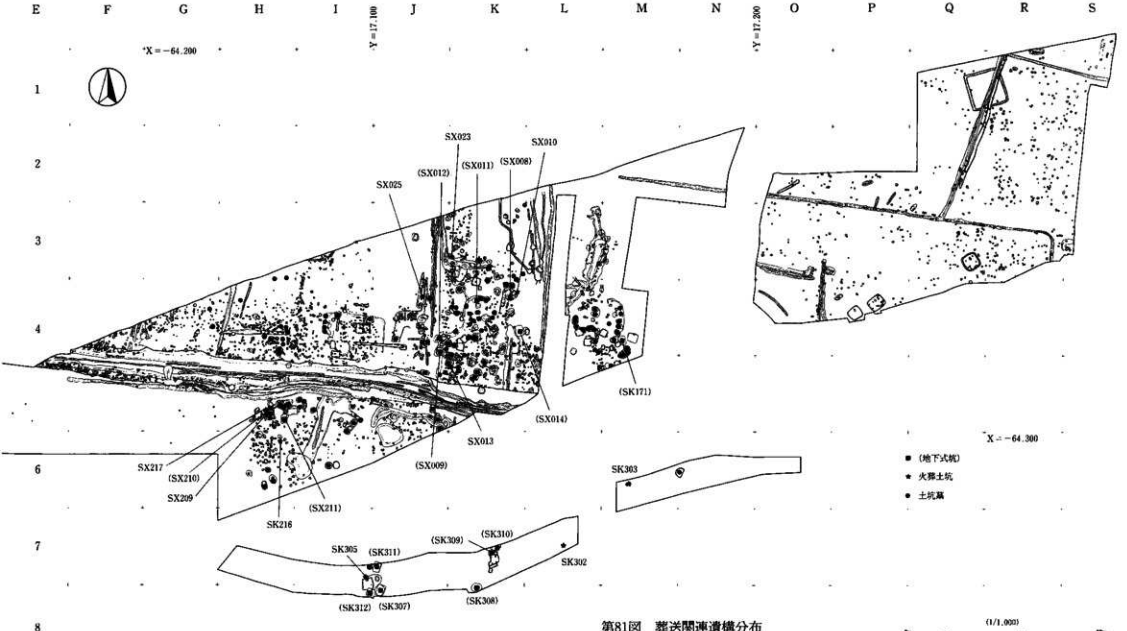
整形区画Dの北東端部で検出された。主軸は南西方向（S-41°-W）である。竪坑上部が土坑SX008Bによって壊されている。竪坑は，主軸方向1.0m・南西－北東方向90cmの隅丸方形で，深さ70cm，覆土は北側から土砂が入れられた様相で，ローム粒を含む黒褐色土である。主室へは幅40cm・高さ50cmの開口部があり，70cmの段差で主室底面に達する。主室は平面形が不整形で，底面の長軸1.8m・短軸1.5m・高さ1.2mである。

SX012（第83図，図版17）

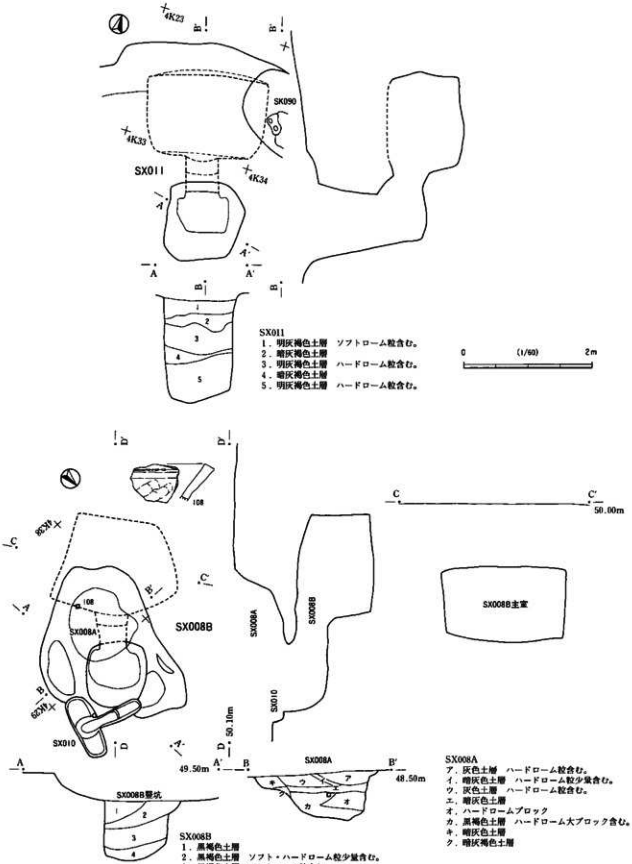
整形区画Dの西端部段差で検出された。主軸は西方向（N-88°-W）である。竪坑は，主軸方向80cm・南北80cmの不整方形で，深さは80cm程である。竪坑覆土は東側から入れられた様相のロームブロックを多く含む灰褐色土で，中層に大型の丸石や子供のものと考えられる歯が出土した。主室へは幅・高さ共40cmの開口部から入り，20cm程の段差で底面に達する。主室は竪坑と軸が異なる平面隅丸方形で，底面の長軸1.9m・短軸1.5m・高さ1.2mである。

SX009（第83図，図版17）

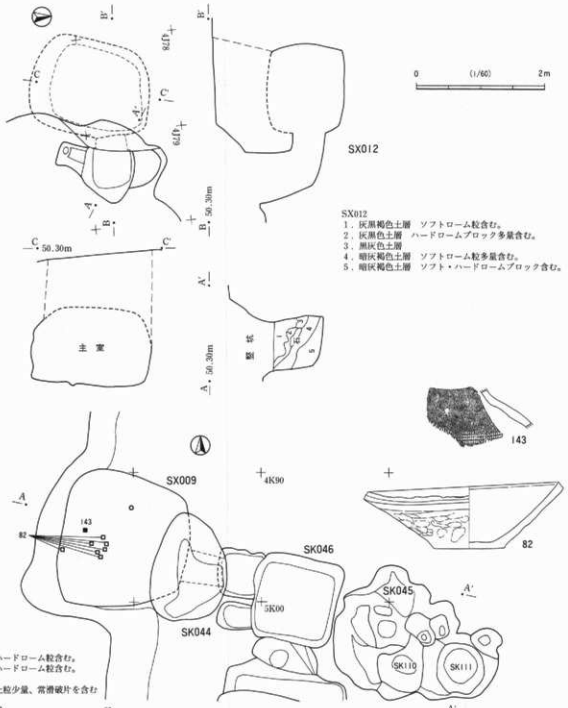
SX012の南側の段差で検出された。主軸は西方向(N-79°-W)である。竪坑部は，土坑SK044が掘り込まれて破壊されているが，一辺75cmの方形である。主室は天井部が崩落している。主室の平面形は奥壁がやや長い隅丸方形で，長軸2.15m・短軸2.0m・深さ1.75mである。覆土中層から常滑コネ鉢片1点（82・8型式・14世紀後半），常滑甕片1点(143・5～6a型式・13世紀中葉)，瓦質壺片1点が出土した。



第81図　葬送関連遺構分布

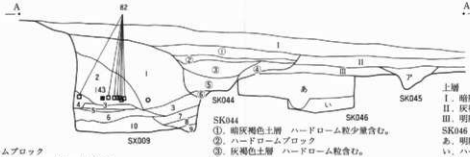

4K23
4K33
4K34
SK090
SX011
SX008B
SX008A
SX010
SX008B主室
SX008B壁溝
108
49.50m
50.10m
48.50m
50.00m
SX011
1．明灰褐色土層　ソフトローム粒含む。
2．暗灰褐色土層
3．明灰褐色土層　ハードローム粒含む。
4．暗灰褐色土層
5．明灰褐色土層　ハードローム粒含む。
0　(1/60)　2m
SX008B
1．黒褐色土層
2．黒褐色土層　ソフト・ハードローム粒少量含む。
3．黒褐色土層　ソフトローム粒含む。
4．黒褐色土層　ソフトローム粒少量含む。
SX008A
ア．灰色土層　ハードローム粒含む。
イ．暗灰色土層　ハードローム粒少量含む。
ウ．灰色土層　ハードローム粒含む。
エ．暗灰色土層
オ．ハードロームブロック
カ．黒褐色土層　ハードローム大ブロック含む。
キ．暗灰色土層
ク．暗灰褐色土層

第82図　地下式坑（1）



SX012
1．灰黒褐色土層　ソフトローム粒含む。
2．灰黒色土層　ハードロームブロック多量含む。
3．黒灰色土層
4．暗灰褐色土層　ソフトローム粒多量含む。
5．暗灰褐色土層　ソフト・ハードロームブロック含む。

SX009
1．灰黒色土層
2．黒褐色土層　ハードローム粒含む。
3．暗灰色土層　ハードローム粒含む。
4．暗灰色土層
5．炭化材粒・焼土粒少量、常滑破片を含む



6．ハードロームブロック
7．灰色土層　ソフト・ハードローム粒含む。
8．暗灰色土層　ハードローム粒含む。
9．ソフトローム
10．暗灰色土層　ハードローム粒少量含む。

SK044
①．暗灰褐色土層　ハードローム粒少量含む。
②．ハードロームブロック
③．灰褐色土層　ハードローム粒含む。
④．暗灰色土層
⑤．黒灰色土層
⑥．暗灰色土層　ソフトローム粒含む。

土層
I．暗灰褐色土層ハードローム粒含む。
II．灰褐色土層　ソフトローム粒含む。
III．明灰褐色土層
SK046（土坑墓か）
あ．明灰褐色土層　ハードローム粒多量含む。
い．ハードロームブロック多量含む。
SK045
ア．黒灰色土層　ハードローム粒少量含む。

第83図　地下式坑（2）

SX014（第84図，図版18）

整形区画Eの北端部で検出された。主軸は真西方向である。主室は天井部が崩落している。竪坑は主軸方向1.6m・南北2.1mの楕円形で，深さ1.5m，覆土はローム粒を含む暗灰色土である。主室は，ほぼ方形で，底面の長軸2.7m・短軸1.8m・深さ2.3mである。覆土は下からロームブロック，黒色土，崩落天井部，暗灰褐色土，最上部付近で宝永テフラ層が堆積する。さらにその上層から土坑が掘り込まれており，近世段階にも墓域であったことが窺える。遺物は，土師器片1点，須恵器片4点の他，底面近くから，瀬戸・美濃縁釉皿片1点（25・古瀬戸後Ⅳ期古段階・15世紀中葉），常滑甕片2点（134・9型式・15世紀前半），渥美甕片1点，砥石1点(200)，鉄鍋の取手と考えられる鉄製品1点(220)が出土した。天井部の崩落は15世紀後半頃の可能性が考えられる。

SK171（第84図，図版13）

整形区画Eの東端部の段差部分で検出された。主軸は北東方向(N-52°-E)である。竪坑は主軸方向1.4m，北西－南東方向1.25mの六角形状で，深さは1.4mである。主室への開口部は幅80cm・高さ70cmで40cmの段差で底面に達する。主室は，竪坑方向と軸が異なる不整方形で，底面は長軸2.4m・短軸1.75m・高さ1.4mである。覆土中からカワラケ片が1点出土した。

SX210（第85図）

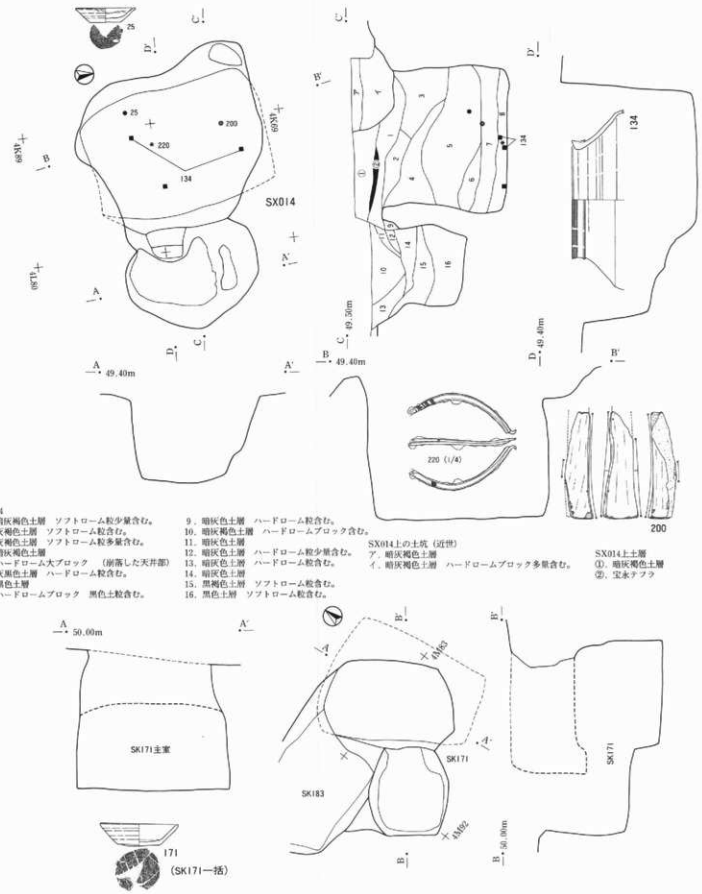
整形区画Bの西端付近で検出されたが，竪坑部分と主室への入口部分のみで，主室は開削されていないようである。主軸は真北方向である。竪坑の主軸方向は1.0m，東西方向は1.6mの楕円形で，深さは1.2mである。覆土は下層がロームブロックで埋められている。主室の入口は幅45cm・高さ30cmである。なお，竪坑は方形土坑墓SK209埋没後，方形土坑墓SK208同様にその覆土を切り，竪坑埋没後はその上に浅い楕円形土坑SK210が掘り込まれている。また，火葬土坑SX209・SX217は，方形土坑墓SK209覆土を切っている。よって，この部分では，方形土坑墓→地下式坑・火葬土坑の新旧関係の図式が得られる。

SX211（第85図）

SX210の東方，整形区画Bの南側で検出された。主軸は南方向(S-2°-W)である。竪坑は主軸方向1.0m・東西方向1.85mの楕円形で，深さは65cmである。主室との段差は60cm程で，主室は平面形ほぼ方形で，底面の長軸1.65m・短軸1.3m・高さ90cmである。天井部は崩落しているが，崩落以前から竪坑部分より暗灰色土が入れられている。覆土中層以上から瀬戸・美濃平碗片1点，常滑甕転用砥石1点，茶臼片1点(182)が出土した。

SK311（第86図）

迂回路部分西側（整形区画G）で検出されたが，北部は調査区外にかかる。主軸は東方向（S-75°-W）である。竪坑は平面三角形状で主室へは斜面状を呈する。主室の底面は，長軸2.65m・短軸1.7mの隅丸方形で，深さは1.8mである。天井部は崩落していた様である。覆土中から瀬戸・美濃平碗片1点（41・古瀬戸後Ⅲ期・15世紀前葉），大皿片1点(49)，常滑コネ鉢2（109・10型式・15世紀後半　他），甕片4（128・

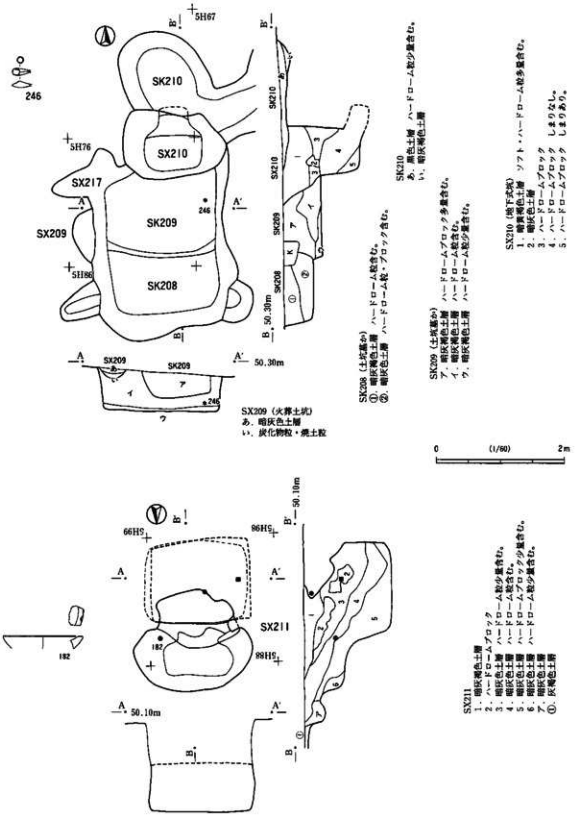


SX014
1．暗灰褐色土層　ソフトローム粒少量含む。
2．灰褐色土層　ソフトローム粒含む。
3．灰褐色土層　ソフトローム粒多量含む。
4．暗灰褐色土層
5．ハードローム大ブロック　(崩落した天井部)
6．灰黒色土層　ハードローム粒含む。
7．黒色土層
8．ハードロームブロック　黒色土粒含む。
9．暗灰色土層　ハードローム粒含む。
10．暗灰褐色土層　ハードロームブロック含む。
11．暗灰色土層
12．暗灰色土層　ハードローム粒少量含む。
13．暗灰色土層　ハードローム粒含む。
14．暗灰色土層
15．黒褐色土層　ソフトローム粒含む。
16．黒色土層　ソフトローム粒含む。

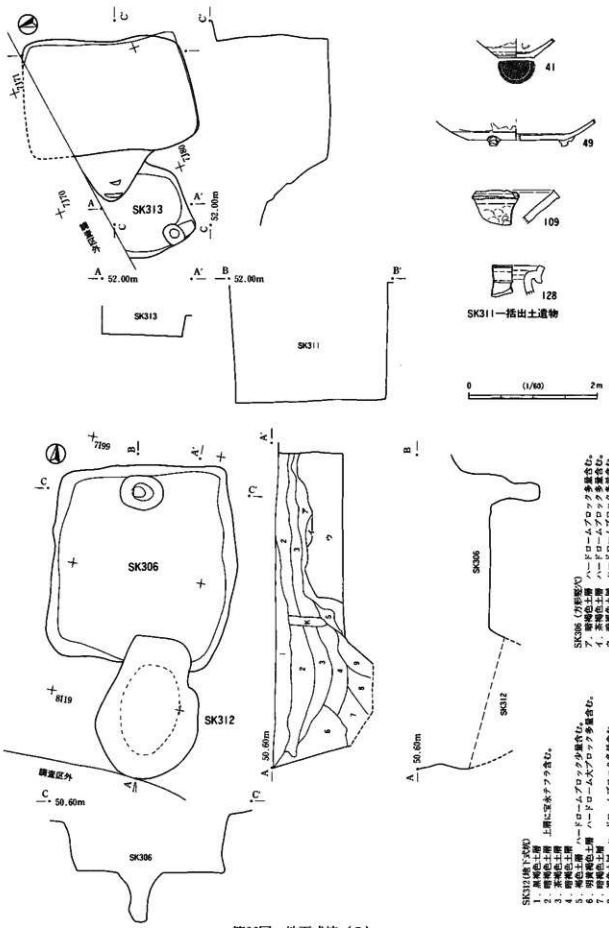
SX014上の土坑（近世）
ア．暗灰褐色土層
イ．暗灰褐色土層　ハードロームブロック多量含む。

SX014上土層
①．暗灰褐色土層
②．空水テフラ

第84図　地下式坑（3）


SK210
SX210
SX217
SX209
SK209
SK208
SX211
246
182
5H67
5H76
5H86
66H5
86H5
89H5
50.30m
50.10m
SX209（火葬土坑）
あ．暗灰色土層
い．炭化物粒・焼土粒
SK208（土坑墓か）
①．暗灰褐色土層　ハードローム粒含む。
②．暗灰色土層　ハードローム粒・ブロック含む。
SK209（土坑墓か）
ア．暗灰褐色土層　ハードローム多量含む。
イ．暗灰褐色土層　ハードローム粒含む。
ウ．暗灰褐色土層　ハードローム粒少量含む。
SK210
あ．黒色土層　ハードローム粒少量含む。
い．暗灰褐色土層
SX210（地下式壙）
1．暗褐褐色土層　ソフト・ハードローム粒多量含む。
2．暗灰色土層
3．ハードローム粒
4．ハードローム ブロック
5．ハードローム ブロック　しまりなし。
6．ハードローム ブロック　しまりあり。
SX211
1．暗灰褐色土層
2．ハードローム ブロック
3．ハードローム粒少量含む。
4．暗灰色土層　ハードローム粒含む。
5．暗灰色土層　ハードローム ブロック多量含む。
6．暗灰色土層　ハードローム粒少量含む。
7．暗灰色土層
①．灰褐色土層
0　(1/60)　2m

第85図　地下式坑（4）


SK313
SK311
SK306
SK312
調査区外
SK311一括出土遺物
41
49
109
128
0
(1/60)
2m
SK312(底下式坑)
1. 黒褐色土層
2. 黒褐色土層
3. 黒褐色土層
4. 暗褐色土層
5. 褐色土層
6. 暗褐色土層
7. 暗褐色土層
8. 褐色土層
9. 黒褐色土層
上層に炭化クヌギ含む。
ハードローム大ブロック多量含む。
ハードローム小ブロック多量含む。
SK306(方形竪穴)
ア. 褐色土層
イ. 黒褐色土層
ウ. 暗褐色土層
ハードローム小ブロック多量含む。
ハードローム小ブロック多量含む。
ハードローム小ブロック多量含む。

第86図　地下式坑（5）

6a型式・13世紀後半　他)，貝殻（キサゴ，ハマグリ）が出土した。

SK312（第86図）

迂回路部分西側（整形区画G）で検出されたが，主室は調査区外で竪坑部分のみが調査できた。主軸は南方向（S-1°-W）である。方形竪穴SK306埋没後の覆土を切っている。竪坑は主軸方向2.2m・東西方向1.6m，深さは1.5m以上である。覆土はロームブロック主体の褐色土で埋められており，上層には宝永テフラが混入している。

SK307（第87図）

迂回路部分西側（整形区画G）で検出された。主軸は南東方向（S-67°-E）である。天井部は崩落している。竪坑は若干突出する程度で，主室へは斜面を成す。主室はほぼ方形で，底面の長軸3.0m・短軸2.2m，深さは2.4mである。覆土中からほぼ完形の白磁皿（3・B群・15世紀代)，青磁碗片1点，青磁梅瓶片1点(14)，志戸呂壺3点(61・古瀬戸後Ⅳ期・15世紀後半)，常滑コネ鉢片1点(115)，甕片2点(10型式)，茶臼片1点(184)が出土した。なお，青磁梅瓶と茶臼は，鎌倉街道出土の破片と同一個体であった。

SK308（第87図）

迂回路部分中央部（整形区画H）で検出された。南側の底から壁にかけて幅70cm・高さ75cmの穴があり，その奥が主室と見られるが，調査区外により検出できなかった。主軸は南方向と考えられる。竪坑部は楕円形で，底面は，長軸1.4m・短軸1.0m・深さ1.45mである。天井部は崩落したようである。覆土中から，褐釉茶入片1点(16)，瀬戸・美濃縁釉皿片1点，天目茶碗片2点（古瀬戸後Ⅲ期・15世紀中葉)，平碗片1点（42・古瀬戸後Ⅲ～Ⅳ期)，香炉片1点（古瀬戸後Ⅲ期)，常滑コネ鉢片2点（112他・9，10型式)，甕片10点（120，126，147他・3，6a，10型式・12世紀末～15世紀後半)，瓦質壺片1点，東海系羽釜片1点，カワラケ片2点と数多く出土した。

SK309（第87図）

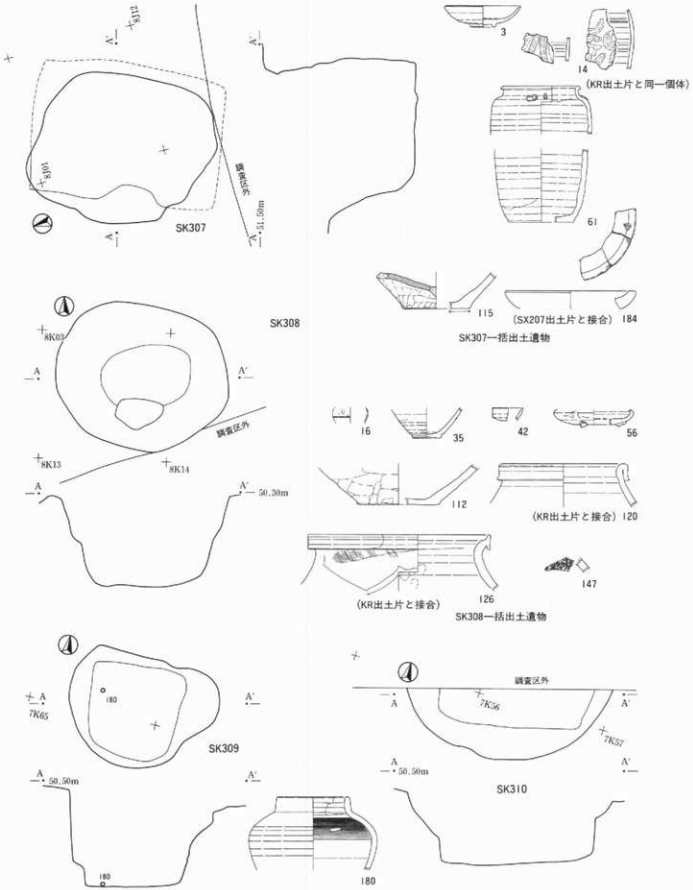
迂回路部分中央部（整形区画H）で，方形竪穴または方形土坑墓SK301の下から検出された。主軸は西方向（S-82°-W）である。これも竪坑部が不明確で，東部に円形の突出があり，主室へは斜面を呈する。天井部は崩落していたようである。主室は，不整方形で，底面の長軸1.45m・短軸1.4m・深さ1.5mである。覆土中から瓦質壺片1点が出土した。

SK310（第87図）

迂回路部分中央部（整形区画H）で検出されたが，北側が調査区外である。竪坑部は壁面が斜面となる西側の可能性があるので，主軸は東方向（N-79°-E）と見られるが不確実である。天井部は崩落していた。主室はほぼ方形で，底面の長軸は2.3m・深さは1.1mとやや浅い。

2　火葬土坑（第88図，図版18・19）

本書で火葬土坑としたものは，長軸・短軸共1m程のT字形の浅い掘込みで，内部壁面が焼けていて，炭


SK307
調査区外
SK308
8K03
8K13
8K14
50.30m
SK309
7K65
180
50.50m
SK310
7K56
7K57
50.50m
3
14
(KR出土片と同一個体)
61
115
(SX207出土片と接合) 184
SK307一括出土遺物
16
35
42
56
112
(KR出土片と接合) 120
(KR出土片と接合)
126
147
SK308一括出土遺物
180
0
(1/60)
2m

第87図　地下式坑（6）

化物や人骨片が出土した遺構である。本遺跡では10基が検出されている。分布は地下式坑の分布に近い状況であり，北区東側の整形区画C～E内部及び周辺部と南区の整形区画B内と迂回路部分の大きく3地域である。また，土坑墓や地下式坑埋没後に造られたものが多く，葬送関連ではやや新しい様相を見せる。

構造は，T字の下の部分からトンネル状の穴に薪を入れ，上の部分で遺体を焼いた施設と考えられている。本遺跡検出の遺構は，トンネル部分は崩落していたようである。図では，右側に焼成部分を置いたが，主軸はほぼ東西方向で焼成部が東側にあり，遺体を北頭・西顔とする例に合致する。なお，SX209とSX217については，土坑墓と重複しており，第85図を参照されたい。

SX025

北区中央部東寄りの溝SD026，道SX021の硬化面を切って造られている。主軸はS-67°-Eで105cm，横軸は90cm，深さは35cmである。人骨片，炭化材（径3cm～10cmのマツ属複維管束亜属）が出土した。

SX023

北区北東部の溝SD024埋没後の覆土に掛かる。主軸はN-88°-Eで138cm，横軸は90cm，深さは50cmである。人骨片，炭化物が出土した。

SX010

整形区画Dの北東部に位置する。主軸はS-72°-Eで112cm，横軸は103cm，深さは20cmである。人骨片，炭化材（径3cm～5cmのウコギ属，径3cm～7cmのヤマグワ）が出土した。

SX013

主軸はS-87°-Eで71cm，横軸は100cm，深さは35cmである。炭化材（径5cmのサクラ属，径1cm～1.5cmのヤマグワ）が出土した。

SX217（第85図）

方形土坑墓SK209の北東隅を切って造られている。南東部の形状は不明であるが，主軸はN-82°-Eである。

SX209（第85図）

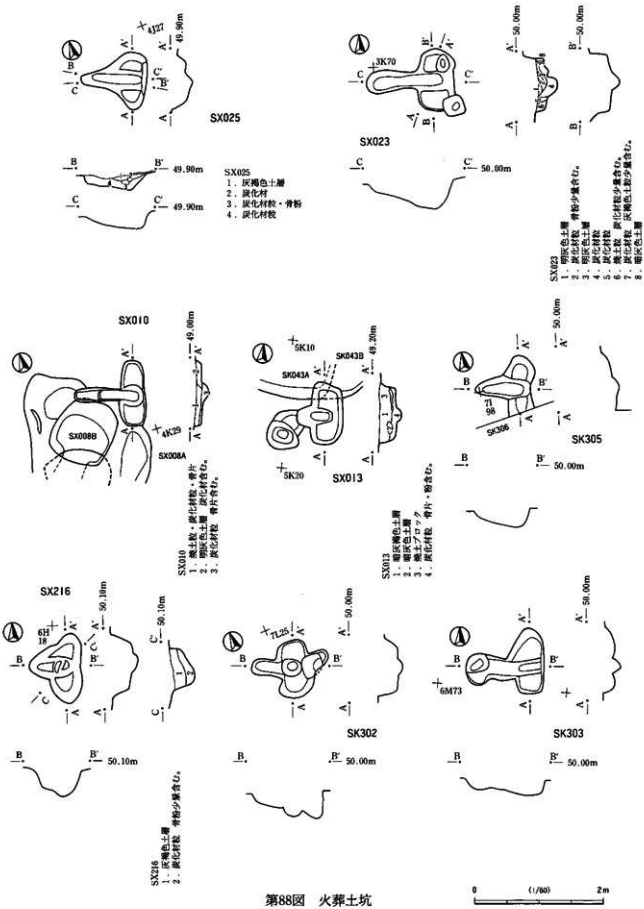
方形土坑墓SK208・209の東側を切って造られている。東側半分の形状は不明である。

SX216

南区の整形区画Bの南側で検出された。主軸はS-87°-Eで80cm，横軸は91cm，深さは46cmである。炭化物，人骨粉が出土した。

SK305

迂回路部分の西部で検出された。方形竪穴SK306の覆土を切っている。主軸はS-80°-Eで85cm，横軸は


SX025
SX025
1．灰褐色土層
2．炭化材
3．炭化材殻・骨粉
4．炭化材殻
SX023
SX023
1．明灰色土層
2．炭化材殻　骨粉少量含む。
3．明灰色土層
4．炭化材殻
5．炭化材殻
6．焼土殻
7．炭化材殻　炭化材殻少量含む。
8．暗灰色土層
SX010
SX008B
SX008A
SX010
1．焼土殻・炭化材殻・骨片
2．明灰色土層　炭化材含む。
3．炭化材殻　骨片材殻。
SX013
SK043A
SK043B
SX013
1．暗灰褐色土層
2．明灰色土層
3．焼土ブロック
4．炭化材殻　骨片・粉含む。
SK305
SK306
SX216
SX216
1．灰褐色土層
2．炭化材殻　骨粉少量含む。
SK302
SK303
0
(1/60)
2m

第88図　火葬土坑

91cm，深さは30cmである。

SK302

迂回路中央部で検出された。主軸はS-65°-Eで90cm，横軸は100cm，深さは42cmである。人骨片が出土した。なお，周辺から瀬戸・美濃壺片1点，常滑甕片2点，板碑片1点が出土した。

SK303

迂回路東部で検出された。主軸はN-85°-Eで101cm，横軸は116cm，深さは25cmである。

3　土坑墓・土坑（第89図～第115図，第6表）

本遺跡で検出された土坑は約305基であり，その内，形状や覆土等から115基は土坑墓と想定したが，他の約180基の多くは土坑墓の可能性が考えられる。掘立柱建物跡等と同様に遺跡全体を8区に分けて1/250平面図で位置を示し，各遺構についてはなるべく多くの図を掲載して情報を入れた。しかしながら，数が膨大であるので個々の説明は省略し，各区の状況を概観したい。代わりに第6表の土坑形態表と個々の図を参照されたいが，表と次に述べる各区の状況は遺構番号が付けられたもののみである。

なお，本遺跡で検出された土坑・土坑墓は，形状から次のように分類ができるので，説明したい。

方形土坑（墓）・・・(A類)	平面形が方形で，底がフラットなもの。
隅丸方形土坑（墓）・・・(B類)	平面形が隅丸方形で，底がフラットなもの。
円形土坑（墓）・・・(C類)	平面形が円形で，底がフラットなもの。
長方・楕円形土坑（墓）・・・(D類)	平面形が長方形または長楕円形で，底がフラットなもの。
不整形土坑（墓）・・・(E類)	平面形は多様であるが，底が丸や突出しているもの。

また，墓に推定されるものは1類，性格不明なものは2類とした。よって，例えば，方形土坑墓はA1類，円形土坑はC2類である。以下，各区の状況を概観したい。

(1)　1区北区（第89・90図）

円形土坑墓2基，円形土坑1基，不整形土坑1基の計4基である。土坑墓とした2基も浅く，この地区は墓域としては捉えがたい。

(2)　2区北区（第91図～第95図）

隅丸方形土坑墓4基，円形土坑墓12基，長方・楕円形土坑墓2基，不整形土坑墓3基，不整形土坑3基の計24基である。遺跡SX003と並木状植栽痕Cの間の墓域と整形区画A(SX005)内部の屋敷墓に大きく分かれる。SX005A・Bは隅丸方形土坑墓としたが，両者共半地下式の構造を有するものである。

(3)　2区南区

方形土坑墓3基，隅丸方形土坑墓11基，円形土坑墓4基，円形土坑1基，長方・楕円形土坑5基，不整形土坑墓1基，不整形土坑5基の計30基である。大きくSD202の西側と東側に分けられ，西側はさらに中央部のピット群（掘立柱建物跡SB021と並木状植栽痕G）を挟んだ南北側に分けられる。北側は整形区画Bで

あり，隅丸方形土坑墓が集中する。

(4)　3区北区（第96図～第104図）

方形土坑墓8基，隅丸方形土坑土坑墓7基，隅丸方形土坑2基，円形土坑墓11基，円形土坑1基，長方・楕円形土坑墓9基，長方・楕円形土坑5基，不整形土坑墓7基，不整形土坑74基の計124基である。大きくSD025の西側と東側の整形区画C～Eの4区に分けられる。本地区は緩やかな谷津斜面が段によって整形区画され，様々な形態の土坑が集中する。ただ，整形区画においては，北から西寄りに方形・隅丸方形土坑墓が多く，高度がやや下がる東側には不整形土坑が多い傾向がある。なお，鎌倉街道脇は撹乱のためか井戸以外に遺構は検出されていない。

(5)　3区南区（第96・105図）

方形土坑墓1基，円形土坑墓1基，長方・楕円形土坑墓2基，不整形土坑1基の計5基である。堀状の溝SD201の周囲である。形態的には北区とは異なるようである。また，鎌倉街道沿いの小規模な楕円形土坑列は近代の撹乱と考えられる。

(6)　4区（中区）（第106図～第108図）

方形土坑墓4基，隅丸方形土坑墓5基，円形土坑墓5基，長方・楕円形土坑墓5基，不整形土坑墓4基，不整形土坑3基の計26基である。南側は整形区画F内部であり，西側に緩やかに傾斜する。この区画の東端の段下には小規模な土坑墓が並び，中央部には方形竪穴を切って隅丸方形・円形土坑墓が形成されている。

(7)　5区（東区西側）（第109・110図）

不整形土坑3基である。東区では中世遺構・遺物が極端に少ないので，原始・古代の可能性もある。

(8)　6区（東区東側）（第111図）

当地区には，土坑は見られない。

(9)　7区（迂回路区西側）（第112・113図）

整形区画G内の円形土坑墓1基（SK313）である。地下式坑・方形竪穴・火葬墓が切り合った箇所である。なお，SX300内部の楕円形の穴も土坑墓の可能性がある。

(10)　8区（迂回路区東側）（第114・115図）

長方・楕円形土坑墓1基のみである。

4F　4G　4H

SK018　SK011　SK012　SK019

(SX016)　(SX018)　(SX015)　(SX006)　(SX007)

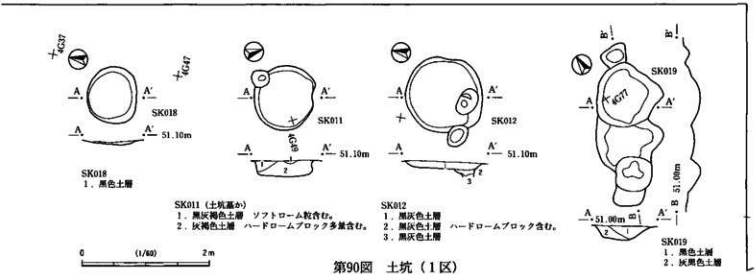
SX207　SX207B　(SX207)　(SX203)

6I　6G　6H

(　)＝土坑以外

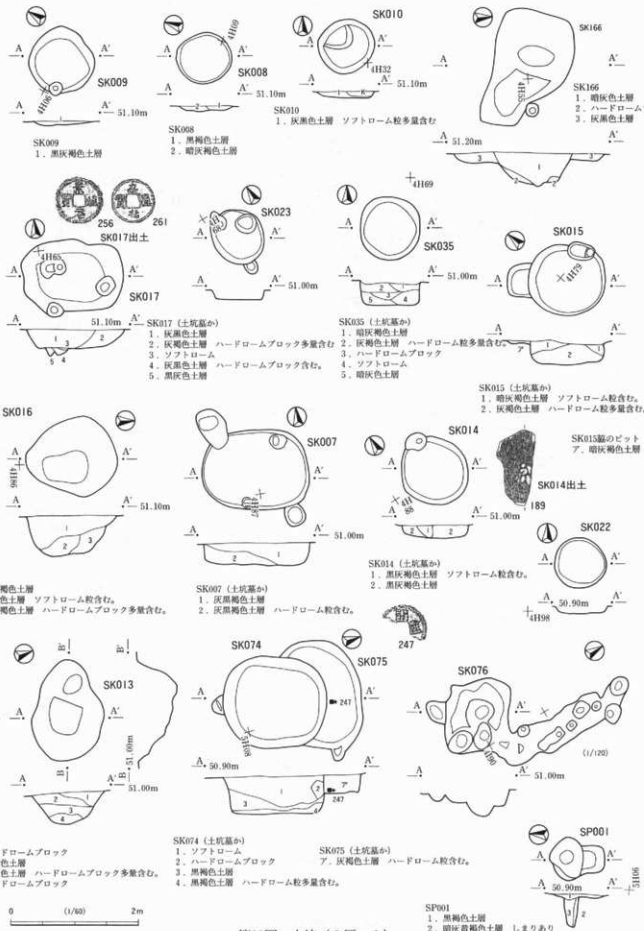
第89図　土坑他分布（1区）

0　(1/250)　10m

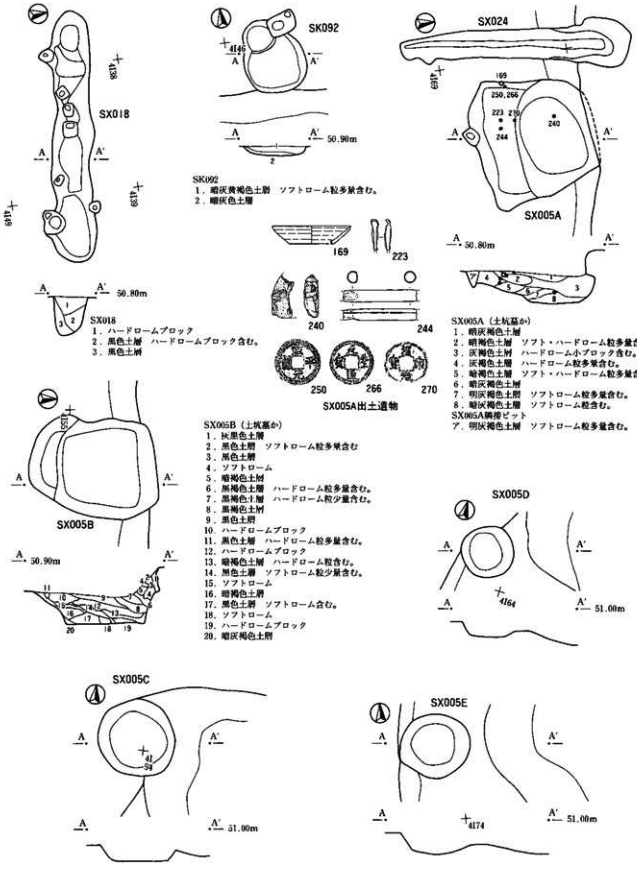


第90図　土坑（1区）

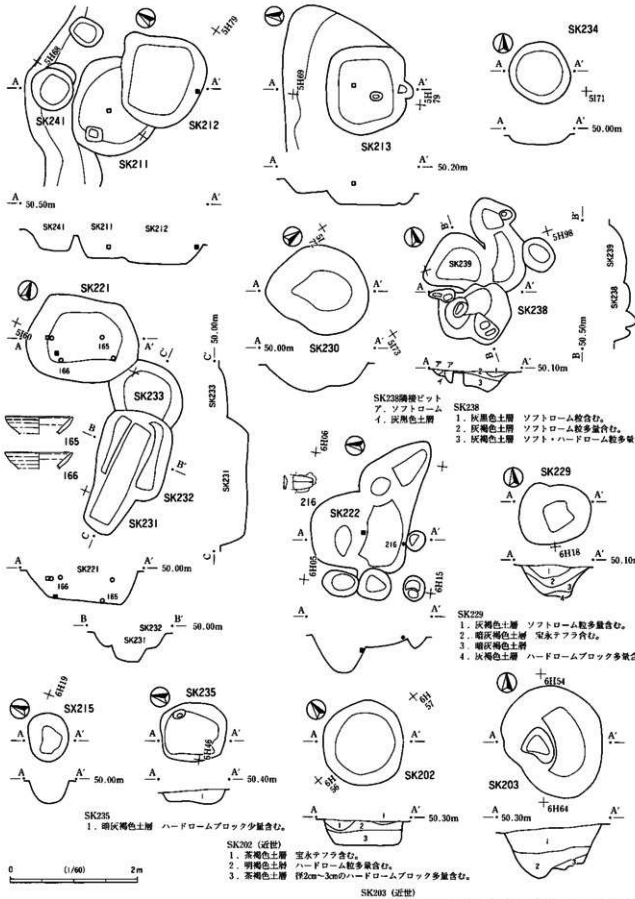
第91図　土坑他分布（２区）


SK009
1．黒灰褐色土層
SK008
1．黒褐色土層
2．暗灰褐色土層
SK010
1．灰黒色土層　ソフトローム粒多量含む
SK166
1．暗灰色土層
2．ハードロームブロック
3．灰黒色土層
256
261
SK017出土
SK017
SK017（土坑墓か）
1．灰黒色土層
2．灰褐色土層　ハードロームブロック多量含む
3．ソフトローム
4．灰黒色土層　ハードロームブロック含む。
5．黒灰色土層
SK023
SK035
SK035（土坑墓か）
1．暗灰褐色土層
2．灰褐色土層　ハードローム粒多量含む。
3．ハードロームブロック
4．ソフトローム
5．暗灰色土層
SK015
SK015（土坑墓か）
1．暗灰褐色土層　ソフトローム粒含む。
2．灰褐色土層　ハードローム粒多量含む。
SK015脇のピット
ア．暗灰褐色土層
SK014出土
189
SK016
SK016
1．暗灰褐色土層
2．灰褐色土層　ソフトローム粒含む。
3．明灰褐色土層　ハードロームブロック多量含む。
SK007
SK007（土坑墓か）
1．灰黒褐色土層
2．灰黒褐色土層　ハードローム粒含む。
SK014
SK014（土坑墓か）
1．黒灰褐色土層　ソフトローム粒含む。
2．黒灰褐色土層
SK022
247
SK013
SK013
1．ハードロームブロック
2．暗灰色土層
3．暗灰色土層　ハードロームブロック多量含む。
4．ハードロームブロック
SK074
SK074（土坑墓か）
1．ソフトローム
2．ハードロームブロック
3．黒褐色土層
4．黒褐色土層　ハードローム粒多量含む。
SK075
SK075（土坑墓か）
ア．灰褐色土層　ハードローム粒含む。
SK076
(1/120)
SP001
SP001
1．黒褐色土層
2．暗灰黄褐色土層　しまりあり
3．暗灰褐色土層（柱痕）
0
(1/60)
2m

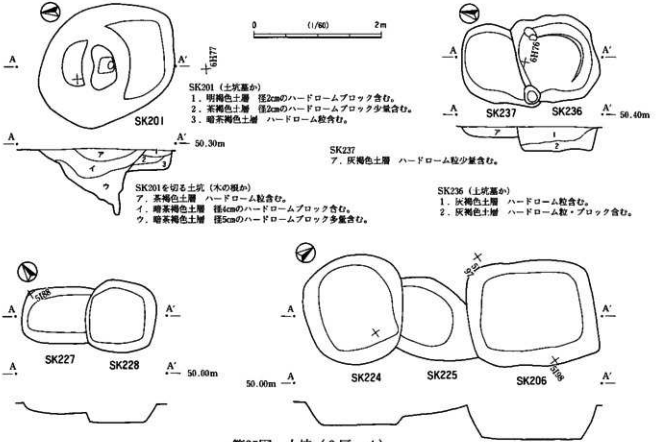
第92図　土坑（２区－１）


SX018
SK092
SX024
SX005A
SX005B
SX005C
SX005D
SX005E
50.80m
50.90m
50.98m
51.00m
SK092
1．暗灰黄褐色土層　ソフトローム粒多量含む。
2．暗灰色土層
SX018
1．ハードロームブロック
2．黒色土層　ハードロームブロック含む。
3．黒色土層
SX005A出土遺物
SX005A（土坑墓か）
1．暗灰褐色土層
2．暗褐色土層　ソフト・ハードローム粒多量含む。
3．灰褐色土層　ハードローム小ブロック含む。
4．灰褐色土層　ハードローム粒多量含む。
5．暗褐色土層　ソフト・ハードローム粒多量含む。
6．暗灰褐色土層
7．明灰褐色土層　ソフトローム粒多量含む。
8．暗灰褐色土層　ソフトローム粒含む。
SX005A隣接ピット
ア．明灰褐色土層　ソフトローム粒多量含む。
SX005B（土坑墓か）
1．灰黒色土層
2．黒色土層　ソフトローム粒多量含む
3．黒色土層
4．ソフトローム
5．暗褐色土層
6．黒褐色土層　ハードローム粒多量含む。
7．黒褐色土層　ハードローム粒少量含む。
8．黒褐色土層
9．黒色土層
10．ハードロームブロック
11．黒色土層　ハードローム粒多量含む。
12．ハードロームブロック
13．暗褐色土層　ハードローム粒含む。
14．黒色土層　ソフトローム粒少量含む。
15．ソフトローム
16．暗褐色土層
17．黒色土層　ソフトローム含む。
18．ソフトローム
19．ハードロームブロック
20．暗灰褐色土層
0　(1/60)　2m

第93図　土坑（２区－２）

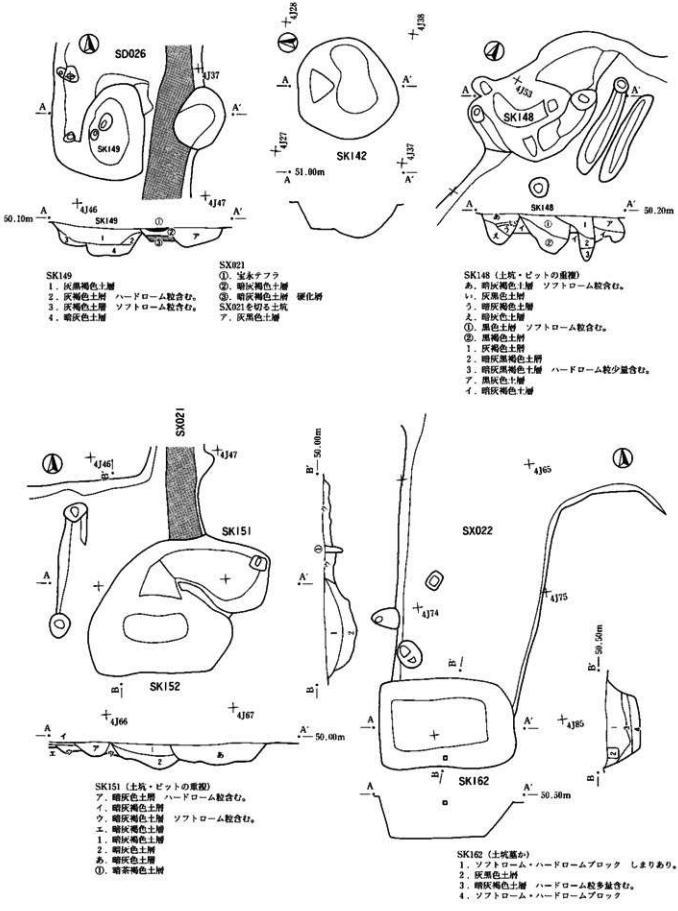

SK241
SK211
SK212
SK213
SK234
SK221
SK233
SK232
SK231
SK230
SK239
SK238
SK222
SK229
SX215
SK235
SK202
SK203
50.50m
50.20m
50.00m
50.10m
50.40m
50.30m
SK238隅検ピット
ア．ソフトローム
イ．灰黒色土層
SK238
1．灰黒色土層　ソフトローム粒含む。
2．灰褐色土層　ソフトローム粒多量含む。
3．灰褐色土層　ソフト・ハードローム粒多量含む。
SK229
1．灰褐色土層　ソフトローム粒多量含む。
2．暗灰褐色土層　宝永テフラ含む。
3．暗灰褐色土層
4．灰褐色土層　ハードロームブロック多量含む。
SK235
1．明灰褐色土層　ハードロームブロック少量含む。
SK202（近世）
1．茶褐色土層　宝永テフラ含む。
2．明褐色土層　ハードローム粒多量含む。
3．茶褐色土層　径2cm～3cmのハードロームブロック多量含む。
SK203（近世）
1．暗茶褐色土層　宝永テフラ・径2cm～3cmのハードロームブロック含む。
2．茶褐色土層　径5cmのハードロームブロック多量含む。
3．褐色土層　ソフトローム粒多量含む。
0　(1/60)　2m

第94図　土坑（２区－３）


0 (1/60) 2m
SK201
A
A'
50.30m
SK201（土坑基か）
1．明褐色土層　径2cmのハードロームブロック含む。
2．茶褐色土層　径2cmのハードロームブロック少量含む。
3．暗茶褐色土層　ハードローム粒含む。
SK201を切る土坑（木の根か）
ア．茶褐色土層　ハードローム粒含む。
イ．暗茶褐色土層　径4cmのハードロームブロック含む。
ウ．暗茶褐色土層　径5cmのハードロームブロック多量含む。
SK237
ア．灰褐色土層　ハードローム粒少量含む。
SK237
SK236
50.40m
SK236（土坑基か）
1．灰褐色土層　ハードローム粒含む。
2．灰褐色土層　ハードローム粒・ブロック含む。
SK227
SK228
50.00m
SK224
SK225
SK206
50.00m

第95図　土坑（２区－４）

3J
3K
4J
4L
6K
6L
(SX004)
(SX005)
(SX007)
(SX008)
(SX010)
(SX012)
(SX014)
(SX017)
(SX019)
(SX022)
(SX026)
(SX201)
(SX204)
(SX207)
(KR)
SX218
(SD205)
(SD204)
(SD201)
(SD016)
(SD018)
(SD021)
(SD023)
(SD024)
(SD025)
(SD026)
(SD027)
(SD028)
(SD029)
(SD030)
(SD031)
(SD032)
(SD033)
(SD034)
(SD035)
(SD036)
(SD037)
(SD038)
(SD039)
(SD040)
(SD041)
(SD042)
(SD043)
(SD044)
(SD045)
(SD046)
(SD047)
(SD048)
(SD049)
(SD050)
(SD051)
(SD052)
(SD053)
(SD054)
(SD055)
(SD056)
(SD057)
(SD058)
(SD059)
(SD060)
(SD061)
(SD062)



SK149
1．灰黒褐色土層
2．灰褐色土層　ハードローム粒含む。
3．灰褐色土層　ソフトローム粒含む。
4．暗灰色土層

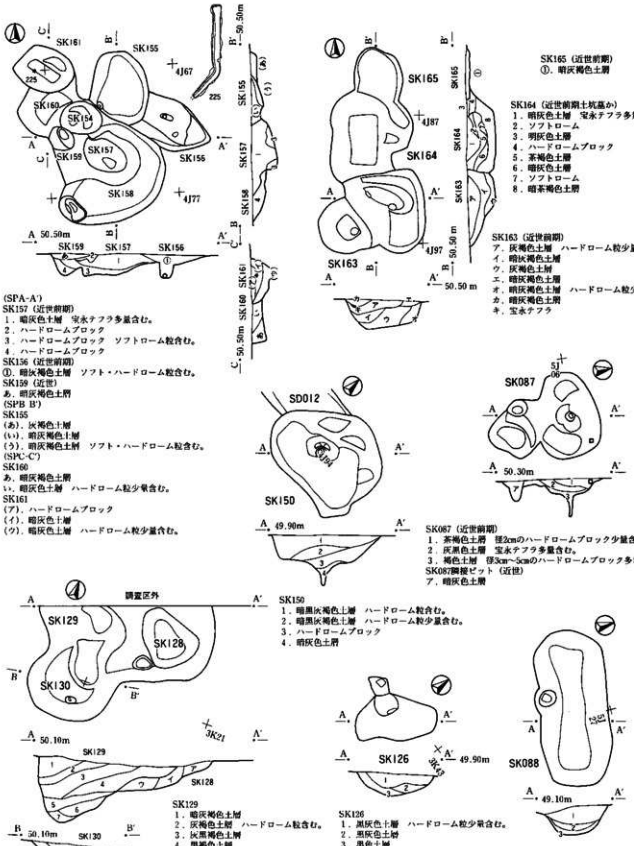
SX021
①．宝永テフラ
②．暗灰褐色土層
③．暗灰褐色土層　硬化層
SX021を切る土坑
ア．灰黒色土層

SK148（土坑・ピットの重複）
あ．暗灰褐色土層　ソフトローム粒含む。
い．灰黒色土層
う．暗灰褐色土層
え．暗灰色土層
①．黒色土層　ソフトローム粒含む。
②．黒褐色土層
1．灰褐色土層
2．暗灰黒褐色土層
3．暗灰黒褐色土層　ハードローム粒少量含む。
ア．黒灰色土層
イ．暗灰褐色土層

SK151（土坑・ピットの重複）
ア．暗灰色土層　ハードローム粒含む。
イ．暗灰褐色土層
ウ．暗灰褐色土層　ソフトローム粒含む。
エ．暗灰褐色土層
1．暗灰褐色土層
2．暗灰色土層
あ．暗灰色土層
①．暗茶褐色土層

SK162（土坑墓か）
1．ソフトローム・ハードロームブロック　しまりあり。
2．灰黒色土層
3．暗灰褐色土層　ハードローム粒多量含む。
4．ソフトローム・ハードロームブロック

第97図　土坑（3区－1）



(SPA-A')
SK157（近世前期）
1．暗灰色土層　宝永テフラ多量含む。
2．ハードロームブロック
3．ハードロームブロック　ソフトローム粒含む。
4．ハードロームブロック
SK156（近世前期）
①．暗灰褐色土層　ソフト・ハードローム粒含む。
SK159（近世）
あ．明灰褐色土層
(SPB-B')
SK155
(あ)．灰褐色土層
(い)．暗灰褐色土層
(う)．明灰褐色土層　ソフト・ハードローム粒含む。
(SPC-C')
SK160
あ．明灰褐色土層
い．暗灰色土層　ハードローム粒少量含む。
SK161
(ア)．ハードロームブロック
(イ)．暗灰色土層
(ウ)．暗灰色土層　ハードローム粒少量含む。

SK165（近世前期）
①．明灰褐色土層

SK164（近世前期土坑墓か）
1．明灰色土層　宝永テフラ多量含む。
2．ソフトローム
3．明灰色土層
4．ハードロームブロック
5．茶褐色土層
6．暗灰色土層
7．ソフトローム
8．暗茶褐色土層

SK163（近世前期）
ア．灰褐色土層　ハードローム粒少量含む。
イ．暗灰褐色土層
ウ．灰褐色土層
エ．暗灰褐色土層
オ．明灰褐色土層　ハードローム粒少量含む。
カ．暗灰褐色土層
キ．宝永テフラ

SK087（近世前期）
1．茶褐色土層　径2cmのハードロームブロック少量含む。
2．灰黒色土層　宝永テフラ多量含む。
3．褐色土層　径3cm～5cmのハードロームブロック多量含む。
SK087隣接ピット（近世）
ア．暗灰色土層

SK150
1．暗黒灰褐色土層　ハードローム粒含む。
2．暗黒灰褐色土層　ハードローム粒少量含む。
3．ハードロームブロック
4．暗灰色土層

SK129
1．暗灰褐色土層
2．灰褐色土層　ハードローム粒含む。
3．灰黒褐色土層
4．黒褐色土層
5．ハードロームブロック
6．黒褐色土層　ソフトローム粒含む。
7．黒褐色土層

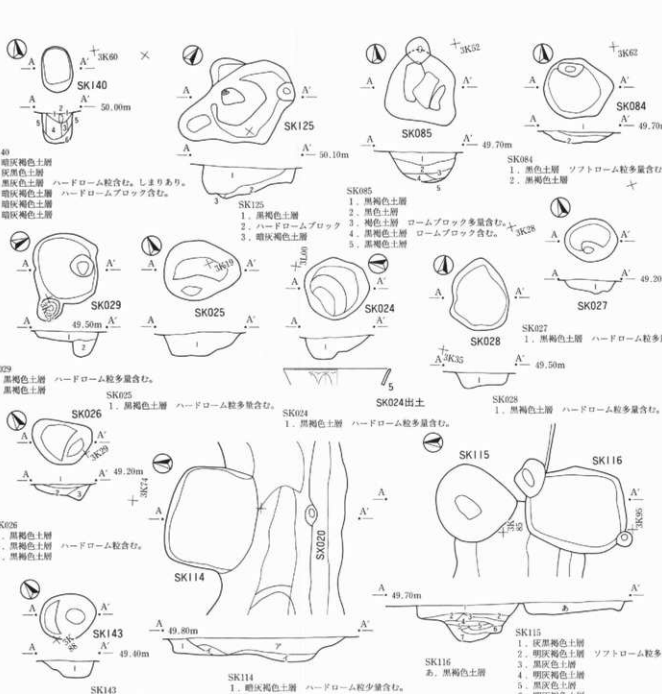
SK128
ア．灰黒褐色土層
イ．灰黒色土層
ウ．灰色土層

SK126
1．黒灰色土層　ハードローム粒少量含む。
2．黒灰色土層
3．黒色土層

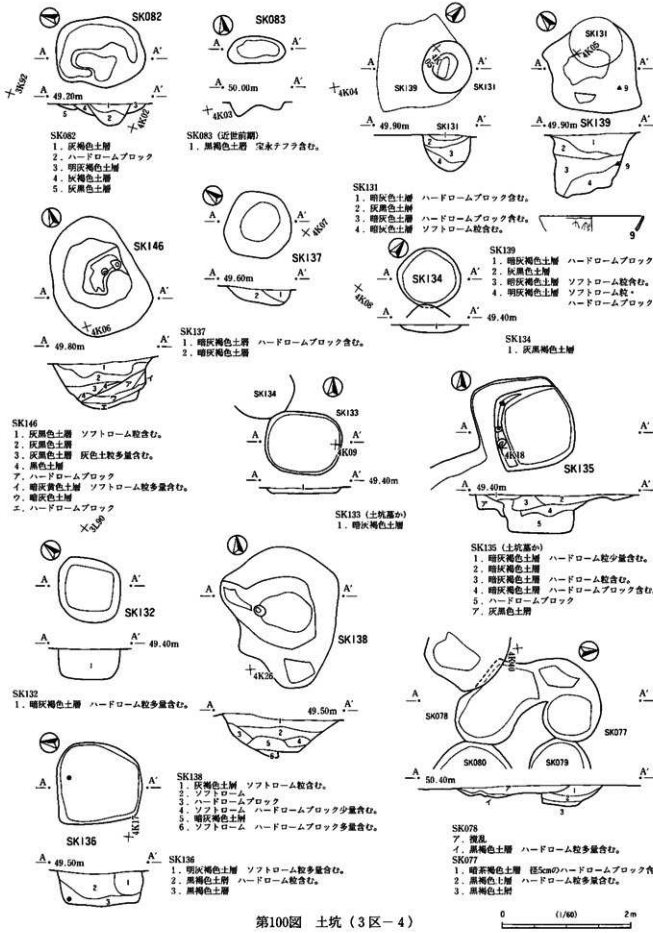
SK088
1．褐色土層　径3cm～5cmのロームブロック多量含む。
2．暗茶褐色土層　ハードローム粒含む。
3．茶褐色土層　ハードローム粒少量含む。

SK130
①．暗灰褐色土層　ハードロームブロック多量含む。
②．灰黒色土層
③．明灰黒色土層

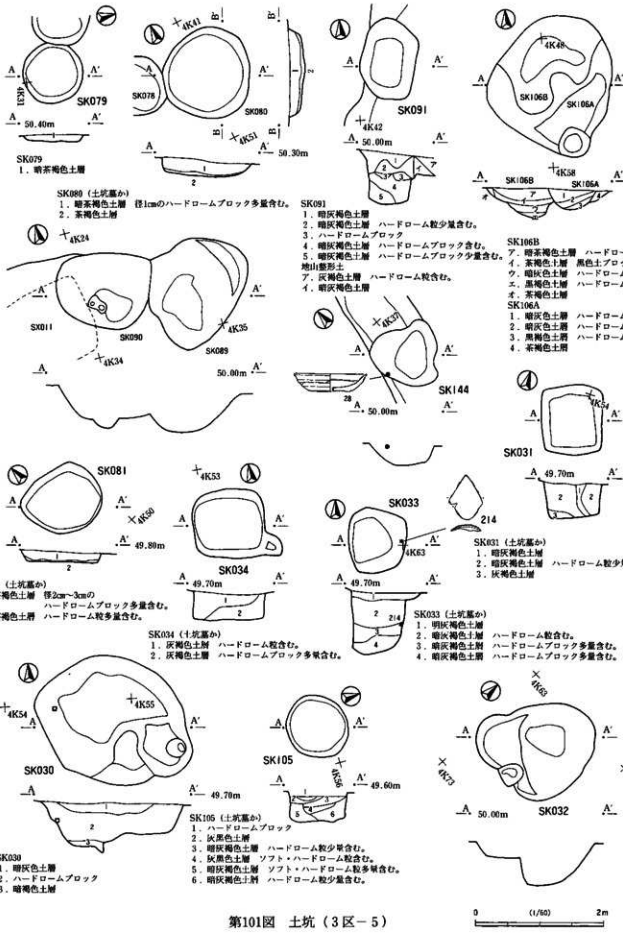
第98図　土坑（3区－2）


SK140
1．暗灰褐色土層
2．灰黒色土層
3．黒灰色土層　ハードローム粒含む。しまりあり。
4．暗灰褐色土層　ハードロームブロック含む。
5．暗灰褐色土層
6．暗灰褐色土層
SK125
1．黒褐色土層
2．ハードロームブロック
3．暗灰褐色土層
SK085
1．黒褐色土層
2．黒色土層
3．褐色土層　ロームブロック多量含む。
4．黒褐色土層　ロームブロック含む。
5．黒褐色土層
SK084
1．黒色土層　ソフトローム粒多量含む。
2．黒褐色土層
SK029
1．黒褐色土層　ハードローム粒多量含む。
2．黒褐色土層
SK025
1．黒褐色土層　ハードローム粒多量含む。
SK024
1．黒褐色土層　ハードローム粒多量含む。
SK024出土
SK027
1．黒褐色土層　ハードローム粒多量含む。
SK028
1．黒褐色土層　ハードローム粒多量含む。
SK026
1．黒褐色土層
2．黒褐色土層　ハードローム粒含む。
3．黒褐色土層
SK114
1．暗灰褐色土層　ハードローム粒少量含む。
SX020
ア．暗灰褐色土層　ハードローム粒含む。
イ．暗灰褐色土層　ハードローム粒微量含む。
SK115
1．灰黒褐色土層
2．明灰褐色土層　ソフトローム粒多量含む。
3．黒灰色土層
4．明灰褐色土層
5．黒灰色土層
6．明灰褐色土層
7．黒色土層
SK116
あ．黒褐色土層
SK143
1．黒色土層
SK127
1．黒褐色土層　灰色土ブロック含む。
2．ソフトローム粒
ピット
SP006
SK117（土坑墓か）
1．暗灰褐色土層　ハードローム粒多量含む。
2．暗灰褐色土層　ハードローム粒含む。
3．明灰褐色土層　ソフトローム粒多量含む。
SK118
ア．黒褐色土層
イ．黒褐色土層　ハードロームブロック含む。
0　(1/40)　2m

第99図　土坑（３区－３）


SK082
A
A'
49.20m
4K02
SK082
1．灰褐色土層
2．ハードロームブロック
3．明灰褐色土層
4．灰褐色土層
5．灰黒色土層
SK083
A
A'
50.00m
4K03
SK083（近世前期）
1．黒褐色土層　宝永テフラ含む。
SK129
SK131
4K04
49.90m
SK131
SK131
4K05
49.90m
SK139
SK131
1．明灰色土層　ハードロームブロック含む。
2．灰黒色土層
3．暗灰色土層　ハードロームブロック含む。
4．暗灰色土層　ソフトローム粒含む。
SK139
1．暗灰褐色土層　ハードロームブロック含む。
2．灰黒色土層
3．暗灰褐色土層　ソフトローム粒含む。
4．明灰褐色土層　ソフトローム粒・ハードロームブロック多量含む。
SK146
4K06
49.80m
SK146
1．灰黒色土層　ソフトローム粒含む。
2．灰黒色土層
3．灰黒色土層　灰色土粒多量含む。
4．黒色土層
ア．ハードロームブロック
イ．暗灰黄色土層　ソフトローム粒多量含む。
ウ．暗灰色土層
エ．ハードロームブロック
SK137
4K07
49.60m
SK137
1．暗灰褐色土層　ハードロームブロック含む。
2．暗灰黒色土層
SK134
4K08
49.40m
SK134
1．灰黒褐色土層
SK134
SK133
4K09
49.40m
SK133（土坑墓か）
1．暗灰褐色土層
SK135
4K18
49.40m
SK135（土坑墓か）
1．暗灰褐色土層　ハードローム粒少量含む。
2．暗灰褐色土層
3．暗灰褐色土層　ハードローム粒含む。
4．暗灰褐色土層　ハードロームブロック含む。
5．ハードロームブロック
ア．灰黒色土層
SK132
49.40m
SK132
1．暗灰褐色土層　ハードローム粒多量含む。
SK138
4K26
49.50m
SK138
1．灰褐色土層　ソフトローム粒含む。
2．ソフトローム
3．ハードロームブロック
4．ソフトローム　ハードロームブロック少量含む。
5．暗灰褐色土層
6．ソフトローム　ハードロームブロック多量含む。
SK136
4K27
49.50m
SK136
1．明灰褐色土層　ソフトローム粒多量含む。
2．黒褐色土層　ハードローム粒含む。
3．黒褐色土層
SK078
SK077
SK080
SK079
50.40m
SK078
ア．撹乱
イ．黒褐色土層　ハードローム粒多量含む。
SK077
1．暗赤褐色土層　径5cmのハードロームブロック含む。
2．黒褐色土層　ハードローム粒多量含む。
3．黒褐色土層
0
(1/60)
2m

第100図　土坑（３区－４）



SK079
1．暗茶褐色土層

SK080（土坑墓か）
1．暗茶褐色土層　径1cmのハードロームブロック多量含む。
2．茶褐色土層

SK091
1．暗灰褐色土層
2．暗灰褐色土層　ハードローム粒少量含む。
3．ハードロームブロック
4．暗灰褐色土層　ハードロームブロック含む。
5．暗灰褐色土層　ハードロームブロック少量含む。
地山整形土
ア．灰褐色土層　ハードローム粒含む。
イ．暗灰褐色土層

SK106B
ア．暗茶褐色土層　ハードローム粒少量含む。
イ．茶褐色土層　黒色土ブロック含む。
ウ．暗灰色土層　ハードローム粒多量含む。
エ．黒褐色土層　ハードローム粒含む。
オ．茶褐色土層
SK106A
1．暗灰色土層　ハードローム粒少量含む。
2．暗灰色土層　ハードローム粒多量含む。
3．黒褐色土層　ハードローム粒含む。
4．茶褐色土層

SK081（土坑墓か）
1．茶褐色土層　径2cm～3cmの
ハードロームブロック多量含む。
2．茶褐色土層　ハードローム粒多量含む。

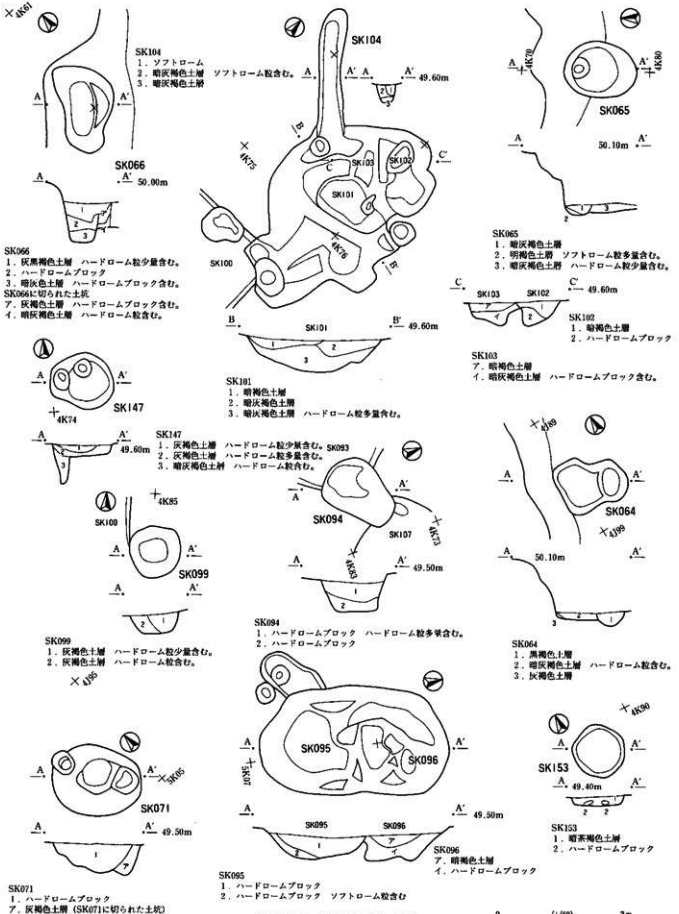
SK034（土坑墓か）
1．灰褐色土層　ハードローム粒含む。
2．灰褐色土層　ハードロームブロック多量含む。

SK033（土坑墓か）
1．明灰褐色土層
2．暗灰褐色土層　ハードローム粒含む。
3．暗灰褐色土層　ハードロームブロック多量含む。しまりあり。
4．暗灰褐色土層　ハードロームブロック多量含む。

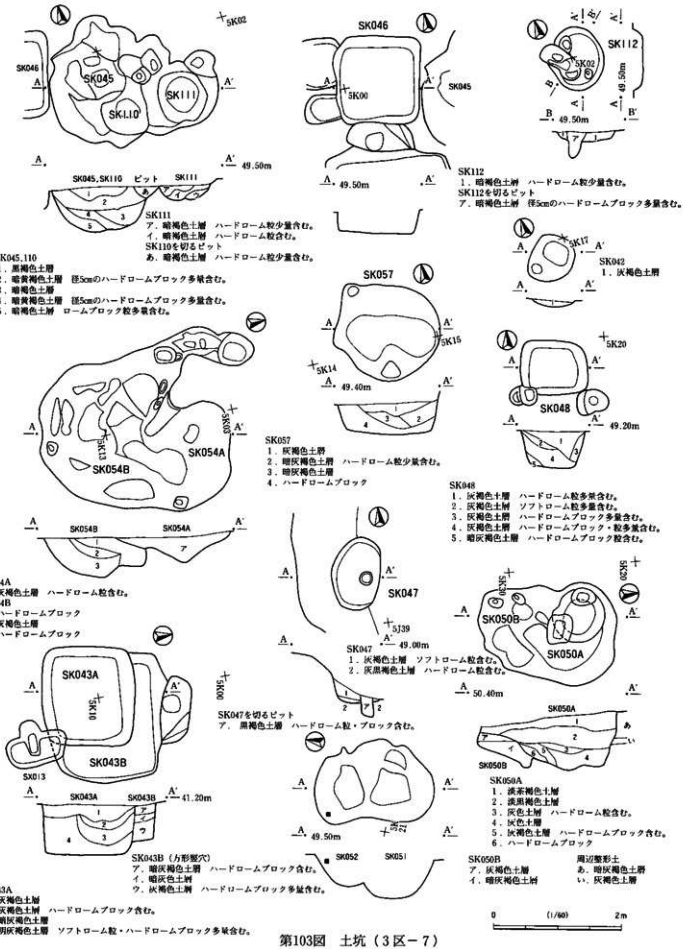
SK030
1．暗灰色土層
2．ハードロームブロック
3．暗褐色土層

SK105（土坑墓か）
1．ハードロームブロック
2．灰黒色土層
3．暗灰褐色土層　ハードローム粒少量含む。
4．灰黒色土層　ソフト・ハードローム粒含む。
5．暗灰褐色土層　ソフト・ハードローム粒多量含む。
6．暗灰褐色土層　ハードローム粒少量含む。

第101図　土坑（3区－5）


SK066
1．黒褐色土層　ハードローム粒少量含む。
2．ハードロームブロック
3．暗灰色土層　ハードロームブロック含む。
SK066に切られた土抗
ア．灰褐色土層　ハードロームブロック含む。
イ．暗灰褐色土層　ハードローム粒含む。
SK104
1．ソフトローム
2．暗灰褐色土層　ソフトローム粒含む。
3．暗灰褐色土層
SK065
1．暗灰褐色土層
2．明褐色土層　ソフトローム粒多量含む。
3．暗灰褐色土層　ハードローム粒少量含む。
SK102
1．暗褐色土層
2．ハードロームブロック
SK103
ア．暗褐色土層
イ．暗灰褐色土層　ハードロームブロック含む。
SK101
1．暗褐色土層
2．暗灰褐色土層
3．暗灰褐色土層　ハードローム粒多量含む。
SK147
1．灰褐色土層　ハードローム粒少量含む。
2．灰褐色土層　ハードローム粒多量含む。
3．暗灰褐色土層　ハードローム粒含む。
SK099
1．灰褐色土層　ハードローム粒少量含む。
2．灰褐色土層　ハードローム粒含む。
SK094
1．ハードロームブロック　ハードローム粒多量含む。
2．ハードロームブロック
SK064
1．黒褐色土層
2．暗灰褐色土層　ハードローム粒含む。
3．灰褐色土層
SK071
1．ハードロームブロック
ア．灰褐色土層（SK071に切られた土抗）
SK095
1．ハードロームブロック
2．ハードロームブロック　ソフトローム粒含む
SK096
ア．暗褐色土層
イ．ハードロームブロック
SK153
1．暗赤褐色土層
2．ハードロームブロック
0　(1/40)　2m

第102図　土坑（3区－6）



SK045,SK110
1．黒褐色土層
2．暗黄褐色土層　径5cmのハードロームブロック多量含む。
3．暗褐色土層
4．暗黄褐色土層　径5cmのハードロームブロック多量含む。
5．暗褐色土層　ロームブロック粒多量含む。

SK111
ア．暗褐色土層　ハードローム粒少量含む。
イ．暗褐色土層　ハードローム粒含む。
SK110を切るピット
あ．暗褐色土層　ハードローム粒少量含む。

SK112
1．暗褐色土層　ハードローム粒少量含む。
SK112を切るピット
ア．暗褐色土層　径5cmのハードロームブロック多量含む。

SK042
1．灰褐色土層

SK057
1．灰褐色土層
2．暗灰褐色土層　ハードローム粒少量含む。
3．暗褐色土層
4．ハードロームブロック

SK048
1．灰褐色土層　ハードローム粒多量含む。
2．灰褐色土層　ソフトローム粒多量含む。
3．灰褐色土層　ハードロームブロック多量含む。
4．灰褐色土層　ハードロームブロック・粒多量含む。
5．暗灰褐色土層　ハードロームブロック粒含む。

SK054A
ア．灰褐色土層　ハードローム粒含む。
SK054B
1．ハードロームブロック
2．灰褐色土層
3．ハードロームブロック

SK047
1．灰褐色土層　ソフトローム粒含む。
2．灰黒褐色土層　ハードローム粒含む。

SK047を切るピット
ア．黒褐色土層　ハードローム粒・ブロック含む。

SK050A
1．淡茶褐色土層
2．淡黒褐色土層
3．灰色土層　ハードローム粒含む。
4．灰色土層
5．灰褐色土層　ハードロームブロック含む。
6．ハードロームブロック

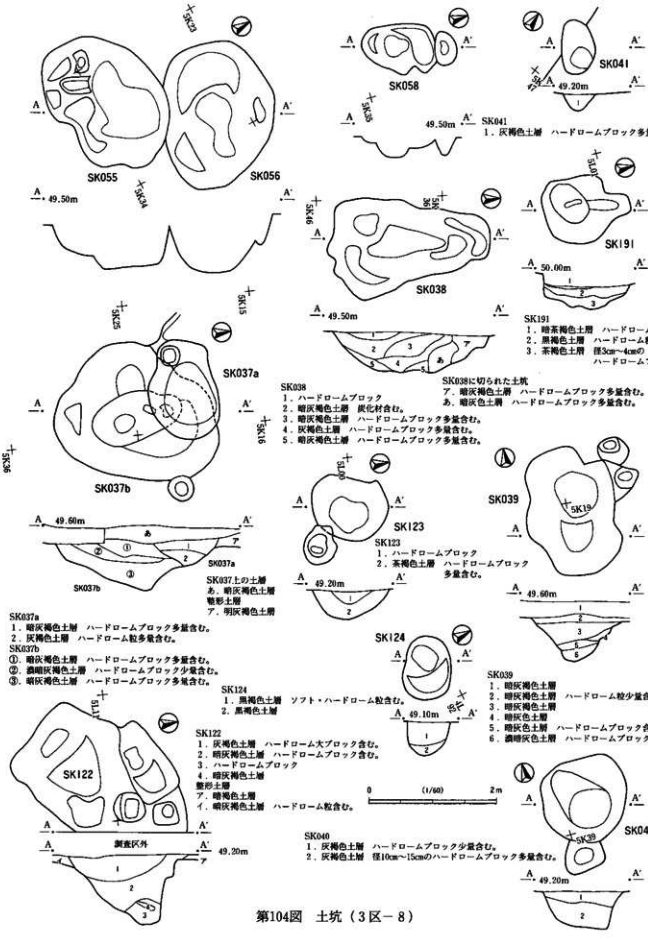
SK043B（方形竪穴）
ア．暗灰褐色土層　ハードロームブロック含む。
イ．暗灰色土層
ウ．灰褐色土層　ハードロームブロック多量含む。

SK043A
1．灰褐色土層
2．灰褐色土層　ハードロームブロック含む。
3．暗灰褐色土層
4．明灰褐色土層　ソフトローム粒・ハードロームブロック多量含む。

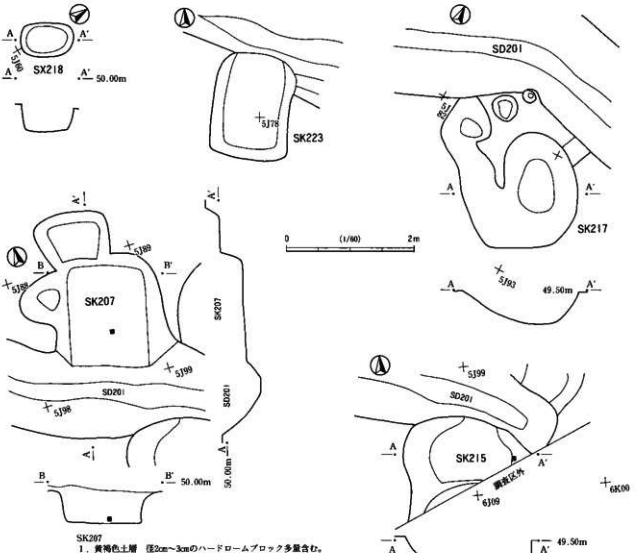
SK050B
ア．灰褐色土層
イ．暗灰褐色土層

周辺整形土
あ．暗灰褐色土層
い．灰褐色土層

第103図　土坑（3区－7）


SK055
SK056
SK058
SK041
SK038
SK191
SK037a
SK037b
SK123
SK039
SK124
SK122
SK040
49.50m
49.20m
49.60m
50.00m
49.10m
調査区外
0 (1/60) 2m
SK041
1．灰褐色土層　ハードロームブロック多量含む。
SK191
1．暗茶褐色土層　ハードローム粒含む。
2．黒褐色土層　ハードローム粒多量含む。
3．茶褐色土層　径3cm～4cmの
ハードロームブロック多量含む。
SK038
1．ハードロームブロック
2．暗灰褐色土層　炭化材含む。
3．暗灰褐色土層　ハードロームブロック多量含む。
4．灰褐色土層　ハードロームブロック多量含む。
5．暗灰褐色土層　ハードロームブロック多量含む。
SK038に切られた土坑
ア．暗灰褐色土層　ハードロームブロック多量含む。
あ．暗灰色土層　ハードロームブロック多量含む。
SK123
1．ハードロームブロック
2．茶褐色土層　ハードロームブロック
多量含む。
SK037a
1．暗灰褐色土層　ハードロームブロック多量含む。
2．灰褐色土層　ハードローム粒多量含む。
SK037b
①．暗灰褐色土層　ハードロームブロック多量含む。
②．濃暗灰褐色土層　ハードロームブロック少量含む。
③．明灰褐色土層　ハードロームブロック多量含む。
SK037aの土層
あ．暗灰褐色土層
整形土層
ア．明灰褐色土層
SK124
1．黒褐色土層　ソフト・ハードローム粒含む。
2．黒褐色土層
SK039
1．暗灰褐色土層
2．暗灰褐色土層　ハードローム粒少量含む。
3．暗灰褐色土層
4．暗灰色土層
5．暗灰色土層　ハードロームブロック含む。
6．濃暗灰色土層　ハードロームブロック少量含む。
SK122
1．灰褐色土層　ハードローム大ブロック含む。
2．暗灰褐色土層　ハードロームブロック含む。
3．ハードロームブロック
4．暗灰褐色土層
整形土層
ア．暗褐色土層
イ．暗灰褐色土層　ハードローム粒含む。
SK040
1．灰褐色土層　ハードロームブロック少量含む。
2．灰褐色土層　径10cm～15cmのハードロームブロック多量含む。

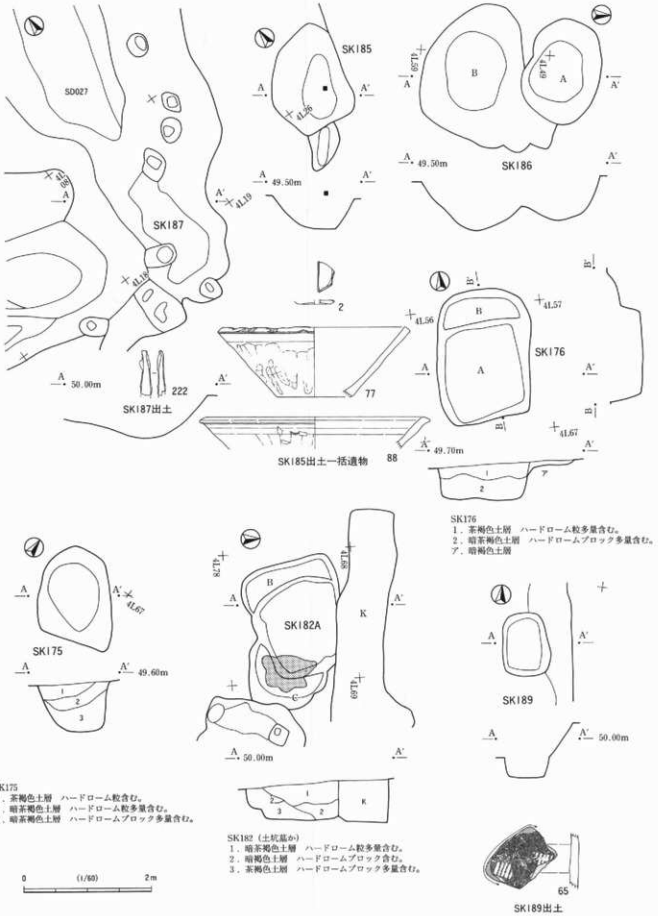
第104図　土坑（3区－8）



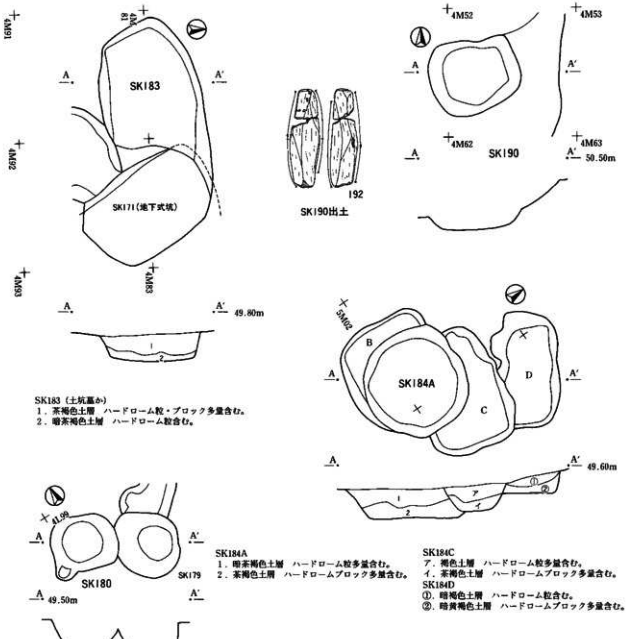
SK207
1．黄褐色土層　径2cm～3cmのハードロームブロック多量含む。

第105図　土坑（３区－９）

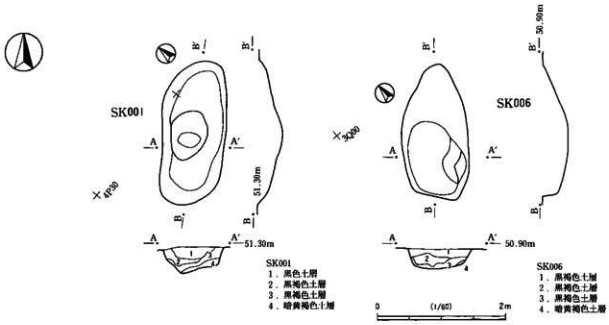
第106図　土坑他分布（４区）


SD027
SK187
SK187出土
222
50.00m
SK185
49.50m
SK186
49.50m
SK176
49.70m
77
SK185出土一括遺物
88
SK176
1．茶褐色土層　ハードローム粒多量含む。
2．暗茶褐色土層　ハードロームブロック多量含む。
ア．暗褐色土層
SK175
49.60m
SK175
1．茶褐色土層　ハードローム粒含む。
2．暗茶褐色土層　ハードローム粒多量含む。
3．暗茶褐色土層　ハードロームブロック多量含む。
SK182A
50.00m
SK182（土坑墓か）
1．暗茶褐色土層　ハードローム粒多量含む。
2．暗褐色土層　ハードロームブロック含む。
3．茶褐色土層　ハードロームブロック多量含む。
SK189
50.00m
65
SK189出土
0
(1/60)
2m

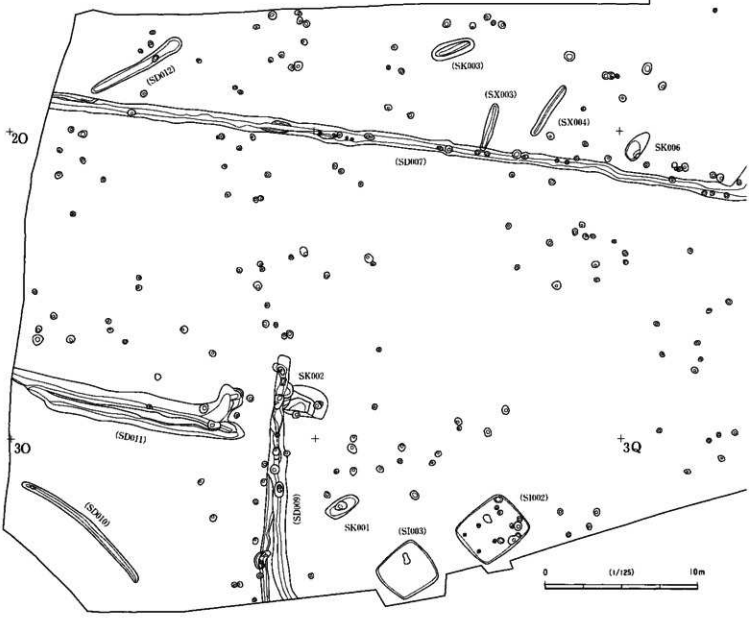
第107図　土坑（4区－1）


SK183
SK171(地下式坑)
4M51
4M52
4M53
4M63
SK190
50.50m
192
SK190出土
49.80m
SK183（土坑墓か）
1．茶褐色土層　ハードローム粒・ブロック多量含む。
2．暗茶褐色土層　ハードローム粒含む。
SK184A
SK184B
SK184C
SK184D
49.60m
SK180
SK179
49.50m
SK184A
1．暗茶褐色土層　ハードローム粒多量含む。
2．茶褐色土層　ハードロームブロック多量含む。
SK184C
ア．褐色土層　ハードローム粒多量含む。
イ．茶褐色土層　ハードロームブロック多量含む。
SK184D
①．暗褐色土層　ハードローム粒含む。
②．暗黄褐色土層　ハードロームブロック多量含む。
0　(1/80)　2m

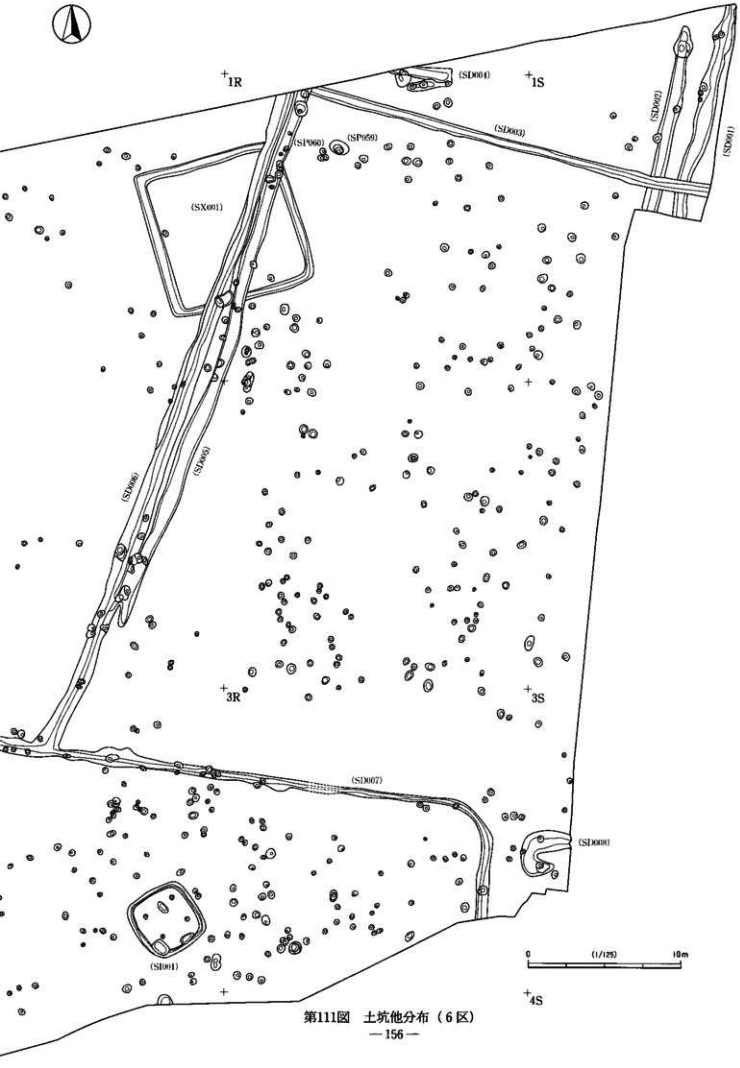
第108図　土坑（４区－２）



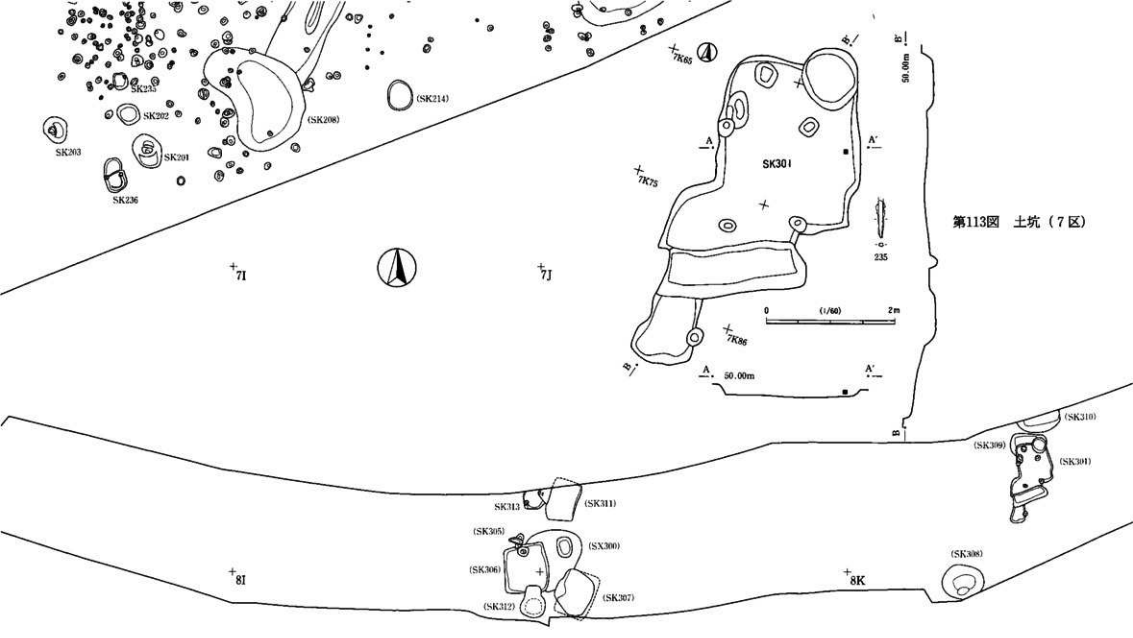
第110図　土坑（５区）



第109図　土坑他分布（５区）

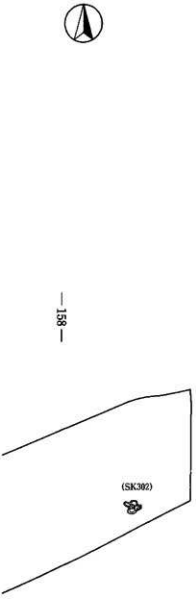


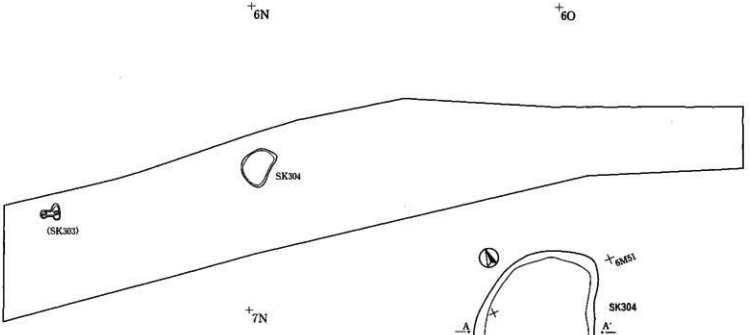
第111図　土坑他分布（6区）



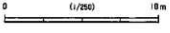
第113図　土坑（７区）

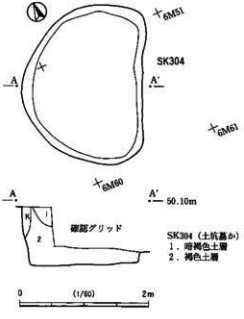
第112図　土坑他分布（７区）





第114図　土坑他分布（８区）





第115図　土坑（８区）

第6表　土坑形態表

（優先順位　①1/250区画，②地区，③形態，④墓か否か，⑤グリッド，⑥遺構番号）

遺構番号	挿図番号	地区	グリッド	1/250区画	調査年度	形態分類		規模			出土遺物	備考
						形態名	記号	長軸	単軸	深さ		
SK012	90	北	4G	1	5	円形土坑墓	C1	120	120	25	常滑捏鉢1	
SK011	90	北	4G	1	5	円形土坑墓	C1	100	90	25		
SK018	90	北	4G	1	5	円形土坑	C2	90	75	10	常滑甕1	
SK019	90	北	4G	1	5	不整形土坑	E2	110	85	22		
SK074	92	北	4H	2	5	隅丸方形土坑墓	B1	163	140	70	唐銭1（開元通宝）	唐銭はSK075と共に一括。SK075を切る。
SX005A	93	北	4I	2	5	隅丸方形土坑墓	B1	180	180	85	カワラケ2，北宋銭3（咸平元豊・元豊通宝・聖宋通宝），鉄滓1，キセル1	半地下式土坑墓。ピットにけられる。
SX005B	93	北	4I	2	5	隅丸方形土坑墓	B1	200	150	90	常滑甕砥石1	半地下式土坑墓
SK017	92	北	4H	2	5	隅丸方形土坑墓	B2	160	100	50	北宋銭2	ピットを切る。
SK008	92	北	3H，4H	2	5	円形土坑墓	C1	85	80	10		
SK009	92	北	3H，4H	2	5	円形土坑墓	C1	105	100	7		
SK010	92	北	4H	2	5	円形土坑墓	C1	90	85	10		
SK014	92	北	4H	2	5	円形土坑墓	C1	105	100	20	板碑1	
SK015	92	北	4H	2	5	円形土坑墓	C1	110	110	40	縄文2	
SK022	92	北	4H	2	5	円形土坑墓	C1	80	80	10		
SK023	92	北	4H	2	5	円形土坑墓	C1	90	80	15		
SK035	92	北	4H	2	5	円形土坑墓	C1	100	90	40		SK006がH3，H5とだぶるので，H5年度の方。
SK092		北	4I	2	5	円形土坑墓	C1	110	95	15		
SX005C	93	北	4I	2	5	円形土坑墓	C1	120	110	25		
SX005D	93	北	4I	2	5	円形土坑墓	C1	80	80	35		
SX005E	93	北	4I	2	5	円形土坑墓	C1	110	100	35		
SK007	92	北	4H	2	5	長方・楕円形土坑墓	D1	170	115	25	土師器1，須恵器3	
SK075	92	北	4H	2	5	長方・楕円形土坑墓	D1	170	(130)	35	（唐銭1）	SK074に切られる。
SK016	92	北	4H	2	5	不整形土坑墓	E1	145	125	65		
SK166	92	北	4H	2	5	不整形土坑墓	E1	185	65	50		
SX005J		北	5I	2	5	不整形土坑墓	E1	80	75	22		新規番号
SK013	92	北	4H	2	5	不整形土坑	E2	155	110	55		
SK076	92	北	4H	2	5	不整形土坑	E2	115	93	40	常滑甕1	
SX018	93	北	4I	2	5	不整形土坑	E2	393	60	60		土坑の連続で細長い
SK208	85	南	5H	2	5	方形土坑墓	A1	202	128	70		SK209を切る。
SK209	85	南	5H	2	5	方形土坑墓	A1	205		60	銅製品1	SK208に切られる。
SK206	95	南	5I	2	5	方形火葬墓	A1	200	166	55		SK225と切り合い
SK211	94	南	5H	2	5	隅丸方形土坑墓	B1	154	(133)	40	常滑捏鉢1	SK212と切り合い
SK212	94	南	5H	2	5	隅丸方形土坑墓	B1	143	125	30	常滑甕1（5〜6a型式）	SK211と切り合い
SK213	94	南	5H	2	5	隅丸方形土坑墓	B1	135	125	40	常滑捏鉢1	
SK214	75	南	5H，5I	2	5	隅丸方形土坑墓	B1	170	(115)	25	常滑捏鉢1	方形壁穴SK204と切り合い
SK221	94	南	5I	2	5	隅丸方形土坑墓	B1	173	125	50	常滑捏鉢1・甕1，カワラケ4	
SK228	95	南	5I	2	5	隅丸方形土坑墓	B1	(125)	90	15		
SK232	94	南	5I	2	5	隅丸方形土坑墓	B1	(140)	113	23		SK231，233と切り合い
SK224	95	南	5I，6I	2	5	隅丸方形土坑墓	B1	170	155	37		SK225と切り合い
SK201	95	南	6H	2	5	隅丸方形土坑墓	B1	180		30	常滑甕1	根跡と切り合いか。
SK235	94	南	6H	2	5	隅丸方形土坑墓	B1	98	90	25		
SK236	95	南	6H	2	5	隅丸方形土坑墓	B1	124	(105)	15		SK237を切る。
SK233	94	南	5I	2	5	円形土坑墓	C1	113	(103)	18		SK221，231，232と切り合い
SK234	94	南	5I	2	5	円形土坑墓	C1	100	95	22		
SK202	94	南	6H	2	5	円形土坑墓	C1	132	127	40		上層に宝永テフラ混入
SK220		南	6I	2	5	円形土坑墓	C1	180	170		常滑甕1・凝灰石1，動物骨	底未検出。
SK241	94	南	5H	2	5	円形土坑	C2	65	65	35		
SK210	85	南	5H	2	5	長方・楕円形土坑	D2	(170)	130	10		

遺構番号	掲図番号	地区	グリッド	1/250区画	調査年度	形態分類		規模			出土遺物	備考
						形態名	記号	長軸	単軸	深さ		
SK225	95	南	5I	2	5	長方・楕円形土坑	D2	(150)	130	18		SK206,224と切り合い
SK227	95	南	5I	2	5	長方・楕円形土坑	D2	115	112	30		SK228と切り合い
SK231	94	南	5I	2	5	長方・楕円形土坑	D2	202	70	45		SK232, SK233と切り合い
SK237	95	南	6H	2	5	長方・楕円形土坑	D2	137	125	40		SK236に切られる。
SK230	94	南	5I	2	5	不整形土坑墓	E1	165	137	40		壁面・底面凸凹あり。近世か
SK238	94	南	5H	2	5	不整形土坑	E2	115	90	35		SK239より古。壁・底やや凹凸あり。近世か
SK239	94	南	5H	2	5	不整形土坑	E2	(100)	85	25		SK238より新。壁・底やや凹凸あり。近世か
SK203	94	南	6H	2	5	不整形土坑	E2	175	155	75		上層に宝永テフラ混入
SK222	94	南	6H	2	5	不整形土坑	E2	115	100	55	常滑壺1、鉄製品1	
SK229	94	南	6H	2	5	不整形土坑	E2	110	90	50		中層に宝永テフラ混入
SK114	99	北	3K	3	5	方形土坑墓	A1	160	137	38		溝SX020に切られる。
SK046	83, 103	北	4J,4K, 5J,5K	3	5	方形土坑墓	A1	145	135	35		
SK031	101	北	4K	3	5	方形土坑墓	A1	110	43	57		
SK060	74	北	4K	3	5	方形土坑墓	A1	135	130	85		方形竪穴SK061を切る。
SK135	100	北	4K	3	5	方形土坑墓	A1	125	125	58		
SK170	74	北	4K	3	5	方形土坑墓	A1	(170)	140	20		方形竪穴SK061,093と切り合い。
SK048	103	北	5J	3	5	方形土坑墓	A1	105	85	55		
SK043A	103	北	5J,5K	3	5	方形土坑墓	A1	155	145	80		方形竪穴SK043Bを切る。
SK116	99	北	3K	3	5	隅丸方形土坑墓	B1	155	130	20		
SK132	100	北	3K	3	5	隅丸方形土坑墓	B1	100	95	45		
SK133	100	北	3K,4K	3	5	隅丸方形土坑墓	B1	120	95	10		SK132と切り合い。
SK034	101	北	4K	3	5	隅丸方形土坑墓	B1	112	108	45		
SK081	101	北	4K	3	5	隅丸方形土坑墓	B1	127	110	20		
SK117	99	北	4K	3	5	隅丸方形土坑墓	B1	180	150	43	カワラケ3	SK118に切られる。
SK136	100	北	4K	3	5	隅丸方形土坑墓	B1	130	120	50	瀬戸皿1	
SK064	102	北	4J	3	5	隅丸方形土坑	B2	115	90	105		
SK160	98	北	4J	3	5	隅丸方形土坑	B2	100	(70)	20		
SK134	100	北	3K	3	5	円形土坑墓	C1	97	95	10		SK133と切り合い。
SK153	102	北	4J	3	5	円形土坑墓	C1	83	80	13		
SK059	74	北	4J,4K	3	5	円形土坑墓	C1	200	155	70		
SK077	100	北	4K	3	5	円形土坑墓	C1	90	75	33		SK078,079と切り合い。
SK079	101	北	4K	3	5	円形土坑墓	C1	95	90	12		SK078と切り合い。
SK080	101	北	4K	3	5	円形土坑墓	C1	145	130	25		
SK105	101	北	4K	3	5	円形土坑墓	C1	98	95	53	常滑捏鉢1・壁砥石1	
SK147	102	北	4K	3	5	円形土坑墓	C1	100	90	60		
SK112	103	北	4K,5K	3	5	円形土坑墓	C1	100	(80)	30		ピットに切られる。
SK040	104	北	5K	3	5	円形土坑墓	C1	145	135	55		
SK057	103	北	5K	3	5	円形土坑墓	C1	165	150	65	土師1	
SK029	99	北	3K	3	5	円形土坑	C2	113	100	40		ピットを切る。
SK162	97	北	4J	3	5	長方・楕円形土坑墓	D1	210	135	60		
SK164	98	北	4J	3	5	長方・楕円形土坑墓	D1	150	100	45		上層に宝永テフラ少量含む。SK163を切る。
SK066	102	北	4K	3	5	長方・楕円形土坑墓	D1	133	75	90		
SK091	101	北	4K	3	5	長方・楕円形土坑墓	D1	125	85	80		
SK094	102	北	4K	3	5	長方・楕円形土坑墓	D1	105	95	55		
SK108	75	北	4K	3	5	長方・楕円形土坑墓	D1	180	(105)	80	北宋銭1（元符通宝）	土坑墓SK107と方形竪穴109を切る。
SK047	103	北	5J	3	5	長方・楕円形土坑墓	D1	112	77	75		
SK088	98	北	5J	3	5	長方・楕円形土坑墓	D1	245	105	45		
SK055	104	北	5K	3	5	長方・楕円形土坑墓	D1	200	190	80		
SK149	97	北	4J	3	5	長方・楕円形土坑	D2	150	145	25		溝SX021に切られる。
SK151	97	北	4J	3	5	長方・楕円形土坑	D2	190	80	35		溝SX021を切る。

遺構番号	挿図番号	地区	グリッド	1/250区画	調査年度	形態分類		規模			出土遺物	備考
						形態名	記号	長軸	単軸	深さ		
SK152	97	北	4J	3	5	長方・楕円形土坑	D2	225	130	30	縄文1	道SX021を切る。
SK065	102	北	4J,4K	3	5	長方・楕円形土坑	D2	110	90	100		
SK119	74	北	4K	3	5	長方・楕円形土坑	D2	(220)	65	15	弥生1	溝状。方形墓穴SK120と切り合い。
SK044	83	北	4J,5J	3	5	不整形土坑墓	E1	170	120	100		地下式坑SX009と方形土坑墓SK046を切る。
SK033	101	北	4K	3	5	不整形土坑墓	E1	115	87	102	鉄製品1	
SK097	75	北	4K	3	5	不整形土坑墓	E1	85	75	35		方形墓穴SK098を切る。
SK107	75	北	4K	3	5	不整形土坑墓	E1	180	145	80	元銭1（元口通宝），鉄製品・坏1	SK094と方形土坑墓108を切る。
SK051	103	北	5K	3	5	不整形土坑墓	E1	120	(105)	60		
SK052	103	北	5K	3	5	不整形土坑墓	E1	110	(85)	50	常滑壺1	
SK056	104	北	5K	3	5	不整形土坑墓	E1	220	(180)	90		
SK140	99	北	3J	3	5	不整形土坑	E2	70	47	46		
SK130	98	北	3J,3K	3	5	不整形土坑	E2	(155)	120	65		SK129と切り合い
SK129	98	北	3J,3K	3	5	不整形土坑	E2		110	100		SK128を切る。
SK127	99	北	3J,3K,4J,4K	3	5	不整形土坑	E2	145	83	40		
SK025	99	北	3K	3	5	不整形土坑	E2	120	95	37		
SK026	99	北	3K	3	5	不整形土坑	E2	95	70	25		
SK027	99	北	3K	3	5	不整形土坑	E2	82	65	20		
SK028	99	北	3K	3	5	不整形土坑	E2	112	85	23		
SK082	100	北	3K	3	5	不整形土坑	E2	140	95	35		
SK083	100	北	3K	3	5	不整形土坑	E2	90	42	23		宝永テフラ混入
SK084	99	北	3K	3	5	不整形土坑	E2	110	90	15		
SK085	99	北	3K	3	5	不整形土坑	E2	110	103	45		
SK115	99	北	3K	3	5	不整形土坑	E2	125	120	55		
SK125	99	北	3K	3	5	不整形土坑	E2	190	130	48	弥生2	
SK126	98	北	3K	3	5	不整形土坑	E2	125	70	35		
SK128	98	北	3K	3	5	不整形土坑	E2	(150)	(150)	40	弥生1	SK129とに切られる。
SK137	100	北	3K	3	5	不整形土坑	E2	110	98	25		
SK143	99	北	3K	3	5	不整形土坑	E2	87	75	25		
SK146	100	北	3K	3	5	不整形土坑	E2	185	130	70		
SK024	99	北	3K,3L	3	5	不整形土坑	E2	103	100	33	弥生1，青磁碗1（13世紀），常滑捏鉢1	
SK131	100	北	3K,4K	3	5	不整形土坑	E2	82	75	55		SK139を切る。
SK139	100	北	3K,4K	3	5	不整形土坑	E2	145	130	95	青磁碗1（13世紀）	SK131に切られる。
SK142	97	北	4J	3	5	不整形土坑	E2	160	152	50		
SK148	97	北	4J	3	5	不整形土坑	E2	190	110	48		ピットに切られる。
SK150	98	北	4J	3	5	不整形土坑	E2	170	162	80		
SK154	98	北	4J	3	5	不整形土坑	E2	65	50	35		
SK155	98	北	4J	3	5	不整形土坑	E2	115	90	15		SK157を切る。
SK156	98	北	4J	3	5	不整形土坑	E2		75	35	弥生1，カワラケ2	SK157を切る。
SK157	98	北	4J	3	5	不整形土坑	E2	110	75	40		宝永テフラ多く含む。
SK158	98	北	4J	3	5	不整形土坑	E2	150	55	20		SK157より古い。
SK159	98	北	4J	3	5	不整形土坑	E2	40	35	35		SK157を切る。
SK161	98	北	4J	3	5	不整形土坑	E2	95	67	35	鉄釘1	
SK163	98	北	4J	3	5	不整形土坑	E2	170	110	43		上層に宝永テフラ少量含む。SK164に切られる。
SK165	98	北	4J	3	5	不整形土坑	E2	85	75	6		土坑墓の可能性。
SK078	100	北	4J,4K	3	5	不整形土坑	E2	140	65	20		SK080と切り合い。
SK087	98	北	4J,5J	3	5	不整形土坑	E2	135	100	30		掘抜ピットに切られる。
SK030	101	北	4K	3	5	不整形土坑	E2	230	200	80	常滑捏鉢1・壺1	
SK032	101	北	4K	3	5	不整形土坑	E2	140	(130)	70		
SK071	102	北	4K	3	5	不整形土坑	E2	140	115	50		
SK089	101	北	4K	3	5	不整形土坑	E2	170	160	65		SK090と切り合い。
SK090	101	北	4K	3	5	不整形土坑	E2	145	110	65		SK089と切り合い。

遺構番号	掲図番号	地区	グリッド	1/250区画	調査年度	形態分類 形態名	記号	規模 長軸	規模 単軸	規模 深さ	出土遺物	備考
SK095	102	北	4K	3	5	不整形土坑	E2	(180)	165	45		SK096を切る。
SK096	102	北	4K	3	5	不整形土坑	E2	164	(150)	50		SK095に切られる。
SK099	102	北	4K	3	5	不整形土坑	E2	80	80	35		
SK101	102	北	4K	3	5	不整形土坑	E2	(130)	(73)	50		
SK102	102	北	4K	3	5	不整形土坑	E2	45	40	37	常滑捏鉢1	SK103を切る。
SK103	102	北	4K	3	5	不整形土坑	E2			35		SK102に切られる。
SK104	102	北	4K	3	5	不整形土坑	E2	(220)	33	30		溝状
SK106A	101	北	4K	3	5	不整形土坑	E2			30		SK106Bを切る。
SK106B	101	北	4K	3	5	不整形土坑	E2	(175)	(165)	45		SK10Aに切られる。
SK118	99	北	4K	3	5	不整形土坑	E2	115	95	40		SK117を切る。
SK121	74	北	4K	3	5	不整形土坑	E2			15		方形壁穴SK120と切り合い。
SK138	100	北	4K	3	5	不整形土坑	E2	220	155	60	縄文1	
SK144	101	北	4K	3	5	不整形土坑	E2	192	93	35	瀬戸皿1(古後IV)	
SX008A	82	北	4K	3	5	不整形土坑	E2	115	105	80	常滑捏鉢1(10型式),カワラケ1	
SK045	8LXB	北	4K,5K	3	5	不整形土坑	E2	180	120	80		SK046より新, SK044より古い。
SK124	104	北	4L	3	5	不整形土坑	E2	100	75	50		
SK123	104	北	4L,5L	3	5	不整形土坑	E2	120	95	50		
SK191	104	北	4L,5L	3	5	不整形土坑	E2	140	105	60		SK082のグブリを変更
SK037a	104	北	5K	3	5	不整形土坑	E2	155	110	60		SK037bを切る。
SK037b	104	北	5K	3	5	不整形土坑	E2	250	210	100		SK037aに切られる。
SK038	104	北	5K	3	5	不整形土坑	E2	250	160	70		
SK039	104	北	5K	3	5	不整形土坑	E2	205	140	95		
SK041	104	北	5K	3	5	不整形土坑	E2	85	50	30		
SK042	103	北	5K	3	5	不整形土坑	E2	75	65	12		
SK050A	103	北	5K	3	5	不整形土坑	E2	215	145	95		SX050Bを切る。
SK050B	103	北	5K	3	5	不整形土坑	E2			70		SX050Aに切られる。
SK053		北	5K	3	5	不整形土坑	E2	90	85	30		
SK054A	103	北	5K	3	5	不整形土坑	E2	180	(175)	45		
SK054B	103	北	5K	3	5	不整形土坑	E2			70		
SK058	104	北	5K	3	5	不整形土坑	E2	120	80	35		
SK110	103	北	5K	3	5	不整形土坑	E2	90	80	80		
SK111	103	北	5K	3	5	不整形土坑	E2	110	110	30		
SK122	104	北	5L	3	5	不整形土坑	E2	170	165	110		
SK207	105	南	5J	3	5	方形土坑墓	A1	245	160	55	常滑甕2(6b型式)	
SK215	105	南	5J	3	5	円形土坑墓	C1	200	130	50	常滑甕1(9型式)	
SX218	105	南	5I,5J	3	5	長方・楕円形土坑墓	D1	85	55	40	常滑甕砥石1	土坑墓の可能性。
SK223	105	南	5J	3	5	長方・楕円形土坑墓	D1	165	120	50	常滑甕1	SX207(側溝)より古い
SK217	105	南	5J	3	5	不整形土坑	E2	190	180	50		
SK174		中	4L	4	6	方形土坑墓	A1	135	(120)	40		
SK176A		中	4L	4	6	方形土坑墓	A1	160	140	65		
SK197		中	4L	4	6	方形土坑墓	A1	260	230	20		新規番号
SK184C	108	中	4M	4	6	方形土坑墓	A1	190	155	40		新規番号。SK184Dを切り, SK184Aに切られる。
SK176B		中	4L	4	6	隅丸方形土坑墓	B1		150	25		新規番号
SK182A	107	中	4L	4	6	隅丸方形土坑墓	B1	150	(140)	65	弥生1	SK182Cに切られる。
SK182B	107	中	4L	4	6	隅丸方形土坑墓	B1	155		30		新規番号
SK190	108	中	4M	4	6	隅丸方形土坑墓	B1	145	115	30	弥生1, 常滑甕2, 砥石1	
SK184B	108	中	4M,5M	4	6	隅丸方形土坑墓	B1	(170)	(160)	(15)		新規番号
SK182C	107	中	4L	4	6	円形土坑墓	C1		120	30	焼土	新規番号。SK182Aを切る。
SK194		中	4M	4	6	円形土坑墓	C1	116	114	18		新規番号
SK195		中	4M	4	6	円形土坑墓	C1	146	136	25		新規番号
SK196		中	4M	4	6	円形土坑墓	C1	115	115	30		新規番号
SK184A	108	中	4M,5M	4	6	円形土坑墓	C1	160	160	75	縄文1, 常滑甕1, カワラケ5	

遺構番号	整理番号	地区	グリッド	1/250区画	調査年度	形態分類		規模			出土遺物	備考
						形態名	記号	長軸	単軸	深さ		
SK175	107	中	4L	4	6	長方・楕円形土坑墓	D1	170	115	80		
SK183	108	中	4M	4	6	長方・楕円形土坑墓	D1	295	160	50		
SK184D	108	中	4M	4	6	長方・楕円形土坑墓	D1	185	100	30		新規番号
SK189	107	中	4M	4	6	長方・楕円形土坑墓	D1	100	75	30	弥生1，瀬戸卸III1，縄美樂1	
SK193		中	4M	4	6	長方・楕円形土坑墓	D1	115	115	30		新規番号
SK179	108	中	4L	4	6	不整形土坑墓	E1	115	(100)	70		
SK180	108	中	4L	4	6	不整形土坑墓	E1	110	85	45		
SK185	107	中	4L	4	6	不整形土坑墓	E1	175	130	50	弥生2，白磁III1，常滑捏鉢5(還元・7型式)・甕2・礫砥石1，砥石1	
SK186A	107	中	4L	4	6	不整形土坑墓	E1	165	110	70	常滑捏鉢1	
SK186B	107	中	4L	4	6	不整形土坑	E2	220	150	75		新規番号
SK187	107	中	4L	4	6	不整形土坑	E2	225	125	65	常滑甕1(5～6a型式)，板碑1，鉄製金具1	削りだし　斜面整形
SK188		中	4L	4	6	不整形土坑	E2	55	52	55	常滑捏鉢1(還元)・甕1	
SK001	110	東	4P	5	3	不整形土坑	E2	230	100	40		原始・古代の可能性。
SK002	55	東	3O,3P	5	3	不整形土坑	E2	(330)	190	75		原始・古代の可能性。
SK006	110	東	3Q	5	3	不整形土坑	E2	210	100	30		原始・古代の可能性。
SK313	86	迂回	7I	7	6	円形土坑墓	C1	(150)	150	35		SK311の西側。新規番号
SK304	115	迂回	6M,6N	8	6	長方・楕円形土坑墓	D1	220	190	90	常滑甕4(6b型式)	

第5節　遺物（第116～142図，第7～10表，図版26～35）

図示した遺物については，第3節遺構の各図になるべく掲載し説明した。各遺構中の遺物のスケールは基本的には本節の図の1/2である。本遺跡出土の中・近世遺物は，遺跡の中央を東西に走る溝状道路（鎌倉街道）に廃棄されたものを中心として，異遺構間の接合・同一個体関係が多くあるため，本節でまとめたい。なお，各遺物は，種類別に基本的には時期の順とし，出土遺構を（　）で記した。〈　〉は同一個体と推定されるものが出土した遺構である。また，遺物観察表で大きさ・整形・調整・胎土・焼成・色調・編年・時期等を詳細に触れたので参照されたい。写真図版中の遺物番号は挿図中の番号と一致する。よって，各遺物の説明は省略し，種類別に概観することとする。

1　貿易陶磁器（第116図，図版26）

遺跡全体では45点出土し（中世陶磁器・土器全体の約4％），重量は約750ｇである。その内，白磁は5点，青磁は33点，褐釉壺類は7点である。1～4は白磁碗・皿，5～14は青磁碗・皿・瓶子，15～17は鉄釉の袋物である。基本的には13世紀後半～14世紀代のものが主体である。なお，4の白磁皿は見込み部に型押し花文が施されていて14世紀初頭頃，14・15は中世前期の褐釉茶入であり，優品と見られる。

2　瀬戸・美濃（第117図～第118図，図版26・27）

遺跡全体では，118点出土し（約10％），重量は約2,800ｇである。内，小皿類は41点，大皿類は31点，碗類は30点，擂鉢は7点，その他香炉等は9点である。18～30は縁釉小皿・小鉢，31，32は卸皿，33～35は天目茶碗，36～43は灰釉平碗，44～53は深皿・大皿類，54，55は鉄釉擂鉢，56は灰釉香炉，58，59は灰釉瓶子である。古瀬戸後Ⅲ期～Ⅳ期（15世紀中葉）が中心である。古瀬戸後Ⅳ期新段階（15世紀末）以降の遺物はほとんど出土していない。なお，18の入子の出土は，白磁皿や茶入等と共に13世紀後半から14世紀前半にかけての上層農民以上の階級の存在を想像させるものである。

3　志戸呂（第118図，図版27）

遺跡全体では，僅かに9点（0.6％）で，重量は約450ｇである。60は鉄釉擂鉢，61は三（四）耳壺である。61は古瀬戸後Ⅳ期であるが，60は本遺跡で希有な大窯2期（16世紀前葉）の遺物である。

4　瀧美（第119図，図版27）

遺跡全体では，僅かに8点（0.7％）で，重量は約840ｇである。62～65が壺・甕である。時期は12世紀後半～13世紀前半の遺物である。全体量は少量である。

5　常滑

遺跡全体では，863点出土し，重量は約43kgであり，数で74％，重量で88％に達する。その内，コネ鉢は292点，壺・甕が571点である。転用砥石も多く83点を数える。

(1)　コネ鉢（第120～122図，図版28・29）

66～75が3型式～6型式（12世紀後半～13世紀後半），77～81が7型式（14世紀前半），83・84が8型式（14世紀後半），82・86～97が9型式（15世紀前半），98～116が10型式（15世紀後半）である。量的には15

世紀後半が主体である。

(2) 壺・甕（第123～125図，図版29～31）

117～122が壺で，5～6a型式（13世紀前葉～後半）と9型式（15世紀前半），10型式（15世紀後半）のものが出土した。以降は甕で，123～125が5型式（13世紀前葉），126～132・138が6型式（13世紀後半），133～135が9型式（15世紀前半），136～137・139～142が10型式（15世紀後半）である。また，143～147は肩部の押印文，148，149は胴部の押印文があるもので，145・148が3型式（12世紀末），149が4～5型式（13世紀代），143・147が5～6a型式（13世紀中葉），144が6b型式（13世紀後半），150～154は底部である。コネ鉢同様，15世紀後半が主であるが，瀬戸・美濃製品との関係から15世紀中葉が中心であろう。

6 土器（第126図，図版31）

遺跡全体で，131点出土し（約11%），重量は約1kgである。この内，カワラケは96点，瓦質土器は35点である。カワラケは小片ばかりであり，一遺跡の量としては少量である。

(1) カワラケ

カワラケは少量であるが，次の様な法量の分類ができる。なお，底部回転糸切りは，判明できるものは全て右回転である。

Ⅰa類　口径6cm程，器高1.5cm程の小型で皿型のもの。(155)

Ⅰb類　口径6cm程であるが，器高2cm程と若干高い杯型のもの。(156～158)

Ⅰc類　口径恐らく6cm程であり，器高もあり，杯型と推測されるが，厚手のもの。(159，160)

Ⅱ類　口径8cm程，器高1.5cm～2.0cmの皿形のもの。(161～164)

Ⅲ類　口径11cm程，器高3cm～4cmの杯型のもの。(165～175)

Ⅳ類　口径15cm～16cm，底径9cm程の大型のもの。(176～179)

(2) 瓦質土器

180は灰黒色の瓦質壺，181は浅黄橙色の東海系羽釜である。後者は，瓦質というより硬質の土師器質である。伊勢湾から瀬戸・美濃や常滑製品などと共に搬入されたもので15世紀代の製品と考えられる。

7 石製品（第8表）

(1) 茶臼（第127図，図版33）

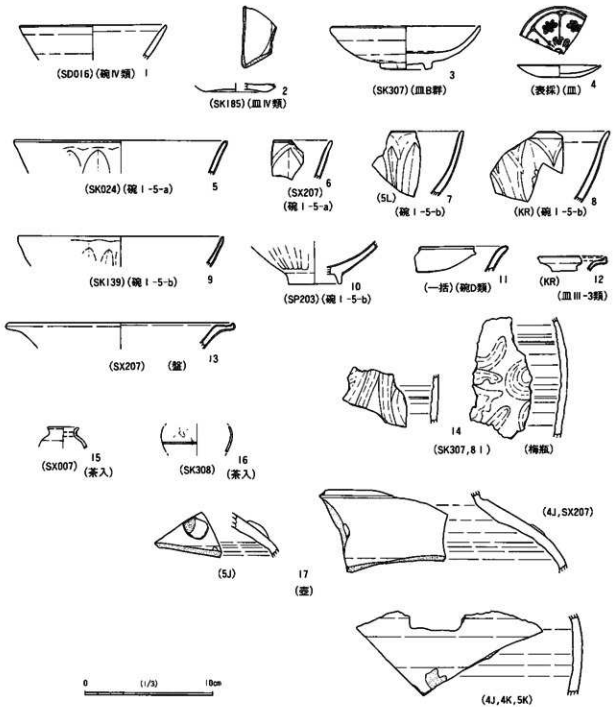
本遺跡出土の茶臼は全て皿部（182～187）であり，上部の回転部分は出土していない。

(2) 板碑（第127図，図版33）

本遺跡では少量しかない。キリークが刻まれるものを図示した(188～190)。全て緑泥片岩製の小型品であり，15世紀代のものと考えられる。

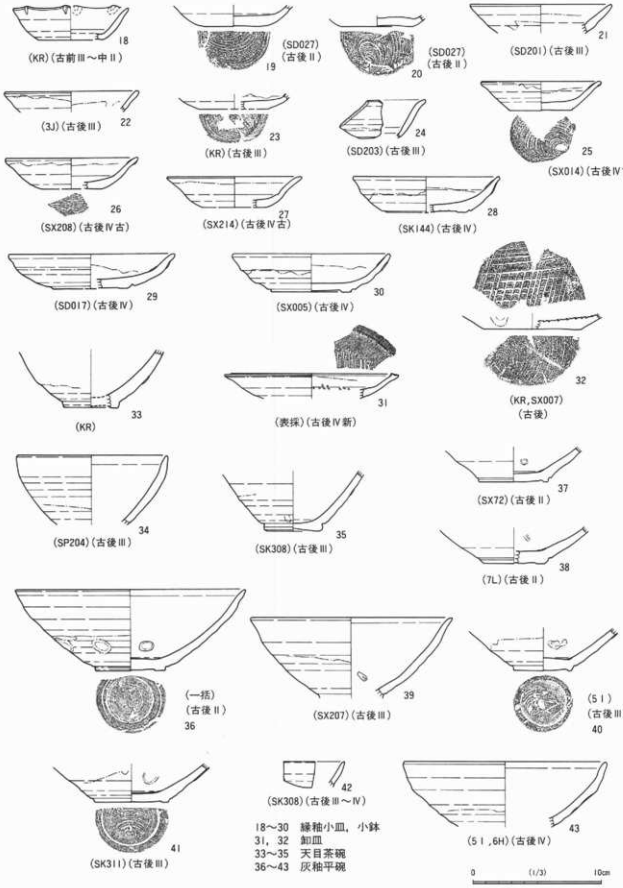
(3) 砥石（第128～130図，図版34）

本遺跡出土全ての砥石を図示した。石材により，灰白色凝灰岩　191～198，灰白色硬質凝灰岩　199～202，橙色凝灰岩　203～205，褐色凝灰岩　206，桃色凝灰岩　207，208，褐色砂岩　209，210に分類した。遺構内出土のものは中世とみてよいであろう。常滑の転用砥石と共に砥石の量が多く，小型品であることから，農具用ではないかと考えられる。



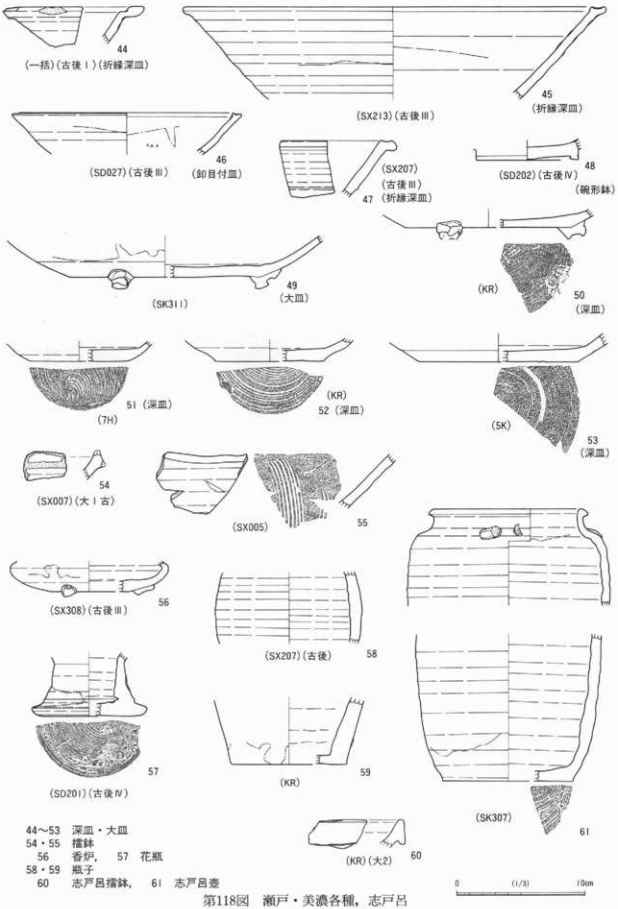
1～4　白磁碗・皿
5～14　青磁碗・皿・瓶
15～17　鉄釉袋物

第116図　貿易陶磁器



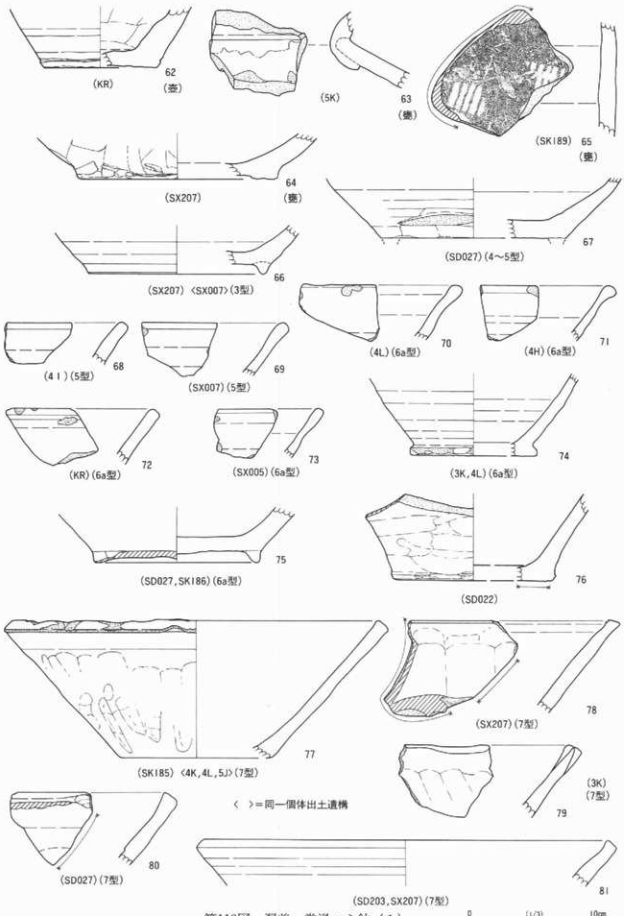
18～30　緑釉小皿，小鉢
31，32　卸皿
33～35　天目茶碗
36～43　灰釉平碗

第117図　瀬戸・美濃小皿，碗

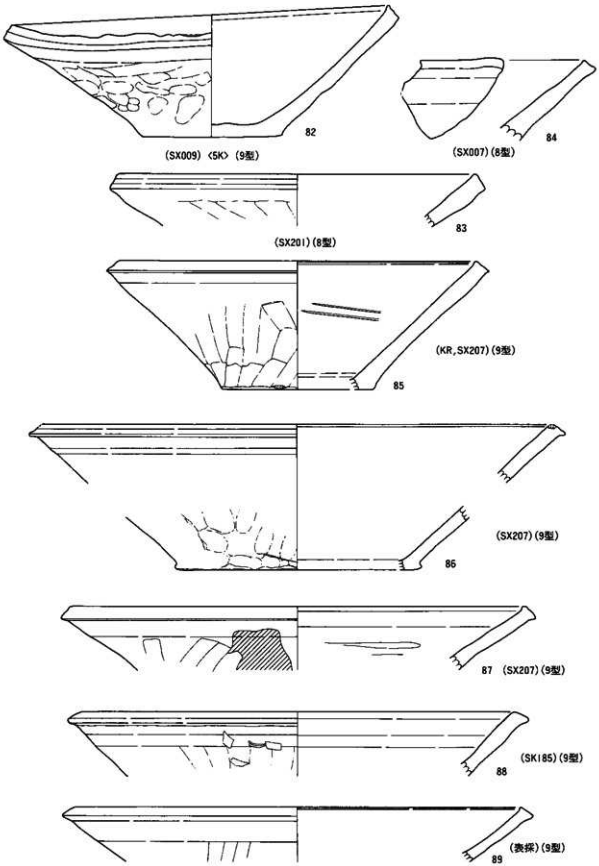


44～53　深皿・大皿
54・55　擂鉢
56　香炉，　57　花瓶
58・59　瓶子
60　志戸呂擂鉢，　61　志戸呂壺

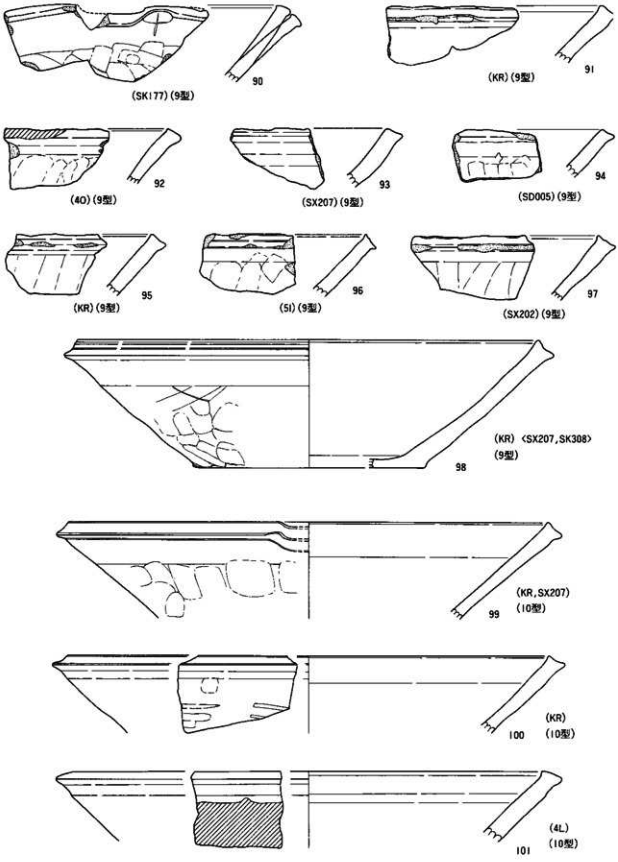
第118図　瀬戸・美濃各種，志戸呂



第119図　渥美，常滑コネ鉢（1）

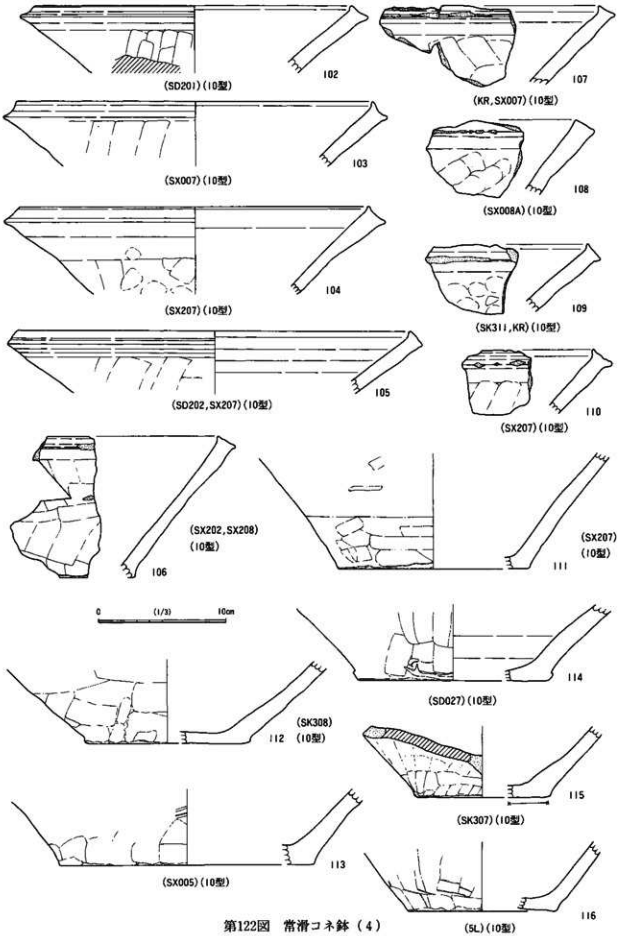


第120図　常滑コネ鉢（2）

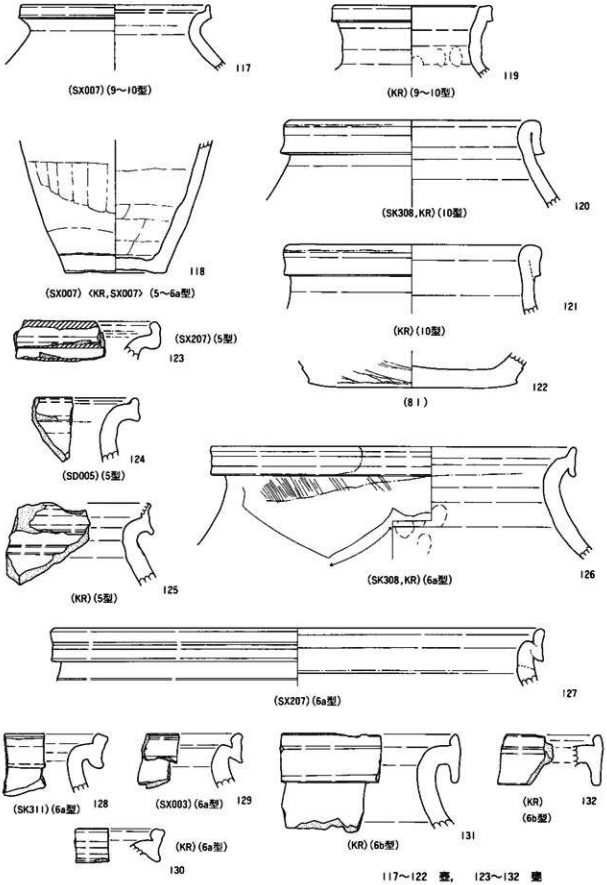


第121図　常滑コネ鉢（3）

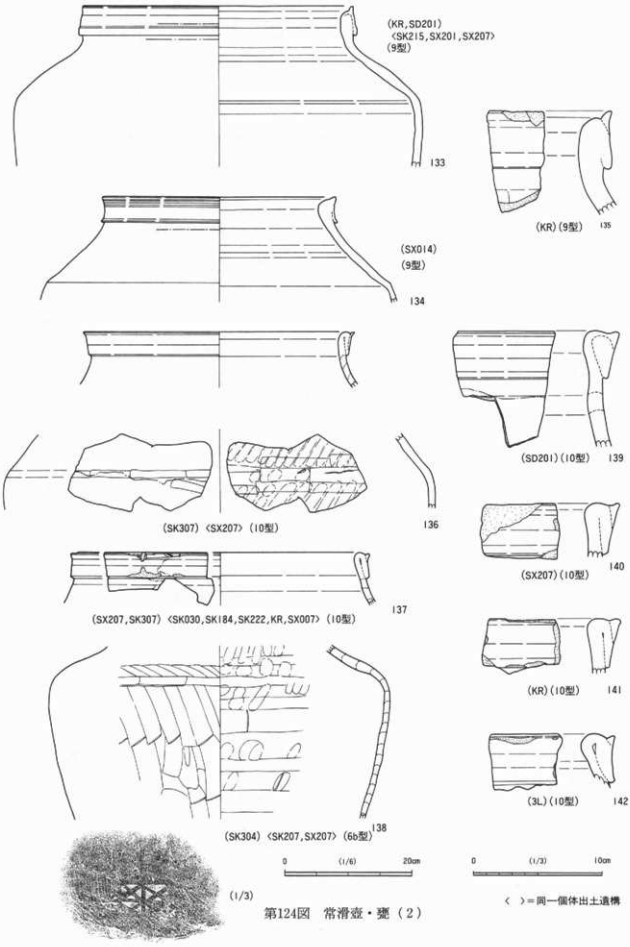
0　(1/3)　10cm



第122図　常滑コネ鉢（4）

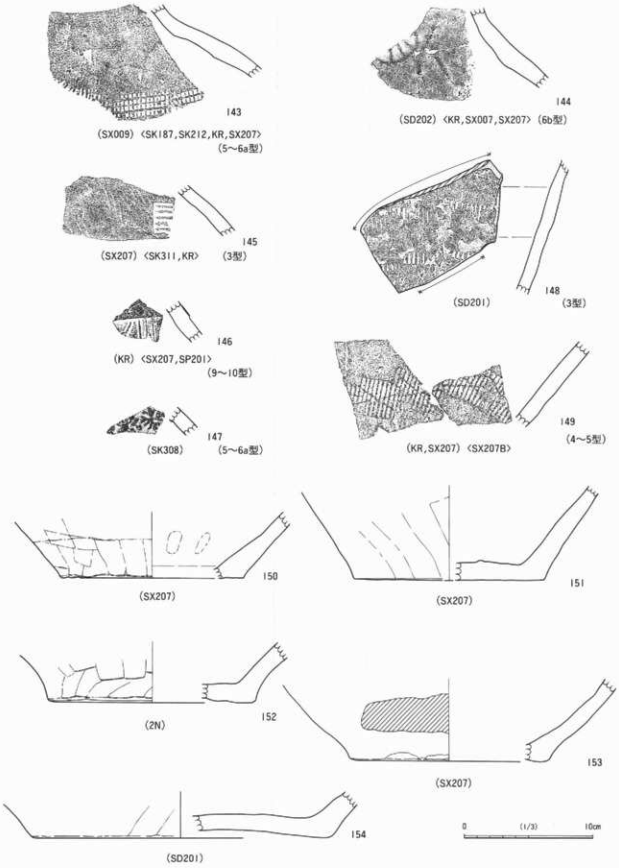

117
(SX007) (9～10型)
119
(KR) (9～10型)
118
(SX007) (KR, SX007) (5～6a型)
(SK308, KR) (10型)
120
121
(KR) (10型)
(SX207) (5型)
123
122
(81)
124
(SD005) (5型)
(KR) (5型)
125
(SK308, KR) (6a型)
126
(SX207) (6a型)
127
(SK311) (6a型)
128
(SX003) (6a型)
129
(KR) (6b型)
131
(KR)
(6b型)
132
(KR) (6a型)
130
117～122 壺, 123～132 甕
0
(1/3)
10cm

第123図 常滑壺・甕（1）



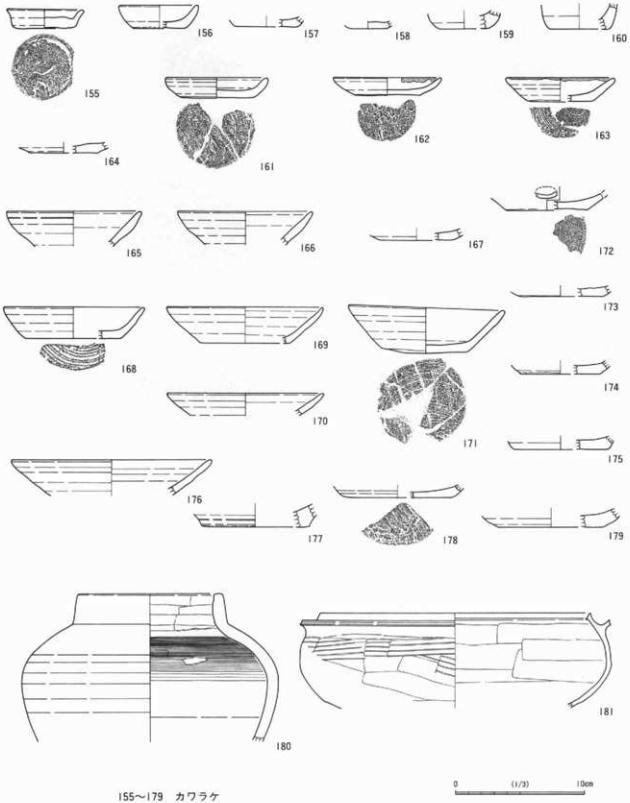
〈 〉＝同一個体出土遺構

第124図　常滑壺・甕（２）



143～147 肩部，148・149 胴部，150～154 底部

第125図 常滑壺・甕（3）



155～179　カワラケ
（155　Ⅰa類，156～158　Ⅰb類，159・160　Ⅰc類
161～164　Ⅱ類，165～175　Ⅲ類，176～179　Ⅳ類）
180　　瓦質壺
181　　東海系羽釜

第126図　土器

第７表　中・近世陶磁器，土器観察表

挿図番号	産地等	器種名	遺構番号	遺存度	単位：cm，（復元値） 口径	底径	器高	整形・調整 外面	内面	胎土	焼成	色調（　）は施釉部分 外面	内面	備考	編年	時期
1	白磁	皿	SD016	口縁部1/10	(11.4)			ロクロ挽き整形		緻密，灰白	良好	（灰白）			Ⅳ類	13c後半～14c中葉
2	白磁	皿	SK185	底部1/10		(4.8)		ロクロ挽き整形		緻密，灰白	良好	（灰白）			Ⅳ類	13c後半～15c中葉
3	白磁	皿	SK307	9/10	11.4	4	3.3	ロクロ挽き整形		緻密，やや黄色い白	良好	（やや黄色い白）		削りだし高台	B群	15c代
4	白磁	皿	表採	1/4	(6.3)	(3.0)	0.9	ロクロ挽き整形	ロクロ挽き整形後型押し	緻密，白	良好	（白）		見込みに型押し花文		14c初頭
5	青磁	蓮弁文碗	SK024	口縁部1/11	(16.8)			ロクロ挽き整形後蓮弁レリーフ	ロクロ挽き整形	緻密，灰	良好	（灰オリーブ）		蓮弁文	Ⅰ-5-a類	13c中葉
6	青磁	蓮弁文碗	SX207	口縁部一部				ロクロ挽き整形後蓮弁レリーフ	ロクロ挽き整形	緻密，灰白	良好	（オリーブ）		蓮弁文	Ⅰ-5-a類	13c中葉
7	青磁	鎬蓮弁文碗	5L	口縁部一部				ロクロ挽き整形後蓮弁レリーフ	ロクロ挽き整形	緻密，灰白	良好	（明緑灰～緑灰）		鎬蓮弁文	Ⅰ-5-b類	13c中葉
8	青磁	鎬蓮弁文碗	KR	口縁部一部				ロクロ挽き整形後蓮弁レリーフ	ロクロ挽き整形	緻密，灰白	良好	（明緑灰～緑灰）		鎬蓮弁文	Ⅰ-5-b類	13c中葉
9	青磁	鎬蓮弁文碗	SK139	口縁部1/12	(16.0)			ロクロ挽き整形後蓮弁レリーフ	ロクロ挽き整形	緻密，灰白	良好	（オリーブ灰）		鎬蓮弁文	Ⅰ-5-b類	13c中葉
10	青磁	鎬蓮弁文碗	SP203	底部1/4		4.2		ロクロ挽き整形後蓮弁レリーフ	ロクロ挽き整形	緻密，灰白	良好	（オリーブ灰）		鎬蓮弁文	Ⅰ-5-b類	13c中葉
11	青磁	端反碗	遺跡一括	口縁部一部				ロクロ挽き整形		緻密，灰白	良好	（オリーブ灰）			D類	14c後半～15世紀前半
12	青磁	皿	KR	口縁部一部				ロクロ挽き整形		緻密，灰白	良好	（オリーブ灰）			Ⅲ-3類	13c後半～14c中葉
13	青磁	盤	SX207	口縁部1/8	(17.6)			ロクロ挽き整形		緻密，灰白	良好	（明緑灰）		貫入多い		13c後半～14c前半か
14	青磁	梅瓶	SK307,KR	胴部一部				ロクロ挽き整形後レリーフ	ロクロ挽き整形	緻密，灰白～灰	良好	（明緑灰）	灰白～灰	被熱		中世前期
15	鉄釉陶器	茶入	SX007	口縁～胴部1/5	(2.4)			ロクロ挽き整形		緻密，灰白	良好	（にぶい赤褐色）				13c後半か
16	鉄釉陶器	茶入	SK308	胴部1/6	－	－	[1.8]	ロクロ挽き整形		緻密，明褐灰	良好	（赤褐）	にぶい黄橙	胴部に沈線，元の釉黒色が残げたか		中世前期
17	鉄釉陶器	三（四）耳壺	SX207,4J,4K,5J,5K	胴部一部				ロクロ挽き整形		緻密，浅黄	良好	（オリーブ褐～黒褐）	にぶい黄	耳部付け根残存		中世前期
18	瀬戸美濃	入子	KR	1/5	(8.9)	(5.0)	(2.6)	ロクロ挽き整形後，口縁部つまみだし。底部回転糸切り。		緻密，灰黄	良好	灰白～灰，（オリーブ灰）		緑釉	古瀬戸前Ⅲ～中Ⅱ期	13c後半～14c前葉
19	瀬戸美濃	緑釉小皿	SD027	1/5		(5.4)		ロクロ挽き整形，底部回転糸切り		緻密，灰白	良好	浅黄，（灰白）		内外面灰釉既状に付着	古瀬戸後Ⅱ期	14c末～15c初頭
20	瀬戸美濃	緑釉小皿	SD027	1/5		(5.6)		ロクロ挽き整形，底部回転糸切り		緻密，灰黄	良好	浅黄，（オリーブ灰）		灰釉	古瀬戸後Ⅱ～後Ⅳ期古	14c末～15c前半
21	瀬戸美濃	緑釉小皿	SD201	口縁部1/4	(11.0)			ロクロ挽き整形		緻密，灰白	良好	（にぶい赤褐～赤黒）		鉄釉	古瀬戸後Ⅲ期か	15c前葉
22	瀬戸美濃	緑釉小皿	3J	口縁部1/5	(10.4)			ロクロ挽き整形		緻密，淡黄	良好	（暗褐色）		灰釉	古瀬戸後Ⅲ期	15c前葉
23	瀬戸美濃	緑釉小皿	KR	1/7		(5.4)		ロクロ挽き整形		緻密，灰白	良好	（灰オリーブ）		灰釉	古瀬戸後Ⅲ期	15c前葉

挿図番号	産地等	器種名	遺構番号	遺存度	単位：cm、(復元値) 口径	底径	器高	整形・調整 外面	内面	胎土	焼成	色調（ ）は施釉部分 外面	内面	備考	編年	時期
24	瀬戸美濃	小鉢	SD203	口縁部一部				ロクロ挽き整形		緻密，灰白	良好	(オリーブ黄)		灰釉	古瀬戸後III～後IV期	15ｃ前葉～後葉
25	瀬戸美濃	緑釉小皿	SX014	2/3	(9.2)	4.8	2.3	ロクロ挽き整形、底部回転糸切り		緻密，灰白	良好	(オリーブ灰)		灰釉	古瀬戸後IV期古	15c中葉
26	瀬戸美濃	緑釉小皿	SX208	1/4	(10.2)	(4.6)	(2.4)	ロクロ挽き整形、底部回転糸切り		緻密，灰白	良好	(灰オリーブ)		灰釉	古瀬戸後IV期古	15c中葉
27	瀬戸美濃	緑釉小皿	SX214	1/5	(10.4)	(5.0)	(2.4)	ロクロ挽き整形		緻密，淡黄	良好	(暗オリーブ)		灰釉，被熱	古瀬戸後IV期古	15c中葉
28	瀬戸美濃	緑釉小皿	SK144	1/3	(11.8)	(6.2)	2.8	ロクロ挽き整形		緻密，灰白	良好	浅黄，(オリーブ黄～灰オリーブ)		低高台(削りだし)	古瀬戸後IV期	15c後葉
29	瀬戸美濃	緑釉小皿	SD017	1/5	(12.8)	(5.8)	2.7	ロクロ挽き整形		緻密，灰白	良好	(灰白～暗オリーブ)		低高台(削りだし)	古瀬戸後IV期	15c後葉
30	瀬戸美濃	緑釉小皿	SX005	2/5	(12.2)	(6.2)	3.0	ロクロ挽き整形		緻密，灰白	良好	(浅黄～灰オリーブ)		低高台(削りだし)	古瀬戸後IV期	15c後葉
31	瀬戸美濃	卸皿	表採	口縁部1/10				ロクロ挽き整形、底部回転糸切り		緻密，浅黄	良好	灰黄	浅黄(オリーブ灰)		古瀬戸後IV期新	15c後半
32	瀬戸美濃	卸皿	KR,SX007	1/4		(7.6)		ロクロ挽き整形		緻密，浅黄	良好	によい黄，(灰白)		卸部分使用痕跡なし	古瀬戸後期	
33	瀬戸美濃	天目茶碗	KR	胴部以下1/6		(4.3)		ロクロ挽き整形		緻密，灰	良好	(黒)			古瀬戸後Ⅰ～Ⅱ期	14c後半
34	瀬戸美濃	天目茶碗	SP204	1/10	(11.8)			ロクロ挽き整形		緻密，灰白	良好	淡黄～浅黄，(褐～黒褐)	(褐～黒褐)		古瀬戸後III期	15ｃ前葉
35	瀬戸美濃	天目茶碗	SK308	1/7		4.0		ロクロ挽き整形		緻密，淡黄	良好	淡黄，(黒)	(黒)		古瀬戸後III期	16ｃ前葉
36	瀬戸美濃	平碗	SX207	1/5	(17.8)	5.7	6.3	ロクロ挽き整形		緻密，灰黄	良好	灰黄，(オリーブ黄)	(オリーブ黄)	内外面トチン痕跡	古瀬戸後II期	14c末～15c初頭
37	瀬戸美濃	平碗	7L	1/7		5.4		ロクロ挽き整形		緻密，淡黄	良好	淡黄～にぶい橙，(オリーブ黄)	(オリーブ黄)	内面トチン痕跡	古瀬戸後II期	14c末～15c初頭
38	瀬戸美濃	平碗	遺跡一括	1/7		4.8		ロクロ挽き整形		緻密，灰白	良好	浅黄	(オリーブ黄)		古瀬戸後II期	14c末～15c初頭
39	瀬戸美濃	平碗	SX207	1/7	(15.8)			ロクロ挽き整形		緻密，淡黄	良好	淡黄，(オリーブ黄)	(オリーブ黄)	内面トチン痕跡	古瀬戸後III期	15ｃ前葉
40	瀬戸美濃	平碗	5I	1/5		(4.5)		ロクロ挽き整形、底部回転糸切り後ヘラナデ		緻密，灰白	良好	灰白，(オリーブ黄)	(オリーブ黄)	内面トチン痕跡、削りだし高台	古瀬戸後III期	15ｃ前葉
41	瀬戸美濃	平碗	SK311	1/5		(5.7)		ロクロ挽き整形、底部回転糸切り後ヘラナデ		緻密，淡黄	良好	淡黄，(オリーブ黄～灰オリーブ)	(オリーブ黄～灰オリーブ)	内面トチン痕跡、削りだし高台	古瀬戸後III期	15ｃ前葉
42	瀬戸美濃	平碗	SK308	口縁部一部				ロクロ挽き整形		緻密，浅黄	良好	(オリーブ灰)	口縁部内側釉剥げ		古瀬戸後III～IV期古	15ｃ前葉
43	瀬戸美濃	平碗	5I,6H	1/6	(17.6)			ロクロ挽き整形		緻密，淡黄	良好	灰黄，(淡黄～オリーブ黄)	(淡黄～オリーブ黄)		古瀬戸後IV期古	15c中葉
44	瀬戸美濃	折縁深皿	遺跡一括	口縁部一部	(29.0)			ロクロ挽き整形		緻密，灰白	良好	(浅黄～オリーブ黄)			古瀬戸後Ⅰ期	
45	瀬戸美濃	折縁深皿	SX213	口縁～胴部1/10	(32.8)			ロクロ挽き整形		緻密，淡黄	良好	浅黄から赤褐，(オリーブ黄～オリーブ)			古瀬戸後III期	15ｃ前葉
46	瀬戸美濃	卸目付皿	SD027	1/10	(16.6)			ロクロ挽き整形		緻密，灰白	良好	灰白，(オリーブ黄)		卸目部分上端のみ	古瀬戸後III期	15ｃ前葉
47	瀬戸美濃	折縁深皿	SX207	口縁部一部				ロクロ挽き整形		砂粒散見，浅黄	良好	淡黄，(灰白～オリーブ黄)	(灰白～オリーブ黄)		古瀬戸後III期	15ｃ前葉

挿図番号	産地等	器種名	遺構番号	遺存度	単位：cm、（復元値）			整形・調整		胎土	焼成	色調（ ）は施釉部分		備考	編年	時期
					口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面			
48	瀬戸美濃	碗形鉢	SD202	底部1/10		(4.0)		ロクロ挽き整形		長石粒微量，淡黄	良好	淺黄	（オリーブ黄）		古瀬戸後IV期古	15c中葉
49	瀬戸美濃	大皿	SK311	胴下半～底部1/3		(14.8)		ロクロ挽き整形，外面ヘラナデ		緻密，淡黄	良好	灰白～橙，（オリーブ黄）	灰白	三足の一つ有り	古瀬戸後期	14c後半～15世紀前半
50	瀬戸美濃	大皿	KR	底部1/6		(13.0)		ロクロ挽き整形，外面ヘラナデ		緻密，灰黄	良好	灰白，（オリーブ黄）		内面に灰釉斑状に付着，見込み部に砂目痕跡	古瀬戸後期	14c後半～15世紀前半
51	瀬戸美濃	深皿	7H	底部1/2		(7.8)		ロクロ挽き整形		緻密，淡黄～淺黄	良好	灰白，（オリーブ黄）		見込みに釉垂れ	古瀬戸後期	14c後半～15世紀前半
52	瀬戸美濃	深皿	KR	底部1/3		(8.6)		ロクロ挽き整形		緻密，淺黄	良好	淺黄	（灰白～オリーブ灰）	内面に釉ふき取り痕跡	古瀬戸後期	14c後半～15世紀前半
53	瀬戸美濃	深皿	5K	底部1/5		(12.4)		ロクロ挽き整形，内外面ナデ		緻密，淡黄	良好	淺黄	淺黄～にぶい黄橙	内面に釉ふき取り痕跡，見込みに砂目痕跡	古瀬戸後期	14c後半～15世紀前半
54	瀬戸美濃	擂鉢	SX007	口縁の一部				ロクロ挽き整形		緻密，長石微粒少量，淺黄橙	良好	（赤灰）		さび釉	大窯1前	15c末
55	瀬戸美濃	擂鉢	SX005	胴部の一部				ロクロ挽き整形		緻密，石英微粒微量，淡黄	良好	（褐）	（灰褐）	擂目1単位8条	古瀬戸後期	15c
56	瀬戸美濃	香炉	SK308	1/6		(3.3)		ロクロ挽き整形，底部回転糸切り		緻密，淡黄	良好	淺黄，（黒）	灰黄	鉄釉	古瀬戸後III	15c前葉
57	瀬戸美濃	尊式花瓶	SD201	脚部1/2		(8.2)		ロクロ挽き整形，底部回転糸切り		緻密，灰	良好	灰，（灰オリーブ～明オリーブ）	灰	灰釉	古瀬戸後IV期古	15c中葉
58	瀬戸美濃	瓶子	SX207	胴部1/4				ロクロ挽き整形		緻密，灰黄	良好	（オリーブ灰）	灰黄	（最大径11.6）	古瀬戸後期	15c代
59	瀬戸美濃	瓶子	KR	胴下部～底部1/3		(9.2)		ロクロ挽き整形，底部回転糸切り後無調整		緻密，灰白～灰黄	良好	にぶい褐（灰オリーブ）	灰白～灰黄		古瀬戸	中世
60	志戸呂	擂鉢	KR	口縁部一部				ロクロ挽き整形		石英微粒微量，淺黄～灰黄	不良	淺黄～灰黄		鉄釉被熱	古瀬戸後IV	15c後半
61	志戸呂	壺	SX307	口縁～胴部1/5	(11.3)	(10.2)		ロクロ挽き整形，底部回転糸切り		緻密，長石粒微量，黄灰	良好	にぶい赤褐，（にぶい赤褐～黒褐）	にぶい褐～黄灰，（にぶい赤褐～黒褐）	鉄釉	古瀬戸後IV	15c後半
62	渥美	壺	KR	胴部下～底部1/3				ヘラケズり		長石粒少量，灰	良好	灰				12c後半
63	渥美	甕	5K	肩部の一部				ヨコナデ		長石粒少量，黄灰	良好	（オリーブ灰）	灰	自然釉		12c後半
64	渥美	甕	SX207	底部の一部		(15.0)		ヘラケズり，底部回転ヘラ切り	棒状工具のヘラナデ	長石粒微量，灰黄褐～褐灰	良好	暗灰黄	灰黄，褐灰			12c後半
65	渥美	甕	SK189	胴部の一部一部				タタキ目		淺黄	良好	灰	灰，（淺黄）	転用砥石，内面一部自然釉		12c後半
66	常滑	捏鉢	SX207，(SX007)	底部		(13.8)		横ナデ		長石微粒少量	良好	灰		付高台	3型式	12c後半
67	常滑	捏鉢	SD027	底部				横位ヘラケズり	（摩滅）	長石粒多量	不良	にぶい黄橙		高台剥落	4～5形式	13c前葉
68	常滑	捏鉢	4I	口縁部				横ナデ		長石・石英微粒やや多量	良好	褐灰			5形式	13c前半
69	常滑	捏鉢	SX007	口縁部				横ナデ		長石粒やや多量	良好	灰白	明オリーブ灰		5形式	13c前半

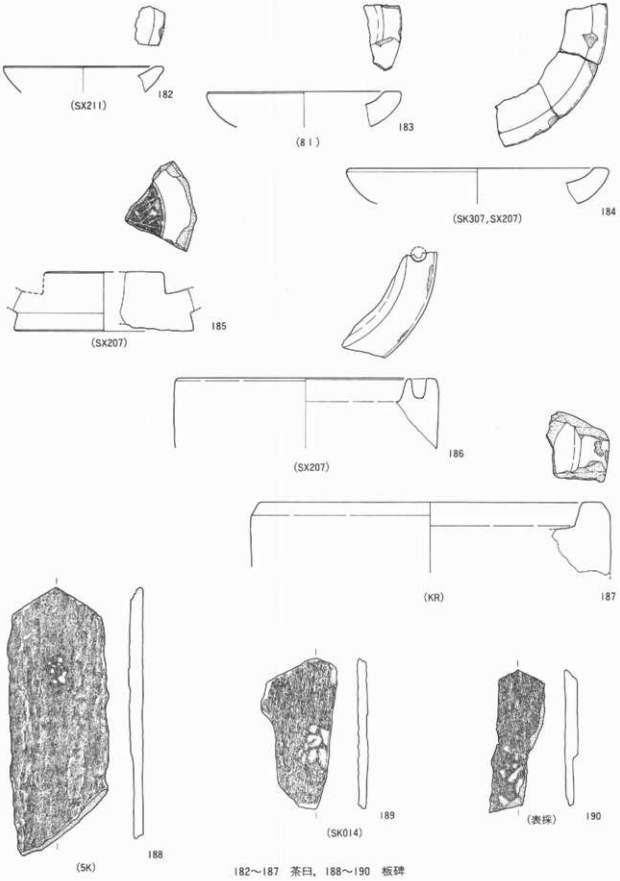
挿図番号	産地等	器種名	遺構番号	遺存度	単位：cm，（復元値） 口径	底径	器高	整形・調整 外面	内面	胎土	焼成	色調（　）は施釉部分 外面	内面	備考	編年	時期
70	常滑	捏鉢	4L	口縁部				横ナデ		長石微粒やや多量	不良	にぶい黄褐	灰黄		6a型式	13c後葉
71	常滑	捏鉢	4H	口縁部				横ナデ		長石微粒少量	良好	灰黄			6a型式	13c後葉
72	常滑	捏鉢	KR	口縁部				横ナデ		長石微粒やや多量	不良	灰			6a型式	13c後葉
73	常滑	捏鉢	SX005	口縁部				横ナデ		長石微粒少量	良好	灰			6a型式	13c後葉
74	常滑	捏鉢	3K,(4L)	胴～底部		(11.8)		横ナデ	(摩滅)	長石微粒やや多量	良好	灰白～灰		高台造りかけ	6a型式	13c後葉
75	常滑	捏鉢	SK186,SD027	底部1/10		10.8		横ナデ	(摩滅)	長石・石英微粒やや多量	不良	浅黄		付高台部分転用砥石か	6a型式	13c後葉
76	常滑	捏鉢	SD022	底部1/8		(12.4)		横位ヘラケズリ	(摩滅)	長石粒多量	良好	黄灰	灰黄～黄灰	胴部断面部と底部砥石転用	6型式か	13c後半か
77	常滑	捏鉢	SK185,(4K,L,5K)	1/5	(30.0)	(11.8)	10.7	縦位ヘラケズリ	横ナデ(摩滅)	長石微粒やや多量	良好	褐	黒褐	口縁部摩滅顕著	7型式	14c前半
78	常滑	捏鉢	SX207	口縁部一部				縦位ヘラケズリ	(摩滅)	長石粒多量	良好	にぶい赤褐	極暗赤褐	断面砥石転用	7型式	14c前半
79	常滑	捏鉢	3K,(4I)	口縁部一部				縦位ヘラケズリ	横ナデ	長石粒やや多量	良好	にぶい褐		片口部	7型式	14c前半
80	常滑	捏鉢	SD027	口縁部一部				横ナデ	横ナデ，縦位ヘラケズリ	長石微粒やや多い	良好	橙	にぶい赤褐	断面砥石転用，片口部	7型式	14c前半
81	常滑	捏鉢	SX207,SD203	口縁部一部	(31.4)			横ナデ		長石微粒やや多量	良好	灰赤	(暗オリーブ)	内面自然釉付着	7型式	14c前半
82	常滑	捏鉢	SX009,(5K)	7/10	29.5	11.0	10.4	指頭押圧，斜位ヘラケズリ	横ナデ	長石微粒多量	極良好	明赤褐～にぶい赤褐	明赤褐	ゆがみ大	9型式	15c前半
83	常滑	捏鉢	SX201	口縁部1/8	(28.0)			縦位ヘラケズリ	横ナデ	長石粒やや多量	良好	粗悪	浅黄橙～明褐		8型式	14c後半
84	常滑	捏鉢	SX007	口縁部1/13				横ナデ	横ナデ	長石微粒やや多量	良好	にぶい赤褐		断面砥石転用，片口部脇	8型式	14c後半
85	常滑	捏鉢	KR,SX207	口縁部一胴部	(27.8)	(11.8)	10.0	指頭押圧，斜位ヘラケズリ	横ナデ	砂粒少量	良好	赤			9型式	15c前半
86	常滑	捏鉢	SX207	口縁部1/12	(40.0)	(19.4)	(11.4)	口縁部横ナデ，胴部縦位ヘラケズリ	横ナデ	砂粒少量	良好	にぶい橙	灰褐		9型式	15c前半
87	常滑	捏鉢	SX207	口縁部1/9	(35.0)			口縁部横ナデ，胴部縦位ヘラケズリ	横ナデ	長石微粒やや多量	不良	にぶい黄褐	暗褐	外面一部砥石転用	9型式	15c前半
88	常滑	捏鉢	SK185	口縁部1/12	(33.8)			口縁部横ナデ，胴部縦位ヘラケズリ	横ナデ	砂粒少量	良好	にぶい橙	褐灰		9型式	15c前半
89	常滑	捏鉢	表採	口縁部1/8	(35.0)			口縁部横ナデ，胴部縦位ヘラケズリ	横ナデ	長石粒少量	良好	にぶい橙			9型式	15c前半
90	常滑	捏鉢	SK177	口縁部一部				口縁部横ナデ，胴部斜位ヘラケズリ	横ナデ	長石微粒やや多量	良好	褐	暗褐	片口部	9型式	15c前半
91	常滑	捏鉢	KR	口縁部一部				口縁部横ナデ，胴部縦位ヘラケズリ	横ナデ	長石微粒やや多量	良好	明赤褐	にぶい橙	片口部	9型式	15c前半
92	常滑	捏鉢	4D	口縁部一部				口縁部横ナデ，胴部縦位ヘラケズリ	横ナデ	長石微粒やや多量	良好	橙	にぶい黄橙	口縁部砥石転用	9型式	15c前半
93	常滑	捏鉢	SX207	口縁部一部				口縁部横ナデ，胴部ヘラナデ	横ナデ	砂粒微粒少量	良好	にぶい橙			9型式	15c前半
94	常滑	捏鉢	SD005	口縁部1/12	(35.2)			口縁部横ナデ，胴部縦位ヘラケズリ	横ナデ	長石粒少量	良好	にぶい橙			9型式	15c前半
95	常滑	捏鉢	KR	口縁部一部				口縁部横ナデ，胴部縦位ヘラケズリ	横ナデ	長石粒少量	不良	にぶい橙	灰褐		9型式	15c前半
96	常滑	捏鉢	5I	口縁部一部				口縁部横ナデ，胴部縦位ヘラケズリ	横ナデ	長石微粒少量	良好	灰	暗灰黄		9型式	15c前半

挿図番号	座地等	器種名	遺構番号	遺存度	単位：cm、(復元値) 口径	底径	器高	整形・調整 外面	内面	胎土	焼成	色調（ ）は施釉部分 外面	内面	備考	編年	時期
97	常滑	捏鉢	SX202	口縁部一部				口縁部横ナデ、胴部縦位ヘラナデ	横ナデ	長石粒少量	普通	赤灰	によい赤褐		9型式	15c前半
98	常滑	捏鉢	KR、(SK308、SX207)	1/3	36.0	(18.2)	10.0	口縁部横ナデ、胴部指頭押圧後斜位ヘラナデ	横ナデ	砂粒少量	良好	灰褐	橙		10型式	15c後半
99	常滑	捏鉢	KR、SX207	口縁～胴部1/6	(37.2)			口縁部横ナデ、胴部指頭押圧	横ナデ	長石粒少量	良好	橙	によい橙		10型式	15c後半
100	常滑	捏鉢	KR	口縁部1/8	(37.2)			口縁部横ナデ、胴部指頭押圧、ヘラケズリ	横ナデ	細砂粒微量	良好	橙	によい橙	断面砥石転用	10型式	15c後半
101	常滑	捏鉢	4L	口縁部1/9	(36.2)			口縁部横ナデ、胴部縦位ヘラケズリ	横ナデ	長石粒多量	極良好	灰赤	によい赤褐	外面砥石転用	10型式	15c後半
102	常滑	捏鉢	SD201	口縁部～胴部	(25.0)			口縁部横ナデ、胴部縦位ヘラケズリ	横ナデ	細砂粒少量	良好	によい橙	明赤褐	外面一部砥石転用	10型式	15c後半
103	常滑	捏鉢	SX007	口縁部1/12	(27.8)			口縁部横ナデ、胴部縦位ヘラケズリ	横ナデ	細砂粒少量	良好	灰			10型式	15c後半
104	常滑	捏鉢	SX207	口縁部1/11	(27.4)			口縁部横ナデ、胴部縦位ヘラケズリ	横ナデ	長石粒やや多量	良好	赤橙	によい赤褐		10型式	15c後半
105	常滑	捏鉢	SD202、SX207	口縁部1/8	(30.6)			口縁部横ナデ、胴部縦位ヘラケズリ	横ナデ	長石微粒多量	良好	橙	によい赤褐		10型式	15c後半
106	常滑	捏鉢	SX202、208	口縁～胴部				口縁部横ナデ、胴部縦位・横位ヘラケズリ	横ナデ	長石粒多量	良好	赤褐	赤褐～灰赤		10型式	15c後半
107	常滑	捏鉢	KR、SX007	口縁部1/10				口縁部横ナデ、胴部斜位ヘラケズリ	横ナデ	長石微粒少量	良好	橙～赤橙	赤橙		10型式	15c後半
108	常滑	捏鉢	SX008	口縁部1/13				口縁部横ナデ、胴部指頭押圧	横ナデ	長石微粒やや多量	極良好	暗赤褐色			10型式	15c後半
109	常滑	捏鉢	SK311、KR	口縁部1/12				口縁部横ナデ、胴部指頭押圧	横ナデ	長石微粒少量	良好	灰赤	灰		10型式	15c後半
110	常滑	捏鉢	SX207	口縁部1/13	(31.0)			口縁部横ナデ、胴部縦位ヘラケズリ	横ナデ	砂粒少量	良好	によい橙			10型式	15c後半
111	常滑	捏鉢	SX207	胴部		(14.8)		縦位ヘラナデ下部横位ヘラケズリ	横ナデ	長石微粒少量	良好	によい橙～赤褐	によい橙	外面上部自然釉		
112	常滑	捏鉢	SK308	胴～底部		(12.4)		横位ヘラケズリ	(摩滅)	長石粒多量	不良	橙	によい赤褐			
113	常滑	捏鉢	SX005、SX207	胴～底部		(20.0)		横位ヘラナデ、ヘラケズリ	(摩滅)	長石粒多量	不良	橙	黄灰～橙			
114	常滑	捏鉢	SD027	胴～底部1/6		(15.0)		縦位ヘラケズリ	(摩滅)	砂粒少量	不良	によい橙				
115	常滑	捏鉢	SX005、SX207	胴～底部1/6		(10.0)		縦位ヘラケズリ	(摩滅)	砂粒微量	極良好	によい橙	赤褐	断面砥石転用		
116	常滑	捏鉢	5L	胴～底部		(11.4)		縦位・横位ヘラケズリ	横ナデ	長石微粒やや多量	良好	によい赤褐	橙			
117	常滑	広口壺	SX007	口縁～肩部	(14.6)			横ナデ	横ナデ	長石微粒微量	良好	によい橙～によい赤褐	(灰オリーブ)	口縁部内面自然釉	5型式	13c前半
118	常滑	壺	SX007、(KR、SX207)	胴～底部		8.0		縦位ヘラケズリ、横ナデ	横ナデ	長石微粒少量	良好	灰褐	黄灰		5～6a型式	13c代
119	常滑	玉縁口縁壺	KR	口縁～頸部	(12.2)			横ナデ	横ナデ	長石微粒多量	良好	によい赤褐			9～10型式	15c代
120	常滑	玉縁広口壺	SK308	口縁部1/8	(19.0)			横ナデ	口縁部横ナデ、胴部横位ヘラケズリ	砂粒少量	良好	灰赤	褐灰		10型式	15c後半

掲図番号	産地等	器種名	遺構番号	遺存度	単位：cm、（復元値） 口径	底径	器高	整形・調整 外面	内面	胎土	焼成	色調（ ）は施釉部分 外面	内面	備考	編年	時期
121	常滑	玉縁広口壺	KR	口縁部1/8	(19.0)			横ナデ	口縁部横ナデ，胴部横位ヘラケズリ	砂粒少量	良好	におい赤橙	におい黄橙		10型式	15c後半
122	常滑	壺	8I	底部1/2		16.4		斜位ヘラケズリ	(摩滅)	長石粒多量	良好	灰			6a～8型式	13c後半～14c後半
123	常滑	甕	SX207	口縁部一部				横ナデ	横ナデ	長石・石英微粒微量	良好	(灰)		自然釉，口縁部紙石転用	5型式	13c前半
124	常滑	甕	SD005	口縁部一部				横ナデ	横ナデ	長石微粒微量	良好	(灰褐～褐灰)	(灰褐～灰オリーブ)	自然釉	5型式	13c前半
125	常滑	甕	KR	口縁部一部				横ナデ	横ナデ	長石・石英微粒微量	普通	灰褐～黒褐，(淡黄)	黒褐，(淡黄)	自然釉	5型式	13c前半
126	常滑	甕	SK308，KR	口縁部～胴部	(28.4)			横ナデ	横ナデ	長石粒多量	良好	灰褐～におい赤茶から黒褐，(淡黄)		自然釉，胴部断面紙石転用	6a型式	13c後葉
127	常滑	甕	SX207	口縁部	(38.0)			横ナデ	横ナデ	長石微粒少量	良好	におい赤褐～灰褐，(淡黄)	におい赤褐，(淡黄)		6a型式	13c後葉
128	常滑	甕	SK311，7I	口縁部一部				横ナデ	横ナデ	長石粒微量	良好	灰黄～灰	灰白～灰オリーブ		6a型式	13c後葉
129	常滑	甕	SX003	口縁部一部				横ナデ	横ナデ	長石・石英微粒少量	良好	灰白	灰白		6a型式	13c後葉
130	常滑	甕	KR	口縁部一部				横ナデ	横ナデ	長石粒微量	良好	(オリーブ黄～灰)	(灰～灰オリーブ)	自然釉	6a型式	13c後葉
131	常滑	甕	KR	口縁部一部				横ナデ	横ナデ	長石粒少量，石英粒微量	良好	灰白，(におい赤褐～灰褐)	におい赤褐	自然釉，132と同一個体	6b型式	13c末
132	常滑	甕	KR	口縁部一部				横ナデ	横ナデ	長石粒少量，石英粒微量	良好	におい黄橙	におい赤褐～黒褐	自然釉，131と同一個体	6b型式	13c末
133	常滑	甕	SD201，KR，(SK215，SX201，207)	口縁～胴部	(42.6)			横ナデ	横ナデ	長石粒多量，石英粒微量	良好	灰黄褐，(淡黄～灰黄褐)	におい黄褐～におい褐	肩部に自然釉	9型式	15c前半
134	常滑	甕	SX014，4L	口縁～胴部	(36.6)			横ナデ	横ナデ	長石粒多量	良好	におい赤褐～黒褐	におい赤褐	肩部に自然釉	9型式	15c前半
135	常滑	甕	KR	口縁部一部				横ナデ，頸部縦位ヘラケズリ	横ナデ	細長石粒少量	良好	黄灰～におい黄橙，口唇部自然釉　灰	灰黄		9型式	15c前半
136	常滑	甕	SK307，(SK215，SX007)	口縁部1/8	(42.6)			横ナデ	横ナデ	細砂粒少量	良好	におい赤褐	におい赤褐		10型式	15c後半
137	常滑	甕	SK307，SX207，5K (SK030，104，222，KR，SX007)	口縁部1/8	(46.4)			横ナデ	横ナデ	細長石粒少量	良好	灰赤，(オリーブ黄)	赤褐	自然釉	10型式	15c後半
138	常滑	甕	SK304，(SK207，SX007)	胴部1/4				頸部上半横ナデ，頸部下半斜位ヘラケズリ，胴部縦位ヘラケズリ，胴部縦位ヘラケズリ	指頭による整形後横位ヘラケズリ	細長石粒少量	不良	赤，(淡黄～灰白)	橙	胴部スタンプ，自然釉	6b型式	13c後半
139	常滑	甕	SD201	口縁部一部				横ナデ	横位ヘラケズリ	砂粒を少量	良好	におい赤褐～灰，(淡黄)	赤褐	頸部自然釉	10型式	15c後半
140	常滑	甕	SX207	口縁部一部				横ナデ	口縁部横位ヘラナデ	細砂粒少量	良好	灰	鉄釉，におい橙		10型式	15c後半
141	常滑	甕	KR	口縁部一部				横ナデ	横ナデ	細砂粒微量	良好	褐灰，口縁部鉄釉　赤褐	褐灰	口唇部縁を転用砥石として使用	10型式	15c後半
142	常滑	甕	3L	口縁部一部				横ナデ	横ナデ	長石粒やや多量	良好	暗赤褐色		端部に自然釉	10型式	15c後半

挿図番号	産地等	器種名	遺構番号	遺存度	単位：cm，（復元値） 口径	底径	器高	整形・調整 外面	内面	胎土	焼成	色調（ ）は施釉部分 外面	内面	備考	編年	時期
143	常滑	甕	SX009 (SK187,212, SX207)	胴部1/8				横位ヘラケズリ，押印文		細長石粒を多量	良好	（灰白）	灰	押印文	5～6a型式	13c中葉
144	常滑	甕	SD202,(KR, SX207)	胴部1/8				縦位ヘラケズリ，押印文	横位ヘラケズリ	砂粒を少量	良好	（オリーブ灰）	にぶい赤褐	押印文	6b型式	13c後半
145	常滑	甕	SX207	胴部一部				押印文	指頭による整形後横位ヘラケズリ	細砂粒少量	良好	（灰白～灰）	灰	押印文	3型式	12c末
146	常滑	甕	KR,(SP201, SX207)	底部一部				押印文	横位ヘラケズリ	細砂粒少量	良好	赤褐，（黒）	暗赤褐	自然釉，押印文	9～10型式	15c代
147	常滑	甕	SK308	胴部一部				押印文	横位ヘラケズリ	長石粒少量	良好	オリーブ黒	暗灰	押印文	3型式	12c末
148	常滑	甕	SD201	胴部一部				押印文		長石粒多量	良好	暗灰黄	浅黄	押印文，断面紙石転用	4～5型式	13c前半
149	常滑	甕	KR,SX207,(SX207B)	胴部下半1/8				押印文		砂粒多量	良好	（にぶい橙）	にぶい橙	押印文，自然釉	～7型式	中世前期
150	常滑	甕	SX207	底部1/4		(14.2)		横位・縦位ヘラケズリ	縦位ヘラナデ	長石微粒やや多量	良好	にぶい橙～赤褐	にぶい赤褐			中世
151	常滑	甕	SX207	底部1/4		(14.6)		斜位ヘラケズリ		細砂粒少量	良好	赤褐	（灰白～暗オリーブ）			中世
152	常滑	甕	2N	底部1/6		(16.2)		底部直上斜位ヘラケズリ，胴部縦位ヘラケズリ		長石粒少量	良好	にぶい黄橙	（暗オリーブ）			中世
153	常滑	甕	SX207	底部1/6		(15.4)		斜位ヘラケズリ		砂粒少量	良好	赤灰	（灰オリーブ）	外面及び断面紙石転用		中世
154	常滑	甕	SD201	底部1/4		(23.0)		斜位ヘラケズリ		細砂粒少量	良好	にぶい褐	（灰白）			中世
155	土器	カワラケ	遺跡一括	口縁部1/2を欠く	(5.7)	4.8	2.1	ロクロ挽きによる指ナデ，底部回転糸切り	ロクロ挽きによる指ナデ	細砂粒微量	良好	橙褐	橙褐	ロクロ右回転	Ⅰa類	中世
156	土器	カワラケ	4K	1/5	(6.8)	(4.8)	1.9	ロクロ挽きによる指ナデ，底部回転糸切り，底部外面剥離著しい	ロクロ挽きによる指ナデ	細砂粒微量	普通	黄橙褐	黄橙褐		Ⅰb類	中世
157	土器	カワラケ	SX207	底部1/4		(5.0)		ロクロ挽きによる指ナデ，底部回転糸切り	ロクロ挽きによる指ナデ	細砂粒少量	普通	にぶい黄橙	にぶい黄橙		Ⅰb類	中世
158	土器	カワラケ	4I	底部1/5		(3.0)		ロクロ挽きによる指ナデ，底部回転糸切り	ロクロ挽きによる指ナデ	細砂粒微量	良好	橙	橙		Ⅰb類	中世
159	土器	カワラケ	4H	底部1/8		(3.9)		ロクロ挽きによる指ナデ，底部回転糸切り	ロクロ挽きによる指ナデ	細砂粒少量	良好	にぶい橙	にぶい橙		Ⅰc類	中世
160	土器	カワラケ	SX005G	体部1/6		(4.6)		ロクロ挽きによる指ナデ，底部回転糸切り	ロクロ挽きによる指ナデ	細砂粒微量	不良	黄橙	黄橙		Ⅰc類	中世
161	土器	カワラケ	SK117	口縁部1/4を欠く	(3.8)	5.8	1.6	ロクロ挽きによる指ナデ，底部回転糸切り	ロクロ挽きによる指ナデ	細砂粒微量	良好	橙褐	橙褐	ロクロ右回転	Ⅱ類	中世
162	土器	カワラケ	SX005	1/3	(8.3)	(5.1)	1.4	ロクロ挽きによる指ナデ，底部回転糸切り	ロクロ挽きによる指ナデ	細砂粒少量	良好	灰	灰	口唇部外側にスス付着，灯明皿，意図焼成，ロクロ右回転	Ⅱ類	中世
163	土器	カワラケ	SK173,184	1/2	(8.4)	(5.0)	1.9	ロクロ挽きによる指ナデ，底部回転糸切り	ロクロ挽きによる指ナデ	細砂粒微量	良好	橙褐・口唇部外側にスス付着	橙褐	口唇部外側にスス付着，灯明皿，ロクロ右回転	Ⅱ類	中世

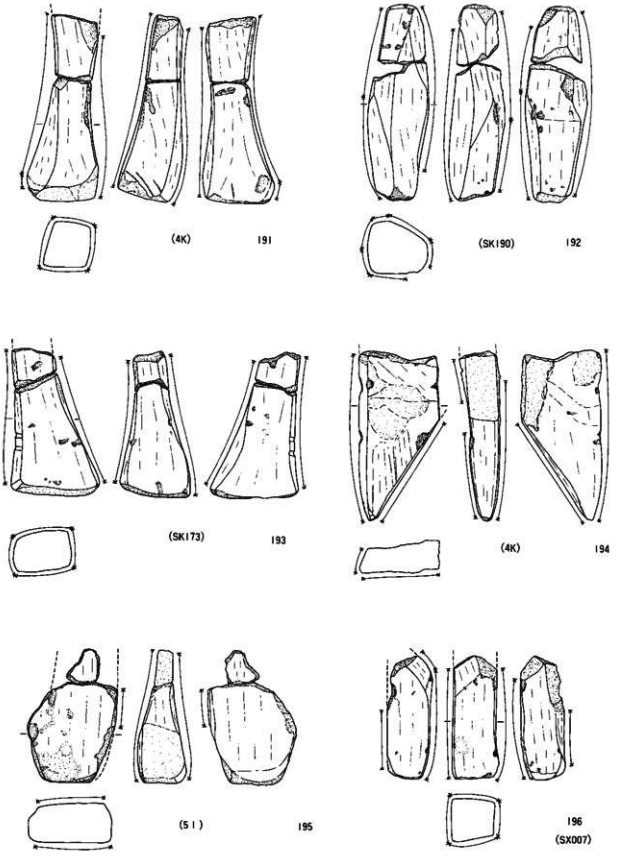
挿図番号	産地等	器種名	遺構番号	遺存度	単位：cm，（復元値） 口径	底径	器高	整形・調整 外面	内面	胎土	焼成	色調（ ）は施釉部分 外面	内面	備考	編年	時期
164	土器	カワラケ	5K	底部1/4		（5.2）		ロクロ挽きによる指ナデ，底部回転糸切り	ロクロ挽きによる指ナデ	細砂粒微量	良好	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ロクロ右回転	II類	中世
165	土器	カワラケ	SK221	底部1/8	(10.4)			ロクロ挽きによる指ナデ	ロクロ挽きによる指ナデ	細砂粒微量	良好	にぶい黄橙	にぶい黄橙		III類	中世
166	土器	カワラケ	SK221	口縁部1/6	(10.4)			ロクロ挽きによる指ナデ	ロクロ挽きによる指ナデ	細砂粒少量	良好	にぶい黄橙	にぶい黄橙		III類	中世
167	土器	カワラケ	5D11	底部1/6		（5.8）		ロクロ挽きによる指ナデ，底部回転糸切り	ロクロ挽きによる指ナデ	細砂粒少量	良好	橙	橙		III類	中世
168	土器	カワラケ	SX007	口縁及び底部1/8	(12.4)	（7.4）	（5.0）	ロクロ挽きによる指ナデ，底部回転糸切り	ロクロ挽きによる指ナデ	細砂粒・長石粒を少量	良好	橙褐	橙褐		III類	中世
169	土器	カワラケ	SX005A	底部1/4				ロクロ挽きによる指ナデ	ロクロ挽きによる指ナデ	細砂粒微量	良好	橙	橙		III類	中世
170	土器	カワラケ	SX005.5J		(12.2)			ロクロ挽きによる指ナデ	ロクロ挽きによる指ナデ	細砂粒微量	良好	にぶい黄橙	にぶい黄橙		III類	中世
171	土器	カワラケ	SK171	口縁部1/3を欠く	(6.0)	6.8	3.7	ロクロ挽きによる指ナデ，底部回転糸切り	ロクロ挽きによる指ナデ	粗砂粒少量	良好	にぶい黄橙，黒	灰黄褐，黒	内外面スス付着，ロクロ右回転	III類	中世
172	土器	カワラケ	SC	1/4		（6.3）	1.5	ロクロ挽きによる指ナデ，底部回転糸切り	ロクロ挽きによる指ナデ	砂粒少量	良好	灰白	灰白	体部及び底部穿孔，ロクロ右回転	III類	中世
173	土器	カワラケ	遺跡一括	底部1/4		（6.4）		ロクロ挽きによる指ナデ，底部摩滅により調整不明	ロクロ挽きによる指ナデ	細砂粒少量	良好	にぶい黄橙	にぶい黄橙		III類	中世
174	土器	カワラケ	SX022	底部1/4		（6.2）		ロクロ挽きによる指ナデ・底部回転糸切り	ロクロ挽きによる指ナデ	細砂粒少量	良好	橙	橙	ロクロ右回転	III類	中世
175	土器	カワラケ	4O	底部1/4		（7.2）		ロクロ挽きによる指ナデ底部摩滅により調整不明	ロクロ挽きによる指ナデ	細砂粒少量	良好	にぶい黄橙	にぶい黄橙		III類	中世
176	土器	カワラケ	遺跡一括	底部1/6	(15.6)			ロクロ挽きによる指ナデ	ロクロ挽きによる指ナデ	細砂粒微量	良好	黒，黒色処理	橙		IV類	中世
177	土器	カワラケ	遺跡一括	底部1/8		（8.4）		ロクロ挽きによる指ナデ，底部回転糸切り後ヘラケズリ	ロクロ挽きによる指ナデ	砂粒少量	良好	にぶい橙	にぶい橙		IV類	中世
178	土器	カワラケ	SX005	底部1/4		（8.4）		ロクロ挽きによる指ナデ，底部静止糸切り	ロクロ挽きによる指ナデ	細砂粒微量	良好	橙	橙		IV類	中世
179	土器	カワラケ	4K	底部1/8		（8.2）		ロクロ挽きによる指ナデ，底部摩滅により調整不明	ロクロ挽きによる指ナデ	細砂粒微量	不良	にぶい黄橙	にぶい黄橙		IV類	中世
180	瓦質土器	壺	SK309	口縁部1/6	(11.4)			口縁部指ナデ，胴部横位ヘラナデ	口縁部横位ヘラナデ，胴部上半横位刷毛目調整，胴部下半横位ヘラナデ	細砂粒少量	良好	灰	灰			15c代か
181	瓦質土器	東海系羽釜	5J	口縁部1/3，底部を欠く	(21.0)			口縁部ロクロ挽きナデ，胴部上半横位刷毛目調整，胴部下半横位ヘラケズリ	口縁部指ナデ，胴部横位ヘラナデ	細砂粒微量	良好	浅黄橙，スス付着	浅黄橙			16c代か



182～187　茶臼，188～190　板碑

第127図　石製品（茶臼・板碑）

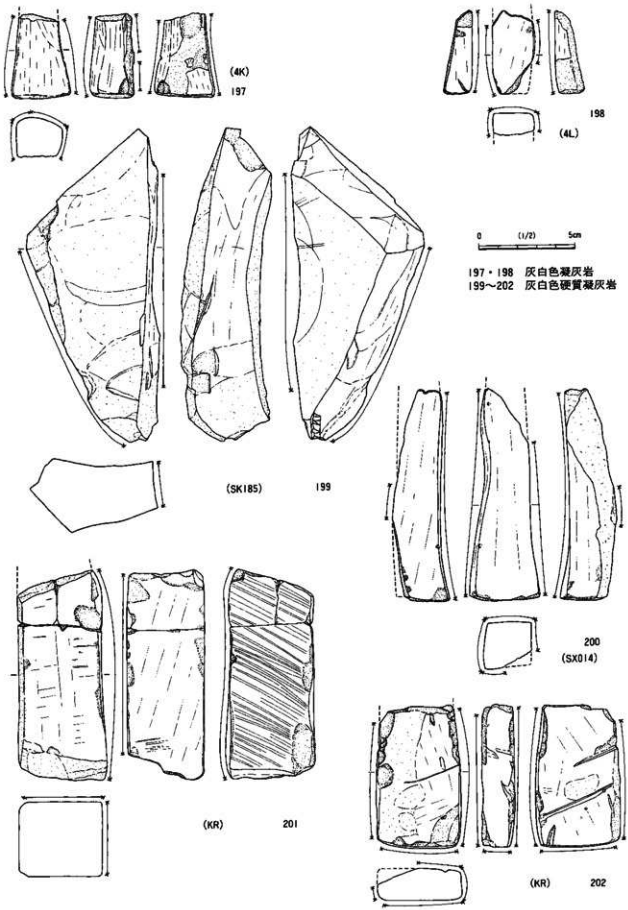
0　(1/6)　20cm



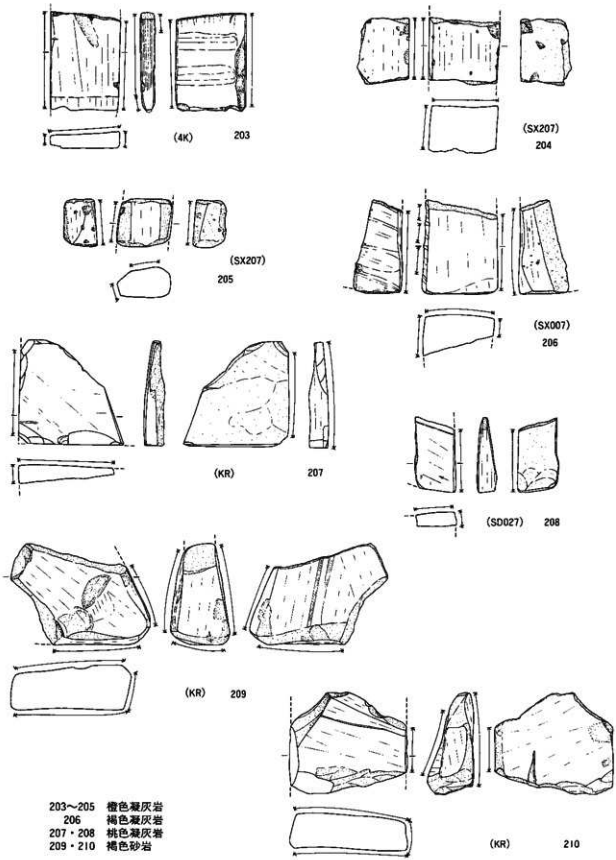
191～196　灰白色凝灰岩

第128図　石製品（砥石１）

0　(1/2)　5cm



第129図　石製品（砥石２）



第130図 石製品（砥石３）

第８表　中・近世石製品観察表

挿図番号	種　類	遺構番号	遺　存　度	単位：cm 長さ	(復元値) 幅	[現存値] 厚さ	観　　察	色　調	石　材	時代・時期等
182	茶臼	SX211	受皿部1/8	(24.8)	－	[4.0]		灰白	安山岩	中近世
183	茶臼	8I	受皿部1/8	(30.2)	－	[5.3]		暗オリーブ	安山岩	中近世
184	茶臼	SX207	受皿部1/4	(40.0)	－	[5.5]		灰オリーブ	安山岩	中近世
185	茶臼	SX207	臼部1/6	－	(27.8)	9.3		にぶい黄橙	安山岩	中近世
186	茶臼	SX207	口縁部1/6	(40.2)	－	[11.0]		オリーブ灰	安山岩	中近世
187	茶臼	KR	口縁部1/10	(55.0)	－	[11.2]		オリーブ灰	安山岩	中近世
188	板碑	5K	上半部	[42.0]	[15.5]	[2.2]	梵字（キリーク）	緑灰	緑泥片岩	中世
189	板碑	SK014	上端部	[23.4]	[11.5]	[1.6]	梵字（キリーク）	緑灰	緑泥片岩	中世
190	板碑	表採	上端部	[22.3]	[7.3]	[2.0]	梵字（キリーク）	緑灰	緑泥片岩	中世
191	砥石	4K	上半部を欠く	[9.7]	3.7	3.0	擦痕有り	灰白	凝灰岩	中近世
192	砥石	SK190	完形	10.2	3.2	2.9	擦痕有り	灰白	凝灰岩	中近世
193	砥石	SK173	上半部を欠く	[7.6]	4.6	3.7	擦痕有り	灰白	凝灰岩	中近世
194	砥石	4K	上半部を欠く	[8.9]	[3.2]	2.0	擦痕有り	淡黄	凝灰岩	中近世
195	砥石	5I	上半部を欠く	[6.9]	4.3	2.5	擦痕有り	灰白	凝灰岩	中近世
196	砥石	SX007	上部先端を欠く	[6.4]	2.4	2.3	擦痕有り	淡黄	凝灰岩	中近世
197	砥石	4K	上半部を欠く	[4.4]	3.1	2.3	擦痕有り	灰白	凝灰岩	中近世
198	砥石	4L	上半部及び体部下半を欠く	[4.3]	2.2	[1.4]	擦痕有り	灰白	凝灰岩	中近世
199	砥石	SK185	完形	16.3	6.7	4.1	擦痕有り	灰白	砂質泥岩	中近世
200	砥石	SX014	上半部及び体部下半を欠く	[11.1]	3.6	[2.5]	擦痕有り	灰白	凝灰岩	中近世
201	砥石	KR	上半部を欠く	[10.9]	4.6	4.0	擦痕有り	灰白	凝灰岩	中近世
202	砥石	KR	上半部を欠く	[7.5]	4.4	1.7	擦痕有り	灰白	凝灰岩	中近世
203	砥石	4K	上半部及び下部先端を欠く	[5.1]	3.7	0.9	擦痕有り	橙	凝灰岩	中近世
204	砥石	SX207	両端を欠く	[3.4]	3.7	2.6	擦痕有り	黄橙	凝灰岩	中近世
205	砥石	SX207	両端を欠く	[2.4]	2.9	1.8	擦痕有り	浅黄橙	凝灰岩	中近世
206	砥石	SX007	上半部を欠く	[4.9]	3.9	2.6	擦痕有り	明赤褐	凝灰岩	中近世
207	砥石	KR	上半部及び体部下半を欠く	[6.5]	[4.5]	[1.0]	擦痕有り	淡赤橙	粘板岩	中近世
208	砥石	SD027	上半部及び体部下半を欠く	[3.9]	[2.2]	[1.0]	擦痕有り	にぶい赤橙	粘板岩	中近世
209	砥石	KR	上半部及び体部下半を欠く	[5.2]	[6.3]	3.1	擦痕有り	にぶい黄橙	凝灰岩	中近世
210	砥石	KR	両端を欠く	[5.3]	6.2	2.4	擦痕有り	灰オリーブ	凝灰岩	中近世

8　金属製品

(1)　鉄製品（第131図，図版34）

211～213は刀子，214は不明製品だが，三角状で刃部を有するので鉄鏃の可能性もある。215，216は細い板状の製品である。217は鉄製の高坏，218は環状の製品，219は不明製品，220は恐らく鉄鍋の取手部分，221～224は釘状の平たい金具，225～236は釘である。

(2)　鉄滓（第132図，図版35）

237，238は炉内滓，239，240は流動滓である。本遺跡内に鍛冶炉は検出されていないが，存在した可能性はあろう。

(3)　銅製品（第132図，図版35）

241，242は飾金具，243は取手，244，245はキセル，246は不明筒状銅製品である。

(4)　銭貨（第133図～第134図，第９表，図版35）

中国銭については，247，248は唐銭，249～272は北宋銭，273～275は明銭，他に判読不明な小片が３枚出土している。近世銭については，鎌倉街道で集中して出土した。276，277は古寛永銭，278～280は17世紀後半の鋳造，281～287は18世紀前葉の鋳造，288～290は19世紀代の天保通宝である。中国銭中に永楽銭がないことは，陶磁器に16世紀代の遺物がほとんど無いことと一致し，街道の使用時期が窺えるものである。

9　遺跡全体分布（第136図～第141図，第10表）

中世遺物は，遺構分布と同様，基本的には調査区の中央から西側（北区・南区・迂回路部）に集中し，東側（東区）とは，その量に大きな隔たりがある。西側は溝状の比較的大規模な道である鎌倉街道が，中世段階に掘削されて以来，数度の改修・整備が行われ，現代（調査前まで）ではアスファルト道路が造られ使用され続けてきた。その道路沿いに形成された中世の集落や墓地の遺物が，かなりこの道に廃棄されていることが窺える。

(1)　貿易陶磁，瀬戸・美濃，志戸呂，渥美

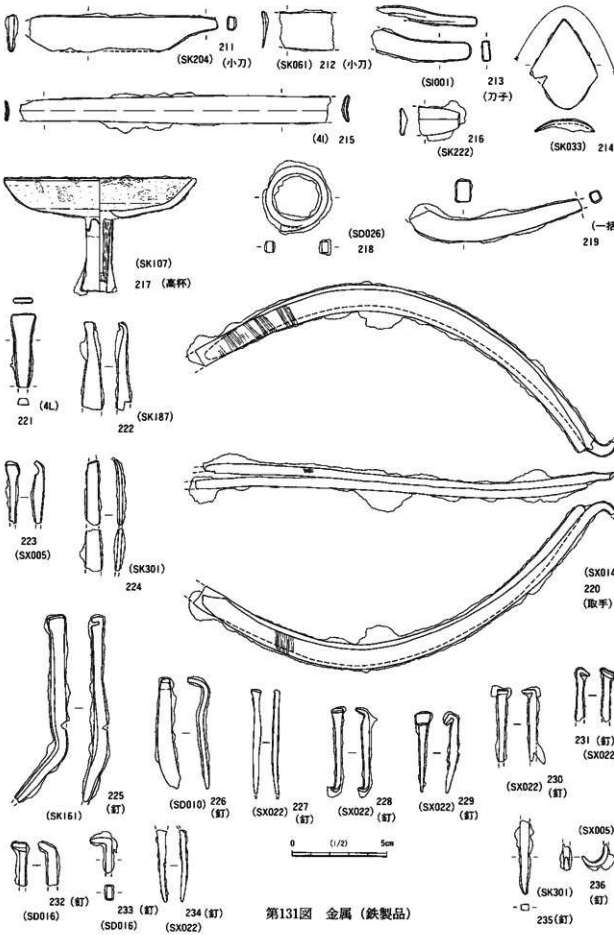
鎌倉街道中心に，調査区中央部以西全体に分布が見られる。特に，整形区画A（SX005）内や鎌倉街道東端部から南地区や迂回路部分でやや多く出土した。これは，SX005や南区東端部で検出された堀状の溝が上層農民層の屋敷跡である可能性を物語るものと考えられる。

(2)　常滑

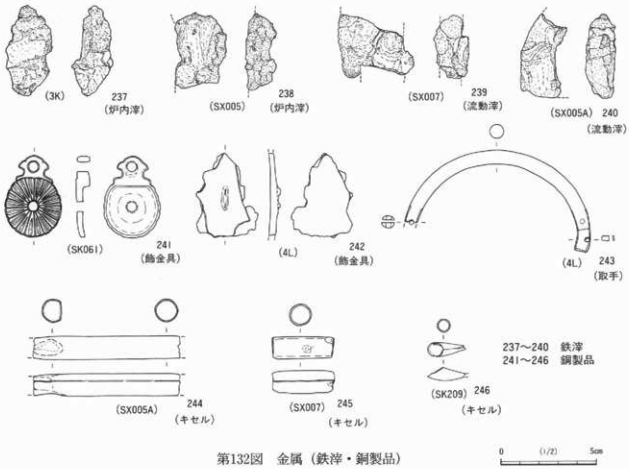
鎌倉街道内の中央から東側を中心に調査区中央部以西に分布する。なお，鎌倉街道出土破片と周囲の遺構出土破片に接合関係や同一個体関係が多く見られることから，多くの破片が廃棄されたものと想像できる。東区や迂回路部分検出遺構出土遺物と鎌倉街道出土遺物の接合関係もあり，かなり広範囲に物が動いてる。古手の還元炎焼成のものは，整形区画Aをはじめとした，調査区でも中央部の谷津の整形区画より西側にやや多い様相がある。鎌倉街道に廃棄された時期については，主に宝永テフラ降下（1708年）前までである。生活の中で廃棄されたか，その後の畑などの開発によって出てきたものが廃棄されたのかは不詳である。なお，転用砥石の分布は特に偏りはみられず，全体に分布する。

(3)　石製品

基本的には，調査区中央部以西全体に分布するが，茶臼はほとんど鎌倉街道内，板碑は少量で散在，砥


211
(SK204) (小刀)
(SK061) 212 (小刀)
(SI001)
213
(刀子)
(4l) 215
216
(SK222)
(SK033) 214
(SK107)
217 (高杯)
(SD026)
218
(一括)
219
(4L)
221
(SK187)
222
223
(SX005)
(SK301)
224
(SX014)
220
(取手)
(SK161)
225
(釘)
(SD010) 226
(釘)
(SX022) 227
(釘)
(SX022) 228
(釘)
(SX022) 229
(釘)
(SX022) 230
(釘)
231 (釘)
(SX022)
0 (1/2) 5cm
(SX005)
(SK301)
236
(釘)
235(釘)
232 (釘)
(SD016)
233 (釘)
(SD016)
234 (釘)
(SX022)

第131図　金属（鉄製品）



第132図　金属（鉄滓・銅製品）

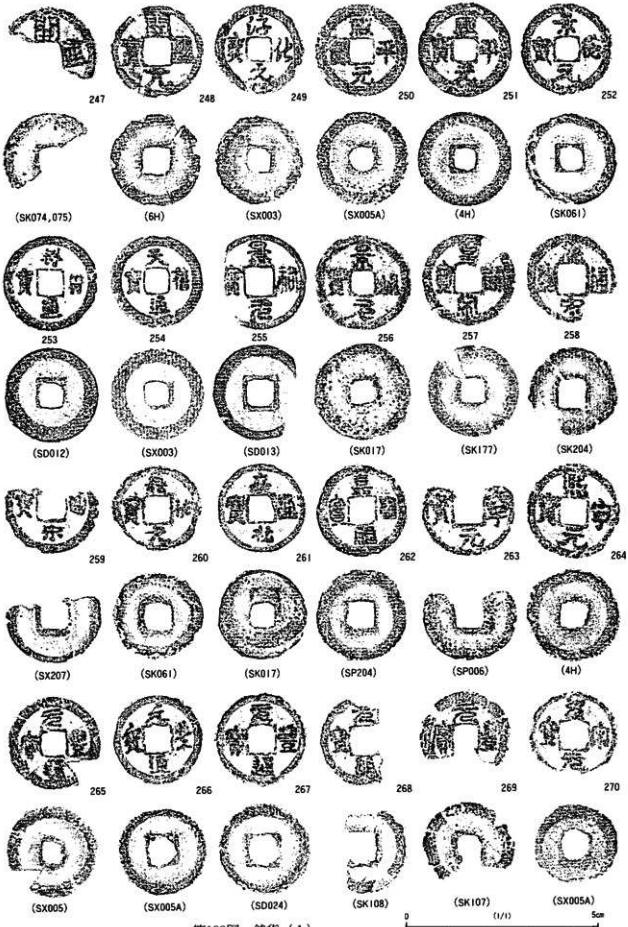
石は鎌倉街道内中心に土坑墓出土のものある。なお，五輪塔の出土は見られなかったが，安山岩の丸石の破片が鎌倉街道内から極く少量出土しており，その可能性もある。

(4)　金属製品

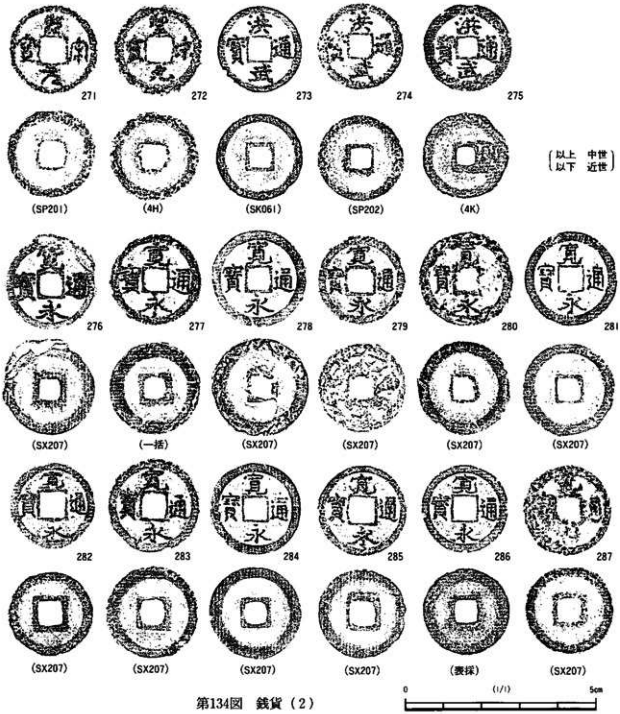
基本的には，調査区中央部以西全体に分布する。道跡，土坑墓，方形竪穴等で僅かずつ見られる。ただ，銭貨については，中国銭は土坑墓と鎌倉街道から，近世銭は鎌倉街道に集中する。

10　近世以降の遺物（第11表，図版32）

近世・近代の陶磁器が，本遺跡全体では124点，瓦が14点出土している。そのほとんどが鎌倉街道内である。陶磁器は肥前磁器（碗類），瀬戸・美濃陶器（碗類），堺産擂鉢，産地不明鉄釉袋物，土人形等である。時期的には18世紀代から19世紀代の製品で，その内，19世紀後半の磁器も25点程ある。また，瓦には転用砥石が２点含まれる。


247
248
249
250
251
252
(SK074,075)
(6H)
(SX003)
(SX005A)
(4H)
(SK061)
253
254
255
256
257
258
(SD012)
(SX003)
(SD013)
(SK017)
(SK177)
(SK204)
259
260
261
262
263
264
(SX207)
(SK061)
(SK017)
(SP204)
(SP006)
(4H)
265
266
267
268
269
270
(SX005)
(SX005A)
(SD024)
(SK108)
(SK107)
(SX005A)
0
(1/1)
5cm

第133図　銭貨（1）



第134図　銭貨（2）

注1　本書では，中近世遺物の検討に際して，以下の文献を参考とした。

（貿易陶磁）

・森田　勉　1982「14～16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』No.2　貿易陶磁研究会

・上田秀夫　1982「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』No.2　貿易陶磁研究会

・小野正敏　1982「15～16世紀の染付碗，皿の分類と年代」『貿易陶磁研究』No.2　貿易陶磁研究会

・横田賢次郎・森田　勉　1978「太宰府出土の輸入中国陶磁器について－型式分類と編年を中心として－」　『九州陶磁資料館研究紀要』4

・小野正敏　1985「出土陶磁よりみた15・16世紀における画期の素描」『MUSEUM』No.16　東京国立博物館

288

289

290

(KR)

(SX207)

(SX207)

0 (1/1) 5cm

第135図　銭貨（3）

（瀬戸・美濃）

- 藤澤良祐　1986「瀬戸大窯発掘調査報告」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要Ⅴ」
- 藤澤良祐　1991「瀬戸古窯址群Ⅱ－古瀬戸後期様式の編年－」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要」Ⅹ
- 藤澤良祐　1997「中世瀬戸窯の動態」『(財) 瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要」第５輯
- 藤澤良祐　1993『瀬戸市史　陶磁史編　四」瀬戸市
- 藤澤良祐　1998『瀬戸市史　陶磁史編　六」瀬戸市

（常滑）

- 中野晴久　1994「赤羽・中野「生産地における編年について」「「中世常滑焼をおって」資料集」　日本福祉大学知多半島総合研究所
- 中野晴久　1995「常滑焼編年作業と今後の課題」「考古学ジャーナル」№396　ニューサイエンス社

（肥前陶磁）

- 九州近世陶磁学会　2000『九州陶磁の編年』

（貿易・国産陶磁器・土器全般）

- 中世土器研究会編　1995『概説　中世の土器・陶磁器」真陽社
- 笹生　衛　1997「中世の焼き物（年代推定の基準)」「千葉県の歴史　資料編　中世１（考古資料)」千葉県

（銭貨）

- 小川　浩　1972「寛永通宝銭譜」日本古銭研究会
- 増尾書房　1976「古寛永銭志改訂版」穴銭堂
- 静岡いずみ会　1992『穴銭入門　寛永通宝－新寛永銭の部－』書信館出版

第9表　銭貨計測表（年代順）

挿図No.	遺構	銭種	書体	読み	鋳造地	初鋳年 年代	初鋳年 西暦	材質	縁外径 平均	縁内径 平均	郭外長 平均	郭内長 平均	縁厚 平均	肌厚 平均	重量 (g)	備考
247	SK074-075	開元通寶	篆書	対読	唐	武徳4	621	銅	•	•	•	•	1.30	0.87	•	•1/2欠損，背上月
248	6H	開元通寶	篆書	対読	唐	武徳4	621	銅	24.13	19.80	18.45	7.10	1.15	0.88	•	•3つの破片に分れている。
249	SX003	淳化元寶	草書	回読	北宋	淳化元	990	銅	23.75	17.85	7.10	5.85	1.25	0.64	1.94	
250	SX005A	咸平元寶	真書	回読	北宋	咸平元	998	銅	24.70	18.45	7.60	6.15	1.20	0.68	3.05	
251	4H	咸平元寶	隷書	回読	北宋	咸平元	998	銅	24.93	18.55	7.75	5.68	1.29	0.80	2.77	
252	SK061	景德元寶	真書	回読	北宋	景德元	1004	銅	24.25	18.80	7.15	6.25	1.44	0.68	2.27	
253	SD013	祥符通寶	真字	回読	北宋	大中祥符2	1009	銅	25.05	19.30	7.53	6.25	1.31	0.73	2.53	
254	SX003	天禧通寶	真書	回読	北宋	天禧年間	1017	銅	24.45	18.25	7.05	6.25	1.36	0.70	2.84	
255	SD013	景祐元寶	篆書	回読	北宋	景祐元	1034	銅	25.25	20.90	8.85	7.08	1.45	0.74	•	•縁部1/3欠損
256	SK017	景祐元寶	篆書	回読	北宋	景祐元	1034	銅	25.10	18.70	7.50	5.95	1.15	0.71	1.65	破片を接合して計測
257	SK177	皇宋通寶	篆書	対読	北宋	宝元2	1039	銅	24.65	19.90	6.85	6.75	1.21	0.84	1.59	破片を接合して計測
258	SK204	皇宋通寶	真書	対読	北宋	宝元2	1039	銅	23.35	20.05	9.25	6.95	1.13	0.91	•	•破損
259	SX207	皇宋通寶	真書	対読	北宋	宝元2	1039	銅	•	•	•	•	1.27	0.65	•	•1/2欠損
260	SK061	嘉祐元寶	真書	回読	北宋	嘉祐元	1056	銅	23.40	18.60	8.35	6.85	1.39	1.13	1.62	劣化が著しく，さわると崩壊する。
261	SK017	嘉祐通寶	真書	対読	北宋	嘉祐元	1056	銅	23.65	19.80	8.20	6.40	1.53	1.04	3.38	
262	SP204	嘉祐通寶	篆書	回読	北宋	嘉祐元	1056	銅	24.40	19.20	7.55	6.80	1.26	0.96	2.69	
263	SP006	熙寧元寶	真書	回読	北宋	熙寧元	1068	銅	24.15	20.20	8.90	7.10	1.63	0.83	•	•約1/2欠損
264	4H	熙寧元寶	真書	回読	北宋	熙寧元	1068	銅	24.50	20.63	8.45	6.93	1.00	0.73	1.90	
265	SX005	元豊通寶	真書	回読	北宋	元豊元	1078	銅	24.60	17.73	7.63	5.48	1.56	0.81	•	•破片を接合して計測
266	SX005A	元豊通寶	真書	回読	北宋	元豊元	1078	銅	23.53	18.83	8.20	6.90	1.25	0.88	2.92	
267	SD020	元豊通寶	篆書	回読	北宋	元豊元	1078	銅	24.05	19.70	8.55	6.90	1.25	0.95	2.62	
268	SK108	元祐通寶	篆書	回読	北宋	元祐元	1098	銅	•	•	•	•	1.40	0.85	•	•1/2欠損
269	SK107	元□通寶	隷書	•	北宋		•	銅	•	•	•	•	1.23	0.95	•	•「寶」字から元豊通寶と思われる。
270	SX005A	聖宋元寶	篆書	回読	北宋	聖宋元	1101	銅	22.60	20.10	8.15	7.20	1.28	0.99	1.88	•縁部が一部破損
271	SP201	聖宋元寶	篆書	回読	北宋	聖宋元	1101	銅	23.35	19.70	8.15	6.70	1.24	0.95	2.16	
272	4H	聖宋元寶	真書	回読	北宋	聖宋元	1101	銅	23.33	18.40	7.75	6.73	1.26	0.89	2.29	

挿図No.	遺構	銭種	書体	読み	鋳造地	初鋳年 年代	初鋳年 西暦	材質	縁外径 平均	縁内径 平均	郭外長 平均	郭内長 平均	縁厚 平均	肌厚 平均	重量 (g)	備考
273	SK061	洪武通寶	真書	対読	明	洪武元	1368	銅	22.90	18.60	6.90	5.85	1.49	0.56	2.28	
274	SP202	洪武通寶	真書	対読	明	洪武元	1368	銅	22.70	18.60	6.50	5.55	1.69	0.80	3.42	
275	4K	洪武通寶	隷書	対読	明	洪武元	1368	銅	23.23	17.00	5.60	4.75	1.85	0.94	3.51	
	SD016	中国銭	•	•	中国	•	•	銅	•	•	•	•	•	•	•	小破片につき，計測できない。
	SX208	中国銭	•	•	中国	•	•	銅	•	•	•	•	•	•	•	2/3欠損
	遺跡一括	中国銭	•	•	中国	•	•	銅	•	•	•	•	1.40	1.00	•	*1/2欠損
276	SX207	寛永通寶(古)	真書	対読	長門国美弥郡赤村か	寛永14	1637	銅	24.75	20.35	6.63	5.90	1.73	1.00	4.30	縁部の一部が溶解している。
277	遺跡一括	寛永通寶(古)	真書	対読	•	寛永年間	17c前	銅	23.80	19.50	7.50	5.65	1.25	0.78	2.39	摩滅している。
278	SX207	寛永通寶	真書	対読	江戸深川亀戸村	寛文13	1673	銅	25.65	20.20	7.40	5.75	1.41	0.83	3.48	
279	SX207	寛永通寶	真書	対読	江戸深川亀戸村	寛文13	1673	銅	23.78	•	•	•	•	•	•	*腐食のため鉄銹と癒着し計測できない
280	SX207	寛永通宝	真書	対読	江戸深川十万坪村	享保10	1697	銅	24.90	•	•	•	•	•	•	*腐食のため鉄銹と癒着し計測できない
281	SX207	寛永通寶	真書	対読	江戸深川亀戸村	宝永5	1708	銅	24.50	19.50	6.90	6.00	1.43	0.74	2.87	
282	SX207	寛永通寶	真書	対読	江戸深川亀戸村	宝永5	1708	銅	22.70	18.80	18.10	6.63	1.18	0.83	2.16	
283	SX207	寛永通寶	真書	対読	山城国紀伊郡伏見村	元文元	1736	銅	24.50	20.15	7.55	6.45	1.11	0.78	2.43	
284	SX207	寛永通寶	真書	対読	江戸深川亀戸村	元文2	1737	銅	24.58	18.75	6.65	5.93	1.10	0.65	2.40	
285	SX207	寛永通寶	真書	対読	江戸深川亀戸村	元文2	1737	銅	23.58	19.70	7.70	6.80	1.10	0.71	2.20	
286	SC	寛永通寶	真書	対読	江戸深川平野新田	元文4	1739	銅	23.00	18.90	7.23	6.15	1.11	0.80	2.23	
287	SX207	寛永通宝	真書	対読	•	•	18c前	銅	23.18	•	•	•	•	•	•	*腐食のため癒着し計測できない
	SX207	寛永通宝	真書	対読	•	•	•	銅	22.85	•	•	7.50	0.80	0.75	0.96	両面とも磨滅もしくは無文銭
	SX207	寛永通宝	真書	対読	•	•	18c前～	鉄	•	•	•	•	•	•	•	*腐食のため癒着し計測できない
	SX207	寛永通宝	真書	対読	•	•	18c前～	鉄	•	•	•	•	•	•	•	*腐食のため癒着し計測できない
	4L	寛永通宝	真書	対読	•	•	18c前～	鉄	•	•	•	•	•	•	•	*1/2欠損，錆のため計測せず
288	KR	天保通寶	真書		•	天保6～	19c代	銅	40.55	36.10	10.40	6.50	2.53	1.58	18.32	
289	SX207	天保通寶	真書		•	天保6～	19c代	銅	40.93	36.75	10.90	6.03	2.69	1.58	19.94	
290	SX207	天保通寶	真書		•	天保6～	19c代	銅	40.48	35.93	10.95	6.10	2.68	1.74	20.00	
	SX207	二銭銅貨			日本	明治6～17	1873	銅	32.03	30.40	•	•	2.45	2.06	13.33	

第10表　中・近世陶磁器遺構別組成表（破片数）※同一遺構内で接合した物は，１点で計算。

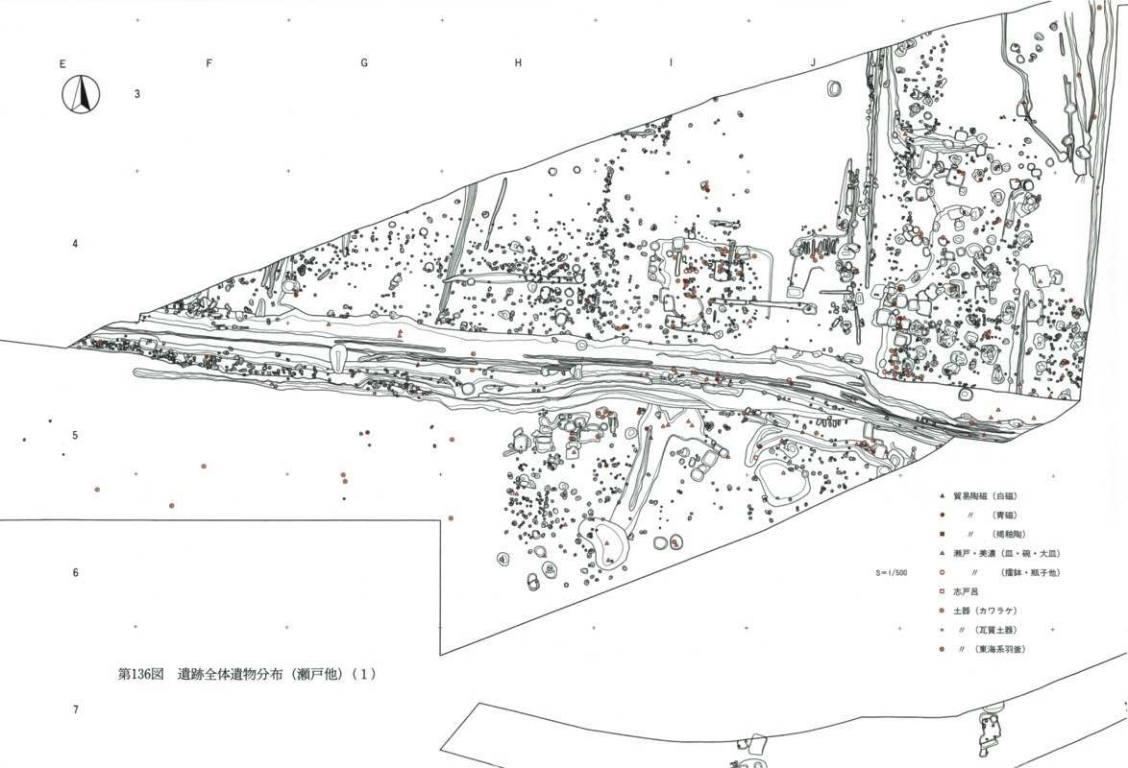
遺構名	遺構種類	貿易陶磁					瀬戸・美濃												志戸呂		渥美	常滑				瓦質土器・土器			中世合計	近世		近世合計
		白磁	青磁			陶器	灰釉皿		灰釉小鉢	鉄釉皿	灰釉	鋼		鉄釉擂鉢	他（壺・瓶子・香炉等）		鉄釉壺	鉄釉擂鉢	壺	コネ鉢		壺・甕		壺	東海系須恵	カワラケ		陶磁器	瓦	合計
		皿	碗	その他		陶器壺	縁釉皿	加工			深皿・大皿	平鍋	天目茶碗							コネ鉢	転用砥石	壺・甕	転用砥石								
SX024	縄文時代陥穴																			1							1			0
SI002	古墳時代竪穴住居																					1					1			0
SI003	古墳時代竪穴住居											1						2	3								1			0
KR	鎌倉街道		5	皿	2		5	1			15	3	1		瓶子	3	3		1	83	3	244	18	3		1	392	78	5	83
SX007	鎌倉街道側溝					1	2	1			2	1		1					1	11	2	25	3		1	11	65	12		12
SX207	鎌倉街道側溝		1	盤	1	1					1	3			瓶子	2				49	1	83	13	1		3	160	19	5	24
SX003	道																			6		1				3	10			0
SX022	道																			1	1	1		3		5	11			0
SD001	溝																			1							1			0
SD003	溝																			1							1		1	1
SD005	溝																			1		4					5			0
SD009	溝												1													1	2			0
SD011	溝																			1						1	2			0
SD015	溝																										0	1		1
SD016	溝	1																									1			0
SD017	溝						1																1				2			0
SD020	溝																					1				1	2			0
SD021	溝																			3							3			0
SD022	溝						1														1	1					3	1		1
SD024	溝																					1					1			0
SD026	溝											1										1					2			0
SD027	溝						2				1									6	2	4	1			1	17			0
SD201	溝		1	壺	1		2			3			1	3	花瓶	1				1		8	1			2	24			0
SD202	溝		1								2									1		4					8			0
SD203	溝								1											3			1				5			0
SX020	溝																					1					1			0
SX201	溝						1													1		1					3	1		1
SP003	ピット																									2	2			0
SP005	ピット																								2		2			0
SP007	ピット																						1				1			0
SP059	ピット						2																				2			0
SP060	ピット																					1					1			0
SP203	ピット		1																								1			0
SP204	ピット												1														1			0
SP205	ピット																					1	1				2			0
SG-P001	ピット		1																								1			0
SK173	方形竪穴																			1						1	2			0

遺構名	遺構種類	須恵陶器				瀬戸・美濃										志戸呂		緑釉	常滑				瓦質土器・土師			中世合計	近世		近世合計
		白磁	青磁																コネ鉢		壺・甕		壺	東海系須恵	カワラケ		陶磁器	瓦	
		皿	碗	その他	陶器	緑釉皿	卸皿	灰釉小鉢	鉄釉皿	灰釉深皿・大皿	灰釉平碗	天目茶碗	鉄釉擂鉢	他(皿・瓶子・香炉等)	鉄釉皿	鉄釉擂鉢	甕	コネ鉢	転用紡錘	皿・甕	転用紡石								
SK178	方形竪穴		1																1		2					3			0
SK301	方形竪穴																				1	1				2			0
SK120	方形竪穴		1																						1	2			0
SK204	方形竪穴																								2	2			0
SX005	方形竪穴						1						3						8	2	8	1	1	1	13	39			0
SX005G	方形竪穴																								1	1			0
SX208	大型竪穴						1			1									1		1					4			0
SX213	大型竪穴		1								1											1				2			0
SK177	井戸																		1		1					2			0
SX006	井戸											1									1					3			0
SX214	井戸	1	1	瓶類	1		1														2	1		2		6			0
SK171	地下式抗																								1	1			0
SK307	地下式抗															3			1		2					9			0
SK308	地下式抗										1	2		香炉	1				2		10		1	1	2	20	2		2
SK309	地下式抗																						1			1			0
SK311	地下式抗										1	1							2		4					8			0
SX008	地下式抗																		1						1	2			0
SX009	地下式抗																		1				1			2			0
SX014	地下式抗						1											1			2					4			0
SX211	地下式抗										1											1				2			0
SK302	火葬土坑(周辺)													鉄釉壺	1						2					3			0
SK012	円形土坑墓																		1							1			0
SK052	不整形土坑墓																				1					1			0
SK117	隅丸方形土坑墓																								3	3			0
SK136	方形土坑墓						1																			1			0
SK182A	隅丸方形土坑墓	1																								0	1		1
SK184A	円形土坑墓																				1				5	6			0
SK185	不整形土坑墓																		5		2	1				9			0
SK186A	不整形土坑墓																		1							1			0
SK189	長方・楕円形土坑墓							1										1								2			0
SK201	隅丸方形土坑墓																				1					1			0
SK211	隅丸方形土坑墓																		1							1			0
SK212	隅丸方形土坑墓																				1					1			0
SK213	隅丸方形土坑墓																		1							1			0
SK221	隅丸方形土坑墓																		1		1				4	6			0
SK223	長方・楕円形土坑墓																				1					1			0
SK304	長方・楕円形土坑墓																				4					4			0
SX005A	隅丸方形土坑墓																								2	2			0

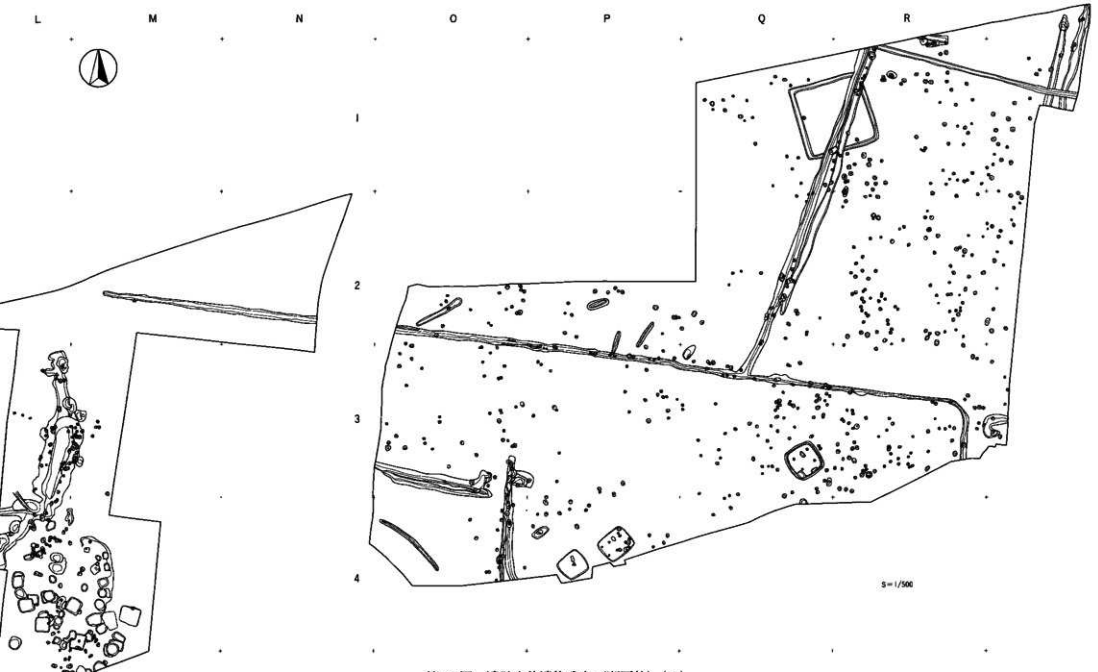
遺構名	遺構種類	貿易陶磁					瀬戸・美濃									志戸呂		縄文	常滑				瓦質土器・土器				近世		
		白磁	青磁			陶器	灰釉皿		灰釉小鉢	鉄釉皿	灰釉	鉄釉				鉄釉皿	鉄釉皿	壺	コネ鉢		壺・甕		壺	東播系須恵	カワラケ	中世合計	陶器類	瓦	近世合計
		皿	碗	その他		褐釉壺	縁釉皿	卸皿			灰釉・大皿	灰釉平碗	天目茶碗	鉄釉鉢	他(壺・瓶子・香炉等)				コネ鉢	転用砥石	壺・甕	転用砥石							
SX005B	隅丸方形土坑墓																					1				1			0
SK018	円形土坑																				1					1			0
SK024	不整形土坑		1																1							2			0
SK030	不整形土坑																		1		1					2			0
SK076	不整形土坑																				1					1			0
SK102	不整形土坑																		1							1			0
SK105	円形土坑墓																		1			1				2			0
SK139	不整形土坑		1																										
SK144	不整形土坑						1																			1			0
SK156	不整形土坑																								2	2			0
SK187	不整形土坑																				1					1			0
SK188	不整形土坑																		1		1					2			0
SK190	隅丸方形土坑墓																				2					2		1	1
SK207	方形土坑墓											1									2					3			0
SK214	隅丸方形土坑墓																		1							1			0
SK215	円形土坑墓																				1					1			0
SK220	円形土坑墓																				1	1				2			0
SK222	不整形土坑																				1					1			0
SX218	長方・楕円形土坑墓																					1				1			0
2L	グリッド一括																				1				1	2			0
2M	グリッド一括											2														2			0
2N	グリッド一括																				1					1			0
2O	グリッド一括																				1					1			0
3J	グリッド一括									1									2							3			0
3K	グリッド一括						1												4		1					6			0
3L	グリッド一括																		2		2				1	5			0
4F	グリッド一括																		1		2	1				4			0
4G	グリッド一括																		1										
4H	グリッド一括		1																1		1				3	6			0
4I	グリッド一括		1																5		3				2	11			0
4J	グリッド一括	1	1			2														1		1				6			0
4K	グリッド一括					1	2				1	1							4		2				4	15			0
4L	グリッド一括		1																6	2	6	1				16			0
4O	グリッド一括																		4	1					1	6			0
5F	グリッド一括																		1										
5H	グリッド一括																		2		4				2	8	1		1
5I	グリッド一括		1									4							4	1	5			2	2	19	1		1
5J	グリッド一括					1							1		鉄釉台 1				2		2	1		15		23	2		2

遺構名	遺構種類	貿易陶磁					瀬戸・美濃											志戸呂		瀬美	常滑				瓦質土器・土器			近世		
		白磁	青磁			陶器	灰釉皿		灰釉小鉢	鉄釉皿	灰釉	碗			鉄釉	他(資・甕・香炉等)	鉄釉	鉄釉	甕	コネ鉢		壺・甕		皿	東海系羽釜	カワラケ	中世合計	陶器	瓦	近世合計
		皿	碗	その他		褐釉丸	緑釉皿	卸皿			灰釉	平碗	天目茶碗	鉄釉			鉄釉	鉄釉		コネ鉢	転用紙石	壺・甕	転用紙石							
5K	グリッド一括					1	1		1		1								1	8		5	2			2	22			0
5L	グリッド一括		1				2													2		4	1				10			0
6H	グリッド一括						2																				2			0
6I	グリッド一括																					1					1			0
7H	グリッド一括										1												1				2			0
7I	グリッド一括										1											1					2			0
7K	グリッド一括																					1					1			0
7L	グリッド一括											1										6					7			0
8I	グリッド一括			梅瓶	5												1			0		7					13			0
表採	遺跡一括	1	1					1			3	2								16	5	11	3			9	52	5	2	7
小計	全体	5	23		10	7	30	4	2	5	31	23	7	7		9	7	2	8	270	22	510	61	11	24	96	1,171	124	14	138
集計	全体	5	33			7	34		2	5	31	30		7		9	7	2	8	292		571		11	24	97	1,171	124	14	138
		45					41				118						9			863				35						
割合		3.84%					10.08%										0.50%		0.68%	73.70%				2.99%		8.20%	100%	89.86%	10.14%	100%

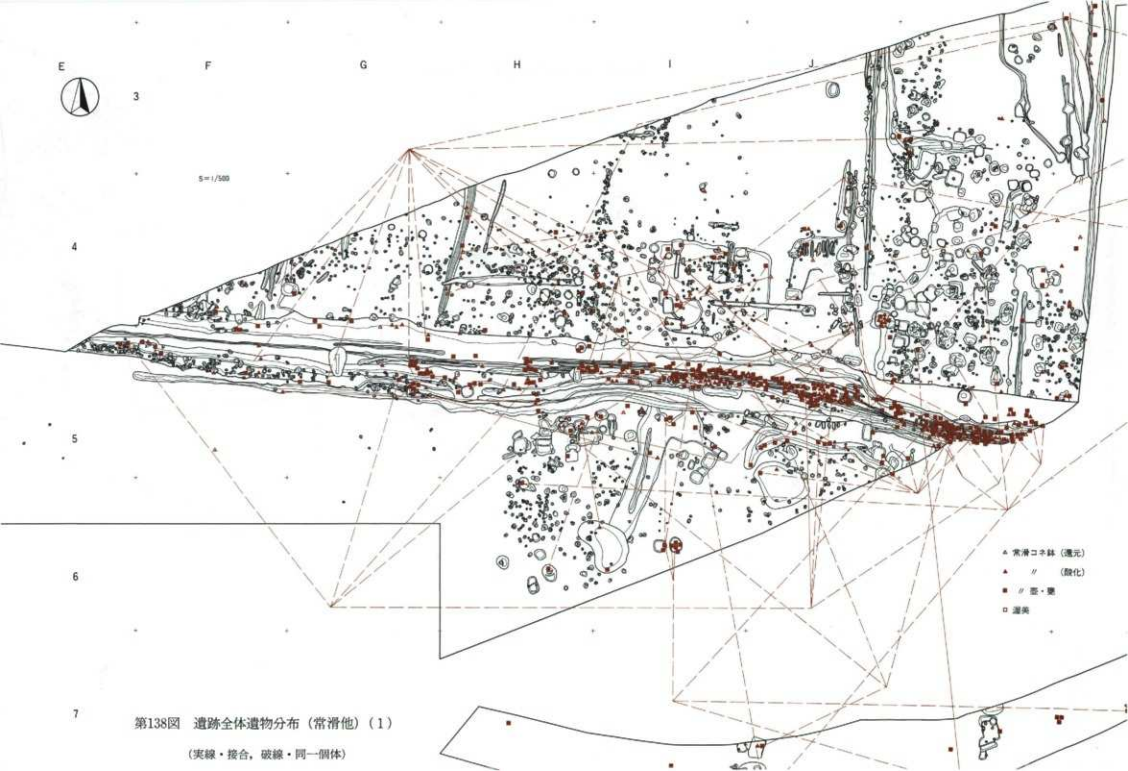
重量(g)		143	270		72	262	547	27	990	563	162	55		433	433	22	841	13669	29685	262	138	595	49169	1799	222	2021
集計		747					2777								455		841	43354		400		595	49169	1799	222	2021
割合		2%					6%								1%		2%	88%		1%		1%	100%	89%	11%	100%



第136図　遺跡全体遺物分布（瀬戸他）（1）

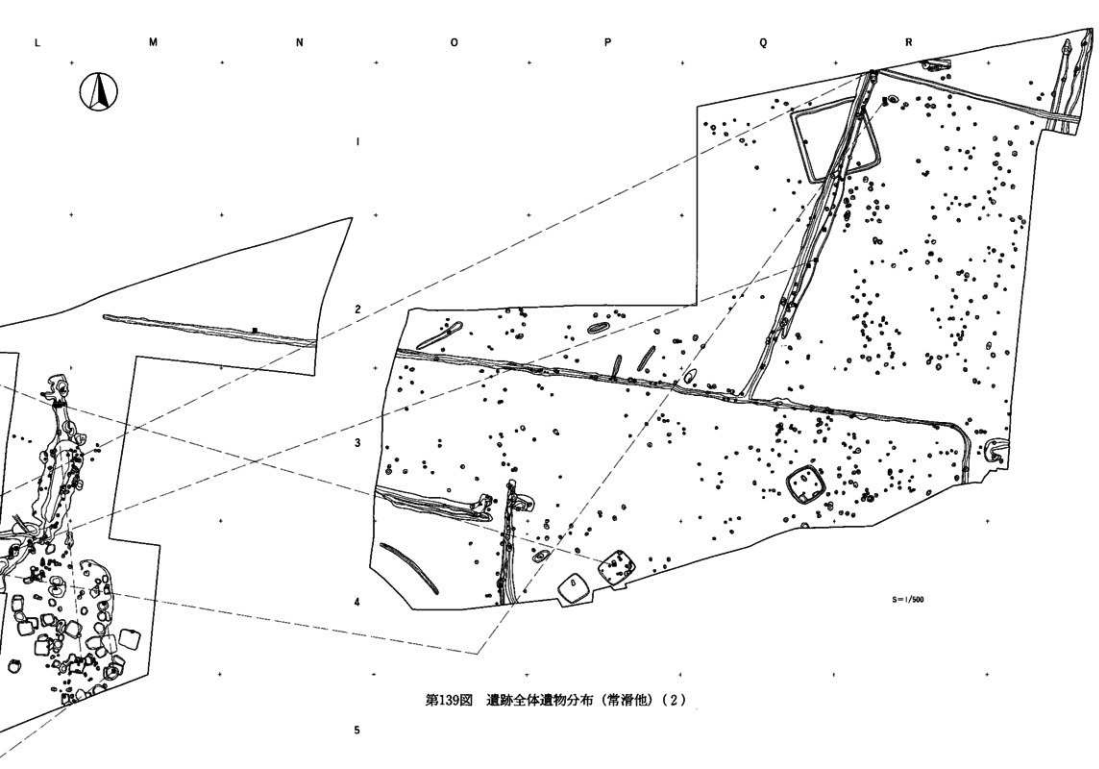


第137図　遺跡全体遺物分布（瀬戸他）（２）

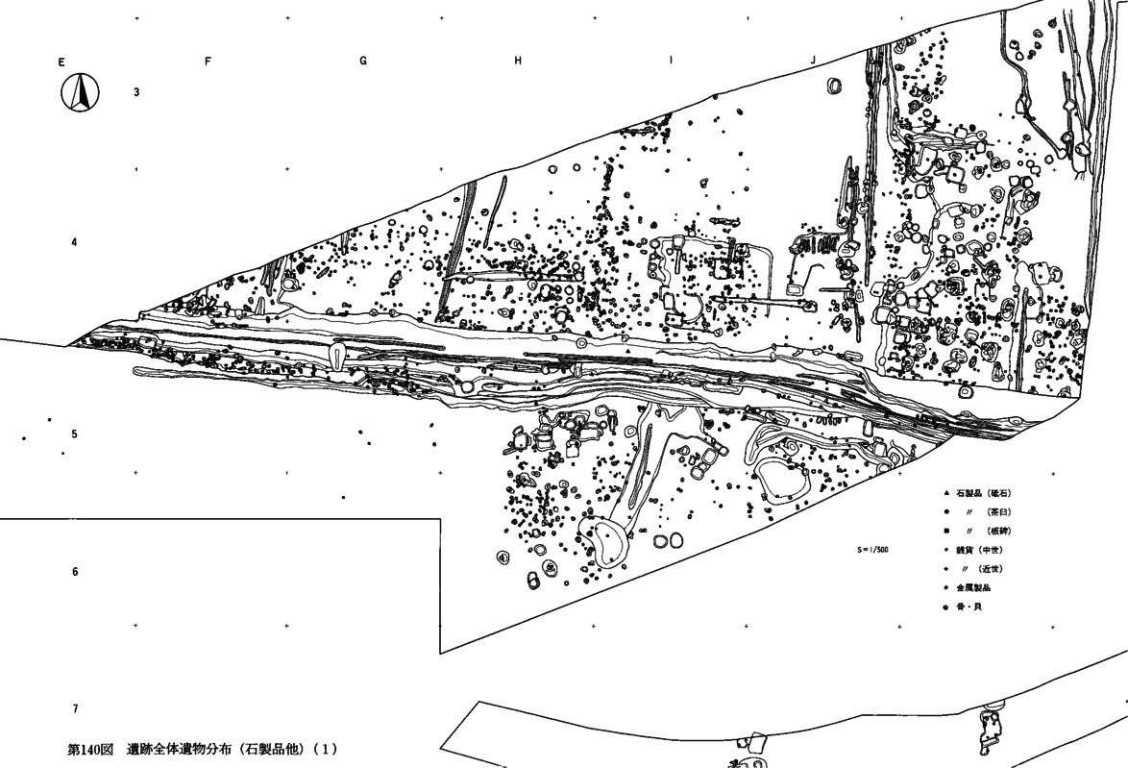


第138図　遺跡全体遺物分布（常滑他）（1）

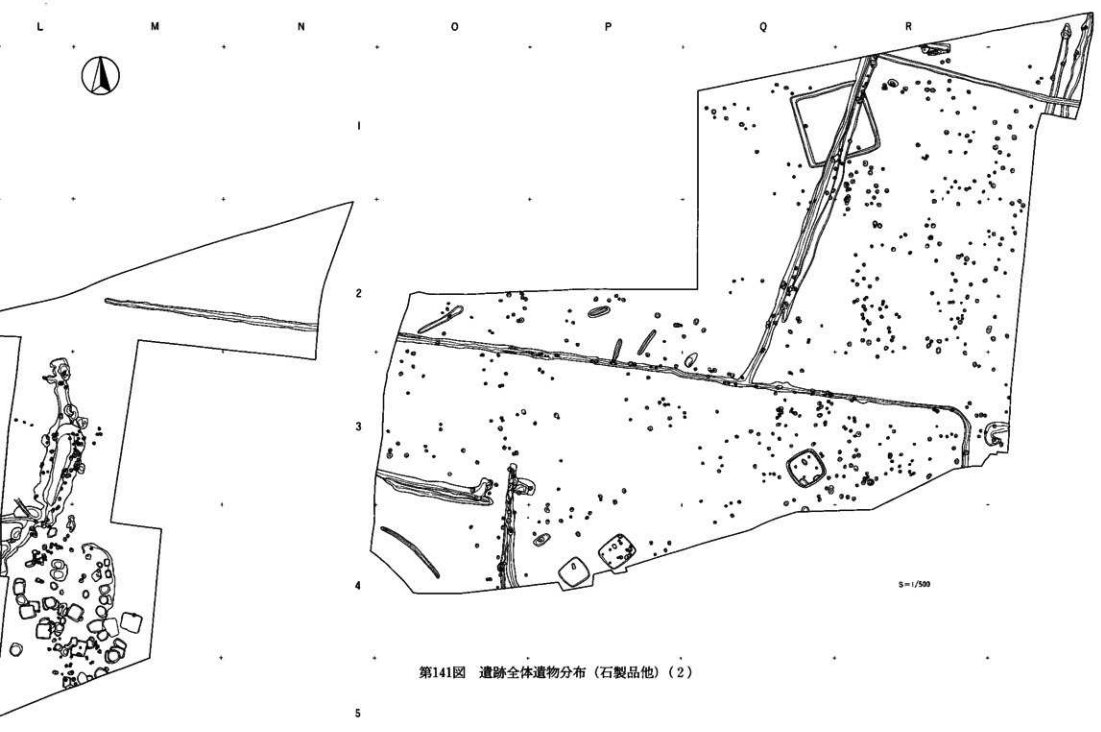
（実線・接合，破線・同一個体）



第139図　遺跡全体遺物分布（常滑他）（2）



第140図　遺跡全体遺物分布（石製品他）（1）



第141図　遺跡全体遺物分布（石製品他）（2）

第7章　おわりに

本遺跡の中心となる時代は，中世である。しかし，全時代を概観するにあたって，注意しなければならない点は，調査区南西部の遺構の空白地域である。この地区はローム層上部まで削平・撹乱を受けており，周囲の遺構密度から，この地区が空白であったことは考えられない。

第1節　原始・古代

1　旧石器時代

石器集中地点（ブロック）は，東西に長い調査対象区内の東端から北側境界付近，そして西端に亘って計6か所検出され，中央部には空白がある。中央部は上層遺構（主に中世）が密集し，立川ローム層上部が撹乱されたこともあるが，あたかも直径230mの環状ブロックの様な分布状況である。しかし，出土層位（IV層～X層）はそれぞれで，有機的関係はないと見られる。

2　縄文時代

遺構は陥穴6基，遺物は若干量の早期・中期～後期・晩期の縄文土器細片で，石器の出土もなかった。調査区南側は近年の削平部分であるが，遺物も微量であるので，調査区内には集落の存在は無く，縄文時代には原野であったと考えられる。

3　古墳時代

当遺跡検出の竪穴住居3軒は，集落の中心から北側縁辺部に位置する一群と考えられる。主軸はほぼ同一で，遺物の様相からも前期でほぼ同時期と見られるが，それぞれ特徴がある。一般的な形状のSI001，横長で拡張したためか主柱穴が6本のSI002，亀甲状で柱穴がないSI003である。特にSI003出土の3つの炉器台は，特殊な性格を持った竪穴住居であることを推測させるものである。

4　奈良・平安時代

当該期の遺構は，奈良・平安時代（恐らく8世紀後半頃）の方形周溝遺構1基のみであり，それに伴う主体部や遺物もなく，遺跡全体の遺物も僅少である。周辺にも該期の集落はなく，墓域の一角であったことが推測される。

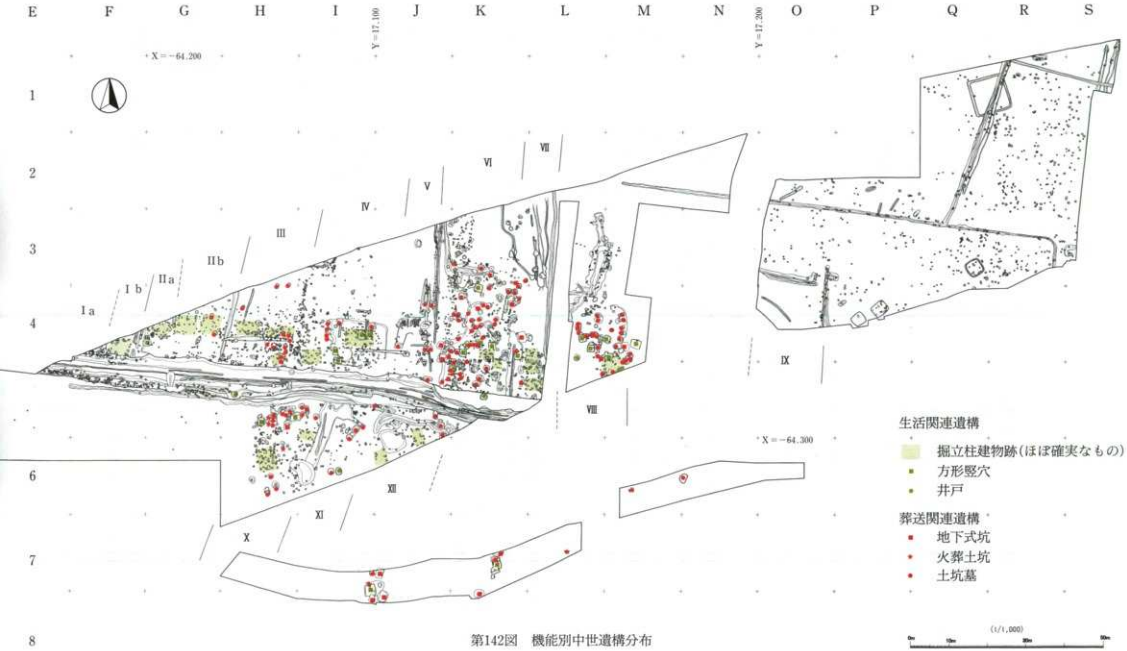
第2節　中・近世

1　遺構（第142図）

中・近世の遺構については，第6章で，区画関連・生活関連・葬送関連に分けて紹介したが，ここでは，それらを複合した時の本遺跡の景観について推測していきたい。

本遺跡の中央部以西について，区画関連遺構としての溝・道・整形区画・並木状植栽痕等によって，次の様に鎌倉街道を東西の基本軸として南北方向に区画され，東西方向に並ぶ12の短冊状の区画に分けられることが見える。以下，その区画割の位置と内部の様相を概観する。

（北区）



第142図　機能別中世遺構分布

Ⅰ区　道路跡SX019以西から調査区西端部

西側が調査区外で不明であるが，SX019の７m程西に段整形の一部が存在し，間には掘立柱建物跡SB003が想定できる。よって，Ⅰ区の内部はさらに区画されるようである。

Ⅱ区　道路跡SX019と道路跡SX003との間（22m）

掘立柱建物跡３棟～４棟（１棟4.5m）が東西に並び，鎌倉街道との間には空間が存在する。さらに北側には垣根に想定されるピット列が東西に並ぶ。なお，掘立柱建物跡の間にある溝SD018によってさらに区画される。土坑墓は２基想定できるが，浅いので確証は薄い。

Ⅲ区　道路跡SX003と並木状植栽痕Cとの間（17m）

Ⅱ区同様，掘立柱建物跡が東西方向に３～４棟並び，その南北に垣根に想定されるピット列が東西に配置される。建物のすぐ南側には溝が東西に走る。なお，建物跡に重複して東寄りに土坑墓群が形成されている。ピットを切る土坑の存在から，基本的には建物が先行したものと考えられる。建物群の北側は遺構密度が粗であり，畑の存在も想像できる。一般農民の住居群の可能性がある。

Ⅳ区　並木状植栽痕Cと，整形区画A（SX005）と道路跡SX022の間の南北の空間（道か）との間（22m）

整形区画A（SX005）を中心とする区画である。SX005内部には本遺跡で最大規模の掘立柱建物跡SB018が東西方向に建ち，周囲を垣根と想定されるピット列がめぐる。また，整形の段際には，北側に半地下式土坑墓２基，北西部に円形土坑墓４基，南西部に作業小屋または物置と考えられる方形竪穴２基が形成される。掘立柱建物跡の下にも方形竪穴があるが，掘立柱建物跡に先行するものか，或いは土間的なものの可能性がある。つまり，この区画は西側の掘立柱建物跡群より上位である，上層農民の屋敷跡ではないかと考えられる。なお，北側は遺構密度が粗であり，西側同様，畑等の存在が想定できる。

Ⅴ区　整形区画A（SX005）と道路跡SX022の間の空間（道）と，溝SD025の間（10m）

道路跡SX022を中心とする区画であり，SX005の東側出入口の可能性も考えられる。東寄りには土坑群が形成されている。区画の端であることがこれらを形成させた一つの要因であろうか。

Ⅵ区　並木状植栽痕DとSD017の西側段整形との間（16m）

整形区画C・Dを中心とする区画で，北側から入り込む谷津により東に降りる緩斜面が整形されている。北側から西側の段整形部分には地下式坑，中央部に掘立柱建物跡や方形竪穴，その中間に土坑墓群が形成され，さらに南側には井戸が存在する。つまり，何らかの生活空間と墓域が切り合っている。新旧関係では，地下式坑や方形竪穴が土坑墓群より先行している。方形竪穴の機能によるが，作業小屋か下層農民の住居の可能性が考えられる。後者とするならば，SX005やその西側の掘立柱建物跡群よりも下位になる可能性があろう。

Ⅶ区　SD017とSD022との間（９m）

Ⅵ区の東側がさらに段整形された空間である。掘立柱建物跡と土坑群が存在する。明確な土坑墓は造られていない。

（中区）

Ⅷ区　整形区画F（16m）

Ⅵ・Ⅶ区とは対をなし，西側に傾斜する部分に段整形が行われて，内部に方形竪穴や土坑墓群が形成されている。その配置は，中央部に方形竪穴，外側に土坑墓や地下式坑，やや離れて井戸と，Ⅵ区と共通する。ここも生活空間と葬送空間が切り合う地区である。

（東区）

Ⅸ区　西側は調査区外で不明であるが，東は溝SD009，北は溝SD011の間（16m以上）

南西に降りる緩斜面である。排水関係の溝と考えられるSD010の他はピットが若干存在する程度である。

（南区）

Ⅹ区　東は削平・撹乱地区で不明であるが，西を整形区画Bの西端部，東を溝SD022とする間（16m）

北側の整形区画B と南側の土坑群の間に掘立柱建物跡と並木状植栽痕が存在し，さらに南北に区画されるようである。整形区画Bには方形竪穴・地下式坑・土坑墓群・火葬土坑が形成され，新旧関係は，方形竪穴→土坑墓→地下式坑→火葬土坑である。ここでも生活遺構と葬送遺構が交錯している。

ⅩⅠ区　溝SD022と堀状溝SD201西端部が南に折れる部分との間（10m）

遺構密度は薄いが，土坑墓群が存在し，南部には井戸が掘られている。

ⅩⅡ区　東は調査区外で不明であるが，西を堀状溝SD201西端部とする間（20m以上）

堀状の溝SD201は東西端部で南に折れ，内部には掘立柱建物跡が形成されている。この北側の鎌倉街道内と共に，この地区の遺物には優品が多く，或いはSX005の階層より上位の上層農民かもしれない。大型不整形竪穴SX201は浅く，或いは池の可能性も考えられる。なお，SX005の南西部にも同様の遺構が形成されている。

以上，復元できる中世の景観は，まさに「街道を中心とした村（街村）」であり，それぞれの区画の階級には差異があり，墓は本来は屋敷墓であったことが考えられる。[13]

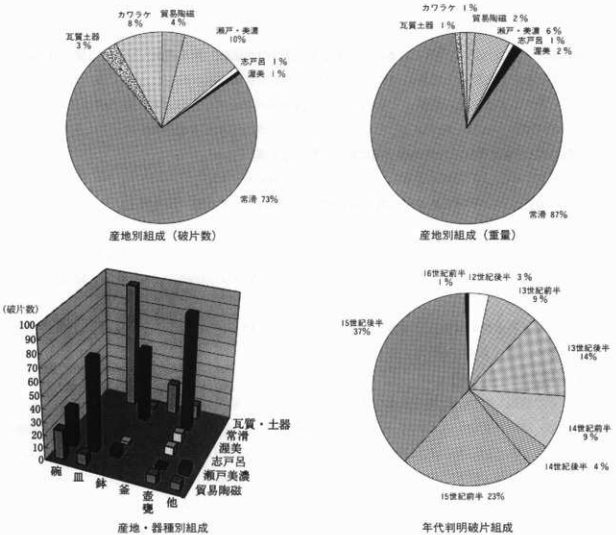
2　遺物（第143図，第9表）

既に第6章で概観したが，遺物の組成をグラフ化した。改めて常滑製品の量の多さが特徴的である。

また，編年・時期の判明するものについての組成も表とグラフを提示する。これによると，12世紀後半から16世紀前半であるが，中心は，13世紀後半～14世紀前半と15世紀代の2時期あることがわかる。なお，中世後期の常滑編年は半世紀単位なので，より，細かい瀬戸・美濃編年によると，15世紀でも中葉中心であることがわかる。よって，後期のピークは15世紀中葉から後葉で，15世紀末にはほとんど途絶えてしまったことが考えられる。一般的に土坑墓に副葬される銭が6枚になるのは，15世紀後半以降であり，16世紀には永楽銭が入る傾向があるが，本遺跡ではそうした例がなく，寛永通宝の六文銭の出土もないことから，墓域は15世紀後葉までであることが推測される。生活遺構は，方形竪穴が土坑墓に切られる例が多いことから，基本的には墓に先行するものであろうが，屋敷墓として生活空間の中に同時存在していたものが，街村化と谷津部分を中心とした地区の共同墓地がピークを迎えたことが想定できる。

3　周辺遺跡との比較（第144図～第147図）

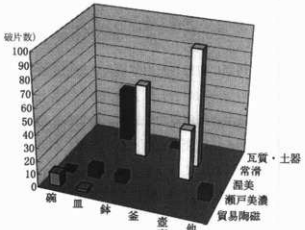
小櫃川流域で調査された中世遺跡の遺物組成を提示する。この内，芝野遺跡については平成11年度の，笹子城跡については平成12年度の整理作業の中で集計したものであり，後者は調査直後に提示された未整理前の組成を変更したが，未だ確定されるものではない。芝野遺跡は13世紀後半～15世紀前半の山谷遺跡より若干早く途絶えた農村，荒久遺跡は15世紀前半をピークとする門前集落・墓域とされる。また，笹子城跡は，山谷遺跡で出土しなくなる古瀬戸後Ⅳ期新段階（15世紀後半）から大窯2期（16世紀前葉）の城跡である。まず，目立つのは，カワラケの量であり，儀式の器としてのカワラケがやはり城跡で多い。また，山谷遺跡の常滑製品の量は特質すべきものである。しかも，古くから新しい段階まで存在する。瀬戸・美濃製品の鉢類が厚総に大量に搬入されるのは，笹子城跡でもわかるが15世紀後半以降であり，印旛地域



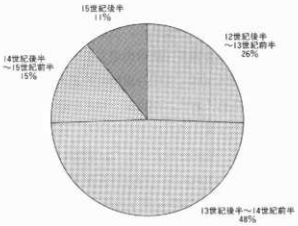
第143図　中世陶磁器組成

第11表　中世陶磁器時期判明破片組成表（年代観の幅があるものについては前後に振り分けた。）

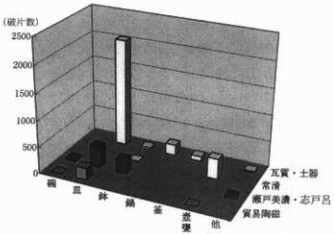
時期	貿易陶磁					瀬戸・美濃								志戸呂		渥美	常滑		合計	割合
	白磁	青磁				灰釉皿			灰釉小鉢	緑釉皿	灰釉深皿・大皿	碗		鉄釉擂鉢	鉄釉壺	鉄釉擂鉢	甕	コネ鉢	壺甕		
	皿	碗	その他			緑釉皿	如皿					灰釉平碗	天目茶碗								
12ｃ後半																	1	3	8	12	3%
13ｃ前半		1															6	8	16	31	9%
13ｃ後半	1	15	皿	1														19	15	51	14%
14ｃ前半	2	2	盤	2		1												24	2	33	9%
14ｃ後半		1				2	1				1	2	1					4	2	14	4%
15ｃ前半	1	1	皿	1		8	1		1	3	4	4	1					53	4	82	23%
15ｃ後半						12	1		1	2				1	2	2		35	80	136	38%
16ｃ前半						1								1						2	1%
																				361	100%



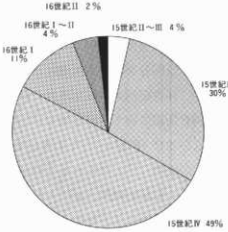
芝野遺跡産地・器種別組成



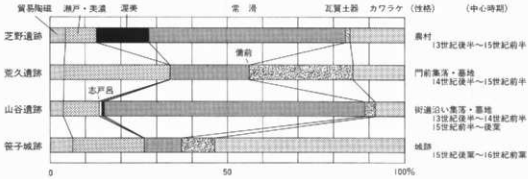
芝野遺跡年代判明破片組成



笹子城跡産地・器種別組成



笹子城跡瀬戸・美濃擂鉢年代判明破片組成



第144図　小櫃川流域中世遺跡陶磁器組成比較

を中心とする千葉県北部以北では15世紀代は在地の瓦質擂鉢が多く出土していること等[3]から，それまでは，当地域では常滑製品が使用されると考えられる。鎌倉に近い街道沿いの集落であることが要因ではないかと考えられるが，今のところ，他に明確な答えが出ない。

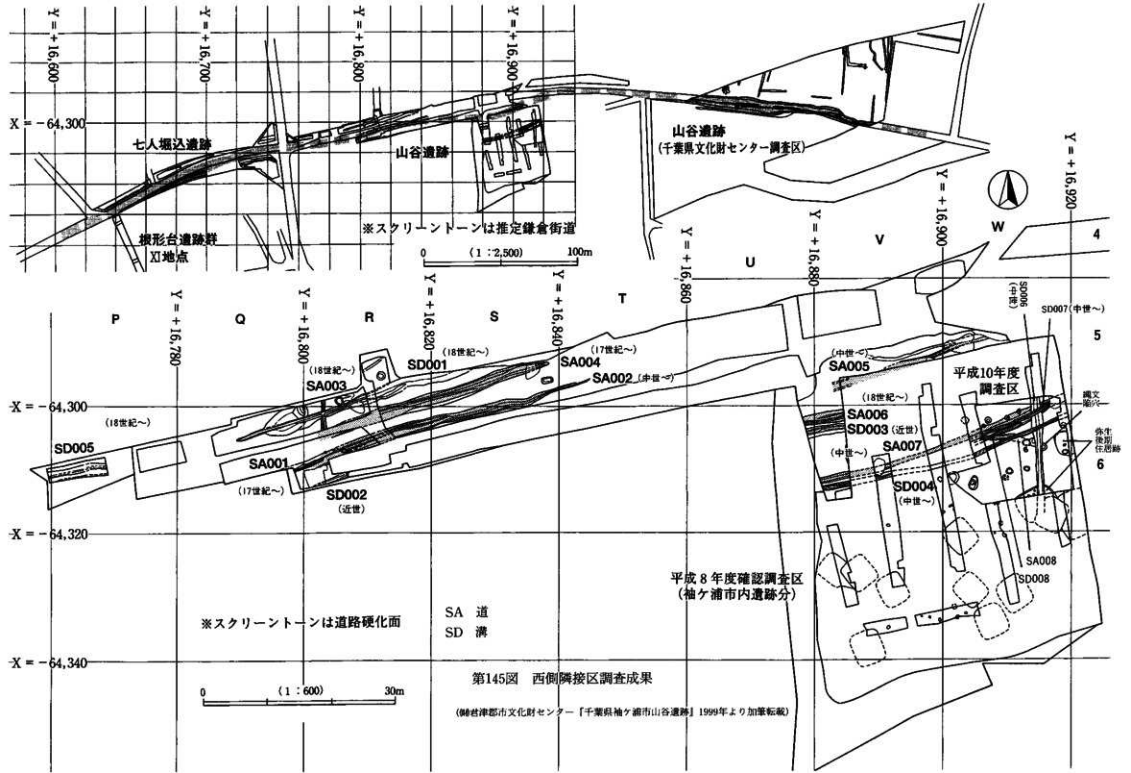
なお，本遺跡を通る「鎌倉街道」沿いの調査例をあげたい。西側に隣接した財団法人君津郡市文化財センター調査地区（同じく山谷遺跡）の調査では，中世から近世の溝・道が当センター調査の道跡とつながる様に検出されており，13世紀～14世紀後半（若干）と18世紀後半の陶磁器類や14世紀後半～15世紀初頭に推定される宝篋印塔も出土している。道は少なくとも15世紀初めには使用され，その西側で調査された七人堀込遺跡で想定されたような，両側に側溝を伴う大規模な古代官道であったとは考えられないとしている。[4]なお，転用砥石を含む近世瓦が多く出土していることも共通しており，注目される。つまり，当地区では，江戸時代の18世紀後半以降に既に畑の開墾があったことが推定できる。さらに西方の境遺跡では，狭小な調査面積ながら溝で区画された屋敷・畑・墓地が検出されており，[5]本遺跡との共通点を見いだせる。また，東方の天羽田稲荷山遺跡では，戦国期から宝永チフラ降下直前（18世紀初頭）までの道が3面検出されているが，規模が小さく出土遺物も少ないことから，中世では荒涼とした未開地に道だけが通る景観が推測されている。[6]

関東地方における発掘調査例で「市」や「宿」に想定される代表的な遺跡としては，埼玉県毛呂山町堂山下遺跡と栃木県国分寺町下古館遺跡があげられる。堂山下遺跡は，①鎌倉街道の渡河地点に所在する，②14世紀前半～16世紀初頭の限定された時期の集落，③鎌倉街道に規制されるかたちで方形の屋敷地が存在する，④鎌倉街道に接する屋敷地では15世紀以降，鎌倉街道に軒を接するように2間×3間規模の建物が横一線で立ち並び（町屋か），その奥の屋敷地内には庇を有する規模の大きな建物（在家か）が散在していた，⑤職人が使用したと思われる「けがき針」が鎌倉街道に近い遺構から出土した，⑥一般農村では入手し難いであろう舶載陶磁器，瀬戸・美濃産陶器，常滑産陶器等が多く出土した，等により文献史料や絵図に見られる鎌倉街道の「苦林宿」ではないかと推定されている。[7]また，下古館遺跡は，150m×400mの溝に囲まれた空間内に，中央を通る道の両側に一辺50m前後の方形区画が存在し，それらが竪穴遺構・井戸・土坑で構成される「日常的な空間」とお堂・墓地などで構成される「宗教的な空間」に分けられ，13世紀初頭～15世紀初頭にかけて営まれた街道沿いの「市」に推定されている。[8]なお，竪穴遺構（本書では「竪穴状遺構」）は，生活関連遺構だけでなく，葬送関連施設であるものも想定されていることは注目しなければならない。さらに，埋め戻される例が多いことは，山谷遺跡と同様である。

この他県の2遺跡と本遺跡とは，確かに共通点が多い。しかし，本遺跡では，「堂」としての施設が想定できないこと，「市」としての特別な遺物（例えば，多くの銭貨）がないこと等があげられる。

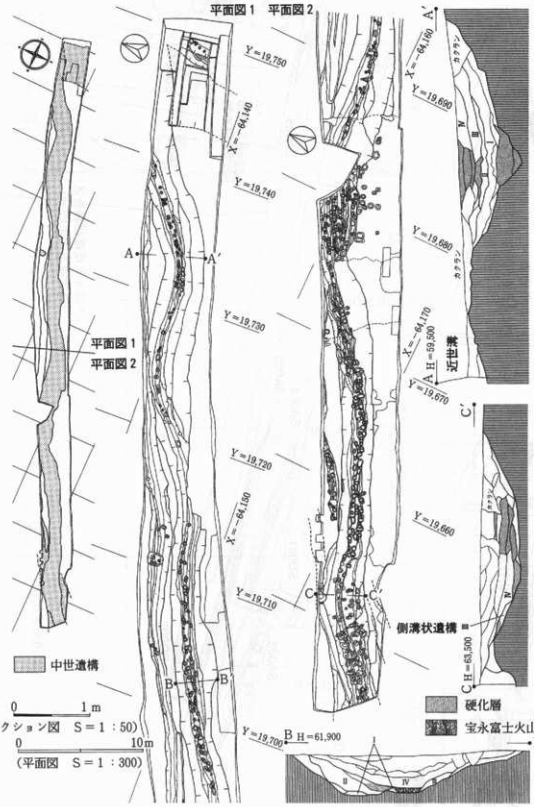
4　山谷遺跡の性格

平成5年度調査担当者は，本遺跡の調査成果を次の様にまとめた。①集落域の中に建物が存在したとすれば，貧弱な建物で占められている。②集落規模に比べ井戸が極めて少ない。③よって，恒常的な生活空間としては捉えにくい。④集落域が大規模でかつ細長い展開をすると共に，道路に規制された区画である。⑤立地からみると，周辺の台地下にある谷津田を意識しない集落の占地状況であり，畑作生産を基盤とした集落とすれば，あまりにも集落規模が大きすぎること。⑥以上より，本遺跡の景観は，道路に沿って仮設店舗が並び，店舗の間からは奥に向かって小道が伸び，奥には広場が確保されていた。これらは，農業集落ではなく，三斎市や六斎市といった非日常空間である「市」跡で，その東側の一段低い場所には墓地



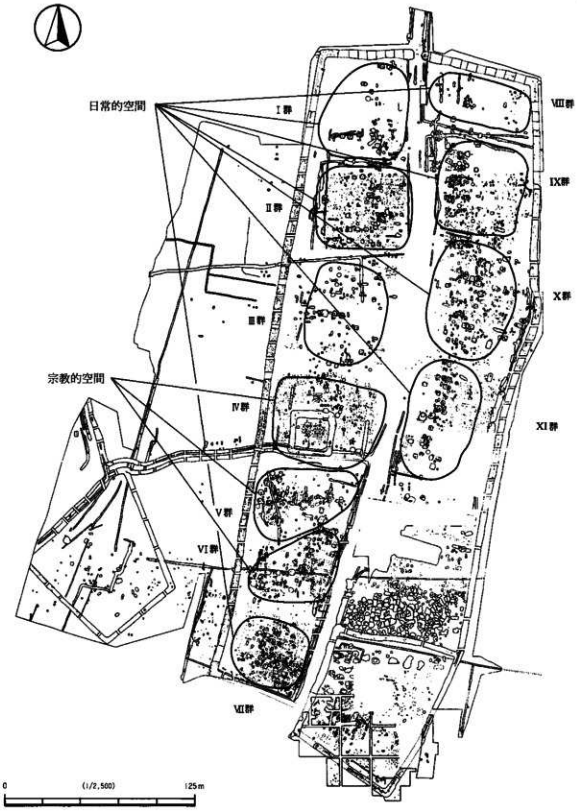
第145図　西側隣接区調査成果

(財)君津郡市文化財センター『千葉県袖ケ浦市山谷遺跡』1999年より加筆転載)



第146図　市原市天羽田稲荷山遺跡遺構

（『市原市文化財センター年報　平成7年度』1998年より転載）



第147図　栃木県下古館遺跡全体図

（財栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター『下古館遺跡』1995年より加筆転載）

が設けられていた。⑦また，鎌倉街道の側溝埋没時期と集落域（＝市）の廃絶時期が同時期となり，鎌倉と上総国衙を結ぶ官道の機能が低下するとともに「市」の賑わいもなくなったと解釈した。[9]

しかしながら，既に明らかにしてきた通り，①については，掘立柱建物跡は確かに古代的な明確な並びではないが，一定の方向や規格を有するものであり，垣根や鎌倉街道に面した庭も想定でき，仮設店舗にしては規模が大きいこと，②については，次年度の隣接地域の調査も合わせると井戸は6基存在し，各集落や墓域に付随する様な位置にあること，③については，遺物の年代観は12世紀後半から15世紀後半の長期間に亘り，常滑コネ鉢が多く，転用砥石も含め，生活感があること等が言える。④・⑤についてはその通りであろう。解釈の大きな違いは，街道に沿った短冊状の区画それぞれに生活関連遺構と葬送関連遺構があり，両者は同時存在して有機的な関係にあったもの（屋敷と屋敷墓）が，一部で街村化し，また一部で墓域化したこと，各生活空間には階級差があること等であり，現時点では「市」とする積極的な理由はないと考えられる。

遺構の変遷については，中・近世遺物が鎌倉街道の覆土中から遺跡全体の約60％出土し，接合・同一個体関係もかなり距離があること，土坑墓の共伴遺物が少ないこと，地下式坑出土遺物も多くは埋没過程での流入であること，等から，それぞれの遺構の時期特定は難しい。ただ，切り合い関係や遺物の分布傾向から，ある程度の新旧関係は判明し，大きく次の様な変遷が考えられる。

① 13世紀～14世紀前半　東西を通る道「鎌倉街道」の造成，Ⅳ区やⅩⅡ区の屋敷地と調査区中央部の谷津を中心とした台地整形区画と方形竪穴。屋敷墓も造られ始める。

② 15世紀前半～後葉　「鎌倉街道」の整備と掘立柱建物跡を中心とした街村の発展から終焉，谷津を中心とした共同墓地の発展から終焉。火葬施設は最終段階か。

③ 18世紀後半～　庶民の巡礼や各村を結ぶ街道としての整備と耕地開発の開始。

最近，発表された笹生衛氏の当地域の中世集落の景観変遷の想定[10]に本遺跡を照らせば，13世紀頃を中心とする中世前半に，継続的な中小名主や有力作人層のB類屋敷地（Ⅳ・ⅩⅡ区）を中核として周囲に短期間で小規模な作人層のA類屋敷地（Ⅵ～Ⅷ区）が，間に耕地を介在させながら緩やかに集合した状況であったのが，15世紀前半に農業生産性の向上・商品作物の生産，物流の活発化などにより街路型集村が形成され，共同墓地も造られるが，15世紀末には笹子城に代表される様に広域領主の城や城下への集住や新たな交通路に面した街路型集村により近世そして現代の集落景観につながるのではないかと考えられる。

しかし，下古館遺跡で解釈される様な方形竪穴（建物跡）だけでなく，井戸も墓域に密接に伴うと解釈される例もあることも注意しなければならず，いわゆる台地整形区画や地下式坑の性格と共に今後の課題である。[11] 台地整形区画は，千葉県北部の台地上に多く検出されてきて，かつては，墓域とする見方が支配的であった。しかし，段整形部分には地下式坑が，内部には墓だけではなく，ピット群や方形竪穴が形成されており，本遺跡も同様な状況である。地下式坑の機能は現段階でも不明瞭であるが，掘立柱建物跡や方形竪穴等と同時存在した可能性が高い。なお，埋没後に竪坑部から遺体を埋葬される例が多く，当初から墓として機能したものではないと考えている。葬送関係とすれば一時的な遺体置き場であり，生活関連であれば蔵的なものであろうか。これらの遺構の今後の研究の発展によって，本遺跡の性格がさらに解明されることになるであろう。

注1　尾野善裕　1995「中世の火葬－東海地方－」『「シンポジウム　中世の火葬－その展開と地域性－資料集」東国歴史考古学研究所・帝京大学山梨文化財研究所　では，屋敷墓→火葬墓，屋敷墓→集団墓地，上位階層の墓制＝土葬→火葬　の流れが推測されている。

2　柴田龍司　1993「笹子城跡の概要」『研究連絡誌』第37号　財団法人千葉県文化財センター

3　井上哲朗　1998「鹿島川流域における戦国前期城館の一形態－四街道市北ノ作遺跡の調査から－」『研究連絡誌』　第53号　財団法人千葉県文化財センター

4　安藤道由・大谷弘幸　1999『山谷遺跡』財団法人君津郡市文化財センター　ほか第1章注参照。

5　笹生衛ほか　1999『袖ケ浦市史－資料編1　原始・古代・中世－』　ほか第1章注参照。

6　桜井敦史　1998「天羽田稲荷山遺跡」『市原市文化財センター年報　平成7年度』

7　宮瀧交二　1991『堂山下遺跡』財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

8　田代隆・鈴木康浩・山口耕一　1995『下古館遺跡』　財団法人栃木県文化振興事業団

9　柴田龍司　1994「鎌倉街道と市－袖ケ浦市山谷遺跡の成果から－」『研究連絡誌』第41号　財団法人千葉県文化財センター　ほか第1章注参照。

10　笹生　衛　1999「東国中世村落の景観変化と画期－西上総，周東・周西郡内の事例を中心に－」『千葉県史研究』　第7号　千葉県

11　斎藤　弘　1999「中世墓地に伴う井戸について」『唐澤考古』第14号　唐澤考古学会

写 真 図 版

図版1

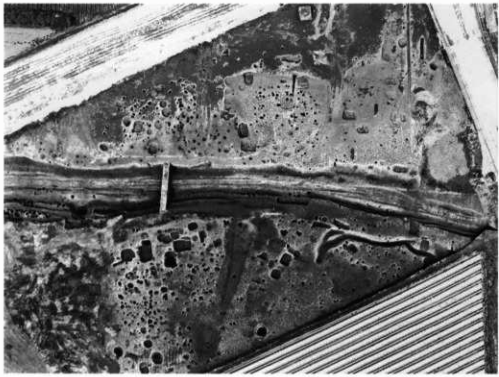
北谷遺跡周辺の空中写真（1967年、1/10,000）

図版 2

現道下調査前航空写真（西から）

現道下調査後航空写真（西から）

現道下調査前航空写真
（南から）



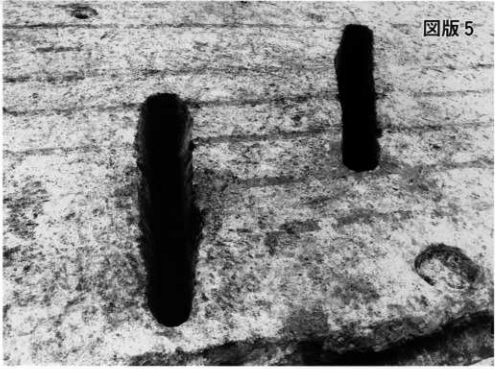
現道下調査後航空写真
（真上から）

現道下調査後航空写真
（東から）

旧石器ブロック（3I-67ブロック）

旧石器ブロック（3Q-10ブロック）

旧石器ブロック（4O-17ブロック）

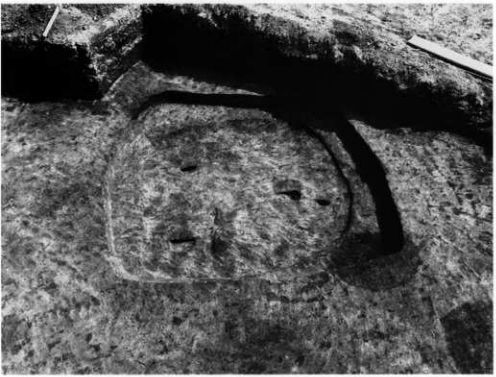


縄文時代陥穴
SK004（左）・SK005（右）

古墳時代竪穴住居跡
SI001

古墳時代竪穴住居跡
SI002

SI002遺物出土状況



古墳時代竪穴住居跡
SI003

奈良・平安時代方形周溝遺構
SX001

鎌倉街道東端部

鎌倉街道全景（西から）

鎌倉街道調査風景

図版 8

鎌倉街道全景（東から）

鎌倉街道西端部現道下

鎌倉街道西端部北側

溝SD001(左)・SD002(右)

溝SD003

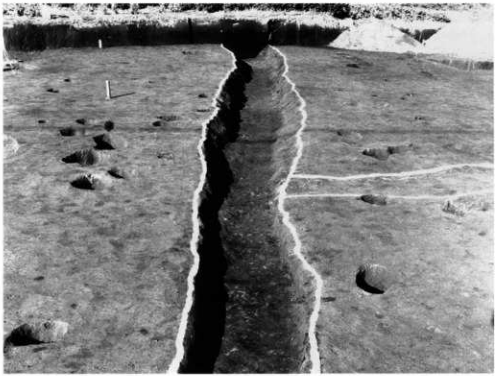
溝SD005(左)・SD006(右)

溝SD012(左)・SD007(右)

溝SD009

溝SD023

溝SD025



道SX003

道SX021

屋敷跡SX005

SX022波板状凹凸

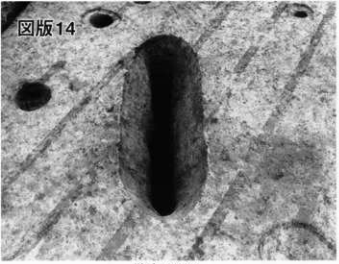
中央部整形区画南半部

SD027周辺航空写真

東部整形区画航空写真

地下式坑SK171周辺航空写真

図版14



陥穴SK003

陥穴SX004

SI003遺物出土状況 1

SI003遺物出土状況 2

鎌倉街道SPA-A′

鎌倉街道東端部轍痕

鎌倉街道東部轍痕

鎌倉街道東端部板碑出土状況

鎌倉街道調査風景

鎌倉街道SPC-C′

鎌倉街道現道下土層

SX207D

遺跡付近道標（野田側）

遺跡付近道標（大曽根側）

溝SD004

溝SD008

図版16

溝SD010

溝SD011

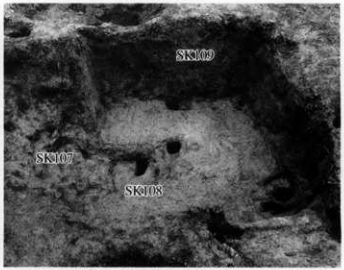
溝SD016

道SX019

方形竪穴SX005H

方形竪穴SK093

方形竪穴SK120



土坑SK107，108　方形竪穴SK109

SB001

SB002

井戸SX006

中央部整形区画調査風景

地下式坑SX012竪坑

SX012全景

地下式坑SX009遺物出土状況

SX009全景

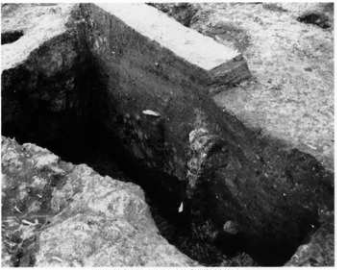
图版18

地下式坑SX011竪坑

SX011全景

SX011底面工具痕

地下式坑SX008



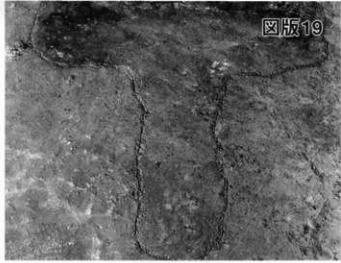
地下式坑SX014半截状況

SX014全景

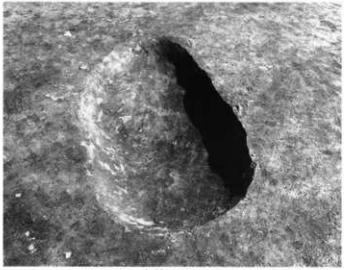
火葬土坑SX010

火葬土坑SX013

火葬土坑SX025



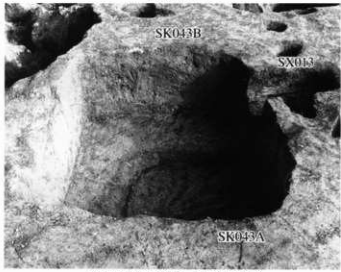
火葬土坑SX026



土坑SK001

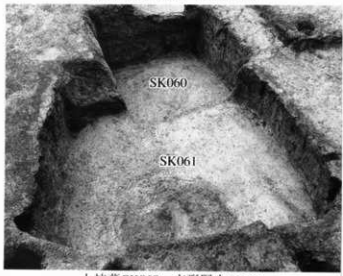
土坑SK002

土坑SK006

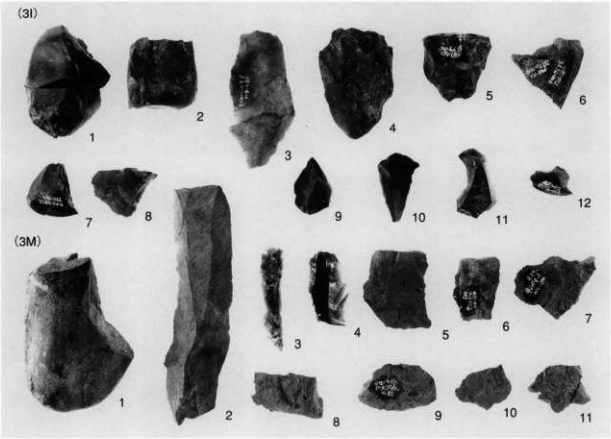


火葬土坑SX013，土坑SK043

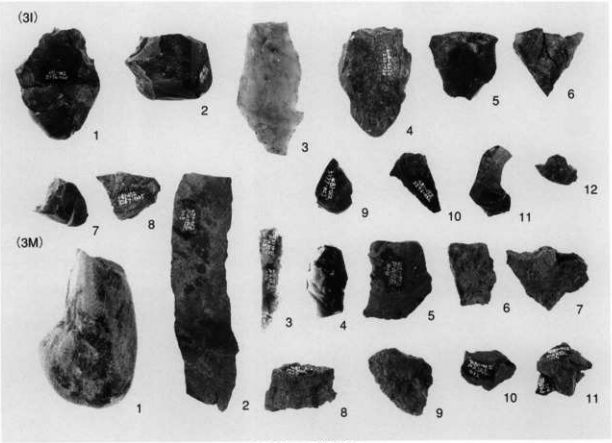
土坑墓SK117



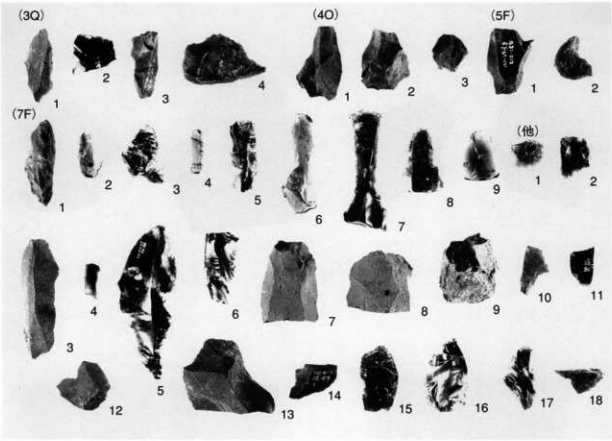
土坑墓SK060，方形壁穴SK061



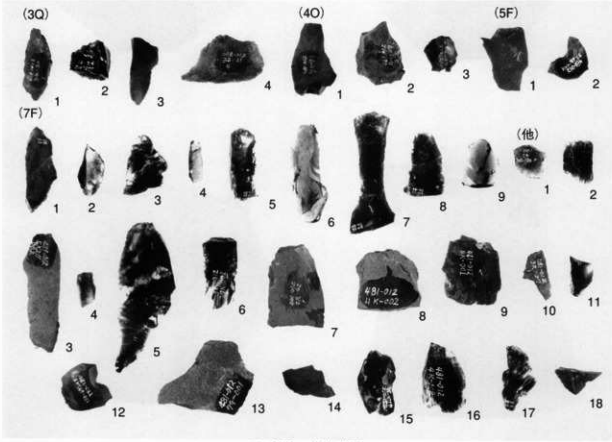
3I グリッド他表面



3I グリッド他裏面



3Qグリッド他表面



3Qグリッド他裏面

旧石器時代石器（2）

縄文土器

SI002-1

SI002-3

SI002-4

SI002-5

縄文土器，古墳時代土師器（1）

SI002-6

SI002-7

SI002-8

SI002-9

SI002-10

SI002-11

古墳時代土師器（2）

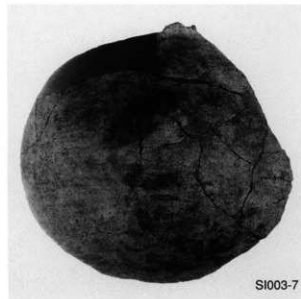
SI003-1

SI003-2

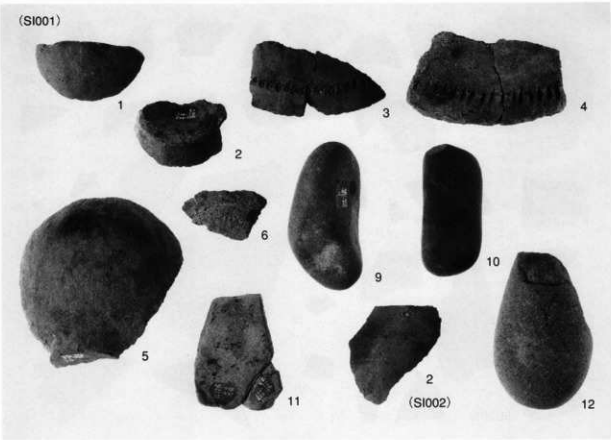
SI003-3

SI003-4

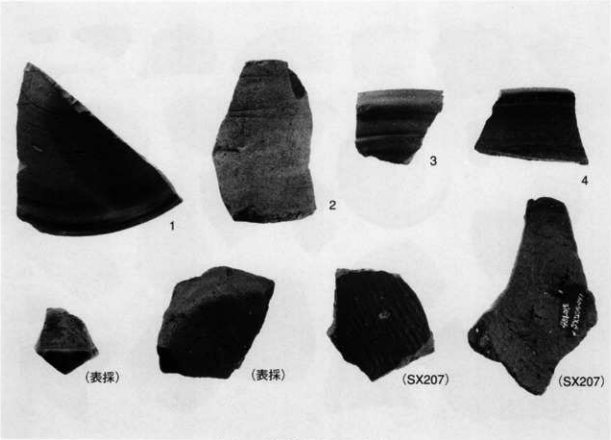
SI003-5


SI003-7

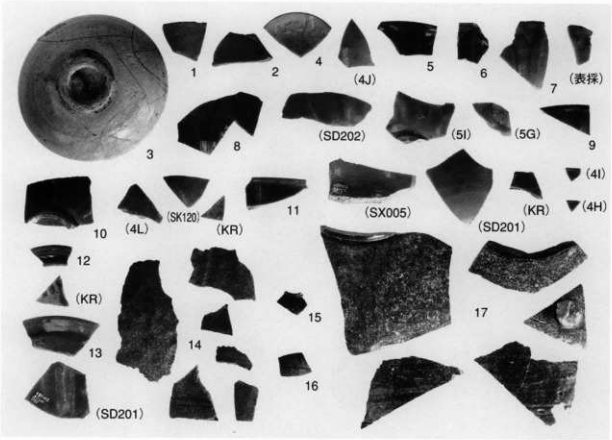
古墳時代土師器（3）



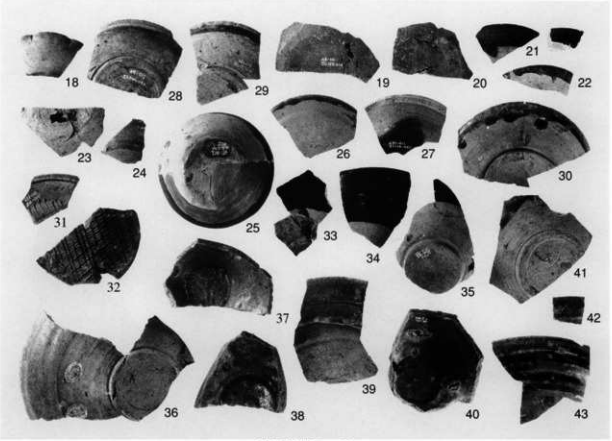
古墳時代土師器・石器



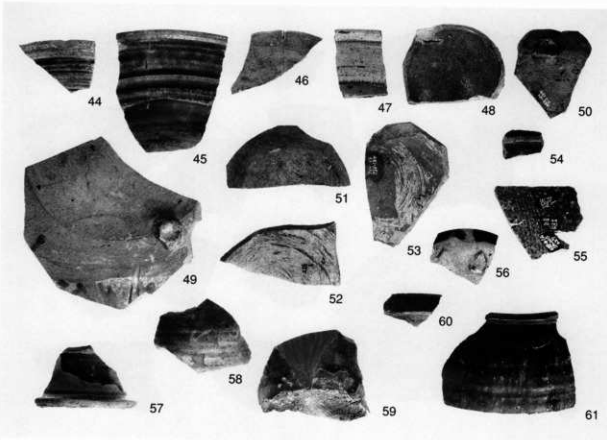
奈良・平安時代土師器，須恵器



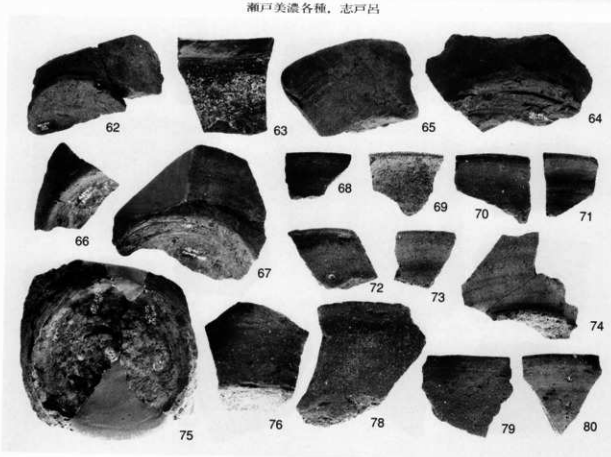
貿易陶磁器



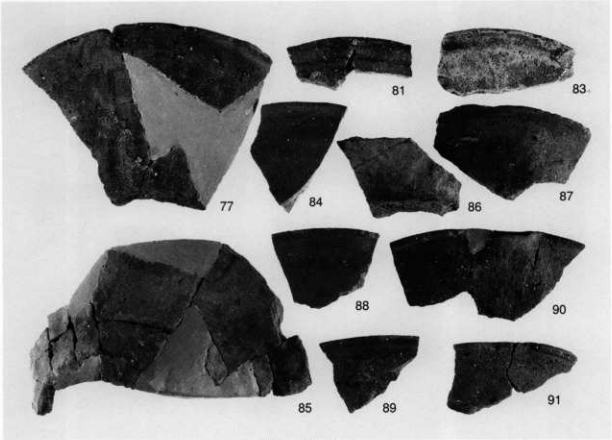
瀬戸美濃皿・碗



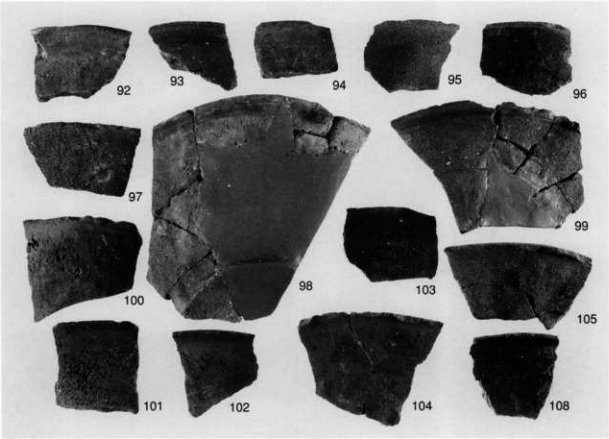
瀬戸美濃各種，志戸呂



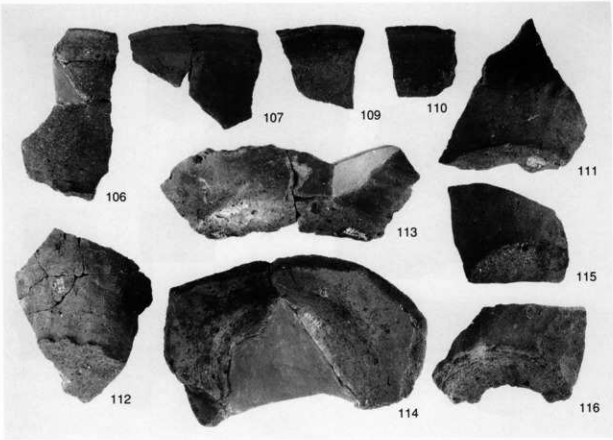
渥美，常滑コネ鉢（1）



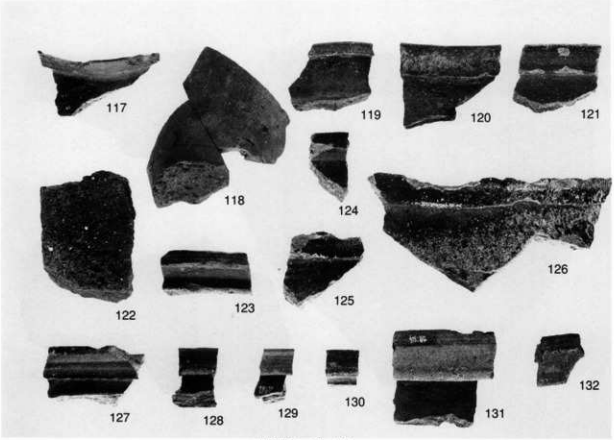
常滑コネ鉢（2）



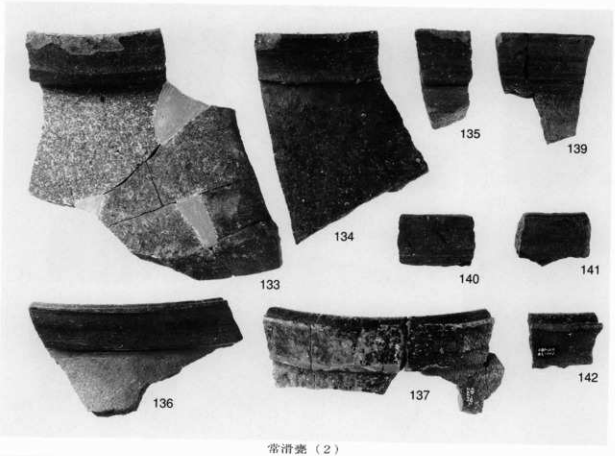
常滑コネ鉢（3）



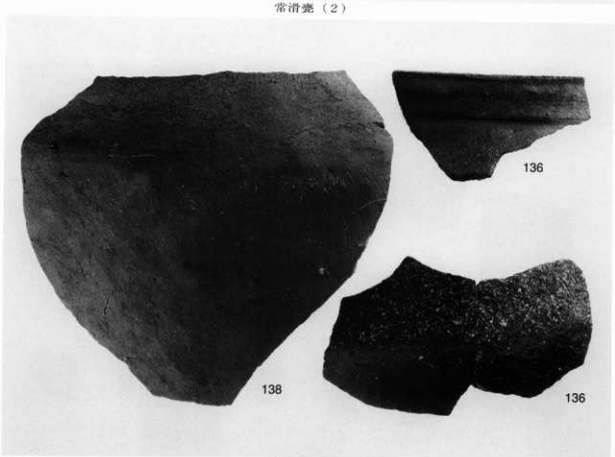
常滑コネ鉢（4）



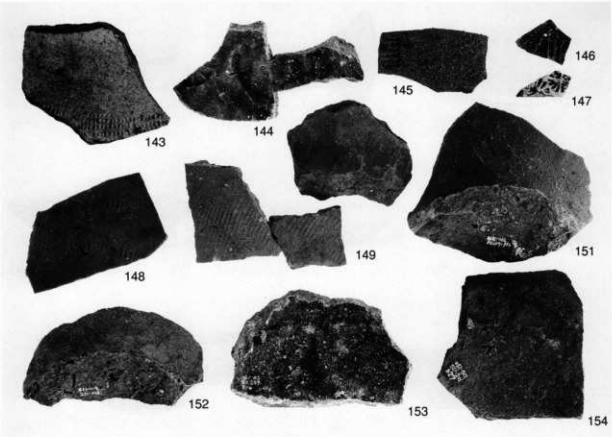
常滑壺・甕（1）



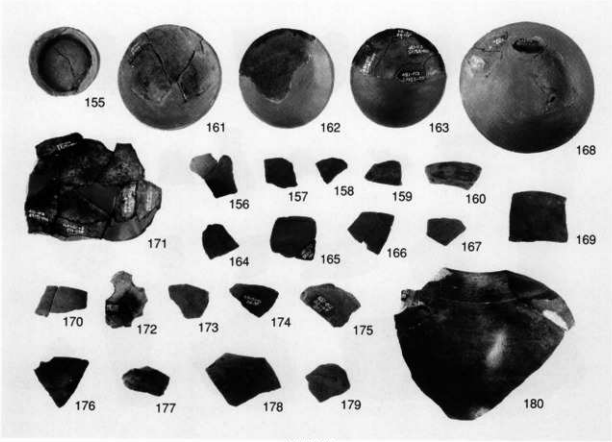
常滑甕（2）



常滑甕（3）


143
144
145
146
147
148
149
151
152
153
154

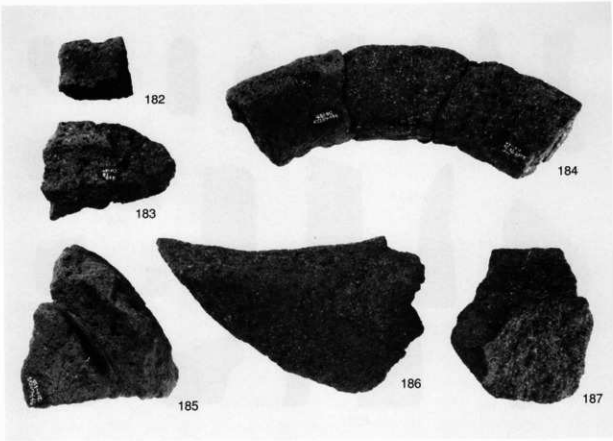
常滑甕（4）


155
161
162
163
168
171
156
157
158
159
160
169
164
165
166
167
170
172
173
174
175
176
177
178
179
180

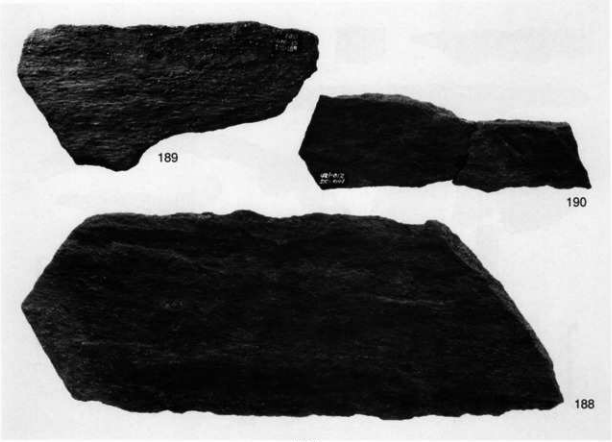
中世土器

中世陶磁器・土器

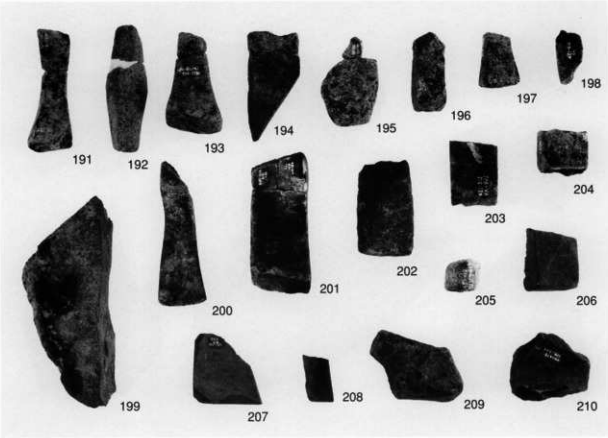
近世陶磁器



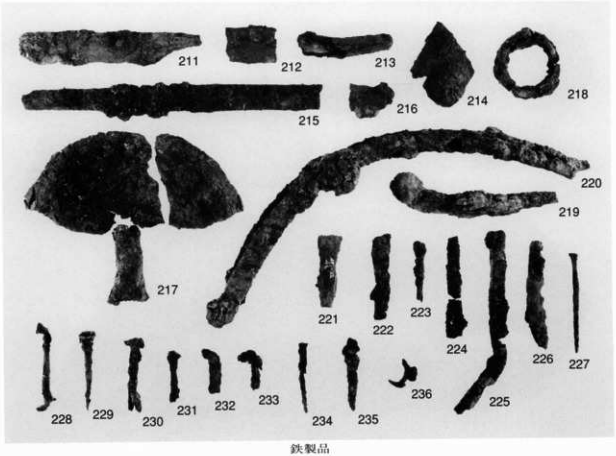
茶臼



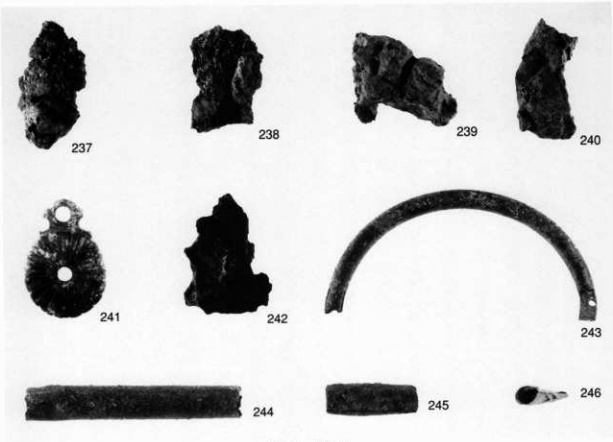
板碑


191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210

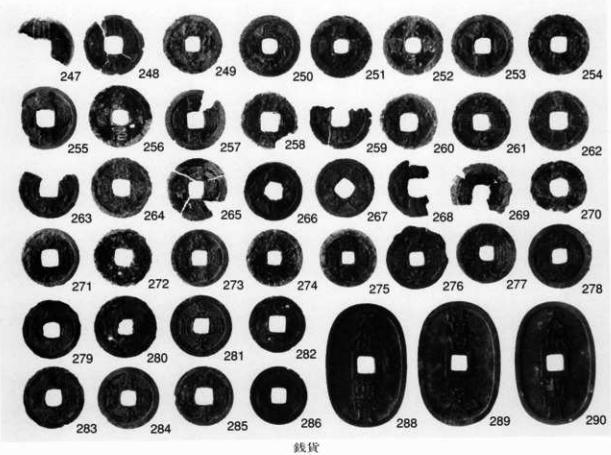
砥石


211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
231
232
233
234
235
236

鉄製品


237
238
239
240
241
242
243
244
245
246

鉄滓，銅製品


247
248
249
250
251
252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
262
263
264
265
266
267
268
269
270
271
272
273
274
275
276
277
278
279
280
281
282
283
284
285
286
288
289
290

銭貨

報告書抄録

ふりがな	ひがしかんとうじどうしゃどう（ちば・ふっつせん）まいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ
書名	東関東自動車道(千葉・富津線)埋蔵文化財調査報告書
副書名	袖ケ浦市山谷遺跡
巻次	9
シリーズ名	千葉県文化財センター調査報告
シリーズ番号	第411集
編著者名	井上哲朗
編集機関	財団法人　千葉県文化財センター
所在地	〒284-0003　千葉県四街道市鹿渡809-2　　TEL　043-422-8811
発行年月日	西暦　2001年3月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
山谷遺跡（やまや）	袖ケ浦市野田（そでがうらしのだ）字鎌倉街道22ほか（あざかまくらかいどう）	12229	012	35度 25分 13秒	140度 1分 17秒	19920107～19920327 19930701～19940329 19940401～19940630	18,200	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
山谷遺跡	集落跡 集落跡 集落跡 墓域 集落跡・墓域	旧石器 縄文 古墳 奈良・平安 中近世	遺物集中地点 6か所 陥穴 6基 竪穴住居跡 3軒 方形周溝遺構 1基 道 5条 溝 32条 整形区画 8か所 掘立柱建物跡 43棟 方形竪穴建物跡20棟 大型不整形竪穴 5基 柵列 14条 並木状植栽列 14条 ピット 約950基 井戸 6基 地下式坑 14基 火葬土坑 10基 土坑墓 115基 土坑 180基	石器 縄文土器 土師器 土師器・須恵器 陶磁器（白磁・青磁・瀬戸美濃・志戸呂・渥美・常滑），土器（瓦質壺・東海系羽釜・カワラケ），石製品（茶臼・板碑・砥石），金属製品（釘・金具・銭貨）	中世の集落域・墓域を中世～近世の道路が通る街村景観が復元できる。出土遺物の中心時期は13世紀後半～15世紀後半で，常滑産コネ鉢や転用砥石が多く生活感が強い。中世前期の常滑製品の量は県内随一で，良好な資料である。

千葉県文化財センター調査報告第411集

東関東自動車道(千葉・富津線)
埋蔵文化財調査報告書 9

―袖ケ浦市山谷遺跡―

平成13年3月31日発行

編　集　財団法人　千葉県文化財センター

発　行　日本道路公団
東京都港区虎ノ門1-18-1

財団法人　千葉県文化財センター
四街道市鹿渡809-2

印　刷　株式会社　弘文社
市川市市川南2-7-2